

2023

履修ガイド

令和5年



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

「大学憲章」

第一章 本学の校歌

みがかずば 玉もかがみも なにかせん
学びの道も かくこそありけれ

これは本学の校歌である。

人はみな、磨かれざる原石として生まれ出る。そして、自らの中に宝を見だし、輝きを増すためには、周囲の人々から愛情深く磨かれ、育てられることが必要である。温かく育まれたものは強く、優しい。本学に関わる人々はそのことを体現している。

学びの道を志す人には、何処に在ろうとも、自らの信ずるものを自らの努力によって怠りなく磨き続けることが求められるのである。

第二章 本学の中長期的活動指針

【教育文化】

お茶の水女子大学は、一人ひとりを大切にす豊かな教育文化を維持し続ける。

本学では高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視する。

お茶の水女子大学のリベラル・アーツ教育は、人文科学・自然科学・社会科学の素養やセンスを広く備えた知性を育むことを目指している。

同時に、高度な専門教育における長年の蓄積を生かし、それを発展させ、一人ひとりに豊かな学びの可能性を拓いてゆく。

そのために、問題関心の広げ方、専門の深め方、固有のテーマの発見の仕方についても、自由度の高い学びを実現する。

【研究文化】

お茶の水女子大学は、未来を拓く基礎研究を重視する。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探求する場である。本学はその実践に際し、基礎研究を力として、社会が本学に求める独自の研究の開拓・実践に努める。

それを踏まえて、日本の文化と科学の発展に資する研究や、生活の質の向上を促す研究、さらには、次代を見据えた先端的創造的研究に果敢に挑戦し続ける。

【国際交流】

お茶の水女子大学は、海外との研究・教育上の人的交流・文化的交流を意欲的に進め、広く活動を展開し、国際社会において固有の存在感を発揮する。

本学は、開学以来、アジアの女子教育の拠点としての役割を果たしてきた。そして、研究者や学生の交流、大学間協定など様々な形で国際交流を展開し、国境を越えた研究と教育の実績を積み重ねてきている。この蓄積に基づいて自らもまた新しい文化を創造し、これを世界に向けて発信する。

【社会との交流】

お茶の水女子大学は、社会との間で望ましい知の循環を実現することによって、社会的使命を果たしていく。

本学は、社会的存在としての大学のあり方を自覚しつつ、高い倫理観と専門能力を備えた女性人材を育成し、国内外を問わず、それらの人材が活躍できる場を開拓していく。

また、教育と研究の成果を社会に還元することに喜びと誇りを持ち、広く社会に貢献する。その際に、社会の変化に敏感でありつつも、一貫して真理を探究する姿勢を示し、それを実践することで、大学としての使命を果たしていく。

【附属学校園】

附属学校園は、“みがかずば”を掲げて、互いに磨きあい、学びあう。

附属学校園で学びあう者は、自主・自律の精神をもって、互いに磨きあい、ともに成長することを目指す。それは、一人ひとりを尊重し、互いに思いやって支えあうことを通して、それぞれの時期や立場で、学校園での生活を充実させることを意味する。

【本学およびすべての附属学校園の卒業生、教職員、OG/OBとのつながり】

本学で、そして学校園で遊び、学び、働いた日々を共有したものは、互いに強い絆で結ばれている。

この門を出て、日本中に世界中に活躍する人々は夥しい数にのぼる。またそれらの人々は、学びの場、家庭や地域社会、職業の場などで、それぞれ真摯に努力を重ね、研鑽を積んできた。

そうした一つ一つの歴史の蓄積が、本学に対する類まれな信頼を築きあげ、社会を先導する役割も多く担うことにつながった。そのことは、本学に関わる人々にとって大きな誇りでもあり、また、未来を担う人々の励みにもなる。

過ごした時の長短を問わず、本学に関わったすべての人々は、未来においても“みがかずば”に受け継がれてきた心を守り続けるであろう。

第三章 本学の近未来像

本学が描く理想の大学像は、無数の異なる生と知性が自由に出会い、学問という最高の智と最高の清閑（あそび）の場となることである。そこでは、無数の異なる価値観が交差し、互いに磨き合うことで活性化する知的創造の機会が提供される。そのことによって、一人ひとりが自由闊達に学問と芸術を愉しみ、制度や役割にとらわれることなく判断能力を鍛え、真の意味での豊かな文化を継承していくことが期待できる。

この理想を実現し、日本のみならず広く国際社会において、歓ばしい生と豊かな文化があまねくもたらされるように努めること、それがこれまでの実績を礎に果たすべき本学の歴史的使命である。

令和5年度 履修ガイド目次

I ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

- 1. ディプロマ・ポリシー……………6
- 2. カリキュラム・ポリシー……………13

II 履修概要

- 1. 入学から卒業まで
 - (1) コア科目……………22
 - ①文理融合リベラルアーツ……………22
 - ②基礎講義……………30
 - ③情報……………30
 - ④外国語……………31
 - ⑤スポーツ健康……………40
 - (2) 専門教育科目……………41
 - ①「複数プログラム選択履修制度」(主・強化・副・学際プログラム)……………41
 - ②専修プログラム……………44
 - (3) 自由に選択して履修する科目・単位……………44
 - (4) 外国人留学生特別科目……………44
 - (5) カラーコードナンバリング (CCNum)……………44
- 2. 履修登録
 - (1) 授業科目の履修……………46
 - (2) 履修の取消し……………46
 - (3) 聴講……………46
 - (4) 集中講義の履修について……………46
- 3. 授業
 - (1) 四学期制……………47
 - (2) 授業と休日……………48
 - (3) 休講……………49
 - (4) 補講……………49
 - (5) 台風等による交通機関の運休及び台風等非常時に対する授業関係措置……………49
 - (6) 公欠等についての取扱い……………50
 - (7) 学部生の大学院博士前期課程科目の受講について……………50
- 4. 単位制
 - (1) 単位の基準……………51
 - (2) 入学以前、在学中に他大学等において修得した単位又は転学及び編入学した既修得単位の認定……………51
 - (3) 海外研修による単位認定……………53
 - (4) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度……………54
- 5. 学修成果
 - (1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス……………55
 - (2) 試験……………55
 - (3) レポート、論文提出……………56
 - (4) 成績評価……………56
- 6. 学修状況チェックシステム
 - 学修状況チェックシステムについて……………59
- 7. 学籍・修業年限・学費
 - (1) 修業年限……………61
 - (2) 休学……………61
 - (3) 復学……………61
 - (4) 退学……………61
 - (5) 除籍……………61
 - (6) 転学……………61
 - (7) 留学……………62
 - (8) 転学部及び転学科……………62
 - (9) 学費……………64
 - (10) 学籍簿変更手続き……………64
 - (11) 休学・退学・復学手続き……………64
- 8. 学生サポート
 - (1) 公式メールアドレスについて……………65

- (2) 本学ホームページの紹介……………65
- (3) 学生ポータルサイトの紹介……………65
- (4) Facebook・Twitter……………65
- (5) 学生証 (IC カード)……………66
- (6) 諸証明書の発行……………66
- (7) 教務関係事務の相談……………66
- (8) 教学 IR・教育開発・学修支援センター……………66
- (9) 国際教育センター……………66
- (10) 外国語教育センター……………66
- (11) 掲示の場所……………66
- (12) 窓口別連絡先……………67

III 授業科目一覧

- 1. コア科目……………70
- 2. 専門教育科目……………77
 - (1) 文教育学部……………77
 - (2) 理学部……………134
 - (3) 生活科学部……………166
- 3. 全学ジェンダー学際カリキュラム……………191
- 4. 全学データサイエンス学際カリキュラム……………193
- 5. 全学実学型 EDI 学際カリキュラム……………195
- 6. キャリアデザインプログラム科目群……………199

IV 諸資格の取得

- 1. 教育職員免許状……………205
- 2. 博物館学芸員……………205
- 3. 日本語教員……………207
- 4. 社会調査士……………208
- 5. 栄養士……………209
- 6. 食品衛生管理者及び食品衛生監視員……………209
- 7. 管理栄養士……………210
- 8. 建築士……………210
- 9. 公認心理師……………213

V 諸規程等〔規則集〕

- 1. お茶の水女子大学学則……………216
- 2. お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則……………223
- 3. お茶の水女子大学文教育学部履修規程……………224
- 4. お茶の水女子大学理学部履修規程……………246
- 5. お茶の水女子大学生活科学部履修規程……………258
- 6. お茶の水女子大学学位規則……………268
- 7. 本学在学中に他大学等で修得した単位の取扱いについて……………275
- 8. 転学及び編入学した学生の既修得単位の取扱いについて……………276
- 9. 新たに第1年次に入学した学生の既修得単位等の取扱いについて……………277
- 10. お茶の水女子大学個人情報に関する規則……………279
- 11. お茶の水女子大学授業料未納者に係る除籍及び復籍に関する規程……………284
- 12. お茶の水女子大学における学生の旧姓及び通称名使用の取扱い等に関する要項……………285

VI 附録

- 1. 校歌・学生歌……………289
- 2. 大学主要建物・施設・教室・研究室案内図……………291

I

ディプロマ・ポリシーと カリキュラム・ポリシー

1	ディプロマ・ポリシー	6
2	カリキュラム・ポリシー	13

1 ディプロマ・ポリシー

1. 教育目標

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場である」という使命のもとに、総合的な教養と高度な専門性を身につけたグローバル女性リーダー、すなわち、「教養知と専門知」「学芸知と実践知」および「高い公共性」を備えた社会人を養成する。この教育目標のもと、各学部にて所定の年限在学し、全学ならびに学部の教育理念と教育目的に沿って設定された教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に、それぞれの学部が定める学位を授与する。

2. 教育課程

- ①各学部各学科が設置する専門教育プログラムを、各学部各学科が定めるプログラム選択の規定に従って、2つ以上履修する。
- ②文教育学部芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科においては、それぞれの教育目標にそった専門教育のカリキュラムとして4年一貫の「専修プログラム」を設け、その規定に従って履修する。

3. 学習目標

A 総合的な教養（教養知）

人文・社会・自然に関する知識を備え、領域横断的な視野をもち、独創的な問題意識をもって、多様な人々とコミュニケーションできる総合的な基礎力

B 高度な専門性（専門知）

確かな専門知識にもとづき、情報を収集・処理し、論理的に思考し、科学的に分析する力

C 実践力（実践知）

自身で問題を発見し、知識を応用し、議論し、倫理性や公共性に関心を持ちつつ、解決する力

D グローバル・リーダーシップ

多様な文化を理解し、グローバル社会の諸問題を理解することができる外国語力をもち、国際的視野をもって発信・交渉・行動する力

○文教育学部

1. 教育目標

人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個々人の思想や発達、言語・文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、人間とその文化や社会の諸現象を多方面から分析し、多くの人々と理解しあい行動することができる人材を育成する。

2. 学科編成と学習目標

大学および文教育学部の教育目標に掲げる人材の育成を目的として、学科（人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科、およびグローバル文化学環）を設け、その教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に学位（人文科学）を授与する。

A 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学を基軸とした総合的な教養

B 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学の高度な専門性

C 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学に支えられた実践力

D 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学を生かしたグローバル・リーダーシップ

人文科学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、人類がつくりだす思想・倫理・美、人類が歩む歴史と空間について、幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識を体系的に習得したうえで、それにもとづく考察力、実践力やリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人文科学科が開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①哲学・倫理学・美術史プログラムは、テキストや図像の分析を通して、基礎的で総合的な視野をもった「考える力、行う力、感じる力」を身につける。
- ②比較歴史学プログラムは、日本、アジア、西洋という地域の歴史を俯瞰し、総合的に把握できる思考力を身につける。
- ③地理環境学プログラムは、文系と理系の知を地域・場所で結びつける総合力と現実的な諸問題の解決のための、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスを身につける。

言語文化学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、日本語と日本の文学、中国語圏の言語・文化・社会、英語圏の言語と文学、仏語圏の言語・文化・社会について、当該の言語を高いレベルで学習し、幅広い基礎知識と深い専門的知識を体系的に習得したうえで、それにもとづく実践力とリーダーシップを身につけた人材を育成する。

また、文教育学部に日本語教育副プログラムを設け、国内外の日本語学習者の多様性を重視した日本語教育に必要な知識と実践力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

言語文化学科が開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①日本語・日本文学プログラムは、日本語・日本文学についての専門能力をもち、それを伝達・発信できる力を身につける。
- ②中国語圏言語文化プログラムは、確実な中国語運用能力をもち、中国の現代文化および古典文化に関する知識と研究方法を身につける。
- ③英語圏言語文化プログラムは、英語学と英語圏の文学・文化に関する専門知識と研究法を習得し、深い思想を英語で正確に理解し発信できる能力を身につける。
- ④仏語圏言語文化プログラムは、フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身につけ、仏語圏の言語文化や社会を理解し、ドイツ語圏をはじめとする他の言語圏の文化との比較考察を行う力を身につける。
- ⑤日本語教育副プログラムは、グローバル化する社会に必要なとされる、多様な言語・文化的背景をもつ第二言語・外国語としての日本語学習者の心理を理解し、そのコミュニケーション能力を向上させる理論や方法に関する知識と実践力を身につける。

人間社会科学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、人間形成や発達、人間の社会意識と行動、子どもが育つ環境や文化について、幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識を体系的に習得したうえで、それにもとづく実践力とリーダーシップを身につけた、学校その他社会の各分野で活躍できる人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人間社会科学科が開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①教育科学プログラムは、人間と教育のあり方についての豊かで創造的な思考力を身につける。
- ②社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間や社会を広く根本的に見通す力量を身につける。

③子ども学プログラムは、生きた子どもに即して子どもを取り巻く課題を考え、人間および社会や文化の生成過程および構造について探究する力を培う。

芸術・表現行動学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養をもち、音楽や舞踊に代表される芸術および表現行動について、幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識と実技力を体系的に習得したうえで、それにもとづく実践力やリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

芸術・表現行動学科が開設する専門教育のカリキュラムはそれぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①舞踊教育学専修プログラムは、舞踊やスポーツといった人間の表現行動を理論的に分析する能力、およびこれを実演・適用できる実技力や実践力を身につける。
- ②音楽表現専修プログラムは、理論と実践を高い次元で融合し、音楽や音楽史の理論を演奏に反映しうる実践・応用能力を身につける。

グローバル文化学環

1. 教育目標・特色

人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科が共同で設置するプログラムであり、総合的な教養をもち、文化を越えた協働を実現するため、グローバル化の進む現代世界で求められる幅広い基礎知識と深い専門的・応用的知識とそれにもとづく実践力とリーダーシップを身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

グローバル文化学プログラムは、文化の差異を理解し、大切にしながら、その差異を超えて協働することができる、知識・スキル・倫理・行動力を養成することを学習目標とする。

○理学部

1. 教育目標

総合的な教養をもち、人類がこれまで蓄積してきた自然科学領域における知識と理論を深く学び、新たな謎を科学的手法および態度を用いて解き明かすための探究の心と技を持ち、自然と人間とがかかわる様々な領域において、多様な人々と協働して新たな価値を創造できる人材を育成する。

2. 学科編成と学習目標

大学および理学部の教育目標に掲げる人材の育成を目的として、学科（数学科、物理学科、化学科、生物学科、および情報科学科）を設け、その教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に学位（理学）を授与する。

- A 自然科学を基軸とした総合的な教養
- B 自然科学の各分野における高度な専門性
- C 自然科学の方法論に則った主体的な研究実践
- D 理学的態度でリーダーシップを発揮する意義の理解

数学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、基礎および応用としての数学的素養を身につけ、論理的に問題を捉え解決する能力を持つ人材を育成する。

2. 主要な学習目標

数学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①数式を理解し、数式で書き表し、様々な数学的概念を用いて物事を考えることができる力
- ②複数の概念に共通する性質を抽象化することができる力
- ③概念を具体例で表現すること、数量的かつ論理的に考えることができる力

物理学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、物理学の探究によって還元論的かつ多面的な視点を持って問題解決能力の向上を達成し、社会の各分野において活躍できる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

物理学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①物理学における重要な基礎的概念を微積分などの数学を用いて表現して理解し、さらに、重要な物理現象についても、可能な場合には実験で自ら確かめる力
- ②自然現象等の一般的な問題に関して、適切な物理法則を適用して説明できる力
- ③実験や観測を科学的に計画・実行し、得られた結果を文章としてレポートにまとめる力

化学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連した化学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

化学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①化学における重要な基礎的概念を理解する力
- ②化学現象に対して、適切な概念や法則を適用して説明する力
- ③実験計画を立てて実験を行い、信頼性の高い実験データを得る力
- ④化学的視点に立脚した科学的文章で、実験結果をレポートにまとめる力

生物学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、「生き物」の複雑で多様な生命現象の理論や知識を深く理解し、さらにより広く高度で応用的または先進的な理論と知識および実践手法を身につけ、人間社会により豊かな知の財産を築くことができる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

生物学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①遺伝子、細胞、発生、進化、生態系、自己複製など生物学における重要な基礎的概念を、具体的事例にもとづいて説明する力
- ②フィールドにおいて生物を観察して種名を同定し、生態学的観点で生物を説明する力
- ③対照実験の意義を理解し、仮説を検証できる実験を自身で組み立て、結論を科学的に考察する力

情報科学科

1. 教育目標・特色

学科が定めた教育課程を履修し、プログラミングや数学等、情報科学の基礎知識と手法を広く学んだ上で、特定の数理領域もしくは応用領域において、科学的方法論に基づく情報科学の研究を経験し、学術的成果とそこで培った能力を広く社会に還元しうる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

情報科学科においては、以下の力を身につけることを学習目標とする。

- ①情報科学における重要な基礎的概念を理論的に説明できる力
- ②自然、社会における諸問題を解析・解決するための数学力とプログラミング力
- ③情報科学的視点に立脚した研究を行い、卒業研究発表会で発表できる力

学際プログラム

1. 学際プログラム設置の目的

理学領域の新たな領域融合型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人養成に対応するためのプログラムであり、理学部全学科と生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科、心理学科の学生が選択できる。

2. 各学際プログラムの学習目標

①応用数理学際プログラム

数学科、物理学科、情報科学科が提供するプログラムであり、数理的方法による諸科学の基礎となる数学と、実際に応用される諸分野を広く学び、数理的方法の有用性を知り、この方法による問題解決力を身につけることを目標とする。

②物理・化学学際プログラム

物理学科と化学科が提供するプログラムであり、物理や化学の主プログラムで学んだ、当該分野の基礎的内容を発展させた専門科目を履修すると共に、相互の分野の基礎的および専門的科目を同時に履修する。それにより、物理学と化学の学際領域で活躍するための基本的な力を身につける。

③ケミカルバイオロジー学際プログラム

化学科と生物学科が提供するプログラムであり、化学または生物の基礎をもつ学生がその知識と考え方を発展させて、生体分子および生物の働きを解明する学際分野へ進むための橋渡しをする。生命のしくみを物質の視点からより深く学ぶとともに、生体物質の構造と機能の解明、ならびに生体機能を制御する物質の合成・創成のために必要な基盤を習得する。

④生命情報学学際プログラム

生物学科、化学科、情報科学科が提供するプログラムであり、理学部プログラムの基礎を習得した学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供する。生命情報学研究に最低限必要な基礎知識の習得と様々なデータを解析し新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力を身につける。

○生活科学部

1. 教育目標

自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての学際的な学識を身につけ、生活者の立場から、社会で活躍、論理的に分析できる力を身につけた人材を育成する。

2. 学科編成と学習目標

大学および生活科学部の教育目標にかかげる人材の育成を目的として、学科（食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科、心理学科）を設け、その教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に学位（生活科学又は心理学）を授与する。

- A. 生活者の視点に立つ学際的な教養
- B. 生活者の視点に立った自然科学・人文科学・社会科学それぞれの高度な専門性
- C. 生活者としての視点に基づく専門的実践力
- D. 生活者の視点を生かしたグローバル・リーダーシップ

食物栄養学科

1. 教育目標・特色

生活者視点に立った食と健康の専門家、特に食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導的人材を育成する。

2. 主要な学習目標

食物栄養学科の専門教育カリキュラムは以下の学習目標を設ける。

- ①食物栄養科学分野の基礎となる幅広い知識や考え方を習得する。
- ②食物栄養科学分野における各専門領域の高度な専門性を身につける。
- ③社会で応用可能な食物栄養科学関連の専門的実践力を身につける。

人間・環境科学科

1. 教育目標・特色

生活者たる人間と環境との相互作用に関する理解を備えるとともに、生活面での諸課題に対して科学的手法を応用することで、人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人間・環境科学科の開設する専門教育プログラムにおいては以下の学習目標を設ける。

理工系の基礎学力を身につける。さらに、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置づけた上で、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせるための具体的な対策を社会に対して提案し実践する能力を身につける。

人間生活学科

1. 教育目標・特色

総合的な教養を持ち、生活者の視点から、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチから探求し、人間と生活に関する専門的な知識と思考力、実践力を身につけた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

人間生活学科の開設する専門教育プログラムは、それぞれ以下の学習目標を設ける。

- ①生活社会科学プログラムは、生活者の視点に立ち社会科学の高度な知識と研究方法論を自在に使いこなす力を身につける。
- ②生活文化学プログラムは、生活に根ざした文化論を基盤として、人文科学の見地から、真に豊かな生活とは何かという生活の理念を考え、行動できるような知性を身につける。
- ③生活社会科学副プログラムは、人間と社会に関わる問題を、生活者の視点から、理論的・実証的に解明し、解決策を考える力を身につける。
- ④生活文化学副プログラムは、生活造形・保育を中心とした生活文化学の基本を学ぶことにより、創造的な生活の感性を養う。

心理学科

1. 教育目標・特色

生活者の視点から、人間の行動や心とその健康に関する知識を習得し、客観的かつ総合的に理解し探求する力、人の成長と適応を促進し、支援する力を備えた人材を育成する。

2. 主要な学習目標

心理学科の開設する専門教育プログラムは以下の学習目標を設ける。

人間の行動や心に関わる事象への論理的で分析的な思考力、幅広い心理学的研究力を養うと共に、それらを社会や実生活で創造的に生かす実践力を身につける。

消費者学学際プログラム

生活科学部共通の学際プログラムとして、消費者学学際プログラムを設け、人間生活について、消費者の視点から学際的・総合的に分析・考察する力と、能動的消費者としての実践力やリーダーシップを身につける。

2 カリキュラム・ポリシー

本学の教育目標を実現するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、グローバルな視野をもって思考し、国内外で活躍できる女性を育成する。

1. 総合的な教養教育（コア科目－リベラルアーツ・基礎講義・外国語・情報・スポーツ健康）を基盤に、創造力と実践性を備えた高度な専門的能力を積み上げ、社会の各方面で指導的な役割を果たすことができる力を身につける。
2. 文系と理系にまたがるリベラルアーツ科目群（テーマにそった系列）を履修し、公共性に関心をもって幅広い教養を習得し、各々のテーマに即した能動的学習を通じて、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を身につける。
3. 学修者が主体的に学ぶことができる複数プログラム選択履修制度によって、将来のキャリア展望や関心に応じて、専門教育プログラムを履修する。第1のプログラムとして、所属する学科の開設する主プログラムを履修する（必修）。次に第2のプログラムとして、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する（選択必修）。さらに第3のプログラムとして、副プログラムや学際プログラムを履修することもできる。これによって、高い専門性に支えられた多様な実践力を身につける。
4. 卒業研究・卒業論文が必修となっている。自らテーマを設定し、確かな専門知識にもとづいて、情報やデータを収集・整理し、論理的に分析することによって、知識と思考と行動をむすびつけ、問題を解決する力を身につける。
5. 実践的な外国語科目や国内外での実習・研修科目や海外交流協定校への留学によって、国際的視野や異文化理解能力、コミュニケーション能力を身につけることができる。
6. 双方向的活動、自律的活動、協調的活動の3つのコンピテンシーを育成するキャリアデザインプログラム科目群の履修や、課題解決型の学習・実習を通じて、教養教育や専門教育で培った知識を社会で実践するための行動力を身につける。
7. 学部・学科により、高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許取得、管理栄養士受験資格、一級建築士受験資格、ならびに社会調査士資格、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修することができる。
8. カリキュラムにおける授業科目の順次性と体系性が示されたカラーコードナンバリングを、学修の順序の目安とする。主体的な学びを保証するためのきめ細かな履修指導と、GPA制度に基づく厳格な成績評価により、学びの質を向上させる。「お茶の水女子大学アカデミック・エシックス」に基づき、学修する上での倫理を初年次から学ぶ。
9. 専門や専門領域を超えた多様な学修を経験するとともに、大学内外の各種活動も対象とした学修ポートフォリオを作成し、大学における幅広い学修の成果および学習目標の達成状況を可視化する。

○文教育学部

1. 人間の文化と社会への関心を核とし、人文・社会科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と高い外国語力を身につける。
3. 人文科学、言語文化学、人間社会科学にかかわる専門教育プログラムと芸術・表現行動学にかかわる専門教育のカリキュラムにおいて、講義・演習・実習などの多様な形態の授業を通して、人間の文化と社会の複雑な事象を追究・分析するために必要な知識や技能を習得する。
4. 複数プログラム選択履修制度では、第1のプログラム（必修）として、所属する学科（人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科）の開設する主プログラムまたはグローバル文化学主プログラムを履修する。次に第2のプログラム（選択必修）として、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する。これによって、高い専門性に支えられた実践力やリーダーシップを身につける。
5. 人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術・表現行動学の高度な専門性を自らの力とするために、卒業論文ないしは卒業研究を必修とし、教員の指導のもとに、研究テーマにかかわる資料やデータや研究文献を収集し、これらを解説・分析し、一定の結論をもった卒業論文ないしは卒業研究を完成する。
6. 学科により、高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許取得ならびに、社会調査士、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

人文科学科

1. 人間の文化・社会について、深く幅広い知識を習得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ出し、必要な資料・データを収集・整理した上で、独自の論理を築き上げる総合的な力を身につける。
2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、2言語以上の外国語を履修し、人文科学の基礎力を身につけるため、学科共通科目を4科目以上履修する。
3. 人文科学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下のとおりである。
 - ①哲学・倫理学・美術史プログラムでは、人類が求めてきた真・善・美という価値に関わる事象について、専門的かつ体系的知識を習得するとともに、それらの価値の問い直しをはかることを通じて、「考える力、行う力、感じる力」を高める。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②比較歴史学プログラムでは、日本、アジア、西洋という地域軸と古代から現代までの時間軸にそって、概説・研究法・講読・特殊講義・演習・調査の6種類の授業科目を設け、相互の比較や連関・交流に着目することで社会全体を俯瞰し、柔軟な思考によって人類史を総合的に把握する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ③地理環境学プログラムでは、自然・人文地理学、地誌学の講義・演習とフィールドワーク・GIS（地理情報システム）・社会調査などの実習を通じて、文系と理系の知を地域・場所で結びつけ、現実的な諸問題の解決のための、センスを磨く。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
4. 中学社会、高校地理歴史・公民の教員免許、学芸員、社会調査士の資格の取得にかかわる科目を履修することができる。地理環境学プログラムでは、これらに加えて、GIS学術士、地域調査士、測量士補の資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

言語文化学科

1. 「ことば」やそれに基づき生成される文学・芸術について考究するために、各言語の習得やそれらについての体系的理解、また、言語・文学・芸術に対する基本的な研究方法の習得を目指す。日本語教育副プログラムでは、第二言語としての日本語を教えるために必要な知識と技能を習得する。
2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、2言語以上の外国語を履修し、言語文化の研究の基礎力を身につけるため、学科共通科目を4科目以上履修する。
3. 言語文化学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下のとおりである。
 - ①日本語・日本文学プログラムでは、概論・文学史・講読・特殊研究・特殊講義・演習の科目によって、上代から現代に至る日本語および日本文学の歴史を体系的に学習し、各時代の文学作品や日本語を正確に深いレベルで理解し、その研究方法を習得する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②中国語圏言語文化プログラムでは、中国語の講読・作文・ヒアリング・会話の授業科目によって、確実な中国語運用能力の養成をはかり、その基礎の上にならば中国の現代言語文化および古典言語文化に関する科目群を履修し、中国に対する総合的な理解を深める。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ③英語圏言語文化プログラムでは、英語学と英語圏の文学・文化に関する講義・演習科目によって、専門知識と研究法を習得し、作文・会話の科目によって柔軟な英語運用能力を習得する。学修の総まとめとして、卒業論文を英語で執筆し、自らの考えを英語で正確に理解し発信する。作成・提出後、口述・審査をうける。
 - ④仏語圏言語文化プログラムでは、フランス語学・作文・会話の授業科目によって、フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身につけ、仏語圏の言語文化や社会に関する講義・演習科目（思想や映画、ファッションや移民問題まで）によってその理解を深め、さらにドイツ語圏をはじめとする他の言語圏の文化まで視野を広げる。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ⑤日本語教育副プログラムでは、グローバル化する社会において、多様な言語・文化的背景をもつ日本語学習者に対する日本語の教育・習得および異文化理解に関する基本的知識や実践的技能を、講義と演習科目などによって学ぶ。
4. 中学・高校の国語、英語、中国語の教員免許の取得にかかわる科目を履修できる。

人間社会科学科

1. 人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たせるように、教育科学、

社会学、子ども学の幅広い基礎知識、深い専門的および応用的知識を習得する。

2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、外国語を履修し、人間社会科学の基礎力を身につけるため、学科共通科目を3科目以上履修する。
3. 人間社会科学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下のとおりである。
 - ①教育科学プログラムでは、教育思想、教育史、教育社会学、教育・発達心理学、教育方法学、特別支援教育、教育開発論等の教育科学諸領域の概論・特殊講義・演習によって、人間と教育のあり方についての創造的な考察を行う。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・発表のうえ審査をうける。小学校教諭免許状取得に必要な科目を含む。
 - ②社会学プログラムでは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察するため、社会調査法が必修となっており、社会意識・ジェンダー・社会政策・文化人類学等の主要な社会学的領域と教育社会学や子ども社会学・地理学等の隣接領域の講義・演習科目を学び、人間や社会を広く根本的に見通す。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ③子ども学プログラムでは、専門の基礎として、「子ども」や保育・幼児教育に関する理論を多角的観点から学び、さらに附属幼稚園や認定こども園をはじめとする乳幼児教育実践の場に臨み、子どもをめぐる環境、社会、文化、制度、歴史および保育実践等について、理論・対話・実践の一体的な学びを目指す。4年間の集大成として卒業論文を作成・提出のうえ、発表し、審査をうける。幼稚園教諭免許状取得に必要な科目を含む。
4. いずれのプログラムを選択しても、小学校・中学校（社会）・高等学校（公民）の各教員免許、学芸員資格、社会調査士資格を取得できる。幼稚園教員免許は、子ども学主プログラムを選択するか、または教育科学主プログラムを選択して小学校教員免許を取得したうえで幼稚園教員免許取得に必要な科目を履修することにより取得できる。

芸術・表現行動学科

1. 講義、演習、実習など多様な形態の授業を通じて、音楽や舞踊を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代の問題を発見および解決するための実技力・実践力を身につける。
2. コミュニケーション力と専門教育の基礎として、外国語を履修する。
3. 芸術・表現行動学科は、舞踊や音楽の理論と実技の双方の習得を目的とする専修プログラムを履修する。その方針は以下のとおりである。
 - ①舞踊教育学専修プログラムでは、舞踊芸術学・臨床舞踊論・民族舞踊学・動作学・体育原理などの講義や演習の科目によって、表現行動を理論的に分析するための基礎的能力を習得し、実習や実技によって、理論的成果を実演・適用できる力をつける。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・審査をうける。
 - ②音楽表現専修プログラムでは、「音楽から世界を理解する」ことを目標に、理論と実践の高い次元での融合を目指す。理論面においては西洋近代のみならず幅広い時代・地域の音楽史・音楽理論が必修となっており、学際的視野に立って問題を提示する。実技力については、学習者のニーズに合わせた基礎から高度な水準に至る声楽・ピアノ演奏の実技科目を履修し、理論を演奏に反映しうる実践・応用能力を習得する。学修の総まとめとして、卒業研究を作成・提出し、口述・審査をうける。
4. 中学と高校の保健体育、音楽の教員免許の取得にかかわる科目を履修できる。
5. 文教育学部の他学科所属の学生が第2又は第3のプログラムとして、他学部所属の学生が第3のプログラムとして履修できる舞踊教育学副プログラムおよび音楽表現副プログラムにおいては、舞踊や運動や音楽の意義について理解を深めるとともに、自らの専門分野との関連を学ぶ。

グローバル文化学環

1. グローバル化の進む現代世界において、多様な文化を越えた協働を実現するための専門的な教育（グローバル文化学主プログラム）が必修となっている。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科の共通のプログラムであり、どの学科の学生も主プログラムとして履修することができ、学科をこえた総合的教育が行われる。
2. グローバル社会に必要とされる外国語（英語など2つ以上の外国語）を必修とし、所属する学科の副プログラムを履修することで、学際的な専門力を身につける。
3. グローバル文化学プログラムでは、グローバル化にかかわる基礎科目を履修したうえで、地域研究・地域文化、多文化交流・多文化共生、国際関係・国際協力の3つの領域にかかわる講義・研究法・演習・実習の科目を体系的に履修する。実践力と多文化理解力を養うため、国内外での実習が必修となっており、留学することが推奨される。学修の総まとめとして、卒業研究を作成・提出し、口述発表・審査をうける。
4. 文教育学部の他学科および他学部の学生が履修できるグローバル文化学学際プログラムでは、学際的な学習を行い、グローバル・リーダーシップを身につける。

○理学部

1. 理学は、自然の成り立ちの原理・法則を探求する学問である。人類の英知が蓄積された理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と問題解決能力を習得し、自然との中で展開する人間活動とを扱う様々な場面において、貢献できる力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と高い外国語力を身につける。
3. 数学、物理、化学、生物学、および情報科学にかかわる専門教育プログラムにおいて、講義・演習・実習・実験を通して、理学的態度を身につけて、自然と人間とがかかわる様々な問題を探究するために必要な知識や技能を習得する。
4. 複数プログラム選択履修制度では、第1のプログラム（必修）として、所属する学科の開設する主プログラムを履修する。次に第2のプログラム（選択必修）として、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する。これによって、高い専門性に支えられた実践力やリーダーシップを学ぶ。
5. 自然科学の高度な専門性を自らの力とするために、卒業研究が必修となっている。教員の指導のもとに研究テーマにかかわるデータを収集・解析し、自ら結論を導き、さらに多くの人々と議論し考察を深めて、卒業研究を完成する。
6. 高等学校と中学校の教員免許取得ならびに、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

数学科

1. 数学の基礎的素養として解析学・幾何学・代数学をバランス良く学び、講義で得た知識を、演習・輪講・数学講究（セミナー）を通して実践的に学ぶことにより、抽象化・一般化・厳密性などの数学的論理思考法を身につける。また数理逍遥など応用的素養のための科目も履修する。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 数学主プログラムでは、数学の基礎となる必修科目を中心として、必修に準ずる科目群も学ぶ。強化プログラムでは、分野を特化した高度で専門性の高い知識や能力を養い、現代数学の新しい問題に触れることによって、問題の発見力・構成力を身につける。これらの基礎の上に4年間の数学の学習の総まとめとなる「数学講究（必修）」を履修する。
4. 中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学）、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

物理学科

1. 物理学の基礎から応用に至るまでの幅広い分野の教育・研究を、一貫性を持って遂行することにより、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ論理的に探究する能力を身につける。物理学の探究を通じて、様々な場面で出会う問題に対して還元論的かつ多元的なものの見方を習得し、問題解決能力を向上させる。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 物理学主プログラムでは、物理学の基礎となる必修科目を中心として学び、問題解決の能力を養うための演習と、物理現象の自発的な発見と検証の能力を磨くための実験を行う。強化プログラムでは、さらに専門性の高い科目群を選択して履修し、物理学の細分化された専門分野での高度な知識を習得し、最前線の研究テーマに取り組むための実力を身につける。各人が課題を設定し、これを首尾一貫した系統的な物理学の考え方をを用いて問題を解決することを目標として特別研究を行う。
4. 中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）、学芸員資格取得にかかわる科目を履修できる。

化学科

1. 化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学をはじめとする自然科学の諸分野、加えて、工学、医学、薬学などの応用的分野の知識が必須となる領域まで広がっている。化学科では、自然科学はもとより、応用科学分野における諸問題、さらには人類が直面する社会的問題をも解決できる論理的思考力や自然科学の基礎知識および研究能力を体得し、柔軟な思考力と優れた問題解決力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 化学主プログラムでは、化学の5つの主要分野である物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学の専門分野の基礎を講義により順次学習し、化学の体系を理解する。さらに化学の研究に必要な実験手法を身につけるために各分野の実験

- を学ぶ。強化プログラムでは、各分野の基礎に立脚し、専門的発展的事柄について講義・演習および実験を通して学習する。これにより、物質の構造、性質、反応に関する理解を深め、化学的視点に基づいた問題解決能力と問題発見能力を習得する。
4. 中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

生物学科

1. 生物学は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を探求する学問であり、周辺領域の医学、薬学、農学、情報科学などの学問分野の基盤となり、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼす。生物学科では、多種多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 生物学主プログラムでは、生物学の基礎概念を理解するための必修科目および基礎的な実験手法を学ぶ必修実習を履修し、この基礎の上に生物学の各分野の実験手法を学ぶ選択必修実習および選択科目を履修する。その後、より細分化された専門分野における高度な知識を習得できる生物学強化プログラム、または学際プログラムや他学科の副プログラムを学び、生物学主プログラムの総まとめとしての特別研究および生物学演習を履修する。
4. 中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）、博物館学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

情報科学科

1. 情報科学は、「情報」を対象とした数理科学であると同時に、その知見を、コンピュータを介して工学的に応用し、幅広く社会に貢献する学問である。情報科学科では、「計算とは何か」「認識とは何か」といった人間・社会・世界が関わる普遍的な法則性に対する思考力と、変化し続ける現代社会の諸相に柔軟に適応し、問題を解決する能力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力を身につける。
3. 情報科学主プログラムでは、コンピュータシステム序論、データ構造とアルゴリズムなどの情報科学の基礎科目、線形代数学、微分積分学等の数学系の基礎科目、プログラミング実習等のプログラミング力を身につける実習科目、コンピュータアーキテクチャ等の情報科学技術の科目を学び、そのうえで特別研究を実施する。強化プログラムでは、情報科学のより細分化された専門分野での高度な知識を習得し、情報科学全体への理解を深める。
4. 中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（情報）、学芸員資格の取得にかかわる科目を履修できる。

学際プログラム

①応用数理学際プログラム

数学、物理学、情報科学の3つの科目群から構成されている。数学科目は、数学の中でも、特に応用される事の多い科目から構成される。物理学の科目群は物理学の基礎として重要な科目から構成され、情報科学の科目は数学の応用として捉えやすい科目から構成される。

②物理・化学学際プログラム

物理と化学の学際分野に進むために有用である、両分野の入門的科目（基礎化学、物理学概論）および基礎実験科目を履修し、基礎的および専門的な講義科目を学ぶ。

③ケミカルバイオロジー学際プログラム

化学主プログラムまたは生物主プログラムを履修する学生について必要なケミカルバイオロジー分野の基盤的科目および、それらを発展して学ぶ科目および周辺領域に視野を広げる科目から構成されている。

④生命情報学学際プログラム

理学部の主プログラムを履修する学生が、生命情報学の基礎知識と基礎技術を習得するために、必修2科目と選択必修6単位を履修する。その上で、今までに学んできた主プログラムと生命情報学の基礎とを合流させて、学生自らがもっとも力を発揮できる領域の科目を履修する。

○生活科学部

1. 人間と生活を分析的かつ総合的に理解する技法を学び、専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につける。
2. コア科目（教養科目）の履修によって、文理にまたがる総合的な教養と外国語力および、情報処理能力を身につける。
3. 食物栄養学の専修プログラムと、人間・環境科学、人間生活学、心理学および消費者学の専門教育プログラムが開設されており、少人数の実験・実習・講義・演習などの多様な形態の授業を通して、公共の利益に資する高度な専門知識、判断力を身につけ、実践の場で応用可能な知識と技能を習得する。
4. 複数プログラム選択履修制度では、第1のプログラム（必修）として、所属する学科（人間・環境科学科、人間生活学科、心理学科）の開設する主プログラムを履修する。次に第2のプログラム（選択必修）として、専門領域に深く特化する強化プログラム、他の専門領域を横断して学ぶ副プログラム、領域融合型・学際型の学際プログラムのいずれかを選択し履修する。これらにより、高い専門性に支えられた実践力やリーダーシップを身につける。
5. 生活者の視点に立った高度な専門性を自らの力とするために、卒業論文が必修となっており、教員の指導のもとに研究テーマに関わる実験・実習・資料の収集を行い、そうして得られたデータや資料を分析し、卒業論文を完成する。
6. 学科により、高等学校・中学校教員免許（家庭科）、社会調査士資格、学芸員資格、栄養士資格ならびに管理栄養士受験資格、一級建築士受験資格にかかわる科目を履修することができる。

食物栄養学科

1. 豊かな食生活と健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につける。
2. 幅広くコア科目（教養科目）を履修し、自然科学系などの基礎科目も履修して、広い教養を習得する。
3. 食物栄養学科では、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導の人材として、栄養士免許取得および管理栄養士国家試験受験資格に必要な単位を履修できる専修プログラムが編成されている。その方針は以下のとおりである。
食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養化学、栄養教育論、給食経営管理論、公衆栄養学など様々な学問領域の専門課程や実験・実習を通して論理的思考を身につける。さらに、管理栄養士の国家試験受験資格に必要な栄養臨地実習を行うとともに、食物と栄養に関する科学研究の専門教育として、各自が設定した特定のテーマについての研究を進め、卒業論文（必修）を完成する。
4. 栄養士免許と管理栄養士の国家試験受験資格が与えられ、栄養教諭の教員免許を取得することができる。また、任用資格として、食品衛生監視員、食品衛生管理者を取得することができる。

人間・環境科学科

1. 環境と人間との間でのアンバランスから生じる様々な問題に対し、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置づけた上で、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせるための具体的な対策を社会に対して提案し実践する能力を身につける。
2. コア科目（教養科目）を履修するとともに、人間と環境間の問題解決に不可欠な定量性や客観性といった科学的な思考能力を養うために、自然科学系基礎教育を重視した履修を行う。
3. 数学、物理、化学、生物、情報などの理工系基礎科目を重点的に履修する。この基礎のうえに、関心に従い、応用へ展開する諸科目を学習する。人間・環境科学主プログラムでは、理工系基礎学力を発展させるとともに幅広く関連基礎知識を身につける。強化プログラムでは、工学的トレーニングを通じて、設計・評価能力を養うとともに、多角的な知識を総合してイノベーションを創造する能力を培う。卒業年次には指導教員のもとで卒業論文を作成するための研究を行い、生活の質に関連した具体的な応用課題に対する解決能力を身につける。
4. 一級建築士受験資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

人間生活学科

1. 生活者の視点から、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的かつ複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し探求する力を身につける。
2. 幅広くコア科目（教養科目）と外国語科目を履修し、人間の生活について、生活者の視点から多角的かつ複合的なアプローチを駆使しうる視野と基礎教養を身につける。生活者の視点を学ぶ「人間生活論」を必修科目とし、生活社会科学、生活文化学の概論を履修した上で、専門教育プログラムを履修する。
3. 人間生活学科が開設する専門教育プログラムの編成とその方針は以下の通りである。
 - ①生活社会科学プログラムは、法学、政治学、経済学、社会学の4分野にわたり広く社会科学の知識と家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法といった現代的トピックを、講義や演習や調査法などによって学びながら、社会科学の高度な知識と研究方法論を使いこなす。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、口述・発表・審査をうける。
 - ②生活文化学プログラムは、服飾、住居、工芸、デザインなどの生活造形を生み出してきた文化・歴史を、比較文化論、民俗学、歴史学などの講義や演習、実習によって多角的に探究する。学修の総まとめとして、卒業論文を作成・提出し、発表・審査をうける。
 - ③生活社会科学副プログラムは、社会科学の基礎的な力を身につけ、社会問題、経済問題など生活に関わる問題を分析し、解決策を考える力を養う。
 - ④生活文化学副プログラムは、生活造形・保育を中心とした生活文化学の基本を学ぶことにより、創造的な生活の感性を養う。
4. 高等学校・中学校教員免許（家庭科）、社会調査士、学芸員資格を取得できる。このほか、消費生活アドバイザー試験に対応する科目を履修することができる。

心理学科

1. 科学的エビデンス、論理的分析力に基づく臨床・応用実践、社会的課題にセンシティブな実証的探求の視点や能力を獲得する。
2. 心理学科では心理学導入科目、基礎講義科目、基礎演習科目、応用実習科目、応用融合科目を履修し、心理学全般及び各専門領域の専門的知識を獲得する。
3. 心理学主プログラム、心理学強化プログラムの履修により、様々な生活領域における課題を解決していくために、自ら問いを立て、科学的に探求し、実証していく方法論を獲得し、心理臨床実践の基本的な姿勢とスキルを身につける。
4. 心理学的研究力や総合的探究力を身につけるため、実証的な心理学手法による研究に基づいて卒業論文を完成させる。
5. 学部段階で指定された公認心理師受験資格の取得にかかわる科目を履修することができる。

消費者学学際プログラム

消費者学の基礎となる「消費者科学入門」「国民経済と生活」「消費者法」が必修となっており、消費者にかかわるさまざまな分野の科目を選択履修することで、消費生活にともなう諸問題を、学際的に分析し、実践的な対応策を考える。

II

履修概要

1	入学から卒業まで	22
2	履修登録	46
3	授業	47
4	単位制	51
5	学修成果	55
6	学修状況チェックシステム	59
7	学籍・修業年限・学費	61
8	学生サポート	65

1 入学から卒業まで

お茶の水女子大学では、確かな未来を担う人間を育成するために、学生が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、さまざまな教育方法を取り入れています。

とくに教育の基本をなす教養教育の特色は、「堅固な基礎的知識」の教授と「21世紀型リベラルアーツ教育」ですが、本学のリベラルアーツ教育は、問題を発見し、それを解決する能力を習得するお茶の水女子大学固有の教育プログラムで、既存の学問分野を越えた知識と学問の手法を提供します。

また、専門教育では、一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるよう、それぞれの学部・学科ごとにプログラムを設けた「複数プログラム選択型」教育を平成23年度から新設致しました。より一層、学修の効果を期待しています。

本学では、上記目標を達成するために、1「コア科目」、2「専門教育科目」、3「自由に選択して履修する科目」の大きく3つの学修区分が設定されており、その中で必修科目・選択科目が配置されています。

なお、学生は本学に原則として4年以上在籍し、各自の所属する学部のガイドラインに従って、124単位以上（文教育学部人間社会科学科教育科学プログラムについては136単位以上、生活科学部食物栄養学科については138単位以上）の卒業要件単位を充足してください。

【学部・学科・主たるプログラムの構成】

文教育学部	人文科学科	哲学・倫理学・美術史プログラム、比較歴史学プログラム、地理環境学プログラム
	言語文化学科	日本語・日本文学プログラム、中国語圏言語文化プログラム、英語圏言語文化プログラム、仏語圏言語文化プログラム
	人間社会科学科	教育科学プログラム、社会学プログラム、子ども学プログラム
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム、音楽表現専修プログラム
	人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学プログラム
理 学 部	数学科	数学プログラム
	物理学科	物理学プログラム
	化学科	化学プログラム
	生物学科	生物学プログラム
	情報科学科	情報科学プログラム
生活科学部	食物栄養学科	食物栄養学専修プログラム
	人間・環境科学科	人間・環境科学プログラム
	人間生活学科	生活社会科学プログラム、生活文化学プログラム
	心理学科	心理学プログラム

(1) コア科目

コア (core) とは芯という意味です。コア科目は、これからの学修・研究における社会的関心が高く現代世界を理解するうえで重要と思われる問題領域や視点を核とし芯 (コア) となるべきものを、学生が主体的に模索し育成する際の一助となるよう設定されています。科目として、**文理融合リベラルアーツ**、**基礎講義**、**情報**、**外国語**、**スポーツ健康**に区分されます。(参考) 文教育学部－文教育学部履修規程P.224、理学部－理学部履修規程P.246、生活科学部－生活科学部履修規程P.258

① 文理融合リベラルアーツ

1. 「21世紀型文理融合リベラルアーツ」とは

学際的、実践的な力を身につけることで専門力を活かした進路を開拓するための教育プログラムです。基礎力とともに、知的な自由さを持った女性を育成することを目的としています。

お茶の水女子大学から世界に発信する文理を融合した学びで多様な進路を切り拓く

21世紀は、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が並行して進んでいます。そこでは、私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役に立ちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。

これまで大学では、専門教育の前段階として、教養教育を行ってきました。現代は、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。知識そのものの基礎であり、生涯をとおして、学ぶ力をうることが、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」の目的です。



文理を融合した学びを

わたしたちを取り巻く世界は、自然であれ技術であれ社会であれ、さまざまな要素が複雑に絡みあっています。大学では、専門的な学術というナイフで、複雑な現象を解析することを学びます。しかし、全体を展望するには領域を横断した知識が必要になっています。文系の人にも科学技術の理解が、理系の人にも人文社会の理解が不可欠になっています。文理融合リベラルアーツを学ぶことによって、教養教育（リベラルアーツ）の科目と専門の科目との間に連関が生まれ、領域を横断した視野が獲得されます。

事象を科学の眼で見つめ直すこと、歴史（成り立ち）から理解すること、表現の意味を考えること、それらは相互に結びついて、わたしたちのものの考え方に新しい光を投げかけてくれます。その知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面で遭遇する困難を突破する力を与えてくれます。一人ひとりが生涯にわたって生き活きと生きていくための力となるのが「お茶大リベラルアーツ」です。



現代世界のカギとなる5つのテーマ

プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ；生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダーに沿って、系列科目群をつくり、自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多面的に学びます。

これにより、高度な専門教育を支え、使いこなすための領域横断的な視野、変化に対応する判断力、発信・交渉能力など、生涯をとおして、自在（リベラル）に使える技（アーツ）を育成します。授業科目には、「講義」と「リベラルアーツ演習」の2種類があり、これを組み合わせ、知識と実践力を高めます。「講義」は、2年間を1クールとして、当該系列の科目が開講されます。「講義」では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基本を習得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的にします。このほか、テーマに関連する系列演習（「地図を読む」「おいしさのサイエンス」「手話学入門」）や学外での体験学習やボランティア活動を中心にした実習（海洋環境学ダイビング実

習、NPOインターンシップ実習)も設け、実践力を養います。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。

リベラルアーツ演習

少人数の演習形式で行われ、文献講読、フィールドワーク、口頭発表、討論などを組み合わせた半期編成の授業です。聞き・読み・語り・計り・作るという作業を通じて、読解・思考・コミュニケーションに必要な力と技術を養成します。文理融合リベラルアーツの5つのテーマに関連し毎年開講される系列演習科目もありますが、より視野を広くとり、3つの学部専任教員が自由に対象やテーマを設定し、一定の切り口(観点・分析方法)にそって、授業を設計・運営します。文系・理系双方の学生が参加し、教員やまた学生とともに、新たなチャレンジをする授業をめざします。

専門力を活かした多様な進路を切り拓く

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文科学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ、可能なのです。大学1～2年生の段階で「文理融合リベラルアーツ」によって学際的で実践的な力をつけることによって、専門力を活かした多様な進路が切り拓かれます。

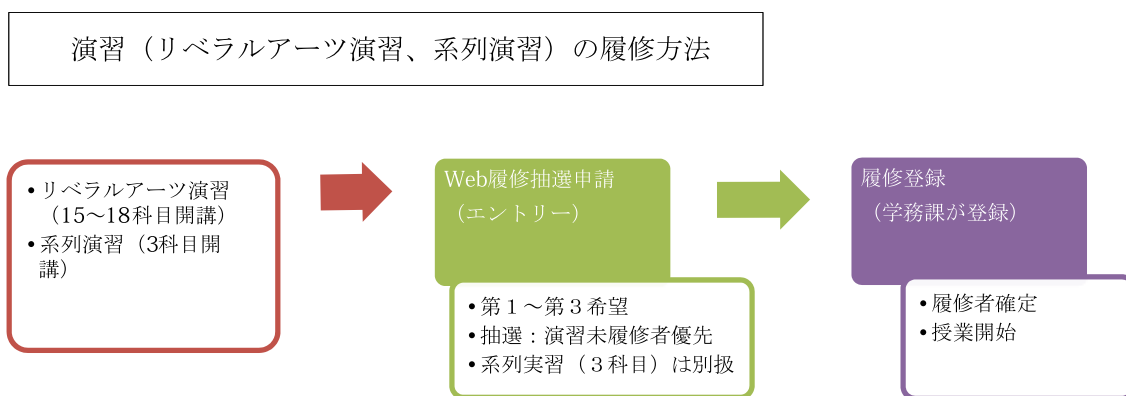
2. 履修方法

文理融合リベラルアーツ科目群は、コア科目の中のグループとして設定され、コア科目の単位として認定されます。同じ系列の科目のうち、任意の4科目(8単位)以上を履修しかつ文理融合リベラルアーツの学修ポートフォリオを提出した場合に、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

また原則として、「講義」科目は月曜・水曜の1・2限、3・4限および金曜の3・4限に開講され、「演習・実習・実験」科目は前学期の月曜・水曜の3・4限に開講されます。1、2年次に受講しやすいような設計となっていますが、受講年次の制限はありませんので、3、4年次も含めて計画的に履修できます。

「講義」科目には一部の例外を除いて、履修者の制限はありませんので、自分の希望する講義の履修登録を行ってください。

「リベラルアーツ演習」「系列演習」科目および一部の「実習」科目は、履修者数の上限を設けている場合があります。「リベラルアーツ演習」「系列演習」科目は、履修者の上限を原則20名としているため、履修抽選を行います。この抽選については、「リベラルアーツ演習」「系列演習」の未履修者(1年生など)を優先します。履修抽選にあたっては、第1希望から第3希望まで申請することが可能ですので、指定された期日までに、Web履修抽選申請入力を行ってください。抽選を実施する際は、学生ポータルサイトで、日程や詳細を周知しますので履修希望者は必ず確認してください。



3. 5つのテーマと開講科目一覧

生命と環境

生命を守るための環境への配慮（認識、働きかけetc.）を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。

前世紀、空前の環境ブームが起これ、生存の場としての環境の重要性が認識され、人々は環境との良好な関わりを保つことこそが、生命活動の確保に欠かせないことを知りました。

生命と環境との関わりを深く理解し、その上で新たなる共生の方法を創成することが、21世紀を生きる我々に課せられた重大な使命であると考えられます。

「生命と環境」の科目群では、実体験を通して多くの知識に触れることを重視しています。学問の緒に着いた学生にとって重要なことは、まずは経験と、体験です。これらを通して、「知識の引き出し」を増やし、知的好奇心を育むことだと考えます。これをもとに、生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。

●生命とは何か（生命と環境1～4）

現代科学における生命像、生命倫理、生物としての人とはどのようなものか、という問題を取り上げ、生命を多角的に捉えることを目指します。

●生命を取り巻く環境：自然環境（生命と環境5～7）

ヒトの営みとは無関係に存在する環境（自然環境）を取り上げ、天体としての地球とそこで繰り返される多様な環境の出現を扱います。

●生命を取り巻く環境：文化環境（生命と環境8、10）

ヒトとの関わりのもとで育まれる環境（文化環境）を取り上げ、ヒトとの文化の多様性とそれを育む環境の多様性、地域と風土、さらにはそれらとの共生の問題を扱います。

●生命・環境を「体験する」（生命と環境22、23）

湾岸生物教育研究センター（千葉県館山市）での合宿実習を通し、生命誕生のリアルタイム体験、海浜生物環境のフィールドワーク等を経験します。あらかじめ大塚キャンパスでの予備実習（顕微鏡観察の基礎等）を行うことで、初心者でも実習に参加できます。

系列1 生命と環境	
(講義)	(単位)
生命と環境1 生命の科学	2
生命と環境2 生命倫理と法	2
生命と環境3 多様性生物学	2
生命と環境4 生物人類学	2
生命と環境5 生命と環境の化学	2
生命と環境6 惑星地球の科学	2
生命と環境7 生活と環境	2
生命と環境8 文化と環境	2
生命と環境10 環境問題と社会	2
(演習・実習)	(単位)
生命と環境22 海洋環境学ダイビング (実習)	2
生命と環境23 海洋環境と生物多様性 (実習)	2
生命と環境26 地図を読む (演習)	2



色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、人間（生物）は自然界や社会的、文化的情報をいかに認識、受容し、利用していくのか、また社会的、文化的情報として蓄積していくかを探求し、広く人間と自然、そして社会との相互作用についての理解の視点を養います。

色・音・香の感覚を生み出す本体は物理学や化学を使って自然科学的に説明できるものです。しかしその感覚は、人や生物がそれらを受容し、認識することではじめて成立します。最初の過程は生物学、生理学、心理学的なものですが、その作用や影響は自然科学的であるだけでなく、社会、文化的な分野に広く及びます。色・音・香は、服飾、住居、食物といった私たちの生活様式や文化に大きく関わっていることはいまでもなく、音楽、美術などの芸術、さらには宗教、心理、発達といった人間の内面や行動様式にも大きな影響を与えているのです。

講義科目は、自然・物質としての色・音・香を取り扱う（自然科学系）4科目（色・音・香1～4）、人間・感性・文化といった視点（人文科学系）からの4科目（色・音・香5～8）、物質・環境と人間生活といった視点（文理融合）（色・音・香9、10）からの2科目からなります。

リベラルアーツは、学び方を学ぶとともに、幅広い知識、人生観を養うためのものです。そして皆さんがこれから専門性を高め、深く学ぶための基礎にもなります。

感性とモチベーションを高め、楽しく学んでいきましょう。

系列2 色・音・香	
(講義)	(単位)
色・音・香1 分子から見た色と香り	2
色・音・香2 生命と色・音・香	2
色・音・香3 色・音・香の物理学	2
色・音・香4 コンピュータが創る色と音	2
色・音・香5 心の健康と感情	2
色・音・香6 色・音・香と生活文化	2
色・音・香7 舞踊における色・音・香	2
色・音・香8 宗教と色・音・香	2
色・音・香9 おいしさと色・音・香	2
色・音・香10 知覚認知と環境デザイン	2
(演習・実習)	(単位)
色・音・香22 おいしさのサイエンス (演習)	2



生活世界の安全保障

私たちの生活を脅かす危険。そして、危険を克服し、安全を回復・維持する努力。人間社会の営みを危険と安全の相克としてとらえ、私たちの生き方や命のあり方を見つめ直します。

人間の生活世界には、日常の衣食住にまつわる事件・事故から、大災害や戦争のような脅威まで、多様な危険がひそんでいます。私たちは、これらの多様な危険に対処し、安全に生活を送るために、さまざまな社会的・技術的・文化的な措置を作り出してきました。しかし、そうした措置が、かえって危険を増幅したり、抑圧や不平等を招いてしまうこともあります。また時代が進むにつれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、グローバリゼーションの中で新たな脅威が生まれたりもしています。この系列の科目では、安全を守るために何が必要なのか、を考えることを通して、社会、技術、文化の相互関係をとらえ直し、同時に生命としての人間のあり方を考察します。

●日常生活の安全保障（生活世界の安全保障1～3、5）

現代はリスク社会だと言われるように、日々の暮らしの中にも、多くの危険がひそんでいます。労働、家族、情報社会などの観点から、生活の安全を維持・回復するしくみについて考察します。また、そうした社会的な取組が歴史的にどのように行われてきたのかについて、振り返って考えます。

●グローバリゼーションの中の安全（生活世界の安全保障4）

グローバル化する現代世界では、かつてとは異なる新たな危険が生じることがあり、その対応にもグローバルな視点が求められています。暴力、戦争、貧困と開発、公害、化学物質、資源など、国境を越えた諸問題を、安全保障の文脈で学びます。

●安全の基礎条件（生活世界の安全保障7～10）

人間の生活を守る基礎的な条件は、そもそも何なのでしょう。人間が存在する物質世界の性質、生命体としての人間、健康維持、生活環境といった問題点から、危険と安全を考察します。また、社会の中で脅威を受けやすい存在である弱者に注目し、人間生活の安全を再考します。

●NPO団体での体験就業学習（生活世界の安全保障23実習）

系列3 生活世界の安全保障		
(講義)		(単位)
生活世界の安全保障1	生活世界と法	2
生活世界の安全保障2	情報社会の安全保障	2
生活世界の安全保障3	リスクの社会史	2
生活世界の安全保障4	平和と暴力	2
生活世界の安全保障5	教育と社会	2
生活世界の安全保障7	現代物質文明の履歴	2
生活世界の安全保障8	ゲノム時代の健康管理	2
生活世界の安全保障9	水の安全保障	2
生活世界の安全保障10	社会的弱者の存在論	2
(演習・実習)		(単位)
生活世界の安全保障23	NPOインターンシップ(実習)	2
生活世界の安全保障25	地図を読む(演習)	2



ことばと世界

人間の取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間は、どのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、さらには、コンピュータ言語などの仕組みと働き、および、記述された世界について、多面的に考えていきます。

“ことば”は世界とどのような関わりを持つのでしょうか。“ことば”は何を表し、我々はそれによって何を表現しているのでしょうか。この系列では、次のようなカテゴリーから考えていきたいと思います。

●ことばの理論（ことばと世界1、2）

言語そのものに関する議論です。言語の理論は高校で習う「文法」だけではありません。より抽象化された論理学、言語の使われ方を通して社会を考える言語社会学、乳幼児が言語を獲得していく過程を扱う発達言語学、自分の言語ではない第二言語を習得していく過程を分析する言語習得論など、いろいろなジャンルが存在します。

●ことばを読む（ことばと世界5、6、13）

文学作品を中心とした、言語による表現を解説します。しかし必ずしも対象は「文学」に限定される必要はありません。新聞記事であれマンガであれ、言葉で表現されたものは、時に著者本人も意図しないような何かを表してしまっているものだからです。高校「国語」とは違った流儀の「読み方」が展開されていきます。

●自然を記述することば（ことばと世界7、8）

科学とは、実は“ことば”で自然を記述する行為のことです。そこでは我々の日常会話とはもちろん違ったレベルの“ことば”が必要となります。数学、物理学、化学などがいったいどのような語り方を考案することによって自然に迫っていくのか、具体例を通して考えていきます。文系の人も、「自分は理系ではないから・・・」と尻込みせずに、日常的感覚が大きく更新される体験を味わってください。

●情報としてのことば（ことばと世界10～12）

情報とは現実世界をあらわす“ことば”のことです。ヒトは情報を介して世界を知る生物です。膨大な情報を処理しなくては、世界の実像を知ることはできません。その意味で、情報学は諸科学の知の基礎をなしています。また、情報化時代における生活の基礎をなす「作法」としての情報能力を養うことも、このカテゴリーの目的の一つとなっています。

系列4 ことばと世界		
(講義)		(単位)
ことばと世界1	日本語論	2
ことばと世界2	コミュニケーションと心理学	2
ことばと世界3	論理学	2
ことばと世界5	日本文学	2
ことばと世界6	海外の文学	2
ことばと世界7	数理のことば	2
ことばと世界8	自然のことば	2
ことばと世界10	グローバル化社会を生きる	2
ことばと世界11	文法と意味	2
ことばと世界12		2
ことばと世界13	思考力トレーニング	2
(演習・実習)		(単位)
ことばと世界27	手話学入門 (演習)	2



ジェンダー

性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学ぶ、ジェンダー視点の導入です。それによって在学中の専門分野の研究に新しい視野を吹き込み、卒業後の進路においては新しい知の担い手として、イキイキと活躍する国際人になりましょう。

「人は女に生まれえない、女になる」とシモーヌ・ド・ボーヴォワールが語ってから半世紀以上たっていますが、まだまだ世界の仕組みは「女」になったり「男」になったりするようになんを誘導しています。そう、ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別です。そして少子高齢化社会に突入している日本では、また人やモノやカネが国境を越えて移動しているグローバル化の時代には、ジェンダーは以前よりもっと巧妙にわたしたちの人生や生活のなかに入り込んでいます。他方で、「愛する」かたち（セクシュアリティ）の多様性や「産む」ことにまつわるテクノロジーの進展は、自由や解放とともに、反発や問題の複雑さももたらしています。今を生きるジェンダー学を学びましょう。

●政治経済と人間（ジェンダー1、2、8）

市場経済の進展がジェンダーにまつわってケアや福祉や消費や家庭経済をどのように変容させているのか、またジェンダーは政治や公共政策、社会史をどのように構築してきたのかを検討します。

●文化メディア（ジェンダー3、4）

映画や演劇、パフォーマンス、文学や美術、広告やポップカルチャー等々私たちの日常を取り巻く様々な文化表象におけるジェンダーやセクシュアリティの問題を考えます。

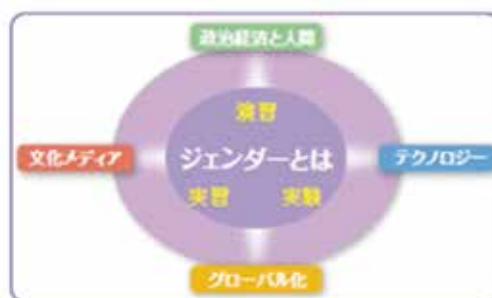
●グローバル化（ジェンダー5、6、9）

グローバル化はどのように国境を越えてジェンダーの仕組みを変えていくのでしょうか。宗教文化、ローカル性、そして開発という現象と結びつけて考えます。

●テクノロジー（ジェンダー10）

ジェンダーは社会科学や文系の領域にのみ関わるわけではありません。医療とからだ、産業と技術、情報などサイエンスやテクノロジーの領域においてジェンダーを考えます。

系列5 ジェンダー	
(講義)	(単位)
ジェンダー1 女性史・男性史とジェンダー	2
ジェンダー2 グローバル経済とジェンダー	2
ジェンダー3 文化メディアとジェンダー	2
ジェンダー4 アートとジェンダー	2
ジェンダー5 宗教文化とジェンダー	2
ジェンダー6 グローバル化/ローカル性とジェンダー	2
ジェンダー8 政治・政策とジェンダー	2
ジェンダー9 開発とジェンダー	2
ジェンダー10 テクノロジーとジェンダー	2



② 基礎講義

基礎講義は、大学での勉学や社会生活で必要となる基本を学ぶ科目です。文理融合リベラルアーツの講義科目が課題に沿った学習であるのに対して、基礎講義は学問分野の体系にそって学ぶことで基礎力を育成します。1～2年次に受講しやすいように原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講されますが、3～4年次に学ぶことで基礎力を広げることができます。

科目一覧

科目	単位
哲学	2
法学Ⅰ（日本国憲法）	2
法学Ⅱ（法学入門）	2
政治学入門	2
ミクロ経済学入門	2
マクロ経済学入門	2

科目	単位
基礎微分積分学	2
基礎線形代数学	2
統計学	2
総合コース	1～4
お茶の水女子大学論	2
コンピテンシー基礎論	2

科目	単位
防災・危機管理	1
自然災害に対する防災・減災	1
学習ポートフォリオ入門	1
自然科学課題研究支援プログラム	1

③ 情報

情報カテゴリーには、表のとおり複数の科目が開講されています。科目ごとに科目区分(必修/選択)や授業形態が異なり、定員が設けられているものがありますので、履修ガイド及びシラバスで確認してください。

「メディアリテラシ(1)(2)」では、大学における教育・研究活動で必要となる基本的な情報スキルや知識に加え、自立した人間として知識基盤社会で活躍するために最低限身に付けておきたい情報に関する知識を講義します。「文理融合データサイエンスⅠ」及び「文理融合データサイエンスⅡ」では、学部学科等によらず卒業研究・実社会及び実生活で必要とされる数理データを理解するための基礎力を身に付けます。数式だけでなくコンピュータシミュレーションを用いた講義が行われます。「文理融合データサイエンスⅢ」及び「文理融合データサイエンスⅣ」では、同Ⅰ・Ⅱを受け、卒業研究含む研究活動や実社会（企業等）における実践力の向上に向け、専門分野別の研究事例に基づくデータサイエンスの分析手法の適用の仕方などを学びます。「情報科学(1)(2)」では、情報に関する一般的な知識を講義します。「情報処理学(1)(2)」では、情報処理技術の歴史、現状及びその基盤となる学問等を概説します。「文化情報工学総論」では、人文科学と情報学とを融合させデジタルヒューマニティーズの全体像を学びます。複数の教員によるオムニバス形式で行われます。

「情報処理演習(1)(2)」は、すべての学部学科において1年次第1学期、第2学期の必修科目です。この科目では、現代の情報社会における情報の意味を考察し、情報を取り扱う態度を学びます。また、情報ツールを自ら構築し、使いこなし、各自の専門領域に取り入れる手法を、初歩から学んでいきます。学科を基本としたクラス分けで開講されており、学部ごとに取り扱う題材が異なっています。必ず指定されたクラスを1年次に履修してください。複数のクラスを履修することはできません。

「プログラミング演習1」及び「プログラミング演習2」では、コンピュータプログラミング入門と、情報技術を使って問題を解くことを考えます。「コンピュータ演習1」及び「コンピュータ演習2」では、コンピュータにまつわるいくつかのトピックについて学びます。「情報学演習1」及び「情報学演習2」では、情報にまつわるいくつかのトピックについて学びます。これら6つの演習科目については、取り扱うテーマによっては同一科目に複数のクラスが開講されることがあり、その場合には科目ごとにどれかひとつのクラスのみ履修できます。教室設備の関係で定員を設ける場合があり、定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や用いるプログラミング言語、定員等については、シラバスを参照してください。履修順に特に制約はありません。

「データサイエンス（基礎）」「データサイエンス（中級）」及び「データサイエンス（上級）」では、各自がコンピュータを使い、統計解析環境Rを用いたデータサイエンス（分析）の主たる手法を、主に人文系データ（テキストデータ）を用いて、講義と演習をまじえ体系的に学習します。教室設備の関係で定員を設ける場合があります。具体的な講義内容、開講形式、定員等については、シラバスを参照してください。これら3つの科目は、原則としてこの順番に履修してください。

授業科目一覧

科目	単位	備考
メディアリテラシ(1)(2)	各1	
文理融合データサイエンスⅠ	2	
文理融合データサイエンスⅡ	2	
文理融合データサイエンスⅢ	2	
文理融合データサイエンスⅣ	2	
情報科学(1)(2)	各1	
情報処理学(1)(2)	各1	
文化情報工学総論	2	
情報処理演習(1)(2)	各1	文A～文G、理A～理E、生活A～生活D

科目	単位	備考
プログラミング演習1	2	定員あり
プログラミング演習2	2	定員あり
コンピュータ演習1	2	定員あり
コンピュータ演習2	2	定員あり
情報学演習1	2	定員あり
情報学演習2	2	定員あり
データサイエンス（基礎）	2	定員あり
データサイエンス（中級）	2	定員あり
データサイエンス（上級）	2	定員あり

④ 外国語

本学で現在コア科目として開設されている外国語は以下の11言語です。

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語、アジア諸語(アラビア語・トルコ語・ペルシア語)

他に文教育学部共通科目として、ギリシャ語、ラテン語があります。必修単位として必要な外国語の種類と単位数は、学部・学科別に以下のとおり定められており、各外国語の授業科目の内でも必修単位として認められる科目と認められない科目があります。必修単位に認められる科目は各外国語の授業科目表に*印、**印、***印で示されています。(ただし、**及び***については履修条件に従うこと。)これらは学部・学科によって異なるので注意してください。また、履修に条件を設けた科目があるので、各外国語の授業科目表の履修条件欄にも注意してください。

授業科目別一覧

学部・学科等		必修となる外国語の種類及び単位数
文 教 育 学 部	人文学部 言語文化学科	外国語の必修単位数は20単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、二つの言語についてそれぞれ8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	人間社会科学部 芸術・表現行動学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	グローバル文化学環	外国語の必修単位数は20単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語を第一外国語とし、その中から一つの言語について8単位修得すること。残りの12単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。ただし第一外国語として選択した言語で満たすことのできる外国語の必修単位の合計は12単位が上限である。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
理 学 部	物理学部 化学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。なお、「専門英語」の「物理英語(1)(2)」（物理学科）は、コア科目外国語（必修）英語の「中級英語II(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」に充てる場合は、1年次に「中級英語I (1)(2)・II (1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	生物学部 生物学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について12単位修得すること。なお、「専門英語」の「生物学外書講読」は、コア科目外国語（必修）英語の「中級英語II(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」に充てる場合は、1年次に「中級英語I (1)(2)・II (1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	数学科 情報科学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語を8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。なお、「専門英語」の「数学英語」（数学科）は、コア科目外国語（必修）英語のコア科目外国語（必修）英語の「中級英語II(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV (1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI (1)(2)」に充てる場合は、1年次に「中級英語I (1)(2)・II (1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
生活科学部	食物栄養学科 人間・環境科学科 人間生活学科 心理学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。

● I 英語

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*基礎英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	基礎的英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野を履修する。	同一年度で I・II を連続して履修すること。
*中級英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野を履修する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。同一年度で I・II を連続して履修すること。
**英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2～4	speaking, writing を中心に中級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
**英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)	各1	2～4	speaking, writing を中心に上級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
**英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	自分の考えや研究成果を発表するための英語力を養成する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
*グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	世界の多様な英語に触れ、コミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
** Advanced Communication Training I(1)(2)～Ⅵ(1)(2)	各1	1～4	海外留学・海外業務を想定した大学中・上級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	なし
英語コミュニケーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～2	speaking と writing を中心に基礎的英語力を充実させる。	なし
上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	3～4	reading, writing を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語8単位以上を*のついた基本科目または所属学科指定の振替科目で修得していること。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	3～4	listening, speaking を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	
ビジネス英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	ビジネスに用いられる英語力を養成する。	英語4単位以上を*のついた基本科目で修得していること。
時事英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2～4	時事英語の知識に基づいた英語力を養成する。	

注) ① * : コア外国語の必修単位を英語で8単位とする場合に必修単位に充てることのできる基本科目です。

** : 8単位を超えて英語をコア外国語の必修として履修する場合、必修に充てることのできる科目です。

- ② 上級英語の単位は、特別措置等による認定がある場合に限り、必修単位に充てることができます。詳細はp35「履修に関する特別措置」をご確認ください。またそれ以外の*および**のついていない科目の単位は、必修単位に充てるできません。
- ③ コア外国語の必修単位に充てることができない科目の単位は、学部・学科により、コア科目の必修科目または自由を選択して履修する科目の単位に充てるすることができます。
- ④ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として英語を履修する場合の指定です。ただし、英語を必修外国語としない場合でも、履修条件を満たすように履修してください。
- ⑤ 「4 履修に関する特別措置」【P.35参照】に該当し、上位学年の科目の履修を希望する学生は、上の表のすべての科目について、その「履修条件」が適用されません。履修科目の選択について質問がある場合は、英文研究室（文教育学部1号館419室）に相談してください。

2 クラス編成

科目	対象学年	編成のされ方	備考
基礎英語 I (1)(2)・II(1)(2)	1	習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語 I (1)(2)・II(1)(2)	2	習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	2～4		卒業年度学生に優先権がある。
英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)	2～4		卒業年度学生に優先権がある。
英語プレゼンテーション I (1)(2)・II(1)(2)	2～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	卒業年度学生に優先権がある。
グローバル・イングリッシュ I (1)(2)・II(1)(2)	2～4		クラス定員は特に設けない
Advanced Communication Training I (1)(2)～Ⅵ(1)(2)	1～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	Advanced Communication Training Ⅲ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)の特別クラスに配属された学生は、指定されたクラスで履修すること。
英語コミュニケーション I (1)(2)・II(1)(2)	1～2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	
上級英語 I (1)(2)・II(1)(2)	3～4	同上	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	3～4	同上	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
ビジネス英語 I (1)(2)・II(1)(2)	2～4	同上	
時事英語 I (1)(2)・II(1)(2)	2～4	同上	

注) ① クラス定員は、原則として30名です。

② 再履修の必要がある学生は、「5 再履修に関する措置」【P.35参照】に従って履修してください。

③ 英語を必修外国語としない場合で2年次以降に「基礎英語 I (1)(2)・II(1)(2)」の履修を希望する場合は、再履修の場合(前項②)と同様の手続きで履修してください。

④ 言語文化学科英語圏言語文化主プログラムの学生が「上級英語 I (1)(2)・II(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を希望する場合、各クラスの定員に余裕がある場合のみ受講が可能となります。

⑤ 聴講については、クラス定員に余裕がある場合のみ許可します。

3 Advanced Communication Training (ACT) プログラム

学問やビジネスの急速なグローバル化にともない、卒業後大学院に進学するにせよ、一般企業に就職するにせよ、みなさんには英語の運用能力、特に話したり書いたりすることで自分の考えを発信する能力が強く求められています。特に、在学中に留学を目指しているみなさんは、早期からこのような実践的英語運用力を高めておく必要があります。ACTプログラムは、「Advanced Communication Training I (1)(2)～Ⅵ(1)(2)」を核とし、さまざまなレベルの実践的な英語科目をプログラムとして提供することで、このようなグローバル化の必要性に応えるものです。

・「Advanced Communication Training I (1)(2)」、「同II(1)(2)」は、特に留学を目指している学生を想定して開講される科目で、例えば、留学における研究計画や研究報告を担当教員の指導の下に英語でまとめ、英語で発表します。

・「Advanced Communication Training Ⅲ(1)(2)」、「同Ⅳ(1)(2)」、「同Ⅴ(1)(2)」、「同Ⅵ(1)(2)」は、主に大学院への進学を目指している学生、また国際機関や外資系企業への就職を目指している学生を想定して開講される科目で、担当教員と相談のうえ特定の研究テーマを決め、それについて英語で学び、研究成果を英語で発表します。

ACTプログラムは、これらを含む下記の表の中の授業科目から合計12単位を修得することにより、プログラムの修了証を取得できるとともに、成績証明書に Advanced Communication Training Program の修了を明記できる制度です。

各授業科目は標準的な履修年次と履修条件を定めていますが、授業についていく英語力さえあれば1年次から履修できる科目もありますので、ぜひ積極的にこのプログラムに参加し、4年間を通じて実践的な英語力を高めてください。

ACTプログラムへの参加希望者は、履修登録期間中にACTプログラム科目の履修登録を行ってください。プログラム修了証の発行および成績証明証への記載を希望する学生は、各年度の所定の期間に学務課でプログラム修了証発行申請を行ってください。

Advanced Communication Training Program

	単位	授業科目	標準履修年次	履修条件	
CB	2 (選択必修)	Advanced Communication Training I(1)(2)(ESA)	1～4	授業初回に履修希望者が30名を越えた場合、抽選を行う。ただし学部ごとに開講されるクラスについては、当該学部の学生に優先権がある。	
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training II(1)(2)(ESA)			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training III(1)(2)			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training IV(1)(2)			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training V(1)(2)			
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training VI(1)(2)			
	2 (選択)	Summer Program in English I		なし (定員 20 名)	
	2 (選択)	Summer Program in English II			
	2 (選択)	Summer Program in English III			
	2 (選択)	Summer Program in English IV			
	2 (選択)	Summer Program in English V			
	2 (選択)	Summer Program in English VI			
SB	各1 (選択)	上級英語 I (R/W) (1)(2)	3・4	コア英語8単位以上を修得していること (コア外国語 (英語) の「履修条件」を参照)	
	各1 (選択)	上級英語 II (R/W) (1)(2)			
	各1 (選択)	上級英語 III (L/S) (1)(2)			
	各1 (選択)	上級英語 IV (L/S) (1)(2)			
PT	2 (選択)	Academic Writing A (文系) /B (理系)	3・4	「上級英語」に準ずる	
	2 (選択)	Academic Presentation A (文系) /B (理系)			
	2 (選択)	TOEFL 対策ゼミ R/L *	1～4	授業初回に履修希望者が30名を越えた場合、抽選を行う。	
	2 (選択)	TOEFL 対策ゼミ S/W *			
	2 (選択)	IELTS 対策ゼミ R/L *			
		2 (選択)	IELTS 対策ゼミ S/W *		
		各1 (選択)	時事英語 I(1)(2)	2～4	コア英語4単位以上を修得していること (コア外国語 (英語) の「履修条件」を参照)
		各1 (選択)	時事英語 II(1)(2)		
		各1 (選択)	ビジネス英語 I(1)(2)		
		各1 (選択)	ビジネス英語 II(1)(2)		
		各1 (選択)	英語プレゼンテーション I(1)(2)		
	各1 (選択)	英語プレゼンテーション II(1)(2)			

I～VIから4単位を必ず修得すること

以上から12単位修得で修了証発行

ESA = English for Study Abroad, CB = Content-Based, SB = Skill-Based, PT = Practical Training

*卒業単位に含めることができない

4 履修に関する特別措置

1) 入学以前に『実用英語技能検定』（文部科学省後援・公益財団法人日本英語検定協会主催）1級又は準1級、TOEIC（財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）680点以上のスコアもしくはTOEFL（Educational Testing Service（ETS）主催）において530（PBT）／200（CBT）／72（iBT）点以上、もしくはIELTSにおいて6以上、もしくはGTECにおいて1190点以上のスコアを持っている学生に関する措置

（「Ⅱ-4 単位制」(2)【P.52～54参照】）

a 入学以前に実用英語技能検定準1級、TOEIC680点以上815点未満のスコアもしくはTOEFL530（PBT）／200（CBT）／72（iBT）点以上580（PBT）／237（CBT）／92（iBT）点未満、もしくはIELTSで6以上7未満、もしくはGTECで1190点以上1350点未満のスコアを持っている学生

「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する4単位を認定します。残りの必修単位は「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に加えて、「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)」、「英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「Advanced Communication Training Ⅰ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)」で充足させることができます。

b 入学以前に実用英語技能検定1級、TOEIC815点以上のスコア、TOEFL580（PBT）／237（CBT）／92（iBT）点以上もしくはIELTSで7以上、もしくはGTECで1350点以上のスコアを持っている学生

「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定します。

※上記の条件を充たし、単位認定を希望する者は、所定の期間に学務課で単位認定の申請をすること。

2) 上記1)の実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、IELTSもしくはGTECによる単位認定資格を持たないが、入学時の成績が基準に達した学生に関する措置（特別措置の基準は所属学部の当該学年全受験者のスコアとの相対評価で定める）

1年次から2年次履修対象科目を履修し、「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の代わりに「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」を1年次対象の必修単位として履修することを認めます。また残りの英語の必修単位は「英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)」、「英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「Advanced Communication Training Ⅰ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)」で充足させることができます。

3) 1年次終了まで（「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の単位を修得するまで）に実用英語技能検定1級、TOEFL580（ITPまたはPBT）／237（CBT）／92（iBT）点以上、TOEIC815点以上もしくはIELTSで7以上のスコアを得た学生もしくは1年次の成績が基準に達した学生に関する措置（特別措置の基準は所属学部の当該学年全履修者の成績との相対評価で定める）

次年度の履修手続きの際、「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を認めます。

5 再履修に関する措置

再履修が必要となった場合は、学務課より掲示される方法に従い、再履修の手続きをしてください。自分が所属する学部の指定クラスで履修してください。この場合、英語を必修外国語としている学生の履修が優先されます。

●Ⅱ ドイツ語・フランス語・中国語

【ドイツ語】

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎ドイツ語 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各2	1	1年間をかけてドイツ語の文法を詳しく学ぶ。ドイツ語の文法体系はかなりしっかりしているので、1年間の学習を通じて高度なドイツ語の文章の読解が可能になる。	同一年度でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを連続して履修すること。
* 基礎ドイツ語（応用） Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	読み・書き・話し・聞くという総合的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」あるいは「ドイツ語初歩Ⅰ・Ⅱ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
* 発展ドイツ語 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 発展ドイツ語 Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を既に履修していること。同一年度でⅢ・Ⅳを連続して履修することが望ましい。
***基礎ドイツ語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	基礎的な会話演習。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」あるいは「ドイツ語初歩Ⅰ・Ⅱ」を既に履修していることが望ましい（ただしこれらを同時に履修しつつ受講することも妨げない）。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
***ドイツ語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	ドイツ語文法の概略をつかみ、簡単な文章が読めるようにする。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) ① * 全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。ドイツ語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修すること。

*** 第二外国語あるいは第三外国語としてドイツ語を8単位未満履修する場合にのみコア科目（外国語）の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてドイツ語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科（仏語圏コース室ドイツ語担当）の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1 クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展ドイツ語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。

開講している科目には、「ドイツ語講読演習Ⅰ・Ⅱ」、「独文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」、「独文学演習Ⅰ・Ⅱ」があります。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『ドイツ語技能検定試験』（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）3級以上に合格している学生、『Goethe-Zertifikat』（Goethe Institut主催）A1以上に合格している学生、『ÖSD』（ÖSD主催）A1以上に合格している学生、『TestDaF』（TestDaF Institut主催）TDN3以上に合格している学生に関する措置（「Ⅱ-4 単位制」(2)【P.52～54参照】）

A 入学時に『ドイツ語技能検定試験』（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）3級以上に合格している学生に関する措置

a 3級合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。

b 2級以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B 入学時に『Goethe-Zertifikat』（Goethe Institut主催）A1以上に合格している学生及び『ÖSD』（ÖSD主催）A1以上に合格している学生に関する措置

a A1合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。

b A2以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

C 入学時に『TestDaF』（TestDaF Institut主催）TDN3以上に合格している学生に関する措置

TDN3以上合格者：「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

2) 既にドイツ語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

[フランス語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎フランス語 I・II・III・IV	各2	1	フランス語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようになる。	同一年度でI・II・III・IVを連続して履修すること。
* 基礎フランス語(応用) I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	読み・書き・話し・聞くという様々な基本的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎フランス語I・II・III・IV」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展フランス語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	基礎を固めつつ、テキストの読解や様々な練習を通じて、フランス語学力の向上を図る。	「基礎フランス語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展フランス語 III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	2		「基礎フランス語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎フランス語会話 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	外国人講師によるフランス語初歩の会話演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***フランス語初歩 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	フランス語文法の概略をつかむ。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

注) ① * 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。フランス語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎フランス語I・II・III・IV」を履修すること。

*** 第二外国語あるいは第三外国語としてフランス語を8単位未満履修する場合にのみコア科目(外国語)の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてフランス語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科(仏語圏コース室)の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展フランス語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『実用フランス語技能検定試験』(公益財団法人フランス語教育振興協会主催)4級以上に合格している学生及び『DEL』(France Éducation International主催)A1以上に合格している学生に関する措置(「II-4 単位制」(2)【P.52～54参照】)

A 入学時に『実用フランス語技能検定試験』(公益財団法人フランス語教育振興協会主催)4級以上に合格している学生に関する措置

a 4級合格者:「基礎フランス語I・II・III・IV」に相当する8単位を認定します。

b 3級以上合格者:「基礎フランス語I・II・III・IV」「基礎フランス語(応用)I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語III(1)(2)・IV(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B 入学時に『DEL』(France Éducation International主催)A1以上に合格している学生に関する措置

a A1合格者:「基礎フランス語I・II・III・IV」に相当する8単位を認定します。

b A2以上合格者:「基礎フランス語I・II・III・IV」「基礎フランス語(応用)I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語I

(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

2) 既にフランス語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

[中国語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎中国語 I・II・III・IV	各2	1	中国語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	同一年度でI・II・III・IVを連続して履修すること。
* 基礎中国語(応用) I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	簡単な文章の読解を通じて、中国語の基礎を修得する。	「基礎中国語I・II・III・IV」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展中国語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	標準的な中国語の文章の読解を行う。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展中国語 III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	2	基礎的学力を固めつつ、標準的文章の読解、及び聴解能力を高める。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎中国語会話 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	外国人講師による簡単な中国語会話演習。	「基礎中国語I・II・III・IV」を履修済みであることが望ましい。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***中国語初歩 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	中国語の入門を図る。併せて発音や聞き取りの練習も行う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
中国語 プレゼンテーションI	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」「発展中国語I・II」または「同III・IV」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。
中国語 プレゼンテーションII	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」「発展中国語I・II」または「同III・IV」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。

注) ① * 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。中国語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎中国語I・II・III・IV」を履修すること。

*** 第二外国語あるいは第三外国語として中国語を8単位未満履修する場合にのみコア科目(外国語)の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語として中国語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科(中文コース室)の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展中国語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化コースの専門教育科目を履修してください。開講している科目には、「中国語ヒアリング基礎」、「中国語ヒアリング演習」、「中国語講読」、「中国語会話演習」、「中国語コミュニケーション・スキル」、「中国語作文基礎演習」、「中国語作文応用演習」があります。なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『中国語検定』(一般財団法人日本中国語検定協会主催)4級以上に合格している学生、『中国語コミュニケーション能力検定』(中国語コミュニケーション協会主催)において250点以上のスコアをもっている学生及び『漢語水平考試』(中国国家HSK委員会主催)の2級以上に合格している学生に関する措置(「II-4 単位制」(2)【P.52～54参照】)

- A 入学時に『中国語検定』（一般財団法人日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生に関する措置
- a 4級合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
- b 3級以上合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- B 入学時に『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生に関する措置
- 250点以上400点未満：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
- 400点以上：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- C 入学時に『漢語水平考試』（中国国家HSK委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置
- a 2級合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
- b 3級以上合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- 2) 既に中国語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

●Ⅲ ロシア語・朝鮮語

ロシア語と朝鮮語は、初歩クラスと会話クラスが開講されます。

[ロシア語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*ロシア語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	ロシア語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
*ロシア語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単なロシア語会話の練習。	

[朝鮮語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*朝鮮語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	朝鮮語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
*朝鮮語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単な朝鮮語会話の練習。	「朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

●Ⅳ スペイン語・イタリア語・アジア諸語（ペルシア語・トルコ語・アラビア語）

それぞれ現代スペイン語・現代イタリア語・現代アジア諸語（ペルシア語・トルコ語・アラビア語）の初級コースが開講されます。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*現代スペイン語Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	スペイン語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
*スペイン語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単なスペイン語会話の練習。	
*現代イタリア語Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	イタリア語の基礎を学ぶ。	Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
*現代アジア諸語Ⅰ～Ⅳ (ペルシア語・トルコ語・アラビア語)	2	1～4	ペルシア語・トルコ語・アラビア語の基礎を学ぶ。	各クラスの言語についてはシラバスで確認すること。

⑤ スポーツ健康

1 スポーツ健康の履修

全学部とも「スポーツ健康実習」2単位が必修です。

2 授業科目

学部	必修科目		自由選択科目					
	スポーツ健康実習		スポーツ科学概論		健康科学概論		生涯スポーツ	
	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次
全学部	2単位	1年次	2単位	1～4年次	2単位	1～4年次	0.5～3単位	1～4年次

注) ① 「生涯スポーツ」の履修単位を「スポーツ健康実習」の単位に替えることは、原則的にはできません。

② 「スポーツ科学概論」、「健康科学概論」、「生涯スポーツ」の単位は、文教育学部の学生は自由選択科目として、理学部、生活科学部の学生はコア科目（「スポーツ健康」の選択科目）として卒業単位の中を含めることができます。

1) スポーツ健康実習

運動やスポーツを通じて健康や体力の維持増進を図り、あわせて自己の身体への理解と関心を深めることを目的とします。前学期は主に体力の維持増進を目的として「共通フィットネス」を履修します。後学期は開講される種目（テニス、バドミントン、ダンス、多種目など）の中から履修する種目を選択します。前・後学期それぞれ2回ずつの講義が含まれます。

自己の体力水準を正しく知ってもらうために、4月7月および12月に体力診断テストを行います。

なお、傷害あるいは慢性疾患等で運動することができない場合は、軽運動クラスを選択することができます。

2) スポーツ科学概論

人はなぜスポーツをするのか、スポーツは人にどのような影響を与えるのか、というテーマについて、人文・社会科学的視点からと生理学的視点から、それぞれ講義します。

3) 健康科学概論

青年期、成人期を女性として健康に生きるための基本的な知識、考え方を学び、同時に健康をめぐる諸問題に対する関心を深めることを目的とします。

4) 生涯スポーツ

生涯にわたって自らの生活の中に運動やスポーツを取り入れ実践していくことができる基礎的能力を高めることを目的とします。開講する種目は学生からの要望の高い種目が用意されます。1・2学期開講分は1学期の第1週目、3・4学期開講分は3学期の第1週目にガイダンスと受講の受付をします。

(2) 専門教育科目

① 「複数プログラム選択履修制度」(主・強化・副・学際プログラム)

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の4つから構成されており、学生が自分の目標にあわせて、これらのプログラムを選択的に組み合わせることにより、

- 深く専門的な知識を学びたい
- 将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
- 分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
- 国際理解を深めたい

など、学生一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応する教育課程です。



「主プログラム」とは

自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

「強化プログラム」とは

専攻した分野をさらに深く、または広く学ぶためのプログラムをいいます。

「副プログラム」とは

自分の専攻した分野と異なる分野を学ぶプログラムをいいます。

「学際プログラム」とは

さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。



◆「複数プログラム選択履修制度」の履修方法

第1のプログラム（必修）

主プログラム	
趣旨	選択条件
各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラム	
所属学科の開設するプログラムから選択すること	
開設プログラム	
▼文教育学部 ◎人文学科 哲学・倫理学・美術史、 比較歴史学、 地理環境学 ◎言語文化学科 日本語・日本文学、 中国語圏言語文化、 英語圏言語文化、 仏語圏言語文化	◎人間社会学科 教育学、社会学、 子ども学 ◎グローバル文化学環 グローバル文化学(※1)
	▼理学部 ◎数学科 数学 ◎物理学科 物理学 ◎化学科 化学 ◎生物学科 生物学 ◎情報科学科 情報科学
	▼生活科学部 ◎人間・環境科学科 人間・環境科学 ◎人間生活学科 生活社会科学、 生活文化学 ◎心理学科 心理学

※1：グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと、所属学科のいずれかのコースの副プログラム又は教育学・子ども学学際プログラムを履修します。



第2のプログラム（選択必修）

強化プログラム	
趣旨	
各専門領域のより高度な科目群からなり、 専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラム	
選択条件	
同一名の主プログラムを履修していること	
開設プログラム	
主プログラムと同じ（グローバル文化学を除く）	
副プログラム	学際プログラム
趣旨	趣旨
学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラム	新たな領域融合型ないし学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材養成に対応するプログラム
選択条件	選択条件
所属学部で開設するプログラムから選択すること ただし、主プログラムと同じプログラムを履修することはできない	所属学部で開設するプログラムから選択すること
開設プログラム	
▼文教育学部 哲学・倫理学・美術史、 比較歴史学、地理環境学、 日本語・日本文学、 中国語圏言語文化、 英語圏言語文化、 仏語圏言語文化、 日本語教育、社会学、 舞踊教育学、音楽表現	▼理学部 ◎人間社会学科 教育学・子ども学 ◎グローバル文化学環 グローバル文化学 ▼理学部 ◎数学科、物理学科、情報科学科 応用数理 ◎物理学科、化学科 物理・化学 ◎化学科、生物学科 ケミカルバイオロジー ◎生物学科、化学科、情報科学科 生命情報学 ▼生活科学部 ◎人間生活学科 消費者学

※主プログラムと第2のプログラムに共通して含まれている科目については
どちらか1つのプログラムにのみ換算されます。（ダブルカウントは不可）

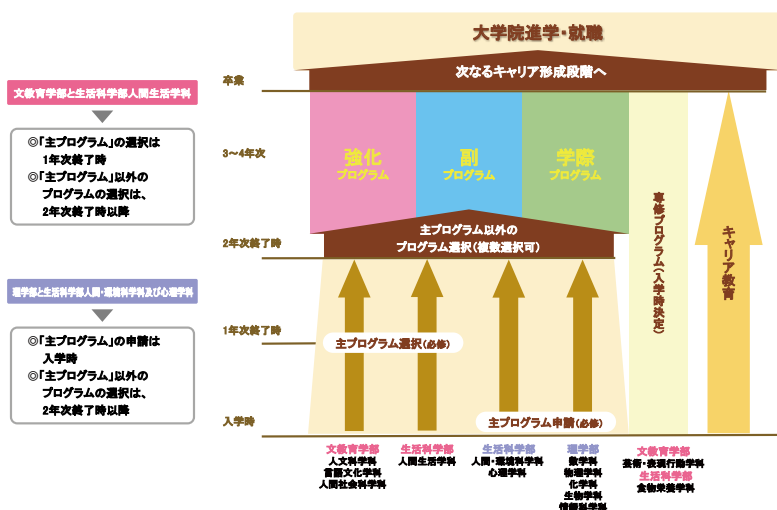


第3のプログラム（自由選択）

副プログラム	学際プログラム
選択条件	選択条件
他学部のプログラムも自由に選択できる	他学部のプログラムも自由に選択できる。ただし、理学部提供のプログラムを、文教育学部及び生活科学部人間生活学科所属の学生が履修することはできない
開設プログラム	開設プログラム
「第2のプログラム」を参照	「第2のプログラム」を参照

※2：文教育学部芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科は、4年一貫の専修プログラムに従って学修します。なお、芸術・表現行動学科および食物栄養学科で学んでいても、ニーズに応じて第3のプログラムを選択することができます。

◆プログラム選択時期



【主プログラム】

理学部と生活科学部人間・環境科学科及び心理学科の学生は、入学時点で決定しています。文教育学部と生活科学部人間生活学科の学生は、1年次の10月頃に予備調査、1月頃に本申請をWebで行います。本申請の結果、申請者数（第一希望者数）が受け入れ上限数を上回っている場合、当該主プログラム提供学科（コース・講座）における選考により決定します。

【第2プログラム】

2年次の10月頃に予備調査、1月頃に本申請をWebで行います。

【第3プログラム】

2年次の1月頃にWebで申請を行います。

2年終了時以降も、学務課にて随時変更・追加の受付が可能です。

◆入学から卒業まで

専門教育（専攻）科目の履修方法については次の規則や冊子を参照してください。

文教育学部 文教育学部履修規程（P.226）及び「文教育学部授業科目履修案内」

理学部 理学部履修規程（P.248）及び「理学部授業科目履修案内」

生活科学部 生活科学部履修規程（P.260）及び「履修の手引き」

主プログラムまたは専修プログラムを選択した学生が所属し、専門教育を学んでいく足場となる教育組織が学科（またはコース・講座）です。

複数プログラム選択履修制度全般について不明な点や時間割についての相談は、教学IR・教育開発・学修支援センター（学生センター棟1階）に問い合わせてください。

教学IR・教育開発・学修支援センター [学修相談部門]：<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/popp/index.html>

② 専修プログラム

文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科は、4年一貫の専修プログラムに従って学習します。このため、第2のプログラムは履修しませんが、第3のプログラムとして副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

(3) 自由に選択して履修する科目・単位

自由に選択して履修する科目は、個々の学生が多様な関心や目的を達成するために、学生が自ら計画し、本学全体のカリキュラムの中から自由に選択履修をする科目です。

具体的には、専門教育科目（必修プログラム）は、プログラムとしてではなく、科目単位でも履修することができ、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。第3のプログラムとして履修した科目の単位はここに含まれます。また、各プログラム修了の必要単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として、卒業に必要な履修単位数に組み入れられます。

(4) 外国人留学生特別科目

●外国人留学生特別科目「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の単位の取扱い

日本語、日本事情の授業科目については、次の基準によりコア科目の単位として取り扱います。

科目区分	学部	コア科目として取扱う単位数の上限		
		【文教育学部】 合計 20 単位	【理学部】 合計 16 単位	【生活科学部】 合計 18 単位
コア科目 基礎講義（実験を除く）		(6 単位)	(10 単位)	
外国語		(16 単位)	(8 単位)	

開設する「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の授業科目は、次のとおりです。

科目名	単位数	毎週の授業時数	科目名	単位数	毎週の授業時数
日本語演習 I A	2	半期 2	日本事情演習 I A	2	半期 2
I B	2	〃	I B	2	〃
II A	2	〃	II A	2	〃
II B	2	〃	II B	2	〃
III A	2	〃	III A	2	〃
III B	2	〃	III B	2	〃
IV A	2	〃	IV A	2	〃
IV B	2	〃	IV B	2	〃
V A	2	〃	V A	2	〃
V B	2	〃	V B	2	〃
総合日本語 I	2	〃	総合日本語サマープログラム I	2	前期集中
総合日本語 II	2	〃	総合日本語サマープログラム II	2	前期集中

注) ①人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環については、最低4単位を外国人留学生特別科目以外の外国語で履修して、外国語の必修単位を満たすこと。

②人間社会科学科、芸術・表現行動学科については、外国人留学生特別科目で外国語の必修単位を満たさない場合は、日本語以外の外国語を履修して、外国語の必修単位を満たすこと。

(5) カラーコードナンバリング【CCNum】

本学では、すべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや到達目標に照らした水準のちがいを数値コードとともに色別で明示しています。

数値コード（ナンバリング）は5桁から成ります。1桁目が科目の位置づけや内容水準の違いをあらわし、異なる色分類と数値が次ページの図のように対応しています。2、3桁目はその科目を開講している学部や学科等をあらわしています。4桁目は現在未使用です。5桁目は16進数表記によるその科目の単位数をあらわしています（ただし、0.5単位の科目はH、海外交換留学等による認定科目はXと表記しています）。

このナンバリングを目安にして、たとえば、科目の開講部局を確認したり、1年次いきなりカラーコード・カーマインの科目を履修することは難しいと判断するなど、履修計画の立案に役立ててください。

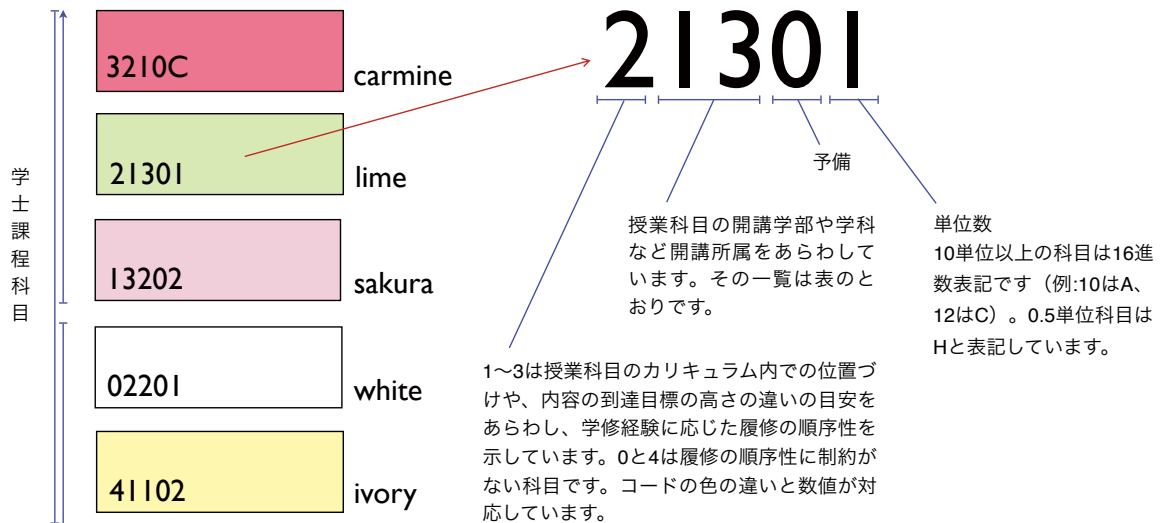
●カラーコードの分類

授業科目の水準とは主としてカリキュラム体系における一般的な学修の順序に対応し、概ね授業内容の難易水準に沿っています。また、それはほぼ到達すべき学修成果の目標の程度にも比例しています。こうした構造は外国語科目や情報関連科目、専門科目にあり、3つのカラーコード（サクラ・ライム・カーマイン）で階層的に表現しています。

これらとは別にカラーコード・ホワイトは他の科目との関連で学修の順序性がなく、基本的には学士課程のどの学年次でも履修できるコア科目、他大学からの編入学などで得た既修得の単位認定科目、あるいは単位互換などによって得た単位認定科目をあらわしています。カラーコード・アイボリーは教職科目等の資格関連科目をあらわしています。

CCN

Color Code Numbering



0 ホワイト

学修順序性がとくにないコア科目、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

1 サクラ

カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみて初期に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度が比較的控えめに設定されている科目。

2 ライム

カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・サクラの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性はないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度がやや高く設定されている科目。

3 カーマイン

一般的な学修の順序からみてカラーコード・ライムの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、サクラやライムの特定の科目との学修順序が明確になってそれらの単位を取得するか、その成績について一定のを超えた場合に履修が認められる科目。また、他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度が高く設定されている科目。

4 アイボリー

教職等の資格関連科目。

表

ナンバリング2, 3桁	学士課程 開講学部・学科等
11	文教育学部・人文科学科
12	文教育学部・言語文化学科
13	文教育学部・人間社会科学科
14	文教育学部・芸術・表現行動学科
15	文教育学部・グローバル文化学環
21	理学部・数学科
22	理学部・物理学科
23	理学部・化学科
24	理学部・生物学科
25	理学部・情報科学科
31	生活科学部・食物栄養学科
32	生活科学部・人間・環境科学科
33	生活科学部・人間生活学科
34	生活科学部 心理学科
40	その他

2 履修登録

履修登録とは、大学で授業を受けるために行う最初の手続きです。高校までとは異なり、大学では自分で履修したい科目を選択し、時間割を組んでいきます。登録した授業に対してのみ、成績の評価と単位が認められますので、定められた期間に必ず手続きを行ってください。

(1) 授業科目の履修

① 履修科目の決定

履修科目の決定においてはシラバス（授業内容、スケジュール、成績の評価方法など授業計画が記載されているもの）、学年担当の教員の指導、この冊子の「学部履修規程」「授業科目一覧」「諸資格の取得」、各学部の履修案内等を参考にしてください。

新型コロナウイルス感染拡大状況等によっては、開講学期や授業実施方法等が変更される場合があります。Webシラバス (<https://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus>) や学生ポータルサイト (<https://tw.ao.ocha.ac.jp>) で最新情報を得るようにしてください。

② 履修の手続きについて

履修登録は、Web上で行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。日程等詳細は学生ポータルサイトに掲載するので、各自で確認してください。なお、科目によって抽選で履修者を決定することがあり、希望した科目の履修ができない場合もあります。

③ Web履修登録

Web履修登録方法のマニュアルを学生ポータルサイト（インフォメーション>教務関連>マニュアル）に掲載しています。具体的な操作方法についてはそちらを参照してください。

履修登録上の注意点

- ・ 所定の期日以外、履修登録することはできません。
- ・ 履修未登録者の場合その科目の試験を受けることはできません。
- ・ 授業に出ていても単位修得を希望しない場合は聴講といいます。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。

(2) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取り消したくなった場合に、履修取消しが行える「履修取消手続き」制度があります。この手続きは所定の手続期間内に学生自身がWebでの申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を前学期中に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後学期の授業科目を登録することはできます。

(3) 聴講

単位修得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合は、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可を得た上で、聴講登録（Web履修登録）をしてください。この場合、授業には出席できますが、単位認定はされません。

(4) 集中講義の履修について

9月卒業予定の4年生は前期の集中講義、3月卒業予定の4年生は後期の集中講義を履修する際は、授業日程によっては、成績評価が卒業判定に間に合わないため「聴講」としての履修になることがありますので注意してください。

3 授業

(1) 四学期制

お茶の水女子大学は、本学における教育の質をさらに高め、グローバルに活躍できる人材を育成するため、平成26年度から四学期制を導入しました。

① コンセプト

◇学修の質のさらなる向上・学修量の確保

四学期制による約2ヶ月の期間に集中して行う授業は、その記憶が鮮明な状態で次回の授業を受講することができ、学修効果が高まります。また同時に履修する授業科目数が減るため、1科目にかかる授業時間外学修を含めた学修時間が必然的に増え、個々の科目の学修の質向上につながります。

◇学生の主体的な学修活動の促進・本学学生の留学促進

四学期制により5月に第1学期を終えることで、海外の大学のアカデミック・カレンダーとの互換性が高まり、第2学期を使って海外のサマープログラムなどへ参加できます。これによりグローバルな学修機会を得ることができます。また学期単位を短くすることで、1学期まるごとあるいは夏期休業とその前後の学期を組み合わせた期間に、国内外問わず長期インターンシップやボランティア活動などへ参加することも可能になります。

◇国際的交流の促進

海外の大学が夏休みの期間に、海外の大学教員を招聘して多様で刺激に富む授業の開講や、短期外国人留学生を受け入れる可能性も広がるため、国際的な交流の機会が増えます。

② 二学期制と四学期制

二学期制は、1年を前学期と後学期の2学期に分け、それぞれ約4ヶ月を単位として授業が開講されます。四学期制は、これらの学期をさらに2つに分けて、約2ヶ月を単位とした授業が開講されます。

この二学期制と並行して、四学期制が実施されます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二学期制	前学期				夏期休業	後学期				冬期休業	春期休業	
四学期制	第1学期		第2学期			第3学期		第4学期	第4学期			

③ 授業科目と時間割

二学期制と四学期制の授業科目を組み合わせ、卒業までの単位を取得します。

二学期制の主な授業科目は、前学期・後学期にそれぞれ週1回開講される「半期科目」と、前学期・後学期を通して開講される「通年科目」です。

四学期制の主な授業科目は、「2倍型科目」と「分割科目」です。

2倍型科目は、週2回開講し半期科目の半分の期間で2単位を取得します。同じ日に連続して週2回開講される2倍型科目もあります。

分割科目は、連続した第1学期・第2学期又は、第3学期・第4学期に、週1回開講され、基本的に1単位を取得できます。(1)、(2)など科目名にカッコ付きで表示されているものがこれにあたります。

例) 基礎英語 I (1)

基礎英語 I (2)

1年を通して(1)、(2)、(3)、(4)まである分割科目もあります。

この分割科目は、1単位ごとに独立して履修できる科目と、(1)、(2)の両方を履修しなければ各1単位を取得できない連続性の強い科目があります。

どちらのタイプの科目なのかは、各科目のシラバスで確認できます。

＜基本となる科目の種類＞

- 二学期制 [A] 半期科目—— 前学期、後学期にいずれか週1回開講。
- [B] 通年科目—— 前学期、後学期を通して週1回開講。
- 四学期制 [C] 2倍型科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期ごとに週2回開講。
- [D] 分割科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期に週1回開講。

- ① (1)又は(2)を独立して履修・単位取得できる科目。
- ② (1)及び(2)を連続して履修しないと単位を取得できない科目。

四学期制時間割のパターン

四学期制の科目…… C 2倍型科目
D 分割科目

第1学期							第2学期							第3学期							第4学期						
	月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土
1.2限				D(1)			1.2限				D(2)			1.2限							1.2限						
3.4限	C			C			3.4限							3.4限							3.4限						
5.6限							5.6限							5.6限							5.6限						
7.8限					Ca		7.8限							7.8限							7.8限						
9.10限		Da(1)			Ca		9.10限		Da(2)					9.10限		Da(3)					9.10限		Da(4)				
11.12限							11.12限							11.12限							11.12限						

④ 第2学期を利用した海外留学

第2学期を利用して海外のサマープログラムに参加したい場合、連続性の強い分割科目 [上図D(1)] を第1学期に履修し、第2学期に [D(2)] が未修得であっても、翌年次の第2学期に [D(2)] を履修することにより分割科目 [D(1)、D(2)] の各1単位を修得することができます。科目によっては留学先で取得した単位を、第2学期に未履修だった科目として認定可能な場合もあります。

本学は、在学中に交換留学をはじめとした海外留学を積極的に推進しています。交換留学の募集は毎年、第3学期の10月に行われるため、その前の第2学期に海外語学研修や海外サマープログラムに参加し、留学生活の醍醐味を体験してみることをお勧めしています。また交換留学には一定の語学力が求められますので、交換留学に必要な語学力を身につけるためにも、第2学期を効果的に利用するとよいでしょう。

(2) 授業と休日

休業日は学則「第3節 学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります(半日、全日等)、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて学務課を通して掲示又は学生ポータルサイトを使ってお知らせします。

二学期制

学期	期間
前学期	4月1日から9月30日まで
後学期	10月1日から翌年3月31日まで

四学期制

学期	期間
第1学期	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
第2学期	
第3学期	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
第4学期	

授業時間（月曜日～土曜日）

0限	8:05 ~ 8:50
1・2限	9:00 ~ 10:30
3・4限	10:40 ~ 12:10
5・6限	13:20 ~ 14:50
7・8限	15:00 ~ 16:30
9・10限	16:40 ~ 18:10
11・12限	18:20 ~ 19:50

(3) 休講

授業担当教員が公務、学会出席、病気等のためやむを得ず休講となる場合は、教員からの連絡により、学生ポータルサイトに掲載されます。学生ポータルサイトはパソコン及び携帯電話で確認できます。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大情報アカウント」が必要です。

<https://tw.ao.ocha.ac.jp>

(4) 補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認してください。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置で休講となった授業の補講については、別途発表します。

(5) 台風等による交通機関の運休及び台風等非常時に対する授業関係措置

休講情報は学生ポータルサイトに逐次掲載します。

① 台風等による交通機関の運休に対する授業休講等の措置について

台風及びストライキ等により次のいずれかの交通機関が運休した場合、以下のとおり授業休講等の措置をします。

- ・JR山手線
- ・東京メトロ丸ノ内線及び有楽町線

授業取扱

運休時間	授業の取扱い
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日始発から午前6時30分まで運休	午前中休講
当日始発から引き続き午前10時まで運休	全日休講

ただし、JR山手線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。

② 台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）	授業の取扱い
午前6時30分の時点で、警報が発令中の場合	午前中授業休講
午前10時の時点で、警報が発令中の場合	5・6、7・8時限の授業を休講
午後2時の時点で、警報が発令中の場合	9・10時限以降の授業を休講

情報の確認は下記の方法により、確認してください。

- ・気象庁のホームページ <http://www.jma.go.jp/index.html>
- ・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

③ その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについて

休講となった授業の補講については、別途措置します。

(6) 公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定められた感染症と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治癒が確認された後に、医師の診断書を学務課に提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験・博物館実習・管理栄養士国家試験受験資格を得るための臨地実習、公認心理師の受験資格を得るために必要な実習、裁判員（※1）に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を学務課で受け取り、授業担当教員まで提出してください。

※1 裁判員制度による招集の場合

該当する学生は、呼出状を学務課に提示（確認後返却）の上、授業を受けられない日時を記入した公欠願の用紙を提出してください。授業担当教員には、学務課から当該学生について連絡をし、履修上の配慮を依頼します。なお、定期試験期間中の場合は、追試験の対象とします。

(7) 学部生の大学院博士前期課程科目の受講について

学部生で、かつ大学院進学を希望している学生に対して、大学院博士前期課程の授業科目の受講を認める制度です。

① 本学大学院博士前期課程進学後の単位認定

この制度により受講した授業科目の成績評価を受けた学部生が、本学大学院博士前期課程入学後、本人からの申請に基づき、当該授業科目の単位認定を行います。

※コースごとに認定できる単位数の上限が異なります。指導教員とよく相談の上申請してください。

② 本制度の対象となる科目と学生の要件

専攻・コースにより異なります。詳細については学務課大学院担当より別途案内をしますので参照してください。

〔外国語検定による単位の認定〕

入学以前の実績として、『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』680点以上、『TOEFL』530(PBT)／200(CBT)／72(iBT)点以上、『IELTS』6以上、『GTEC』1190点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『DELTA』A1以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者、『Goethe-Zertifikat』(Goethe Institut主催) A1以上の合格者、『ÖSD』(ÖSD主催) A1以上の合格者、『TestDaF』(TestDaF Institut主催) TDN3以上の合格者の単位認定は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願ひ出てください。

当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行います。なお、単位の認定を行った場合は認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

〔認定できる単位数〕

授業科目区分	認定できる単位数
コア科目	※60単位を限度とする。
専門教育科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とします。なお、各外国語検定等による認定単位は以下の表のとおりとします。

認定科目及び単位一覧

授業科目	条件	認定科目・単位
実用英語技能検定	準1級合格者	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」に相当する4単位を認定する。
	1級合格者	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」、「中級英語 I(1)2・II(1)2」及び「グローバル・イングリッシュ I(1)2・II(1)2」に相当する12単位を認定する。
TOEIC	680点以上815点未満	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」に相当する4単位を認定する。
	815点以上	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」、「中級英語 I(1)2・II(1)2」及び「グローバル・イングリッシュ I(1)2・II(1)2」に相当する12単位を認定する。
TOEFL	530(PBT)／200(CBT)／72(iBT)点以上 580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点未満	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」に相当する4単位を認定する。
	580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点以上	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」、「中級英語 I(1)2・II(1)2」及び「グローバル・イングリッシュ I(1)2・II(1)2」に相当する12単位を認定する。
IELTS	6以上7未満	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」に相当する4単位を認定する。
	7以上	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」、「中級英語 I(1)2・II(1)2」及び「グローバル・イングリッシュ I(1)2・II(1)2」に相当する12単位を認定する。
GTEC	1190点以上1350点未満	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」に相当する4単位を認定する。
	1350点以上	「基礎英語 I(1)2・II(1)2」、「中級英語 I(1)2・II(1)2」及び「グローバル・イングリッシュ I(1)2・II(1)2」に相当する12単位を認定する。
中国語検定	4級合格者	「基礎中国語 I・II・III・IV」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語 I・II・III・IV」「基礎中国語(応用) I(1)2・II(1)2」「発展中国語 I(1)2・II(1)2」「発展中国語 III(1)2・IV(1)2」のいずれかに相当する12単位を認定する。
中国語コミュニケーション能力検定	250点以上400点未満	「基礎中国語 I・II・III・IV」に相当する8単位を認定する。
	400点以上	「基礎中国語 I・II・III・IV」「基礎中国語(応用) I(1)2・II(1)2」「発展中国語 I(1)2・II(1)2」「発展中国語 III(1)2・IV(1)2」のいずれかに相当する12単位を認定する。
漢語水平考試	2級合格者	「基礎中国語 I・II・III・IV」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語 I・II・III・IV」「基礎中国語(応用) I(1)2・II(1)2」「発展中国語 I(1)2・II(1)2」「発展中国語 III(1)2・IV(1)2」のいずれかに相当する12単位を認定する。
実用フランス語技能検定試験	4級合格者	「基礎フランス語 I・II・III・IV」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎フランス語 I・II・III・IV」「基礎フランス語(応用) I(1)2・II(1)2」「発展フランス語 I(1)2・II(1)2」「発展フランス語 III(1)2・IV(1)2」のいずれかに相当する12単位を認定する。

授業科目	条件	認定科目・単位
DELFL	A1 合格者	「基礎フランス語 I・II・III・IV」に相当する 8 単位を認定する。
	A2 以上合格者	「基礎フランス語 I・II・III・IV」「基礎フランス語 (応用) I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語 I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語 III(1)(2)・IV(1)(2)」のいずれかに相当する 12 単位を認定する。
ドイツ語 技能検定試験	3 級合格者	「基礎ドイツ語 I・II・III・IV」に相当する 8 単位を認定する。
	2 級以上合格者	「基礎ドイツ語 I・II・III・IV」に相当する 8 単位を認定する。
Goethe-Zertifikat、 ÖSD、TestDaF	A1 合格者	「基礎ドイツ語 I・II・III・IV」に相当する 8 単位を認定する。
	A2 以上合格者 (TestDaF の場合 TDN3 以上)	「基礎ドイツ語 I・II・III・IV」「基礎ドイツ語 (応用) I(1)(2)・II(1)(2)」「発展ドイツ語 I(1)(2)・II(1)(2)」「発展ドイツ語 III(1)(2)・IV(1)(2)」のいずれかに相当する 12 単位を認定する。

(3) 海外研修による単位認定

A. 本学が提携した海外の大学での英語語学研修を行うことにより、4 単位までコア科目 (外国語) の英語の単位として認定します。

① 研修の参加資格は以下のとおりです。

- 1) 外国語 (英語) 4 単位をすでに修得済み、または履修中であること。
- 2) 事前・事後教育に参加できること。

② 以下の条件を満たし、所定の期間に単位認定の申請を行うと、コア科目 (外国語) の英語の単位が認定されます。この制度による認定単位数は 4 単位を上限とします。

認定可能な科目と単位数は研修ごとに異なるため、詳細は研修説明会にて発表します。

- 1) 本学で行う事前・事後教育に参加すること
- 2) 海外研修の全期間にわたって研修に参加すること
- 3) 研修を受けた大学により研修の修了が認められること
- 4) 本学で課した課題を研修後に提出すること

③ 研修希望の提出等に関する手続きについては、学生センター棟の掲示をよく見て、指定された期間内に申し込んでください。参加希望者が募集定員を上回った場合は選考を行います。

B. 前項 A で規定された「本学が提携した海外の大学での語学研修等によるコア科目外国語 (英語) 単位認定 (4 単位まで)」以外にも、次の 3 つのいずれかの場合に、それぞれの条件を満たすことでコア科目外国語 (英語) の単位認定が行われます。

- 1) 本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修により、あらためて 5 単位目～8 単位目の海外の大学での語学研修による単位認定を希望する場合。条件：前項 A で規定するすべての条件を満たした上で、単位認定の申請を行う日までに英検 1 級合格、TOEFL iBT82 以上／CBT218 以上／PBT555 以上、TOEIC750 以上、IELTS 6.5 以上のいずれかを取得していること。
- 2) 本学との大学間交流協定提携校でないが SAF (The Study Abroad Foundation) に加盟する海外の大学における語学研修 (英語) を修了し、入学以降海外の大学での語学研修等によって認定される初めの 4 単位までの認定を申請する場合。条件：単位認定の申請を行う日までに英検準 1 級合格、TOEFL iBT72 以上／CBT200 以上／PBT530 以上、TOEIC 680 以上、IELTS 6 以上のいずれかを取得していること。また出発前に、必ず国際教育センターに相談して「単位取得予定表」を学務課に提出すること。
- 3) 本学との大学間交流協定提携校でないが SAF (The Study Abroad Foundation) に加盟する海外の大学における語学研修 (英語) を修了し、あらためて 5 単位目～8 単位目の、海外の大学での語学研修等による単位認定を申請する場合。条件：単位認定の申請を行う日までに英検 1 級合格、TOEFL iBT82 以上／CBT218 以上／PBT555 以上、TOEIC750 以上、IELTS6.5 以上のいずれかを取得していること。また出発前に、必ず国際教育センターに相談して「単位取得予定表」を学務課に提出すること。

上記 1) 2) 3) のいずれの場合も、海外研修終了後直ちに国際教育センターに報告し、同センターの指導に従って所定の期間に、当該海外語学研修等の修了証および当該試験の合格証またはスコア証明書を添えて、学務課で単位認定申請の手続きをしてください。審査の上、所属する学部の教授会の議を経て認定を行います。

(4) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度

当該大学の授業科目の履修（特別聴講学生）を希望する学生は、申込関係の資料を学務課で受け取り、所定の期日までに手続きをしてください。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件				履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	
東京工業大学	—	○	○	○	
東京芸術大学	—	○	○	○	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	言語文化学部／国際社会学部／国際日本学部
東京海洋大学	—	×	○	×	海洋生命科学部／海洋資源環境学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部
早稲田大学	4年生	×	○	×	先進理工学部
中央大学	—	○	○	○	

派遣学生申請書

派遣学生申請書

令和 年 月 日

文教育学部長
理学部長 殿
生活科学部長

所 属 _____ 学部 _____ 学科 _____ コース・講座 _____

氏 名 _____

学籍番号 _____

連絡先 _____

私は、令和 年度に _____ 大学 _____ 学部において下記科目を履修したいので、派遣学生として許可願います。

記

科 目 番 号			
科 目 名			
教 員 名			
単 位 数			
学 期			
曜 日			
時 限			
※選択科目として認定を希望する場合は、本学の読み替え科目名			

●読み替え科目については、学科の承認を得ること。

上記科目を履修することを承認します。

_____ 学科長

氏 名 _____ 印

5 学修成果

(1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス

「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在する」

お茶の水女子大学は140年の歴史を通して、女性が高等教育を受けることのできる唯一の場として、先駆的な女性が多く学び、それぞれに社会をリードしてきました。その精神を今日も受け継ぎつつ、真摯に学ぶ女性を育成し、教育と研究の成果を社会に還元することによって、日本のみならず国際的に社会をリードし未来を創造しうる女性のためのより高度な教育研究機関となることを志向しています。

学びにおいて、自らの問題関心・研究テーマを、自らの努力によって怠りなく「磨き続ける」ことが求められます。本学では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視しており、学びの中で問題関心を広げ、専門を深め、固有のテーマを発見していくことが求められます。本学で学ぶ学生が、自らの関心において、また自らの責任において、学びを実現することを目標としています。

学びには、責任が伴います。著作権・プライバシーなど、研究活動によって他人の権利を侵害するようなことはあってはなりません。

上記の精神は、皆さんが日々の学修成果を表す場（試験やレポート等）においてもぜひ反映させていただくことを望みます。学問に対して真摯な態度で臨むことは、高等教育を受ける者として何よりも基本的なことです。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探求する場です。自らの研究に責任を持ち、お茶大生として先人の業績に敬意を払い、自らの知と新しい文化を創造することを意識してください。

(2) 試験

各学期の終りに一定の期末試験が設けられています。各科目とも開講学期の終了時に試験を行うのが原則です。(1)(2)が付く科目のうち連続して履修を行う科目は、(1)終了時の試験を省く場合もあります。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打ち合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験の際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、理事・副学長（教育担当）は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

(1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。

(2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則第59条及び国立大学法人お茶の水女子大学学生懲戒規程に定める懲戒の対象とします。

追試験

病気その他、止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認めた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は当該期末試験終了後1週間以内に学務課に「追試験願」及び「欠席理由を証明する書類」を提出しなければなりません。「追試験願」は学務課で配付します。

ただし、卒業予定者は前記に関わらず、直ちに申し出るものとします。

(3) レポート、論文提出

成績評価は筆記試験のほかに、レポートや論文提出によって行われる場合もあります。レポート・論文作成においても、以下のような不正行為を絶対に行ってはいけません。

本学では学則第59条に規定する懲戒の対象となります。

<レポート、論文における不正行為の例>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上の文章、図表、写真や絵などを、引用先を明記しないまま、自分のオリジナルであるかのように用いること。
- ・先輩や友人、知人などが作成した文章、図表、写真や絵などを、自分が作成したものとして用いること（レポートの使い回し）。

自分のレポート・論文上で他人のアイデアを盗用することは、筆記試験におけるカンニングと同様の不正行為です。評価する側から見れば、コピー&ペーストによって作成されたレポートや論文かどうかは明らかにわかります。

以下のルールを守ってレポートや論文を作成してください。

<レポート、論文作文のルール>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上から引用した場合は、引用部分を「」などで明示し、どこからどの部分を引用したのか明記すること。
- ・自分のレポートや論文で述べる見解や発想が、何らかの文献や著書、論文、資料、インターネットに負っている場合は、それがどこであるかを明らかにすること。

※詳細は各授業担当の教員に確認してください。また、図書館にレポートや論文の執筆の方法について書かれた参考書のコーナーがありますから、参考にしてください。

(4) 成績評価

① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の学修成果を総合しておこなわれ、100点満点で、60点以上を合格とする素点から算出されるグレードポイント（下記）、および以下の対応関係によるレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で表現されます。成績証明書には合格科目のみ、学修状況チェックシステムによる成績通知には不合格科目も含めて記載します。

レターグレードと素点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- S（90点以上）： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
- A（90点未満～80点以上）： 基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）： 基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）： 基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満）： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。不合格。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10名未満の場合は2名以下）に留めることを目安にする評価基準があります。履修取消し手続きをせずに履修放棄によって評定できなくなった場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により素点が定まります。

$$S = 95, A = 85, B = 75, C = 65, D（不合格） = 55$$

② GPA制度

本学は国際標準に則し米国やアジア諸国で広く使われているGPA（Grade Point Average）を学修成果指標に用いています。この指標は、以下の③に示したように、各学生の授業科目ごとの成績評価をグレードポイント（GP）に置き換え、そのGPに当該科目の単位数を乗じて、それらを履修数分合算し、その値を履修総単位数で割った値です。

GPA制度は単位数という学修の「量」とともに、成績評価に基づく学修成果の「質」についても成果を保証する評定です。ここでは学生にとって大切と思われるGPAの目的や効果を3つあげます。

1) 学ぶ意欲がいっそう増す

個々の科目における学修改善努力が成績に反映しやすくなります。成績評価が5段階程度であらわされると、多少の努力は成績評価値になかなか反映されません。しかし、本学のGPAでは科目の試験やレポートの素点評価がそのままGPAに反映します。そのため、学修努力の違いが成果の差異として可視化されやすくなります。成績改善に向けた動機も高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

2) 不合格を避け、しっかり履修

GPAの算定ではある科目が不合格になると、そのGPは0で、しかもGPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとるとGPAの値に大きなダメージを負います。履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切です。

3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学修した科目のGPやGPA値を確認しながら、自分の成績の相対的な変化を確認していくことができます。さらに、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにGPA値が使われることもありますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できます。

③ GPAの算定方法

GPAは、授業科目ごとの成績評価（100点満点の素点評価SS）を1)の算定方法でGPに置き換え、2)により、そのGPに当該科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

1) $GP = (SS - 55) / 10$ ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする。

SSは100点満点の素点評価

2) $GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修総単位数}$

・履修総単位数には不合格となった科目（ $GP = 0$ ）の単位数も含まれる。

④ 2つのGPA指標（f-general GPAとf-strict GPA）の併用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPAとf-general GPA（fはfunctionalの略）、2つの指標を併用します。

f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績両端のゾーンではとくに米国と我が国の多くの大学においてGP(A)の最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしているのに対して、f-strict GP(A)では最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、対外的に用いるGPAとしてf-strict GPが4.0以上の値（100点満点換算で95点以上）を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general GPも用います。

一方、学内でGPAを種々の用途に使う場合には（成績の合格域全範囲について原成績を忠実に反映する）f-strict GP(A)を用います。

<算定例>

functional GPA算定の例示

5科目17単位数の場合のGPとそのアベレージがどのように求められるかを例示します。

科目名	単位数	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP×単位数	f-general GP	f-general GP×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

5と7カラム目のGPは次式で求めます。成績評点は100点満点です。科目によっては小数点以下の値をもった評価もあります。

$$GP = (\text{成績評点} - 55) / 10 \quad (\text{ただし、} GP < 0.5 \text{は} GP = 0.0 \text{とする})$$

最後に、 $GPA = \Sigma (GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$

ですので、上例では、

$$\text{f-strict GPA} = 27.50 / 17 = 1.617$$

$$\text{f-general GPA} = 26.90 / 17 = 1.582 \quad \text{となります。}$$

⑤ GPA算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や科目等履修、あるいは本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目あるいは「合格・不合格」による評定で成績がでる科目を除くすべての科目が対象になります。

⑥ GPAの算定期日

GPAの算定は、GPA算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月中旬、後期は3月中旬です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第1学期、第2学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第3学期、第4学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

⑦ 成績証明書への記載

成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict GP (A)、f-general GP (A) 両指標を併記します。また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

⑧ 成績評価情報に関する利用について

成績評価は、本学成績評価情報に関する利用ガイドライン等の定めに従い、個人情報保護を徹底した上で、調査・研究あるいは学修支援に利用することがあります。

学修状況チェックシステムについて

学修状況チェックシステムは、成績や取得単位数などの学修状況をいつでも確認できるシステムです。



※システム運用状況によりボタンの内容は変更になる場合があります。

① アクセス方法 = スチューデントアクセス

本学のウェブサイトの随所（大学トップページの「在学生の方」や学生ポータルサイトなど）にリンクがあります。日常使いには「スチューデントアクセス（左図）」から入るのが便利でしょう。

スチューデントアクセス（Google検索などでヒットします）には、本学での学修にあたり頻繁に利用するサイトへのリンクボタンが集約されています。たとえば、年間の学事日程、授業支援システム、シラバス、教務システム、授業アンケート、海外渡航申請、卒業生進路情報などです。ここに学修状況チェックシステムへのボタンもあります。

ですから、これを普段使うwebブラウザでブックマークすることはもちろん、スマホやタブレットのホーム画面にwebクリップアイコンを作るなどして便利に活用してください。

セメスター学期末におこなわれる授業アンケート時期以降は、そのアンケートに回答したのちに学修状況チェックシステムに入れるようになっていきます。これは各授業とみなさんとのあいだで、授業成果を振り返り、双方向のコミュニケーションをつくることで共に授業の質を高めあうための仕組みです。

② 学修単位数の状況

入学来の学期ごとの履修登録単位数、取得単位数、GPA算入単位数の推移を確認できます。

大学設置基準では学期ないし年間に履修可能な単位数に上限を設けるなどの措置をして、卒業に必要な単位数を大幅に超えた履修をしないようにすることを求めています。

これは履修した授業科目に必要とされる学修時間（授業時間+ 授業時間外の学修時間（講義・演習の場合、一般に授業時間の2倍））を確保し、学び修めることを確実にするための要求です。

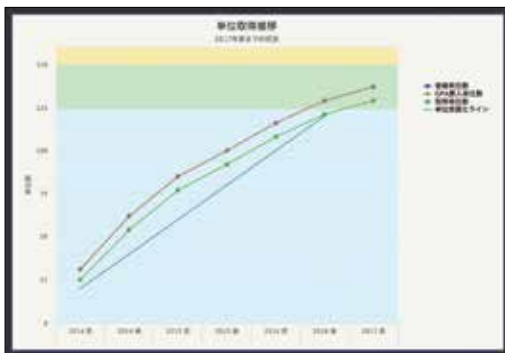
これを受けて一般に他大学では、学期や年間に登録できる履修数を制限しています。これを単位制度の実質化と呼んでいます。

この対応として本学では制度によって履修制限をせず、みなさんが単位制度の実質化の意図を理解し、このチェックシステムを通じて単位取得状況を確認しつつ、主体的に単位制度を実質化していけるようにしています。

そのためこのグラフでは、単位制度が実質化していると判断できる基準線（ドットのない青い直線）を示しています。このラインは卒業要件単位数を4年間で充たすときに、そのおよそ3割増しで履修していく状況を示しています。したがって、この線を目安に、これを大きく外れていくような履修はしないよう努めてください。

これを超えて履修し単位を取得していくような学修の仕方は努力や意欲のあらわれとは認められません。反対に計画性の不足や単位実質化への無理解として否定的にみられます。みなさんの主体的、自主的な単位の実質化が思うように進まない場合は制度を設けて制限せざるを得なくなります。

現実的には1、2年次に、この基準線を上回る履修と単位取得がなされるかもしれません。しかし、最終的にはこのライン近くに沿うよう調整的な学修をおこなってください。



履修コード	履修科目名	単位数	履修年次	履修学期	履修成績	履修平均
00001	基礎物理学Ⅰ	3	1	1	2.5	2.5
00002	基礎物理学Ⅱ	3	1	2	2.5	2.5
00003	基礎物理学Ⅲ	3	1	3	2.5	2.5
00004	基礎物理学Ⅳ	3	1	4	2.5	2.5
00005	基礎物理学Ⅴ	3	1	5	2.5	2.5
00006	基礎物理学Ⅵ	3	1	6	2.5	2.5
00007	基礎物理学Ⅶ	3	1	7	2.5	2.5
00008	基礎物理学Ⅷ	3	1	8	2.5	2.5
00009	基礎物理学Ⅸ	3	1	9	2.5	2.5
00010	基礎物理学Ⅹ	3	1	10	2.5	2.5

③ 成績表

前学期・後学期（セメスター）ごとに更新される入学来の成績一覧です。履修した全科目のカラーコードナンバリング（別ページで説明済）、授業コード、科目名、複数プログラム名、単位数、レターグレード、グレードポイント、その科目のグレードポイントの平均値、履修年度が記載されます（不合格になった科目も表示されます）。

項目名の横をクリックすると昇順、降順での並び替えができます。右上の検索により、全文にわたっての検索絞り込みができます。

④ GPAの学期ごとの推移・学修成長曲線

GPAによる学修成果状況を、つぎの2観点で確認できます。用いているGPA指標はf-strictGPA（当履修ガイドのGPA制度を参照）です。

(1) 自分のGPAの「セメスターごとの推移」を確認できます。

グラフ背景には5色のラインが引かれています。紫の線はGPA3.5。これを超えると、きわめて優等な学修成果を達成した学期だったといえます。

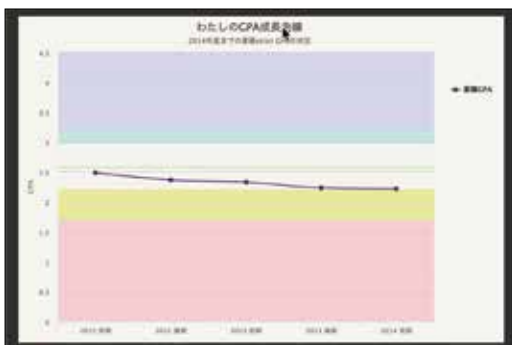
次に青、GPA3.0。これを超えると、優等な学修成果を修めた学期だったと評価できます。緑は全学平均GPA。黄色はGPA2.0。これを下回ると学修成果が不十分な学期だったといわざるをえません。大学によっては、これ以上のGPAを卒業要件にしています。

赤色はGPA1.5。これを下回った場合は、学修成果にあきらかな問題ありです。学修について担当教員や教学IR・教育開発・学修支援センター、学務課、あるいは学生相談室などに相談し対策を図ることをお勧めします。

(2) 学修成長曲線。これは各セメスターごとにGPAを入学以来の「累積」で示したグラフです。

学期ごとのGPAに比較すると入学来の累積で示されるため変動が緩やかになります。その分、学期間のパフォーマンスのばらつきが相殺されて修学期間を通じた学修プロセスの成果状況をよく映し出すことになります。そのため点間をあえて曲線で補完して表現しています。

この曲線では変化の量（大きさ）よりも全体の形状に注目します。左図のように全体にマイナス成長やマイナス気味になっている場合はその原因と対策の検討をお勧めします。グラフ背景の色分けの意味は実際のグラフに付記している説明をご覧ください。



学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。なお、休学期間は在学期間には含めません。

(1) 修業年限

修業年限は4年です。修業年限の2倍を超えて在学することはできません。ただし、3年次編入学による学生は、修業すべき年数（2年）の2倍を超えて在学することはできません。また、入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、規定により認められた単位の全部、又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができます。

(2) 休学

病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

■留意事項

- ・休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができません。
- ・休学期間は、在学期間には算入しません。
- ・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。
- ・休学期間中は、授業料は発生しません。
- ・休学期間満了後、「復学」「退学」「休学の延長」等の申し出がない場合は授業料の納入が必要となります。

(3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍します。

- ・授業料を2期連続して滞納し、督促してもなお当該2期分を納付しない者【P.286参照】
- ・本学則に定める第8条第2項及び第3項に定める在学年限を超えた者
- ・本学則に定める第33条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- ・死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- ・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

(6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

(7) 留学

留学のために海外渡航をする場合は、所定の様式（学務課で配付）に記入の上、学務課へ提出してください。

なお、大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」による派遣を希望する場合は、所定の様式（国際課で配付）に記入の上、国際課に提出してください。

① 留学（交換留学以外）

ア. 学習目的達成に必要な場合、主任指導教員の下承を得て留学することができる。また、留学中は、研究指導教員と常に連絡を保つこと。

イ. 学則第36条の規定により、留学期間は1年を限度として在学期間に算入する。

② 交換留学

本学には大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」があります。交換留学生として派遣されるためには、学内の選考を経て協定校の承諾を得る必要があります。留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定を受けることができます。

2023年交換留学派遣先大学一覧

(2022年11月現在)

協 定 校	国 名	締結年月日
アジア (21校)		
国立インドネシア大学	インドネシア	2021. 08. 26
韓国芸術総合学校舞踊院	韓国	2011. 01. 17
慶北大学校	韓国	2011. 06. 22
啓明大学校	韓国	2013. 07. 09
建国大学校	韓国	2014. 03. 21
高麗大学校	韓国	2015. 02. 24
淑明女子大学校	韓国	2000. 02. 14
同徳女子大学校	韓国	2005. 03. 30
釜山大学校	韓国	2012. 03. 21
梨花女子大学校	韓国	2000. 02. 28
アジア工科大学院大学	タイ	2004. 12. 29
タマサート大学	タイ	2007. 06. 13
チェンマイ大学	タイ	2010. 05. 27
プリンス・オブ・ソンクラーク大学	タイ	2009. 08. 14
国立政治大学	台湾	2001. 07. 25
国立台北芸術大学	台湾	2002. 01. 29
国立台湾大学	台湾	1999. 12. 17
東海大学	台湾	2021. 12. 30
大連外国語大学	中国	2006. 10. 02
北京外国語大学	中国	2005. 10. 17
北京大学歴史学系	中国	2002. 01. 26
中東 (1校)		
アンカラ大学	トルコ	2007. 08. 08
北米 (5校)		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006. 06. 01
セントメアリーズ大学	アメリカ	2019. 01. 08
ノースイースタンイリノイ大学	アメリカ	2021. 04. 28
カモーンソンカレッジ	カナダ	2020. 09. 10
ブレシア大学	カナダ	2022. 01. 11
オセアニア (1校)		
シドニー工科大学	オーストラリア	2021. 04. 07

協 定 校	国 名	締結年月日
ヨーロッパ (28校)		
イースト・アングリア大学	イギリス	2021. 03. 25
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	2022. 02. 08
プリマス大学	イギリス	2018. 08. 18
ロンドン大学キングスカレッジ	イギリス	2013. 12. 02
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究院	イギリス	1999. 08. 05
ロンドン大学バークベックカレッジ	イギリス	2017. 07. 01
国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	2011. 01. 11
コッレージョ・ヌオーヴォ	イタリア	2013. 03. 25
‘サピエンツァ’ ローマ大学	イタリア	2012. 07. 12
ダーラナ大学	スウェーデン	2019. 06. 18
バリエドリッド大学	スペイン	2018. 11. 01
ブルゴス大学	スペイン	2018. 03. 01
リュブリャナ大学	スロベニア	2019. 01. 01
カレル大学	チェコ	2004. 09. 07
コペンハーゲン大学	デンマーク	2019. 06. 19
ケルン大学	ドイツ	2010. 03. 18
バーギシェ・ブッパタル大学	ドイツ	2002. 02. 24
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 01. 21
ノルウェー科学技術大学	ノルウェー	2017. 09. 18
エトヴェシュ・ロラード大学	ハンガリー	2020. 04. 01
セントリア先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 01
タンペレ大学	フィンランド	2003. 02. 13
クレルモン・オーベルニュ大学	フランス	2009. 08. 28
ストラスブール大学	フランス	2002. 07. 05
パリ・シテ大学	フランス	2008. 02. 01
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 02. 10
ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2018. 11. 12
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 08. 03

※協定校は随時更新されますので、最新情報は以下の大学HPにてご確認ください。

<https://www.ocha.ac.jp/intl/900/header-menu/partners/index.html>

(8) 転学部及び転学科

学部内の他学科等または他学部への転入（以下「転学部・転学科」という）を考えている学生は、まずは学年担当の教員等に相談してください。所属の学科や転入希望先の学年担当教員、学科長等が相談に応じます（これらの教員の連絡場所や連絡方法が分からないときは、学務課にお問い合わせください）。

転学部・転学科の手続きなどの取扱は、次のとおりです。学務課が窓口になっています。できるだけ早い時期（前期が終わるまで）に願出してください。

①転学部・転学科を申し出ることのできる学生は、転学部・転学科の時期において在学1か年以上となる見込みの者とします。

転学部・転学科の期日は、4月1日とします。

②「転学部・転学科願」は所定の様式により、学務課（学生センター棟1F）に前年度12月28日までに提出すること。

転学部・転学科受験許可は、受入れ学科等の了承を得た上、1月の所属学部教授会の議を経るものとします。

この受験許可にあたっては、受入れ学科等の収容人員などの事情が考慮されます。

③転学部・転学科の可否の判定は、以下を総合判定し、受入学部教授会の議を経て決定します。

- ・ 入学者選抜試験の成績
- ・ 在学中の成績
- ・ 転学部・転学科試験成績
- ・ 面接

④転学部・転学科の可否は、本人に通知します。

⑤転学部・転学科が認められた者の在学期間は、受入学部教授会の議を経て決定します。

<p style="font-size: 24px; margin: 0;">転 学 部 願</p> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">学 科 願</p>			
<p>お茶の水女子大学長 殿</p>		<p>令和 年 月 日</p>	
<p>学科長</p>		<p>学年担当</p>	
<p>_____学部_____学科_____講座・専攻_____学年</p>			
<p>氏 名 _____ 印</p>			
<p>連絡先 TEL _____</p>			
<p>下記の理由により、_____学部_____学科_____講座・専攻 へ</p> <p>転学部・転学科したいので、許可くださるようお願いいたします。</p>			
<p>理由</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%; margin-top: 10px;"></div>			
<p>学 部 長</p>		<p>学 務 課</p>	

(9) 学費

①授業料は、年額（535,800円、2022年12月1日現在による）を半期ごとに納入していただきます。納入方法は、口座振替（自動引落）または銀行振り込みとなります。（事故防止の観点から、原則窓口における現金受付は行いません。）

口座振替（自動引落）の場合は、授業料預金口座振替依頼書により登録された口座から下記指定日（金融機関休業日の場合は翌営業日）に自動引落しを行いますので、前日までに、登録した口座に入金願います。

銀行振り込みの場合は、本学指定口座に下記期限までに振り込んでください。（なお振込手数料は本人負担となりますので、ご了承ください。）

前学期分	口座振替 5月27日
	銀行振込 5月中
後学期分	口座振替 11月27日
	銀行振込 11月中

②経済的理由により、授業料の納入が著しく困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者に対し、半期ごとに選考の上、授業料の全額または一部を免除、あるいは授業料の徴収を猶予する制度があります。

■ 申請資格

1. 本学学部生であって、経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者。
2. 独立行政法人日本学生支援機構の給付型奨学金の給付対象となる学部学生。

※ 原則として、標準修業年限を超過している者は免除の対象となりません。ただし、特別な事由があると認められる者を除きます。

詳しくは学生・キャリア支援課にお問い合わせください。

(10) 学籍簿変更手続き

入学時に皆さんに提出してもらった学籍簿を基に学生証、在学証明書、通学証明書など各種証明書類の発行や卒業・修了時に授与する学位記を作成しています。学籍簿に記載した住所、本籍、保護者等を変更するとき、あるいは改姓をしたときは、各変更届を必ず提出してください。特に住所は各種証明書類の発行や緊急の連絡の際に必要ですから、変更したときは住所変更届を速やかに学務課教務担当に提出してください。変更届の用紙は学務課にあります。

(11) 休学・退学・復学手続き

さまざまな事情により、休学や退学をしなければならない場合は、各自所属する学科などの学年担当や指導教員とよく相談の上、学務課教務担当で手続きを行ってください。休学可能な年限や在学可能な年限は次表のとおり異なるので、注意してください。

課程等	修業年限	在学年限 (修業年限×2)	休学年限 (累計)	在籍年限 (計)
学部	4年	8年	4年	12年
3年次編入学	2年	4年	2年	6年
博士前期課程	2年*	4年*	2年	6年*
博士後期課程	3年*	6年*	3年	9年*

※ 長期履修制度を利用する場合、修業年限・在学年限・在籍年限については、*印の年数に延長する年数を加える（休学年限は変わらない）。（注）休学期間は、卒業・修了の要件としての修業年限に含まれない。

8 学生サポート

(1) 公式メールアドレスについて

大学が皆さんに付与する公式メールアドレスには大学からのお知らせや、非常時の確認などのEメールが配信されます。大学内だけでなく自宅からも見ることができますし、設定することで携帯へ転送することも可能ですので、常にチェックできるようにしておいてください。利用方法については情報基盤センターなどでご確認ください。

公式メールアドレスは以下のアドレスです。

g (学籍番号) @edu.cc.ocha.ac.jp

※学籍番号部分には自分の学籍番号が入ります。

(2) 本学ホームページの紹介 <https://www.ocha.ac.jp>

大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学 生 生 活 関 係	奨学金 授業料免除 授業料 学生寮 (音羽館、小石川寮、お茶大 SCC) 課外活動 (届出、貸出物品一覧など) 学園祭 各種証明書 学生相談室 就職 キャリア相談 ピアサポートプログラム 拾得物・遺失物
履 修 関 係	休講情報 教室変更 時間割変更 インフォメーション 履修登録日程 成績通知日程 休学・復学・退学の手続き シラバス 教務年間日程 教員免許など各種資格取得 学部・大学院教育研究者情報 各学部・大学院紹介 科目等履修生・研究生・聴講生の募集 証明書発行の手続き
そ の 他	国際交流 (留学) 本学の歩み 同窓会・後援会・生活協同組合 イベント情報 公開講座 セミナー案内 大学刊行物 図書館・情報基盤センターなど各種センター利用案内

(3) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。休講情報や教室変更など授業に関する情報や学生生活上の重要な情報を随時掲載していますので、毎日必ずチェックしてください。

<https://tw.ao.ocha.ac.jp>

※なお、学生ポータルサイトへのアクセスには入学時に配布した「お茶大アカウント」が必要です。

(4) Facebook・Twitter

企画戦略課 (広報担当) では、お茶の水女子大学の公式FacebookおよびTwitterを用いて情報を発信しています。ぜひファンやフォロワーになって最新情報をチェックしてみてください。

[Facebook] <https://www.facebook.com/ochadai>

[Twitter] アカウント : OchadaiNews <https://twitter.com/OchadaiNews>

(5) 学生証 (ICカード)

学生証は大学の内外に対してお茶の水女子大学の学生であることを証明するものであり休日および夜間の大学施設への入退館、図書館の利用、定期検診の受診、各種証明書の発行などにも学生証が必要です(発行までに1カ月程度かかります)。

■ 注意事項

- ① 本証は常に携帯し、必要に応じて提示しなければならない。
- ② 本証を更新するとき、または退学などによって学籍を離れたときは、返却すること。
- ③ 本証を紛失したときは、直ちに学生・キャリア支援課に届け出ること。
- ④ 本証は、他人に貸与または譲渡することはできない。

■ 再交付

紛失または著しく破損した場合は、直ちに学生・キャリア支援課で再交付の申請手続きをしてください。その際、写真(4cm×3cmサイズ)が必要となります。

改姓などの場合は、再交付手続きと同時に氏名などの変更手続きを行う必要がありますので、学生・キャリア支援課および学務課まで届け出てください。

■ 更新手続き

留年、休学などにより、本証の有効期限を超えて在学する場合には、学生・キャリア支援課で更新手続きを行ってください。

(6) 諸証明書の発行

学生が卒業見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟2Fに設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や卒業後に卒業証明書等を希望するときは、学務課(学生センター棟1F)備付けの「証明書交付願」に記入し、提出してください。

(7) 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学年担当教員や学務課(学生センター棟1F)に問い合わせてください。事務担当窓口で解決できないときは、委員会や教授会等に諮りますので、学務課に相談してください。

(8) 教学IR・教育開発・学修支援センター

「複数プログラム履修」に関する履修相談、GPA制度、カラーコードナンバリングに関する相談等、その他、総合的な学修相談、学修の支援を行います。

(9) 国際教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

(10) 外国語教育センター

ランゲージ・スタディ・コモンズ(共通講義棟3号館102、103、105室)での外国語学習指導、コア外国語教育と本学企画の海外語学研修への協力等を行います。

(11) 掲示の場所

事務から学生に連絡する事項は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲示します。また、学部に関することは、各学部の掲示板に掲げることもあります。見落としのないよう、毎日一度は掲示に注意してください。

(12) 窓口別連絡先

部署名	TEL	メールアドレス	窓口取り扱い時間	場 所
学 務 課	03-5978-5141	kyomu@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 1 階
学生・キャリア支援課	03-5978-5147	gakusei@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 2 階
国 際 課 ○外国人留学生に関すること ○海外派遣に関すること	03-5978-5143 03-5978-5722	ryunai@cc.ocha.ac.jp ryu@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 3 階
財 務 課 (経 理 担 当)	03-5978-5119	keiri@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 114 室
企 画 戦 略 課 (危 機 管 理 担 当)	03-5978-5790	anzen@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 119-2 室
保 健 管 理 セ ン タ ー	03-5978-5156	Hp-c-health@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時 (12 時から 13 時を除く)	保健管理センター (食堂となり)
附 属 図 書 館	03-5978-5840	lib-serv@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 45 分から 21 時 (授業のない期間は 17 時まで) 土 10 時から 18 時 日 13 時から 18 時 (授業のない期間は閉館) 一部サービスは 平日 9 時から 12 時 平日 13 時から 17 時	附属図書館
情 報 基 盤 セ ン タ ー	03-5978-5885	it-center@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 17 時	附属図書館 1 階事務室
学 生 相 談 室		gsoudan@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 16 時	人間文化創成科学研究科 2 階 208 室、209 室
ハ ラ ス メ ン ト 等 人 権 侵 害 相 談 室	03-5978-5936	shsoudan@cc.ocha.ac.jp	開室日の 10 時から 16 時 開室日は HP に月ごとに掲示	人間文化創成科学研究科 3 階 306 室
学生・キャリア支援センター		care-advis@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時	学生センター棟 2 階
教 学 IR・教 育 開 発・ 学 修 支 援 セ ン タ ー	03-5978-2047	l-sc@cc.ocha.ac.jp	学生ポータルサイトに掲出	学生センター棟 1 階
国 際 教 育 セ ン タ ー ○受入：外国人留学生対象 ○派遣：海外留学希望者対象	03-5978-5965 03-5978-5913	global-kyoumu@cc.ocha. ac.jp info-ipo@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 17 時 平日 10 時から 16 時	学生センター棟 3 階 国際交流留学生プラザ 1 階
パ ソ コ ン 相 談 担 当	03-5978-5354	pc-skillup@cc.ocha.ac.jp	パソコン相談担当 ホームページに掲出	共通講義棟 1 号館 1 階 105 室
湾 岸 生 物 教 育 研 究 所 ○館山野外教育施設の予約	0470-29-0838	wangan@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時	

学生関係の窓口業務と諸手続き一覧

担 当 窓 口	手 続 名		期 限
学 務 課 各 学 部 担 当	履修・授業関係	履修相談、学業成績、授業時間割（休講・変更）・試験・補講	その都度
		履修登録	別に指示
		追試験願	1 週間以内
		※卒業（見込）証明書	4 日前
		※成績証明書	4 日前
		転学部・転学科願	前年度 12 月 28 日まで
		他大学等において修得した単位等に係る認定願	その都度
	科目等履修生 研究生関係	科目等履修生・聴講生・研究生受付 単位修得証明書発行	毎年受け付けされる期間内 4 日前
学 務 課 教 務 担 当	免許・実習関係	教職関係（教員免許状・教育実習）	その都度
		そのほか資格（学芸員課程）	〃
		教育職員免許状一括申請受付	別に指示
		教育実習履修届	別に指示
		教員免許状取得見込証明書発行	4 日前
		単位修得証明書発行	14 日前
身上異動関係	住所変更・氏名変更届	その都度	

担当窓口	手続名		期限
学務課 教務担当	身上異動関係	休学願	4月適用の場合2月末日まで 10月適用の場合8月末日まで
		復学願	
		退学願	その都度
		保護者等変更届	
国際課	外国人留学生関係	外国人留学生に関する事（奨学金・在留資格・証明書等）	その都度
	海外留学関係	海外留学に関する事	〃
財務課 （経理担当）	授業料納入	授業料に関する問い合わせ	その都度
		授業料の納入領収書発行	その都度
湾岸生物 教育研究所	施設使用	館山野外教育施設使用申込書	その都度
企画戦略課 （危機管理担当）	施設使用	自転車（バイクを含む）駐輪許可申請に関する事	その都度
情報基盤 センター	パソコン・ネット ワーク利用	学内でのコンピューター利用に関する相談・回答	期限なし
		お茶大情報アカウントに関する事	〃
		マイパソコン関係	〃
		パソコン活用のための学習支援・相談・回答	〃
		個人利用パソコンの貸出	その都度
学生・キャリア 支援課	学生生活関係	各種届け出・物品貸し出し	その都度
		拾得・遺失物	〃
		掲示物届け出	〃
		下宿・アパート紹介	〃
		学生証（再発行含む）	〃
		※在学証明書	〃
		※学割証	〃
		通学証明書	〃
	課外活動関係	学生サークル・課外活動	
		德音祭	
		課外活動施設	
		団体設立届	その都度
		集会届	使用日の8日前まで
		ビラの配布、署名運動届け出	その都度
		登山届	出発日の8日前まで
		テニスコート利用届	その都度
	ボランティア活動参加	〃	
	奨学金・ 授業料免除・ 学資貸付関係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	
		奨学生願書	掲示の都度
		授業料免除申請書	別に指示
		授業料徴収猶予（月割分納）申請書	〃
	寮関係	学資貸付金申し込み	その都度
		学生寮（音羽館・小石川寮・お茶大 SCC）の事務	
		入寮願	別に指示
		退寮届	その都度
	キャリア支援関係	進路・キャリア相談	その都度
		就職情報・資料収集	〃
家庭教師・アルバイト		〃	
進路登録		〃	
推薦書		〃	
保険関係	学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険	〃	
学生相談室		個人相談	〃
		心理教育プログラム（グループワーク等）	〃
ハラスメント等 人権侵害相談室	保健関係	セクハラ・パワハラ・アカハラ等人権侵害への相談窓口	〃
保健管理 センター		健康相談・体調管理など	〃
教学IR・教育開発・ 学修支援センター		※健康診断書	〃
		総合的な学修相談、学修指導などの支援	その都度

※自動発行機で発行可能（卒業証明書は卒業見込証明書のみ発行可能）

Ⅲ 授業科目一覧

1	コア科目	70
2	専門教育科目	77
3	全学ジェンダー学際カリキュラム	191
4	全学データサイエンス学際カリキュラム	193
5	全学実学型 EDI 学際カリキュラム	195
6	キャリアデザインプログラム科目群	199

1

コア科目

文理融合リベラルアーツ

リベラルアーツ演習Ⅰ	2	(Ⅰ)	04002
リベラルアーツ演習Ⅱ	2	(Ⅰ)	04002
系列1 生命と環境			
(講義)			
生命と環境1	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境2	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境3	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境4	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境5	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境6	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境7	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境8	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生命と環境10	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
(演習・実習)			
生命と環境22	2	(Ⅰ)	04002
生命と環境23	2	(Ⅰ)	04002
生命と環境26	2	(Ⅰ)	04002
系列2 色・音・香			
(講義)			
色・音・香1	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香2	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香3	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香4	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香5	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香6	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香7	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香8	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香9	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
色・音・香10	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
(演習・実習)			
色・音・香22	2	(Ⅰ)	04002
系列3 生活世界の安全保障			
(講義)			
生活世界の安全保障1	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障2	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障3	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障4	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障5	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障7	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障8	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障9	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
生活世界の安全保障10	2	(Ⅰ～Ⅱ)	04002
(演習・実習)			
生活世界の安全保障23	2	(Ⅰ)	04002
生活世界の安全保障25	2	(Ⅰ)	04002
系列4 ことばと世界			

授業科目	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
(講義)				←（物理学科は履修できない）
ことばと世界1	2	(I～II)	04002	
ことばと世界2	2	(I～II)	04002	
ことばと世界3	2	(I～II)	04002	
ことばと世界5	2	(I～II)	04002	
ことばと世界6	2	(I～II)	04002	
ことばと世界7	2	(I～II)	04002	
ことばと世界8	2	(I～II)	04002	
ことばと世界10	2	(I～II)	04002	
ことばと世界11	2	(I～II)	04002	
ことばと世界12	2	(I～II)	04002	
ことばと世界13	2	(I～II)	04002	
(演習・実習)				
ことばと世界27	2	(I)	04002	
系列5 ジェンダー				
(講義)				
ジェンダー1	2	(I～II)	04002	
ジェンダー2	2	(I～II)	04002	
ジェンダー3	2	(I～II)	04002	
ジェンダー4	2	(I～II)	04002	
ジェンダー5	2	(I～II)	04002	
ジェンダー6	2	(I～II)	04002	
ジェンダー8	2	(I～II)	04002	
ジェンダー9	2	(I～II)	04002	
ジェンダー10	2	(I～II)	04002	

*文理融合リベラルアーツ科目群の講義科目は、卒業までの4年間の間は履修可能ですが、1・2年次のうちに履修するのが効率的です。

また、リベラルアーツ演習は、1年生を対象としますが、定員に余裕がある場合、2年生以上も履修できます。

基礎講義

授業科目	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
哲学	2	(I～IV)	04002	
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	(I～IV)	04002	
法学Ⅱ（法学入門）	2	(I～IV)	04002	
政治学入門	2	(I～IV)	04002	
ミクロ経済学入門	2	(I～IV)	04002	
マクロ経済学入門	2	(I～IV)	04002	
基礎微積分学	2	(I～IV)	04002	←（数学科、情報科学科は履修できない）
基礎線形代数学	2	(I～IV)	04002	←（数学科、情報科学科は履修できない）
統計学	2	(I～IV)	04002	
総合コース	1～4	(I～IV)	0400X	
お茶の水女子大学論	2	(I)	04002	
コンピテンシー基礎論	2	(I～IV)	04002	
防災・危機管理	1	(I～IV)	04001	
自然災害に対する防災・減災	1	(I～IV)	04001	
学修ポートフォリオ入門	1	(I～IV)	04001	
自然科学課題研究支援プログラム	1	(I)	04001	

情報

授業科目	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
(必修科目)				
情報処理演習(1)	1	(I)	14001	
情報処理演習(2)	1	(I)	14001	
(選択科目)				
メディアリテラシ(1)	1	(I～Ⅲ)	14001	
メディアリテラシ(2)	1	(I～Ⅲ)	14001	
文理融合データサイエンスⅠ	2	(I～IV)	14002	
文理融合データサイエンスⅡ	2	(I～IV)	14002	
文理融合データサイエンスⅢ	2	(I～IV)	04002	
文理融合データサイエンスⅣ	2	(I～IV)	04002	
情報科学(1)	1	(I～Ⅲ)	14001	
情報科学(2)	1	(I～Ⅲ)	14001	
情報処理学(1)	1	(I～Ⅲ)	14001	
情報処理学(2)	1	(I～Ⅲ)	14001	
プログラミング演習1	2	(I～Ⅲ)	14002	
プログラミング演習2	2	(I～Ⅲ)	14002	
コンピュータ演習1	2	(I～Ⅲ)	14002	
コンピュータ演習2	2	(I～Ⅲ)	14002	
情報学演習1	2	(I～Ⅲ)	14002	
情報学演習2	2	(I～Ⅲ)	14002	
文化情報工学総論	2	(I)	14002	
データサイエンス（基礎）	2	(I～IV)	14002	
データサイエンス（中級）	2	(Ⅱ～IV)	14002	
データサイエンス（上級）	2	(Ⅱ～IV)	14002	

外国語

授業科目名	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
英語				
* 基礎英語 I(1)	1	(I)	14001	
* 基礎英語 I(2)	1	(I)	14001	
* 基礎英語 II(1)	1	(I)	14001	
* 基礎英語 II(2)	1	(I)	14001	
* 中級英語 I(1)	1	(II)	24001	
* 中級英語 I(2)	1	(II)	24001	
* 中級英語 II(1)	1	(II)	24001	
* 中級英語 II(2)	1	(II)	24001	
** 英語コミュニケーションⅢ(1)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅢ(2)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅣ(1)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅣ(2)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅤ(1)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅤ(2)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅥ(1)	1	(II～IV)	24001	
** 英語コミュニケーションⅥ(2)	1	(II～IV)	24001	
** 英語プレゼンテーション I(1)	1	(II～IV)	24001	
** 英語プレゼンテーション I(2)	1	(II～IV)	24001	
** 英語プレゼンテーション II(1)	1	(II～IV)	24001	
** 英語プレゼンテーション II(2)	1	(II～IV)	24001	
** グローバル・イングリッシュ I(1)	1	(II～IV)	24001	
** グローバル・イングリッシュ I(2)	1	(II～IV)	24001	
** グローバル・イングリッシュ II(1)	1	(II～IV)	24001	
** グローバル・イングリッシュ II(2)	1	(II～IV)	24001	
** Advanced Communication Training I(1)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training I(2)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training II(1)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training II(2)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training III(1)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training III(2)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training IV(1)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training IV(2)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training V(1)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training V(2)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training VI(1)	1	(I～IV)	34001	
** Advanced Communication Training VI(2)	1	(I～IV)	34001	
英語コミュニケーション I(1)	1	(I・II)	14001	
英語コミュニケーション I(2)	1	(I・II)	14001	
英語コミュニケーション II(1)	1	(I・II)	14001	
英語コミュニケーション II(2)	1	(I・II)	14001	
上級英語 I(1)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 I(2)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 II(1)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 II(2)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 III(1)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 III(2)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 IV(1)	1	(III・IV)	34001	
上級英語 IV(2)	1	(III・IV)	34001	

授業科目名	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
ビジネス英語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
ビジネス英語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
ビジネス英語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
ビジネス英語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
時事英語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
時事英語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
時事英語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
時事英語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	24001	
ドイツ語				
* 基礎ドイツ語Ⅰ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎ドイツ語Ⅱ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎ドイツ語Ⅲ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎ドイツ語Ⅳ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)	14001	
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)	14001	
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)	14001	
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)	14001	
* 発展ドイツ語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅲ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅲ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅳ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展ドイツ語Ⅳ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
***基礎ドイツ語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***基礎ドイツ語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***基礎ドイツ語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***基礎ドイツ語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***ドイツ語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***ドイツ語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***ドイツ語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***ドイツ語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
フランス語				
* 基礎フランス語Ⅰ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎フランス語Ⅱ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎フランス語Ⅲ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎フランス語Ⅳ	2	(Ⅰ)	14002	
* 基礎フランス語(応用)Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)	14001	
* 基礎フランス語(応用)Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)	14001	
* 基礎フランス語(応用)Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)	14001	
* 基礎フランス語(応用)Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)	14001	
* 発展フランス語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅲ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅲ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅳ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
* 発展フランス語Ⅳ(2)	1	(Ⅱ)	24001	

授業科目名	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
***基礎フランス語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***基礎フランス語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***基礎フランス語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***基礎フランス語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***フランス語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***フランス語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***フランス語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***フランス語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
中国語				
*基礎中国語Ⅰ	2	(Ⅰ)	14002	
*基礎中国語Ⅱ	2	(Ⅰ)	14002	
*基礎中国語Ⅲ	2	(Ⅰ)	14002	
*基礎中国語Ⅳ	2	(Ⅰ)	14002	
*基礎中国語(応用)Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)	14001	
*基礎中国語(応用)Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)	14001	
*基礎中国語(応用)Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)	14001	
*基礎中国語(応用)Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)	14001	
*発展中国語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅲ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅲ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅳ(1)	1	(Ⅱ)	24001	
*発展中国語Ⅳ(2)	1	(Ⅱ)	24001	
***基礎中国語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	14001	
***基礎中国語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	14001	
***基礎中国語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	14001	
***基礎中国語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)	14001	
***中国語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***中国語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***中国語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
***中国語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
中国語プレゼンテーションⅠ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	34002	
中国語プレゼンテーションⅡ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	34002	
ロシア語				
*ロシア語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*ロシア語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
朝鮮語				
*朝鮮語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*朝鮮語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*朝鮮語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*朝鮮語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
*朝鮮語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	

授業科目名	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
* 朝鮮語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
* 朝鮮語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
* 朝鮮語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
スペイン語				
* 現代スペイン語Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
* 現代スペイン語Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
* スペイン語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
* スペイン語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
* スペイン語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
* スペイン語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)	14001	
イタリア語				
* 現代イタリア語Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
* 現代イタリア語Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
アジア諸語				
* 現代アジア諸語Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
* 現代アジア諸語Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
* 現代アジア諸語Ⅲ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
* 現代アジア諸語Ⅳ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	14002	
スポーツ健康				
授業科目	単位数	学年	CCNum	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
(必修)				
スポーツ健康実習	2	(Ⅰ)	04002	
(選択)				
スポーツ科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)	04002	
健康科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)	04002	
生涯スポーツ	0.5～3	(Ⅰ～Ⅳ)	0400H	

2 専門教育科目

1 文教育学部

文教育学部履修規程（P.224）により、以下の別表のとおり卒業に必要な単位124単位（人間社会科学科 教育科学プログラムは136単位）を修得してください。各学科プログラム等に関することは、文教育学部履修規程別表第2～12を参照してください。

別表第1（第6条関係）

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位						卒業に必要な履修単位数	
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)					コア科目	専門教育科目	学部共通科目	他学部の科目	全学共通科目	教職課程科目		必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム								
人文科学科		18		20	2	44		20						20				124
言語文化学科		18		20	2	44		20						20				124
人間社会科学科																		
教育科学コース		18		12	2	60	14	20						30(24)				136
社会学コース		18		12	2	48		20						24				124
子ども学コース		18		12	2	50	18	20						24(22)				124
芸術・表現行動学科		18		12	2					64				28				124
グローバル文化学環		18		20	2	44		20						20				124

備考

- 1 情報処理演習（情報）2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 人間社会科学科 教育科学コース・子ども学コースを除き、教職課程科目の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目（外国人留学生対象）の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。
- 11 教育科学コースまたは子ども学コースの学生が、副プログラムまたは学際プログラムを選択した場合は、自由に選択して履修する科目の単位は、教育科学コースの場合24単位、子ども学コースの場合22単位とする。
- 12 グローバル文化学環履修者は、所属学科によらず、グローバル文化学環の欄に記載される科目・単位を履修すること。また、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと所属学科の副プログラム又は学際プログラムを履修すること。

別表第2 (第5条関係)

【(文) 二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・ 倫理学・ 美術史 (副)	比 歴 史 (副)	教 学 (副)	地 環 境 学 (副)	理 学 (副)	日 本 語 ・ 日 本 文 学 (副)	中 国 語 圏 言 語 文 化 (副)	英 語 圏 言 語 文 化 (副)	仏 語 圏 言 語 文 化 (副)	日 教 本 語 育 (副)	社 会 学 (副)	舞 踊 学 (副)	音 楽 表 現 (副)	教育科学・ 子ども学 (学際)	グ ロ ー バ ル 文 化 学 (学際)
人文学科	哲学		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○		×	×	×	×	×	×	×	×	×	
言語文化学科	日 文	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	×	×	×	○	○	○	○		○	×	×	×	×	
人間社会科学科	教 育	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
	子 ども	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	グロ文	×	×	×	×	×	×	×	×	○		×	○		
芸術・表現行動学科	舞 踊														
	音 楽														

【(文) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・ 倫理学・ 美術史 (副)	比 歴 史 (副)	教 学 (副)	地 環 境 学 (副)	理 学 (副)	日 本 語 ・ 日 本 文 学 (副)	中 国 語 圏 言 語 文 化 (副)	英 語 圏 言 語 文 化 (副)	仏 語 圏 言 語 文 化 (副)	日 教 本 語 育 (副)	社 会 学 (副)	舞 踊 学 (副)	音 楽 表 現 (副)	教育科学・ 子ども学 (学際)	グ ロ ー バ ル 文 化 学 (学際)
人文学科	哲学		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
言語文化学科	日 文	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
人間社会科学科	教 育	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
	子 ども	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
芸術・表現行動学科	舞 踊	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	音 楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

【(文) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」									
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理 (学際)	物理・化学 (学際)	ケミカルバイオロジー (学際)	生命情報学 (学際)	
人文学科	哲学	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	歴史	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	地理	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
言語文化学科	日 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	中 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	英 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	仏 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
人間社会科学科	教 育	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	社 会	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	子 ども	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
芸術・表現行動学科	舞 踊	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	音 楽	○	○	○	○	○	×	×	×	×

【(文) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」				
	人間・環境科学(副)	生活社会科学(副)	生活文化学(副)	心理学(副)	消費者学(学際)
人文学科	哲学	○	○	○	○
	歴史	○	○	○	○
	地理	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○
言語文化学科	日 文	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○
人間社会科学科	教 育	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○
	子 ども	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○
芸術・表現行動学科	舞 踊	○	○	○	○
	音 楽	○	○	○	○

文教育学部 主プログラム・強化プログラム

人文科学科 哲学・倫理学・美術史プログラム

		主：44 単位	強化：20 単位
主プログラム			
①教育目標			
哲学・倫理学・美術史プログラムは、人類が求めてきた真・善・美という価値に関わる事象について、専門的かつ体系的知識を習得するとともに、それらの価値の問い直しをはかることを通じて、人間について深く、また多角的に分析・考察する力を養成することを目指します。哲学では、古今の哲学的議論を受け止め、論理的かつ多角的な解釈の可能性を学びます。倫理学では、様々な倫理思想を学び、その世界観や人間観を検証します。美術史では、美術などの古今東西の人間が生みだす視覚的な表象を、実証的に検証し、その意味やあり方を的確に捉え、自らの視点で考察する力を磨きます。			
②内容・構成			
主プログラムでは、哲学、倫理学、美術史のそれぞれの領域を専門的に学ぶために必要な基礎的な科目を配置します。入門および専門的な科目を含み、研究に必要な基礎的な知識と方法を学びます。			
本プログラムは、学科共通科目8単位、卒業論文8単位、研究指導12単位、概論、特殊講義、演習などからなります。			
強化プログラム			
①教育目標			
主プログラムをふまえ、それと連動しながら、哲学、倫理学、美術史のそれぞれの領域をより深く、専門的に学び、研究するための知識や方法を学びます。			
②内容・構成			
強化プログラムでは、哲学、倫理学、美術史のそれぞれの領域の専門的な科目を配置します。演習や講読、特殊講義などを含み、より深い知識と実践的な研究方法を学びます。			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
哲学基礎論	2	I～IV	11102	○	以下の科目から4単位選択		
倫理学基礎論	2	I～IV	11102	○			
美術史基礎論	2	I～IV	11102	○			
比較文化史	2	I～II	11102	○	以下の科目から4単位選択		
比較社会史	2	I～II	11102	○			
自然と人間	2	I～II	11102	○			
人間と空間	2	I～IV	11102	○			
哲学・倫理学・美術史選択基礎	2	I	01102	○			
卒業論文	8	IV	31108	◎			
哲学研究指導 A	4	II～IV	31104	○	哲学、倫理学、美術史いずれかの分野について12単位選択		
哲学研究指導 B	4	II～IV	31104	○			
哲学研究指導 C	4	II～IV	31104	○			
倫理学研究指導 A	4	II～IV	31104	○			
倫理学研究指導 B	4	II～IV	31104	○			
倫理学研究指導 C	4	II～IV	31104	○			
美術史学研究指導 I	4	II～IV	31104	○			
美術史学研究指導 II	4	II～IV	31104	○			
美術史学研究指導 III	4	II～IV	31104	○			
哲学概論 I	2	I～IV	11102	○		以下の科目から16単位選択	
哲学概論 II	2	I～IV	11102	○			
倫理学概論 I	2	I～IV	11102	○			
倫理学概論 II	2	I～IV	11102	○			
美術史学概論	2	I～IV	11102	○			
概念分析論 I	2	II～IV	21102	○			
概念分析論 II	2	II～IV	21102	○			
理論分析論 I	2	II～IV	21102	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
理論分析論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
問題分析論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
問題分析論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
哲学CⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
日本倫理思想史Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11102	○			
日本倫理思想史Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11102	○			
西洋美術史AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
西洋美術史AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
西洋美術史AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
西洋美術史BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
西洋美術史BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
西洋美術史BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
東洋美術史AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
東洋美術史AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
東洋美術史AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
東洋美術史BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
東洋美術史BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
東洋美術史BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○			
哲学演習AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	以下の科目から18～20単位選択
哲学演習AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習AⅣ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習AⅤ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習AⅥ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習BⅣ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習BⅤ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
哲学演習BⅥ	2	Ⅱ～Ⅳ	31102	○		○	
倫理学演習A	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
倫理学演習B	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
倫理思想史演習A	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
倫理思想史演習B	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
倫理学資料講読	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
日本倫理思想史資料講読	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
西洋倫理思想史資料講読	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
倫理学研究	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
日本倫理思想史研究	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
西洋倫理思想史研究	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
宗教と倫理学	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
生命と倫理学	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
日本の社会と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
日本文化の解釈学Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
日本文化の解釈学Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
日本文化の解釈学Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
形象分析学演習Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
形象分析学演習Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
形象分析学演習Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	21104	○		○	
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	21104	○		○	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	21104	○		○	
美術史学演習Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
美術史学演習Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
美術史学演習Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	31104	○		○	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	21104	○		○	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	21104	○		○	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	21104	○		○	
哲学A	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学B	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学C	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学D	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学E	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学F	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学G	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
哲学H	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理学特殊講義A	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理学特殊講義B	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理学特殊講義C	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理学特殊講義D	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理学特殊講義E	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理学特殊講義F	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理思想史特殊講義A	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理思想史特殊講義B	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理思想史特殊講義C	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理思想史特殊講義D	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理思想史特殊講義E	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
倫理思想史特殊講義F	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
形象分析学調査演習	2	Ⅱ～Ⅳ	31102			○	
社会学通論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	以下の科目から0～2単位選択
社会学通論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	
経済学総論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11502			○	
経済学総論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11502			○	

人文科学科 比較歴史学プログラム

		主：44 単位	強化：20 単位
主プログラム			
①教育目標			
歴史は社会の反映であり、歴史を学ぶことは社会での実践力となります。日本史、アジア史、西洋史という枠組みを思考の地域軸と時間軸として位置づけ、同時に相互の比較や連関・交流に着目し、比較史的観点や社会史の視角を重視しつつ、歴史研究を通してその社会全体を俯瞰しその全体像を総合的に把握できるような柔軟な思考方法を養います。当たり前と思われることを疑い、自分なりの間を見つけ、そのための論拠（史料）を探し、論理を組み立てるといった歴史研究の基礎的手法（これは社会に出ても十分有効である）を身につけてください。			
②内容・構成			
本プログラムは、まず基礎的知識を身につけ歴史学を学ぶとはどういうことなのかを理解する入門型の初級科目、文献・情報収集方法、研究史の調べ方など、専門教育に必須の基礎知識・研究方法を体得させるための中級科目、歴史学研究の基幹である研究文献・史料を実際に読解する演習（上級科目）、その集大成としての卒業論文から構成されます。多彩な科目群からバランスよく選択して履修することで、歴史学の（最小限の）方法論を体得します。総単位数は44単位以上、学科共通科目8単位、演習科目12単位以上、卒業論文8単位を必修とします。			
強化プログラム			
①教育目標			
比較歴史学の主プログラムを専攻し、さらに歴史学の分野での専門知識を深め、磨こうと考える学生が専攻するものとします（主プログラム専攻者以外の履修は不可）。比較歴史学が開講する講義科目を中心に、より深い歴史学の知識と学びを習得することを目指します。一つの分野に限定せず、日本史・アジア史・西洋史を横断するかたちで履修し視野を広げることを推奨します。			
②内容・構成			
強化プログラムは、日本史・アジア史・西洋史の専門的で多彩な講義を主プログラムに加えた構成になっています。主プログラムで履修した科目以外に、20単位の取得が必要です。			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
比較文化史	2	I～II	11102	◎			
比較社会史	2	I～II	11102	◎			
比較歴史学選択基礎	2	I	01102	○			
史学研究指導	2	IV	31102	○			
卒業論文	8	IV	31108	◎			
哲学基礎論	2	I～II	11102	○	以下の科目から4単位選択		
倫理学基礎論	2	I～II	11102	○			
美術史基礎論	2	I～II	11102	○			
自然と人間	2	I～II	11102	○			
人間と空間	2	I～II	11102	○			
日本文化史概論	2	I～IV	11102	○		○	以下の科目から18～20単位選択
日本史概説	2	I～IV	11102	○		○	
アジア史概説	2	I～IV	11102	○		○	
西洋史概説	2	I～IV	11102	○		○	
日本史入門講読	2	I	11102	○		○	
外国史入門講読Ⅰ	2	I	11102	○		○	
外国史入門講読Ⅱ	2	I	11102	○		○	
日本史研究法(1)	1	II	21101	○		○	
日本史研究法(2)	1	II	21101	○		○	
アジア史研究法(1)	1	II	21101	○		○	
アジア史研究法(2)	1	II	21101	○		○	
西洋史研究法(1)	1	II	21101	○		○	
西洋史研究法(2)	1	II	21101	○		○	
グローバル・ヒストリー	2	I～II	11502	○		○	
日本史講読	2	II	21102	○		○	
アジア史講読	2	II	21102	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
西洋史講読	2	Ⅱ	21102	○		○	
古文書学	2	Ⅱ	21102	○		○	
歴史史科学	2	Ⅱ	21102	○		○	
日本史論文講読	2	Ⅱ	21102	○		○	
外国史論文講読	2	Ⅱ	21102	○		○	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
日本古代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○	以下の科目から12単位以上選択	○	
日本古代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本中世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本中世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本古代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本古代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本中世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本中世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
日本近代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
東アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
東アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
東アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
東アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋政治史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋政治史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋社会史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋社会史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○		○	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○	○		
西洋社会史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○	○		
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○	○		
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31102	○	○		
歴史史料調査Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	21102			○	
歴史史料調査Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	21102			○	
歴史現地調査Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	21102			○	
歴史現地調査Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	21102			○	
考古学通論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
考古学通論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本古代中世文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本近世近代文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本古代中世史特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本近世近代史特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本古代中世政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本近世近代政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本古代中世社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
日本近世近代社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
東アジア政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西アジア政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
東アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
東アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋中世史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋近世史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
フランス史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
イギリス史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
歴史学文献講読Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
歴史学文献講読Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
都市社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
歴史情報論	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
比較ジェンダー史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102			○	
西洋史学の探究	2	Ⅳ	21102			○	
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202			○	
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202			○	
社会学通論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	以下の科目から0～2単位選択
社会学通論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	
経済学総論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11502			○	
経済学総論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11502			○	

人文科学科 地理環境学プログラム

主：44 単位 強化：20 単位

主プログラム

①教育目標

地理学は、学校教育における社会科の基礎科目のひとつであり、また大学の教育・研究においては文系と理系の知をローカルな地域・場所と考え、結びつける総合科学であり、さらに社会生活においては現実的な諸問題に解決策を与える応用科学・政策科学です。現実的な諸問題の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスを養成します。

②内容・構成

地理学の独自の観点を学ぶためのスキルとして、フィールドワーク（東京近郊と日本各地）、地図・GIS、地域統計分析、自然観測、英書講読の授業を、必修・選択必修で学んでもらいます。これによって、総合科学としての地理学の基礎的な技能が身につきます。また、経済、社会、都市、環境などの地理学の知識を講義や演習で学ぶことで、特定の地域で設定したテーマの卒業論文へとつなげます。地理環境学のプログラムは、中学社会科・高校地歴科の教職免許の他に、地域調査士、GIS学術士、社会調査士の資格が取りやすい科目構成となっています。さらに、測量士補や気象予報士の資格取得に向けた勉強もできます。

強化プログラム

①教育目標

地理環境学の主プログラムを専攻した学生を対象に、地理学の広範な分野の知識を学んでもらいます。これによって、地理学の専門家としてオールラウンドの知識・スキルを身に付けることができます。

②内容・構成

主プログラムで未履修の科目の他に、より専門性の高い講義、演習を履修します。さらに、地理学と関係の深い他分野（社会学、グローバル文化学、建築学、生活科学、自然科学など）の科目も履修できます。地理学の対象とするテーマは幅が広いので、隣接する分野の知識を身につけることも大切です。

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択				
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考	
人間と空間	2	I～II	11102	◎				
自然と人間	2	I～II	11102	◎				
哲学基礎論	2	I～II	11102	○	以下の科目から4単位選択			
倫理学基礎論	2	I～II	11102	○				
美術史基礎論	2	I～II	11102	○				
比較文化史	2	I～II	11102	○				
比較社会史	2	I～II	11102	○				
地理学フィールドワーク	2	I～III	21102	◎				
自然地理学フィールドワーク	2	II～III	21102	○	以下の科目から6単位選択	○	以下の科目から18～20単位選択	
人文地理学フィールドワーク	2	II～III	21102	○		○		
地理学分析基礎演習Ⅰ	2	II～III	21102	○		○		
地理学分析基礎演習Ⅱ	2	II～III	21102	○		○		
地理情報システム演習Ⅰ	2	III	21102	○		○		
地理情報システム演習Ⅱ	2	III	21102	○		○		
地理学研究法演習	2	III	31102	◎				
地域分析学演習Ⅱ	2	IV	31102	○		以下の科目から2単位選択		
環境地理学演習Ⅱ	2	IV	31102	○				
社会地理学演習Ⅱ	2	IV	31102	○				
都市・福祉地理学演習Ⅱ	2	IV	31102	○				
地理学卒業演習	2	IV	31102	◎				
卒業論文	8	IV	31108	◎				
地理学選択基礎	2	I	01102	○	以下の科目から12単位選択			
都市と自然	2	I	11102	○		○		
地理学英書講読	2	I～III	21102	○		○		
地図学	2	I～IV	21102	○		○		
都市地理学	2	I～IV	21102	○		○		
経済地理学	2	I～IV	21102	○		○		

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
社会地理学	2	I～IV	21102	○		○	
自然地理学	2	I～IV	21102	○		○	
測量学	2	II～IV	21102	○		○	
地誌学	2	II～III	21102	○		○	
地域分析学演習 I	2	II～IV	31102	○	以下の科目から2単位選択	○	
環境地理学演習 I	2	II～IV	31102	○		○	
自然地理学演習 I	2	II～IV	31102	○		○	
社会地理学演習 I	2	II～IV	31102	○		○	
都市・福祉地理学演習 I	2	II～IV	31102	○		○	
地理環境学演習 I	2	II～IV	31102			○	
地理環境学演習 II	2	II～IV	31102			○	
地理環境学演習 III	2	II～IV	31102			○	
地理環境学演習 IV	2	II～IV	31102		○		
フィールドワーク方法論	2	II～IV	21502			○	
考古学通論 I	2	II～IV	21102			○	
考古学通論 II	2	II～IV	21102			○	
文化理論研究	2	II～IV	21502			○	
地域開発論	2	II～IV	21502			○	
グローバル化と経済	2	I～IV	11502			○	
国際協力学	2	I～IV	21502			○	
国際関係論	2	I～II	11502			○	
人口学	2	I～IV	13302			○	
老年学	2	I～IV	23302			○	
地域社会論	2	II	23302			○	
社会政策論 I	2	I～IV	11302			○	
社会政策論 II	2	II～IV	21302			○	
民俗学	2	I～IV	13302			○	
歴史民俗文化論(1)	1	I～II	23301			○	
歴史民俗文化論(2)	1	II～III	23301			○	
住居学概論	2	I	13202			○	
建築環境計画論	2	II	23302			○	
環境デザイン論	2	II～III	23302			○	
西洋建築史	2	II～III	23302			○	
地球環境科学	2	I～III	12302			○	
宇宙・地球科学	2	I～IV	12202			○	
大気・海洋科学概論	2	I～IV	14002			○	
地学基礎実験	2	I～IV	12202			○	
地史・古生物学概論	2	III	12402			○	
環境科学(1)	1	II	23201			○	
環境科学(2)	1	II	23201			○	
生物系統地理学	2	II～III	22402			○	
植物生態学	2	I～III	22402			○	
動物生態学	2	II～III	22402			○	
生物統計学	2	II	22402			○	
環境情報論	2	III～IV	32502			○	
社会学通論 I	2	I～IV	11302			○	以下の科目から0～2単位選択
社会学通論 II	2	I～IV	11302			○	
経済学総論 I	2	I～IV	11502			○	
経済学総論 II	2	I～IV	11502			○	

言語文化学科 日本語・日本文学プログラム

主：44 単位 強化：20 単位

主プログラム

①教育目標

本プログラムにおいては、日本語・日本文学について多角的に学び、言語と文学の観点から日本文化の本質を考察する識見と力量を育むことを目標とします。日本語学・日本上代文学・日本中古文学・日本中世文学・日本近世文学・日本近代文学・日本現代文学の各領域にわたって、基礎から応用へと段階をふみながら、その全般について学習します。

②内容・構成

日本語・日本文学の根幹をなす科目群から構成されています。基礎的学習である概論、通時的学習の文学史、各論を学ぶ講読・特殊研究・特殊講義が、知識の習得に関わる科目群としておかれ、これらは1年次から4年次まで、段階をふんで履修します。研究方法の習得にあたっては、2年次より用意された各種演習によって学び、これらすべての統合として、4年次に卒業論文の執筆が配置されています。

強化プログラム

①教育目標

本プログラムにおいては、日本語・日本文学について広範に学び、言語と文学の観点から日本文化の本質を考察する識見と力量を育むことを目標とします。日本語学・日本上代文学・日本中古文学・日本中世文学・日本近世文学・日本近代文学・日本現代文学の各領域にわたって、深くかつ発展的に学習します。

②内容・構成

強化プログラムは、主プログラムの履修を基盤に、さらに各自の関心を専門的に深化・発展させるためのものです。よって、科目群も、高度な内容のものを中心に履修するよう配置されています。

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択				
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考	
卒業論文	8	Ⅳ	31208	◎				
日本文学概説	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○	以下の科目から8単位選択			
日本語学通論	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○				
英語圏言語文化入門(1)	1	Ⅰ～Ⅱ	11201	○				
英語圏言語文化入門(2)	1	Ⅰ～Ⅱ	11201	○				
中国現代文学史	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○				
中国古典文学史(宋～清)	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○				
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○				
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○				
言語学入門Ⅰ(1)	1	Ⅰ～Ⅱ	11201	○				
言語学入門Ⅰ(2)	1	Ⅰ～Ⅱ	11201	○				
言語学入門Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅱ	11202	○				
日本古典文学史論(上代)	2	Ⅰ～Ⅱ	21202	○		以下の科目から8単位選択	○	以下の科目から4単位選択
日本古典文学史論(中古)	2	Ⅰ～Ⅲ	21202	○			○	
日本古典文学史論(中世)	2	Ⅱ～Ⅲ	21202	○			○	
日本古典文学史論(近世)	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	○			
日本近代文学史論(近代)	2	Ⅲ～Ⅳ	21202	○	○			
日本近代文学史論(現代)	2	Ⅲ～Ⅳ	21202	○	○			
日本語学集論	2	Ⅰ～Ⅳ	21202	○	○			
日本語文法総論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	以下の科目から2単位選択	○	以下の科目から2単位選択	
日本語音声表現論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○		
日本語文章表現論	2	Ⅰ～Ⅳ	11202	○		○		
日本文学論講読Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅲ	11202	○	以下の科目から2単位選択	○	以下の科目から4単位選択	
日本文学論講読Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅲ	11202	○		○		
日本文学論講読Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅲ	11202	○		○		
日本文学論講読Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅲ	11202	○		○		
日本言語文化論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202	○		○		
日本言語文化論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202	○		○		
日本古典文学論基礎演習Ⅱ	2	Ⅱ	11202			○		
日本語学基礎演習	2	Ⅱ	11202			○		

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本語学特殊研究	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	以下の科目から6単位選択	○	以下の科目から6単位選択
日本語史特殊研究	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
日本古典文学論特殊研究（上代）	2	Ⅰ～Ⅳ	21202	○			
日本古典文学論特殊研究（中古）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
日本古典文学論特殊研究（中世）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
日本古典文学論特殊研究（近世）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
日本近代文学論特殊研究（近代）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
日本近代文学論特殊研究（現代）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
日本語学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本語学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○			
日本語・日本文学選択基礎	2	Ⅰ	01202	○			
日本古典文学論基礎演習Ⅰ	2	Ⅱ	11202	◎			
日本古典文学論演習（上代）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○	以下の科目から6単位選択 （同一演習のⅠ、Ⅱを必ず一組は含むこと）	○	以下の科目から2単位選択
日本古典文学論演習（上代）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本古典文学論演習（中古）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本古典文学論演習（中古）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本古典文学論演習（中世）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本古典文学論演習（中世）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本古典文学論演習（近世）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本古典文学論演習（近世）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本近代文学論演習（近代）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本近代文学論演習（近代）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本近代文学論演習（現代）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本近代文学論演習（現代）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本語学演習（日本語史）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本語学演習（日本語史）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本語学演習（近・現代語）Ⅰ	2	Ⅲ	31202	○			
日本語学演習（近・現代語）Ⅱ	2	Ⅲ	31202	○			
日本語学研究指導	2	Ⅳ	31202	○	以下の科目から2単位選択		
日本文学研究指導	2	Ⅳ	31202	○			
書道Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202			○	以下の科目から2単位選択
書道Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202			○	

言語文化学科 中国語圏言語文化プログラム

主：44 単位	強化：20 単位
<p>主プログラム</p> <p>①教育目標 中国語圏言語文化プログラムでは、現代中国語のトレーニングを基盤として、中国の現代文化および古典文化、ひいては中国に対する総合的な理解を深めることを目指しています。確実な中国語運用能力の土台のもとに、様々な分野で活躍しうる人材を育成することを目標とします。</p> <p>②内容・構成 本プログラムは、学科共通科目、中国語の実践的運用能力を習得するための科目群（専門中国語）、現代語学・言語学および現代文学・現代中国に関する基本的知識を習得するための科目群（現代言語文化）、古典語学・文献学および古典文学・古典文化に関する研究方法を習得するための科目群（古典言語文化）、そして卒業論文作成指導の科目群ならびに卒業論文から構成されます（また別途、高大連携科目を設けます）。</p>	
<p>強化プログラム</p> <p>①教育目標 中国語圏言語文化主プログラムと併せて履修することにより、中国の言語文化に関するより一層高度な知識・技能を習得することを目標とします。高等学校等の教員を目指す学生、あるいは大学院に進学することを希望する学生には本プログラムが適しています。</p> <p>②内容・構成 主プログラムよりも高度な中国語の実践運用能力の習得を目指すための科目群と、現代言語文化および古典言語文化の各四分野に関する研究技能を強化するための科目群、および大学院との連携を意識した科目から構成されます。</p>	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択				
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考	
日本文学概説	2	I～II	11202	○	以下の科目から8単位選択			
日本語学通論	2	I～II	11202	○				
英語圏言語文化入門(1)	1	I～II	11201	○				
英語圏言語文化入門(2)	1	I～II	11201	○				
中国現代文学史	2	I～II	11202	○				
中国古典文学史（宋～清）	2	I～II	11202	○				
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	I～II	11202	○				
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	I～II	11202	○				
言語学入門Ⅰ(1)	1	I～II	11201	○				
言語学入門Ⅰ(2)	1	I～II	11201	○				
言語学入門Ⅱ	2	I～II	11202	○				
中国語ヒアリング基礎	2	I～II	21202	◎				
中国語コミュニケーション・スキル	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	◎				
中国語作文基礎演習	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	◎				
中国語作文応用演習	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	◎				
中国語講読	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	◎				
中国語学概論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	◎				
中国古典文学史（先秦～唐）	2	I～II	11202	◎				
中国文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	以下の科目から12単位選択	○	以下の科目から、主プログラムにおいて既修得の科目を除く4単位選択	
中国現代作家論	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○		
日中対照言語学	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○		
中国語統語論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○		
中国古典文献講読入門	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○		
中国古典文献講読基礎	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○		
中国文学古典講読	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○		
中国文学古典演習	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○		
中国語圏言語文化選択基礎	2	I	01202	○				

Ⅲ 授業科目一覧
2 専門教育科目
文教育学部

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
中国現代文化特別演習	2	Ⅳ	31202	○	以下の科目から2単位選択		
中国現代語学特別演習	2	Ⅳ	31202	○			
中国古典文献特別演習	2	Ⅳ	31202	○			
中国古典文学特別演習	2	Ⅳ	31202	○			
卒業論文	8	Ⅳ	31208	◎			
中国言語文化論演習	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			◎	
中国事情	2	Ⅱ～Ⅳ	21202			◎	
中国語会話演習	2	Ⅱ～Ⅳ	31202			◎	
中国語ヒアリング演習	2	Ⅱ～Ⅳ	31202			◎	
中国現代作品論	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			◎	
中国語文法論	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			◎	
中国語学文献講読	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			◎	
中国古典詩講義演習	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			◎	

言語文化学科 英語圏言語文化プログラム

主：44 単位 強化：20 単位

主プログラム

①教育目標

英語圏言語文化主プログラムは、英語圏の言語文化に関する研究を専攻し、柔軟な英語運用能力を習得するとともに、学術的研究の成果や深い思想を英語で正確に表現し、自信を持って広く世界に発信できる能力を身につけることを目指すものです。スピーキングの技能に関して言えば、単なる日常的会話のレベルにとどまることなく、将来は海外の研究者・知識人と対等に議論できるレベルの技能の習得を目標とします。

②内容・構成

本プログラムは、英語で学術的論文を書きまたその内容を口頭で正確に発表できるようになるための、方法論的問題を学ぶ科目群および基礎から中級レベルに至る専門的知識・教養を学ぶ科目群を中心に組まれています。また中学・高等学校の教員免許（英語）を取得するために必要な科目の単位も、本プログラムの中で取得できるように組まれています。本プログラムをとる学生は、最終年次に英語で卒業論文を提出することが義務づけられています。

強化プログラム

①教育目標

英語圏の言語文化についての高度な専門的知識・技能を身につけるためのプログラムです。本プログラム履修者は、卒業後国際社会で通用する洗練された英語力と、豊かにして深い文化的教養を身につけて巣立つことを期待されています。また卒業後に大学院進学を目指す人が履修するのにも、ふさわしいプログラムです。

②内容・構成

英語圏言語文化主プログラムが、専門的研究の基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く技術を修得するための科目を中心に組まれているのに対し、本プログラムは主としてより専門性の高い科目群を中心に構成されています。分野にとらわれず一般性の高い方法論等を学ぶ科目群においては、最終的には上級レベルまで到達すべく組まれています。

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本文学概説	2	I～II	11202	○	以下の科目から8単位選択		
日本語学通論	2	I～II	11202	○			
英語圏言語文化入門(1)	1	I～II	11201	○			
英語圏言語文化入門(2)	1	I～II	11201	○			
中国現代文学史	2	I～II	11202	○			
中国古典文学史(宋～清)	2	I～II	11202	○			
ヨーロッパ言語文化論 I	2	I～II	11202	○			
ヨーロッパ言語文化論 II	2	I～II	11202	○			
言語学入門 I (1)	1	I～II	11201	○			
言語学入門 I (2)	1	I～II	11201	○			
言語学入門 II	2	I～II	11202	○			
英米文学演習(初級)	2	II	11202	◎			
英作文演習(初級)	2	II	11202	◎			
英会話演習(初級)	2	II	11202	◎			
対照表現学演習 I (1)	1	III～IV	31201	◎			
対照表現学演習 I (2)	1	III～IV	31201	◎			
対照表現学演習 II	2	III	31202	◎			
英文法 I (1)	1	I	11201	◎			
英文法 I (2)	1	I	11201	◎			
英文法 II	2	I	11202	◎			
卒業論文	8	IV	31208	◎			
特別演習(言語研究方法論) I (1)	1	III	31201	○	以下の科目から6単位選択		
特別演習(言語研究方法論) I (2)	1	III	31201	○			
特別演習(言語研究方法論) II	2	III～IV	31202	○			
特別演習(英米文学研究方法論) I (1)	1	III	31201	○			
特別演習(英米文学研究方法論) I (2)	1	III	31201	○			
特別演習(英米文学研究方法論) II	2	III～IV	31202	○			
特別演習(作品分析)	2	IV	31202	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
特別演習（言語資料分析）	2	Ⅳ	31202	○			
英語学入門(1)	1	Ⅱ	11201	○	○の科目から 8単位選択		
英語学入門(2)	1	Ⅱ	11201	○			
英語学概論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○			
英文法演習	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	以下の科目から 6～8単位選択
英語音声学演習	2	Ⅱ	21202	○	○		
英文学史Ⅰ(1)	1	Ⅱ	21201	○	○		
英文学史Ⅰ(2)	1	Ⅱ	21201	○	○		
英文学史Ⅱ	2	Ⅱ	21202	○	○		
米文学史Ⅰ(1)	1	Ⅲ	21201	○	○		
米文学史Ⅰ(2)	1	Ⅲ	21201	○	○		
米文学史Ⅱ	2	Ⅲ	21202	○	○		
英米文学演習（中級）	2	Ⅱ	21202		○		
英米文学演習（上級）(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	21201		○		
英米文学演習（上級）(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	21201		○		
英語圏言語文化選択基礎	2	Ⅰ	01202	○			
英語圏テキスト研究入門(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	11201	○			
英語圏テキスト研究入門(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	11201	○			
英作文演習（中級）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	○	以下の科目から 12～14単位 選択	
英会話演習（中級）	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	○		
英文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅴ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅵ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅶ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英文学特殊講義Ⅷ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅵ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅶ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語学特殊講義Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○	○		
英語圏言語文化研究Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	21202	○	○		
英語圏言語文化研究Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	○		
英語圏言語文化研究Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○	○		
英語圏事情(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	21201	○			
英語圏事情(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	21201	○			
第二言語教授法研究Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○			
第二言語教授法研究Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○			
中国文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	21202			○	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	21202			○	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	21202			○	
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202			○	
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202			○	
英作文演習（上級）	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			○	
英会話演習（上級）	2	Ⅲ～Ⅳ	31202			○	
ギリシャ語	4	Ⅰ～Ⅳ	11104			○	
ラテン語	4	Ⅰ～Ⅳ	11104			○	

言語文化学科 仏語圏言語文化プログラム

		主：44 単位	強化：20 単位
主プログラム			
①教育目標			
本プログラムの教育目標は以下のようになります。			
1 フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身に付けます。			
2 フランス語で営まれている様々な文化現象を理解します。			
3 狭い意味での言語文化だけではなく、思想から映画まで、ファッションから移民問題まで、幅広くフランス語圏の文化と社会を学びます。			
4 ドイツ語圏文化を初めとして、イタリアやスペインなどのヨーロッパの他の国の文化や、あるいは世界のフランス語圏の文化にも視野を広げます。			
5 日仏交流、日欧交流などの異文化交流にも関心を持ちます。			
②内容・構成			
本プログラムは、上記のような本コースの教育目標をプログラム全体において実現するために、以下のような5つの科目群から構成されます。			
一番目の科目群は、言語文化学科共通科目です。ここではヨーロッパのみならず、広く英語圏、中国語圏、日本の言語文化の諸相を学びます。また言語学の基礎もここで学びます。			
二番目の科目群では、フランスの周辺国を中心として広くヨーロッパの言語や文化についての知識を獲得します。			
三番目の科目群では、フランス語圏の文化やフランスの社会について知見を得ます。			
四番目の科目群では、フランス語の運用能力を高めます。			
五番目の科目群では、フランスの文学や思想を分析します。			
強化プログラム			
①教育目標			
本プログラムの教育目標は、主プログラムで学んだ幅広い知見を基礎にして、さらに、各人の関心に応じて自分が学習したい領域をより集中的に学ぶことです。そして、そのことによって、より深い専門的知識やより高い語学能力を身につけることを目指します。			
②内容・構成			
主プログラムを構成する5つの科目群から、学科共通科目の科目群を除いた残りの4つの科目群から構成されます。			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択				
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考	
日本文学概説	2	I～II	11202	○	以下の科目から8単位選択			
日本語学通論	2	I～II	11202	○				
英語圏言語文化入門(1)	1	I～II	11201	○				
英語圏言語文化入門(2)	1	I～II	11201	○				
中国現代文学史	2	I～II	11202	○				
中国古典文学史(宋～清)	2	I～II	11202	○				
ヨーロッパ言語文化論I	2	I～II	11202	○				
ヨーロッパ言語文化論II	2	I～II	11202	○				
言語学入門I(1)	1	I～II	11201	○				
言語学入門I(2)	1	I～II	11201	○				
言語学入門II	2	I～II	11202	○				
仏語圏言語文化基礎演習	2	I～II	11201	◎				
欧州文化論I	2	II～IV	21202	○		以下の科目から24単位選択	○	○の科目から20単位選択
欧州文化論II	2	II～IV	21202	○			○	
欧州文化論III	2	II～IV	21202	○	○			
欧州文化論IV	2	II～IV	21202	○	○			
西欧社会文化論I	2	I～IV	11202	○				
西欧社会文化論II	2	I～IV	11202	○				
西欧社会文化論III	2	II～IV	21202	○	○			
西欧社会文化論IV	2	II～IV	21202	○	○			
独語圏文化講読演習I	2	II～IV	31202	○	○			
独語圏文化講読演習II	2	II～IV	31202	○	○			
独語圏文化講読演習III	2	II～IV	31202	○	○			

III 授業科目一覧
2 専門教育科目
文教育学部

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
独語圏文化講読演習Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
独語圏文化講読演習Ⅴ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
独語圏文化講読演習Ⅵ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
ドイツ語圏文学史Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202	○		○	
ドイツ語圏文学史Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202	○		○	
ドイツ語圏文学史Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	11202	○		○	
ドイツ語圏文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
ドイツ語圏文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
ドイツ語圏文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
ギリシャ語	4	Ⅰ～Ⅳ	11104	○		○	
ラテン語	4	Ⅰ～Ⅳ	11104	○		○	
フランス史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
西洋近世史	2	Ⅱ～Ⅳ	21102	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
フランス社会文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
フランス社会文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
フランス社会文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
フランス社会文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
基礎仏作文演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
基礎仏作文演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
中級仏作文演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
中級仏作文演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
仏語圏言語文化実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	21202	○		○	
仏語圏言語文化実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	21202	○		○	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
基礎仏語学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
基礎仏語学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
中級仏語学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
中級仏語学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21202	○		○	
上級仏語学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
上級仏語学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏文化資料研究Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏文化資料研究Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏文化資料研究Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語圏文化資料研究Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	31202	○		○	
近代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
近代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
近代仏文学演習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
近代仏文学特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
現代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
現代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏文学特殊研究	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏文学特別研究	2	Ⅱ～Ⅳ	31202	○		○	
仏語言語文化研究指導	2	Ⅳ	31202	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	31208	◎			
仏語圏言語文化選択基礎	2		01202	○			

Ⅲ

授業科目一覧

2

専門教育科目
文教育学部

人間社会科学科 教育科学プログラム

主：60単位	強化：14単位
主プログラム ①教育目標 教育科学プログラムは、「教育」という営みを理論と実践の両面から多角的に考察し、教育から人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを趣旨としています。4年間の学習を通じて、教育にかかわる事象をテーマに選び、自分なりの知識、視点、方法で卒業論文をまとめることとなります。この主プログラムは、卒業論文を作成するための必要最小限の学習メニューです。また、本プログラムは小学校教員免許状取得に必要な科目をすべて含んでいます。	
②内容・構成 本プログラムは、学科基礎科目、他プログラム科目、概論、特殊講義、演習、教職科目、卒業論文から成っています。教育思想、教育史、教育・発達心理学、教育社会学、教育方法学、特別支援教育、教育開発論等から自分の専攻領域を選び、その領域を中心にして概論・特殊講義・演習を履修してください。	
強化プログラム ①教育目標 教育科学の主プログラムと重ねて履修することにより、教育という事象をより幅広く、かつより深く捉えることを可能にするための学習メニューです。概論、特殊講義、演習を主プログラムに加えて幅広く履修します。	
②内容・構成 概論・特殊講義・演習でプログラムを構成しています。主プログラムに加えて概論、特殊講義、演習を履修することができます。自分が専攻する領域に関連する科目を広く履修することにより、知識や研究方法の基礎固めが可能になります。	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択				
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考	
人間と発達	2	I～II	11302	◎	◎の科目を含めて6単位以上選択			
教職概論(1)	1	I	44001	◎				
教職概論(2)	1	I	44001	◎				
社会学総論	2	I～II	11302	◎				
人間科学論	2	I～II	11302	○				
子ども学総論	2	I～II	11302	○				
ジェンダー社会論	2	I～IV	11302	○	以下の科目から2単位以上選択			
現代社会論	2	I～IV	11302	○				
社会意識論	2	II～IV	21302	○				
社会政策論 I	2	I～IV	11302	○				
文化人類学概論(1)	1	I～IV	11301	○				
文化人類学概論(2)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育学原論(1)	1	II～IV	21301	○				
幼児教育学原論(2)	1	II～IV	21301	○				
子ども社会学概論(1)	1	I～IV	11301	○				
子ども社会学概論(2)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育制度概論(1)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育制度概論(2)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育方法学概論(1)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育方法学概論(2)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育課程概論(1)	1	I～IV	11301	○				
幼児教育課程概論(2)	1	I～IV	11301	○				
保育内容総論(子どもと遊び)(1)	1	I～IV	11301	○				
保育内容総論(子どもと遊び)(2)	1	I～IV	11301	○				
教育思想概論(1)	1	I～IV	11301	◎		◎の科目を含めて16単位以上選択		
教育思想概論(2)	1	I～IV	11301	◎				
教育史概論(1)	1	I～IV	11301	◎				
教育史概論(2)	1	I～IV	11301	◎				
教育・発達心理学概論(1)	1	I～IV	11301	◎				
教育・発達心理学概論(2)	1	I～IV	11301	◎				
教育社会学概論(1)	1	I～IV	11301	◎				
教育社会学概論(2)	1	I～IV	11301	◎				

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択					
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考		
教育制度概論	2	I～IV	11302	◎					
教育方法学概論(1)	1	I～IV	11301	◎					
教育方法学概論(2)	1	I～IV	11301	◎					
教育課程概論(1)	1	I～IV	11301	◎					
教育課程概論(2)	1	I～IV	11301	◎					
特別支援教育概論(1)	1	I～IV	11301	◎					
特別支援教育概論(2)	1	I～IV	11301	◎					
教育開発概論(1)	1	I～IV	11301	○		○	以下の科目から2単位以上選択		
教育開発概論(2)	1	I～IV	11301	○		○			
生涯学習概論	2	I～IV	11302	○		○			
教育科学概論	2	I～IV	11302	○		○			
教育思想特殊講義	2	I～IV	21302	○	以下の科目から2単位以上選択	○	以下の科目から4単位以上選択		
教育人間学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育史特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育制度特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育心理学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
発達心理学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育社会学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
学校社会学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育方法学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育課程特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
特別支援教育特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
障害児教育特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育開発特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
比較教育特殊講義	2	I～IV	21302	○		○			
教育科学特殊講義Ⅰ	2	I～IV	21302	○		○			
教育科学特殊講義Ⅱ	2	I～IV	21302	○		○			
教育科学選択基礎	2	I	01302	○					
教育思想演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		以下の科目から12単位選択		○	以下の科目から4単位以上選択
教育思想演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○				○	
教育人間学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育人間学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
教育史演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
教育制度演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育制度演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
教育心理学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育心理学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
発達心理学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
発達心理学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
教育社会学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育社会学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
学校社会学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
学校社会学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
教育方法学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育方法学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
教育課程演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
教育課程演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				
特別支援教育演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○				
特別支援教育演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○				

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択					
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考		
障害児教育演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○			
障害児教育演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○			
教育開発演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○			
教育開発演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○			
比較教育演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○			
比較教育演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○			
教育科学演習AⅠ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○			
教育科学演習AⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○			
教育科学演習BⅠ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○			
教育科学演習BⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○			
学校インターシップ	1	Ⅱ～Ⅳ	21301	○	以下の科目から10単位以上選択				
総合的な学習の時間の理論と方法	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
道德教育の理論と方法	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
特別活動の理論と方法	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
学校カウンセリング	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
ICT活用の理論と方法	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
初等科教育法(国語)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(社会)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(算数)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(理科)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(生活)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(音楽)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(図画工作)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(家庭)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(体育)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
初等科教育法(外国語)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○					
国語科教育論	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
社会科教育論	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
算数科教育論	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
理科教育論	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
体育実技	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
外国語科教育論	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○					
法学総論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302				○	以下の科目から0単位以上選択	
法学総論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302				○		
政治学総論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302	○					
政治学総論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302				○		
経済学総論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○			
経済学総論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○			
哲学総論	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○			
倫理学総論	2	Ⅰ～Ⅳ	11302	○					
教育実習(幼小)	4	Ⅳ	44004	○					
教育実習(中高)	1,2又は4	Ⅳ	44002 44004			○			
事前・事後指導(幼小)	1	Ⅳ	44001	○					
事前・事後指導(中高)	1	Ⅳ	44001			○			
教職実践演習(幼小中高)	2	Ⅳ	44002	○					
卒業論文	8	Ⅳ	31308	◎					

人間社会科学科 社会学プログラム

		主：48 単位	強化：20 単位
主プログラム			
①教育目標			
社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目標としています。社会学の基礎理論と研究方法、および社会意識、ジェンダー、社会政策、文化人類学等の主要な研究領域に対応する科目、および教育社会学、子ども社会学、地理学等の隣接領域に関する科目を用意し、学生それぞれが持つ社会に対する関心を育てる事を目指しています。			
②内容・構成			
主プログラムは、社会学プログラムの中心をなす科目から構成されます。社会学・行動科学の基礎を学ぶ為の、「社会学総論」を含む人間社会科学科の共通科目、社会学カリキュラムの特色である社会調査法と卒業論文などからなる必修科目、社会学・社会調査・文化人類学関連の講義科目、同じく社会学・社会調査・文化人類学関連の演習科目の合計 48 単位です。			
強化プログラム			
①教育目標			
社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法より、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析、考察し、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを趣旨としています。社会学の基礎理論と研究方法、および社会意識、ジェンダー、社会政策、文化人類学等の主要な研究領域に対応する科目、および教育社会学、子ども社会学等の隣接領域に関する科目を用意し、学生それぞれが持つ社会に対する関心を育てる事を目指しています。			
②内容・構成			
強化プログラムは、主プログラムに加えて、社会学・社会調査・文化人類学関連の講義科目 12 単位以上を履修する事で社会的なテーマについてより幅広く学習し、また社会学・社会調査・文化人類学関連の演習科目 6 単位以上を履修する事で、反省的・批判的思考をより深く養成することを目的としています。			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
社会学総論	2	I～II	11302	◎	以下の科目から 6～8 単位 選択		
人間科学論	2	I～II	11302	○			
子ども学総論	2	I～II	11302	○			
人間と発達	2	I～II	11302	○			
教職概論(1)	1	I	44001	○			
教職概論(2)	1	I	44001	○			
社会学選択基礎	2	I	01302	○	以下の科目から 14～16 単位 選択 (内☆の科目からは 2 単位まで、※の科目からは、6 単位までを含めることができる。)		
政治学総論 I	2	I～IV	11302	☆○		☆○	以下の科目から 12 単位以上選択 (内☆の科目からは 4 単位まで、※の科目からは、主プログラムで取得するものも含めて、6 単位までを含めることができる。)
政治学総論 II	2	I～IV	11302	☆○		☆○	
経済学総論 I	2	I～IV	11302	☆○		☆○	
経済学総論 II	2	I～IV	11302	☆○		☆○	
法学総論 I	2	I～IV	11302	☆○			
法学総論 II	2	I～IV	11302	☆○			
哲学総論	2	I～IV	11302	☆○			
倫理学総論	2	I～IV	11302	☆○			
ジェンダー社会論	2	I～IV	11302	○		○	
現代社会論	2	I～IV	11302	○		○	
現代生活論	2	I～IV	11302	○		○	
社会意識論	2	II～IV	21302	○		○	
比較社会論	2	II～IV	21302	○		○	
社会政策論 I	2	I～IV	11302	○	○		
社会政策論 II	2	II～IV	21302	○	○		
社会問題論(1)	1	II～IV	21301	○	○		
社会問題論(2)	1	II～IV	21301	○	○		
社会調査の設計と実施	2	I～IV	11302	○	○		
教育社会学概論(1)	1	I～IV	11301	○			
教育社会学概論(2)	1	I～IV	11301	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
教育社会学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○	
学校社会学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○	
文化人類学概論(1)	1	I～IV	11301	○		○	
文化人類学概論(2)	1	I～IV	11301	○		○	
文化人類学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○	
民族誌学特殊講義	2	I～IV	21302	○		○	
子ども社会学概論(1)	1	I～IV	11301	○		○	
子ども社会学概論(2)	1	I～IV	11301	○		○	
フィールドワーク方法論	2	II～IV	21502	○			
人間と空間	2	I～IV	11102	○			
都市地理学	2	I～IV	21102	○			
社会福祉学	2	II	23302	※○		※○	
家族社会学(1)	1	III	23301	※○		※○	
家族社会学(2)	1	III	23301	※○		※○	
老年学	2	II～IV	23302	※○		※○	
地域社会論	2	II	23302	※○		※○	
児童福祉論	2	II～IV	23302	※○		※○	
応用生活統計学(1)	1	I	13301	※○		※○	
応用生活統計学(2)	1	I	13301	※○		※○	
社会統計学 I	2	II	23302	※○		※○	
ジェンダー論演習 I	2	III～IV	31302	○	以下の科目から10～12単位選択	○	以下の科目から6単位以上選択
ジェンダー論演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
現代社会論演習 I	2	III～IV	31302	○		○	
現代社会論演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
社会保障論演習 I	2	III～IV	31302	○		○	
社会保障論演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
社会政策論演習 I	2	II～IV	31302	○		○	
社会政策論演習 II	2	II～IV	31302	○		○	
現代生活論演習 I	2	III～IV	31302	○		○	
現代生活論演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
社会意識論演習 I	2	III～IV	31302	○		○	
社会意識論演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
教育社会学演習 I	2	II～III	31302	○			
教育社会学演習 II	2	III～IV	31302	○			
学校社会学演習 I	2	II～III	31302	○			
学校社会学演習 II	2	III～IV	31302	○			
文化人類学演習 I	2	II～III	31302	○		○	
文化人類学演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
民族誌学演習 I	2	II～III	31302	○		○	
民族誌学演習 II	2	III～IV	31302	○		○	
子ども社会学演習 I	2	II～IV	31302	○			
子ども社会学演習 II	2	II～IV	31302	○			
社会調査法 I	2	II～IV	31302	◎			
社会調査法 II	2	II～IV	31302	◎			
社会学研究指導 I	2	III	21302	◎			
社会学研究指導 II	2	IV	31302	◎			
卒業論文	8	IV	31308	◎			

人間社会科学科 子ども学プログラム

主：50 単位	強化：18 単位
主プログラム ①教育目標 子ども学プログラムは、生きた子どもに即して子どもを取り巻く課題を考え、人間および社会や文化の生成過程および構造について探究する力を培います。本プログラムには、幼稚園教員免許状取得に必要な科目を含んでいます。	
②内容・構成 子ども学プログラムでは、専門の基礎として、「子ども」や保育・幼児教育に関する理論を多角的な観点から学び、さらに附属幼稚園や認定こども園をはじめとする乳幼児を対象とする保育・教育実践の場に触れる機会をもち、子どもをめぐる環境、社会、文化、制度、歴史および保育実践等について、理論・対話・実践の一体的な学びを目指します。4年間の集大成として卒業論文を作成・提出のうえ、発表し、審査を受けます。	
強化プログラム ①教育目標 子ども学強化プログラムでは、社会的リソースとしての子育て力、教育・保育力について考え、その一翼をになう実践力と発想力を培います。	
②内容・構成 主プログラムに加えて子ども学の専門領域や近接領域の概論、特殊講義、演習、実習科目を学ぶことができます。また、保育・教育現場における継続的な体験実習をとらして実社会に生きる思考力と領域横断的な学びを進めます。保育士試験受験希望者の教育的支援も行います。	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
子ども学総論	2	I～II	11302	◎	◎の科目を含めて6単位選択		
教職概論(1)	1	I	44001	◎			
教職概論(2)	1	I	44001	◎			
社会学総論	2	I～II	11302	○			
人間と発達	2	I～II	11302	○			
人間科学論	2	I～II	11302	○			
ジェンダー社会論	2	I～IV	11302	○	以下の科目から2単位以上選択	○	以下の科目から2単位以上選択
現代社会論	2	I～IV	11302	○		○	
社会意識論	2	II～IV	21302	○		○	
社会政策論 I	2	I～IV	11302	○		○	
文化人類学概論(1)	1	I～IV	11301	○		○	
文化人類学概論(2)	1	I～IV	11301	○		○	
教育開発概論(1)	1	I～IV	11301	○		○	
教育開発概論(2)	1	I～IV	11301	○		○	
生涯学習概論	2	I～IV	11302	○		○	
児童福祉論	2	II～IV	23302	○		○	
発達臨床心理学	2	II～IV	23402	○		○	
臨床心理学概論(臨床心理学概論)	2	I～II	13402	○		○	
幼児教育方法学概論(1)	1	I～IV	11301	◎	◎の科目を含めて12単位以上選択		以下の科目から4単位以上選択
幼児教育方法学概論(2)	1	I～IV	11301	◎			
幼児教育課程概論(1)	1	I～IV	11301	◎			
幼児教育課程概論(2)	1	I～IV	11301	◎			
子ども社会学概論(1)	1	I～IV	11301	◎			
子ども社会学概論(2)	1	I～IV	11301	◎			
幼児教育制度概論(1)	1	I～IV	11301	◎			
幼児教育制度概論(2)	1	I～IV	11301	◎			
保育内容総論(子どもと遊び)(1)	1	I～IV	11301	◎			
保育内容総論(子どもと遊び)(2)	1	I～IV	11301	◎			
幼児教育学原論(1)	1	II～IV	21301	◎			
幼児教育学原論(2)	1	II～IV	21301	◎			
子ども発達論(1)	1	I～IV	21301	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
子ども発達論(2)	1	I～IV	21301	○		○	
人間関係論(1)	1	I～IV	21301	○		○	
人間関係論(2)	1	I～IV	21301	○		○	
子ども文化論(1)	1	I～IV	21301	○		○	
子ども文化論(2)	1	I～IV	21301	○		○	
子ども学特殊講義(1)	1	I～IV	21301	○		○	
子ども学特殊講義(2)	1	I～IV	21301	○		○	
子ども学選択基礎	2	I	01302	○			
幼児教育学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	以下の科目から10単位以上選択	○	以下の科目から6単位以上選択
幼児教育学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
保育学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○	
保育学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
子ども社会学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○	
子ども社会学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
家庭教育論演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○	
家庭教育論演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
幼児教育制度演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○	
幼児教育制度演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
子ども発達環境論演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○	
子ども発達環境論演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
乳幼児心理学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○		○	
乳幼児心理学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
子ども学調査法演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302	○	○		
子ども学調査法演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○	○		
教育思想演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	以下の科目から0単位以上選択
教育思想演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育人間学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育人間学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育史演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育史演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育制度演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育制度演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育心理学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育心理学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
発達心理学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
発達心理学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育社会学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育社会学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
学校社会学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
学校社会学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育方法学演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育方法学演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育課程演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
教育課程演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
特別支援教育演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
特別支援教育演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
障害児教育演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
障害児教育演習 II	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
教育開発演習 I	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
教育開発演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
比較教育演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	31302			○	
比較教育演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302			○	
子ども学フィールドワーク	2	Ⅱ～Ⅳ	21302	○	以下の科目のうち10単位以上選択(子ども学フィールドワークまたは子ども学インターンシップのいずれか2単位をかならず履修すること)	○	以下の科目から0単位以上選択
子ども学インターンシップ	2	Ⅲ～Ⅳ	31302	○		○	
学校インターンシップ	1	Ⅱ～Ⅳ	21301	○		○	
幼児理解と教育相談	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○		○	
保育内容指導法(健康)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○			
保育内容指導法(人間関係)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○			
保育内容指導法(環境)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○			
保育内容指導法(言葉)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○			
保育内容指導法(表現Ⅰ)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○			
保育内容指導法(表現Ⅱ)	2	Ⅰ～Ⅳ	44002	○			
子どもと健康	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○		○	
子どもと人間関係	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○		○	
子どもと環境	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○		○	
子どもと言葉	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○		○	
子どもと表現	1	Ⅰ～Ⅳ	44001	○		○	
教育・発達心理学概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301	○		○	
教育・発達心理学概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301	○		○	
特別支援教育概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301	○		○	
特別支援教育概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301	○		○	
教育思想概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育思想概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育史概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育史概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育社会学概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育社会学概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育制度概論	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	
教育方法学概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育方法学概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育課程概論(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301			○	
教育課程概論(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	11301		○		
教育実習(幼小)	4	Ⅳ	44004	○			
事前・事後指導(幼小)	1	Ⅳ	44001	○			
教職実践演習(幼小中高)	2	Ⅳ	44002	○			
子ども学研究指導Ⅰ	1	Ⅲ	31301	◎			
子ども学研究指導Ⅱ	1	Ⅳ	31301	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	31308	◎			

人文科学・言語文化・人間社会科学科共通 グローバル文化学プログラム

主：44 単位
<p>主プログラム</p> <p>①教育目標 グローバル化時代に、文化の差異を理解しながら、その差異をこえて協働し、新しい関係や価値を創り出していく力をもった市民を育てます。</p> <p>②内容・構成 次の科目群からなり、いずれの科目においても学生との双方向的な教育を重視しています。現場を訪ねて考える実習や、国内外からの講師招聘、インターネットを含む交流授業などをとりいれています。</p> <p>(1) 政治・経済・文化のグローバル化を理解する基礎科目 (2) 変容する地域や文化をどのように理解するかを学ぶ「地域研究・地域文化 (COMPREHENSION)」 (3) 多様な文化をもつ人々が交流するための理論と実践を学ぶ「多文化交流 (COMMUNICATION)」 (4) 国際的な場での平和と協力について学ぶ「国際関係・国際協力 (COLLABORATION)」 (5) 地域研究、多文化交流、国際協力にかかわる現場を体験し、現場でのコミュニケーションや問題解決の力を養う「実習」 (6) 文献資料、フィールドワーク、社会調査などにもとづく卒業研究 (4年生)、およびそのツールとなる研究法科目</p>

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム ◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考
哲学基礎論	2	I～II	11102	○	以下の科目から、所属する学科が開講する科目を4単位選択
倫理学基礎論	2	I～II	11102	○	
美術史基礎論	2	I～II	11102	○	
比較文化史	2	I～II	11102	○	
比較社会史	2	I～II	11102	○	
人間と空間	2	I～II	11102	○	
自然と人間	2	I～II	11102	○	
日本文学概説	2	I～II	11202	○	
日本語学通論	2	I～II	11202	○	
英語圏言語文化入門(1)	1	I～II	11201	○	
英語圏言語文化入門(2)	1	I～II	11201	○	
中国古典文学史 (宋～清)	2	I～II	11202	○	
中国現代文学史	2	I～II	11202	○	
言語学入門 I (1)	1	I～II	11201	○	
言語学入門 I (2)	1	I～II	11201	○	
言語学入門 II	2	I～II	11202	○	
ヨーロッパ言語文化論 I	2	I～II	11202	○	
ヨーロッパ言語文化論 II	2	I～II	11202	○	
社会学総論	2	I～II	11302	○	
人間と発達	2	I～II	11302	○	
人間科学論	2	I～II	11302	○	
子ども学総論	2	I～II	11302	○	
グローバル文化学総論	2	I～IV	11502	◎	◎の科目を含めて8単位以上選択
国際関係論	2	I～IV	11502	○	
政治学総論 I	2	I～IV	11302	○	
政治学総論 II	2	I～IV	11302	○	
グローバル化と経済	2	I～IV	11502	○	
グローバル化と社会	2	I～IV	11502	○	
比較ジェンダー論	2	I～IV	21502	○	
グローバル・ヒストリー	2	I～IV	11502	○	
地域研究方法論	2	II～IV	21502	○	
文化理論研究	2	II～IV	21502	○	
多文化間交流論(1)	1	II～IV	21501	○	
多文化間交流論(2)	1	II～IV	21501	○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム ◎必修 ○選択		
				主プログラム	備考	
言語と文化(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	21501	○		
言語と文化(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	21501	○		
国際協力学	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
グローバル文化学選択基礎	2	Ⅰ	01502	○		
文化変動論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○	以下の科目から4単位以上選択	
文化変動論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31502	○		
イスラム社会文化論Ⅰ(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	21501	○		
イスラム社会文化論Ⅰ(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	21501	○		
イスラム社会文化論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31502	○		
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31502	○		
アジア社会とジェンダーⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	21501	○		
アジア社会とジェンダーⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	31502	○		
対日交流論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
中国社会文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
東南アジア社会文化論	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
アフリカ社会文化論	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
地域研究特論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
英語圏事情(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	21201	○		
英語圏事情(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	21201	○		
文化と人間関係Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○	以下の科目から4単位以上選択	
文化と人間関係Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31502	○		
グローバル化と言語教育Ⅰ(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	21501	○		
グローバル化と言語教育Ⅰ(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	21501	○		
グローバル化と言語教育Ⅱ(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	31501	○		
グローバル化と言語教育Ⅱ(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	31501	○		
表現行動論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11402	○		
表現行動論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	11402	○		
言語と社会	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
多文化共生論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
国際交流論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
国際交流論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
多文化交流特論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
国際協力方法論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		以下の科目から4単位以上選択
国際協力方法論Ⅱ(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	31501	○		
国際協力方法論Ⅱ(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	31501	○		
平和構築論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
平和構築論Ⅱ(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	31501	○		
平和構築論Ⅱ(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	31501	○		
国際開発論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
国際開発論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
グローバル化と労働Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
グローバル化と労働Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	31502	○		
国際機構論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
国際教育協力論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
NGO/NPO論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
地域開発論	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○		
国際金融論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
国際協力特論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○		
多文化交流実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	21502	○	以下の科目から4単位以上選択	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム ◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考
多文化交流実習Ⅱ	2	I～Ⅳ	31502	○	
多文化交流実習Ⅲ	2	I～Ⅳ	21502	○	
多文化交流実習Ⅳ	2	I～Ⅳ	31502	○	
多文化交流実習Ⅴ	2	I～Ⅳ	31502	○	
グローバル文化学実習Ⅰ	2	I～Ⅳ	21502	○	
グローバル文化学実習Ⅱ	2	I～Ⅳ	21502	○	
地域研究実習Ⅰ	2	I～Ⅳ	21502	○	
地域研究実習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○	
国際協力実習Ⅰ	2	I～Ⅳ	21502	○	
国際協力実習Ⅱ	2	I～Ⅳ	31502	○	
国際協力実習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ	2	I～Ⅳ	21502	○	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅱ	2	I～Ⅳ	21502	○	
フィールドワーク方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	○	
グローバル文化学方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	21502	◎	
グローバル文化学特論	2	Ⅲ～Ⅳ	21502	◎	
卒業研究	8	Ⅳ	31508	◎	

副プログラム・学際プログラム

哲学・倫理学・美術史副プログラム

単位数：20

①教育目標

哲学、倫理学、美術史学の各学問領域における知識や方法に触れることで、各学生が多様な関心に基づいた学問を展開する際の基本となる、感じ、考え、検証し、判断する力を養います。

②内容・構成

哲学、倫理学、美術史の各学問領域の基礎となる知識や方法を学ぶ基礎論や概論に加え、さらに広く実践的な学問展開に触れる多彩な講義科目や特殊講義などで構成されています。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
哲学基礎論	2	I～II	選択	11102	以下の科目から20単位選択
倫理学基礎論	2	I～II	選択	11102	
美術史基礎論	2	I～II	選択	11102	
哲学概論I	2	I～IV	選択	11102	
哲学概論II	2	I～IV	選択	11102	
倫理学概論I	2	I～IV	選択	11102	
倫理学概論II	2	I～IV	選択	11102	
哲学A	2	II～IV	選択	21102	
哲学B	2	II～IV	選択	21102	
哲学C	2	II～IV	選択	21102	
哲学D	2	II～IV	選択	21102	
哲学E	2	II～IV	選択	21102	
哲学F	2	II～IV	選択	21102	
哲学G	2	II～IV	選択	21102	
哲学H	2	II～IV	選択	21102	
哲学C I	2	II～IV	選択	11102	
日本倫理思想史I	2	I～IV	選択	11102	
日本倫理思想史II	2	I～IV	選択	11102	
倫理学研究	2	II～IV	選択	21102	
西洋倫理思想史研究	2	II～IV	選択	21102	
宗教と倫理学	2	II～IV	選択	21102	
生命と倫理学	2	II～IV	選択	21102	
日本の社会と文化	2	II～IV	選択	21102	
倫理学特殊講義A	2	II～IV	選択	21102	
倫理学特殊講義B	2	II～IV	選択	21102	
倫理学特殊講義C	2	II～IV	選択	21102	
倫理学特殊講義D	2	II～IV	選択	21102	
倫理学特殊講義E	2	II～IV	選択	21102	
倫理学特殊講義F	2	II～IV	選択	21102	
倫理思想史特殊講義A	2	II～IV	選択	21102	
倫理思想史特殊講義B	2	II～IV	選択	21102	
倫理思想史特殊講義C	2	II～IV	選択	21102	
倫理思想史特殊講義D	2	II～IV	選択	21102	
倫理思想史特殊講義E	2	II～IV	選択	21102	
倫理思想史特殊講義F	2	II～IV	選択	21102	
形象分析学特殊講義I	4	II～IV	選択	21104	
形象分析学特殊講義II	4	II～IV	選択	21104	
形象分析学特殊講義III	4	II～IV	選択	21104	
西洋美術史A I	2	II～IV	選択	21102	

III

授業科目一覧

2

文
教
育
学
部
専
門
教
育
科
目

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
西洋美術史AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋美術史AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋美術史BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋美術史BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋美術史BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東洋美術史AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東洋美術史AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東洋美術史AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東洋美術史BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東洋美術史BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東洋美術史BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	21104	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	21104	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	21104	

①教育目標

比較歴史学の主プログラムを専攻しない学生に向けて、歴史学のエッセンスを学び、歴史を構成する基本的な地域・時間軸を理解し、歴史資料にもとづく研究法を学ぶことを目的としています。広く社会に生起する事象について、歴史学を学んだことで比較の軸としての複眼的視点を獲得することを目標とします。比較歴史学を主プログラムとしないすべての学生に向けて開かれています。また、中学社会科、高校地歴科および公民科の教職免許取得にも適します。

②内容・構成

歴史学の基礎的知識を身につけ歴史学を学ぶとはどういうことなのかを理解する入門型の初級科目、文献・情報収集方法や研究史の調べ方など必須の基礎知識を得るための中級科目、そして各時代・分野ごとの専門性の高い多彩な講義群（上級科目）で構成されます。自分の関心に応じて自由なカリキュラム編成が可能であり、幅広くさまざまな時代・地域を学ぶのもよいし、地域や時代を絞った履修形態をとることもできます（たとえばアジア史型—アジア史の科目群を集中的に履修—、あるいは近世史型—日東西の近世関連科目の集中履修—など）。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
比較文化史	2	I～II	選択	11102	以下の科目から20単位選択
比較社会史	2	I～II	選択	11102	
日本文化史概論	2	I～IV	選択	11102	
日本史概説	2	I～IV	選択	11102	
アジア史概説	2	I～IV	選択	11102	
西洋史概説	2	I～IV	選択	11102	
日本史研究法(1)	1	II	選択	21101	
日本史研究法(2)	1	II	選択	21101	
アジア史研究法(1)	1	II	選択	21101	
アジア史研究法(2)	1	II	選択	21101	
西洋史研究法(1)	1	II	選択	21101	
西洋史研究法(2)	1	II	選択	21101	
グローバル・ヒストリー	2	I～II	選択	11502	
日本史講読	2	II	選択	21102	
アジア史講読	2	II	選択	21102	
西洋史講読	2	II	選択	21102	
古文書学	2	II～IV	選択	21102	
歴史史料学	2	II～IV	選択	21102	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	II～IV	選択	21102	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	II～IV	選択	21102	
歴史史料調査Ⅰ	2	III～IV	選択	21102	
歴史史料調査Ⅱ	2	III～IV	選択	21102	
歴史現地調査Ⅰ	2	III～IV	選択	21102	
歴史現地調査Ⅱ	2	III～IV	選択	21102	
考古学通論Ⅰ	2	II～IV	選択	21102	
考古学通論Ⅱ	2	II～IV	選択	21102	
日本古代中世文化史	2	II～IV	選択	21102	
日本近世近代文化史	2	II～IV	選択	21102	
日本古代中世史特殊講義	2	II～IV	選択	21102	
日本近世近代史特殊講義	2	II～IV	選択	21102	
日本古代中世政治史	2	II～IV	選択	21102	
日本近世近代政治史	2	II～IV	選択	21102	
日本古代中世社会経済史	2	II～IV	選択	21102	
日本近世近代社会経済史	2	II～IV	選択	21102	
東アジア政治史	2	II～IV	選択	21102	
西アジア政治史	2	II～IV	選択	21102	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
東アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
東アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋中世史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋近世史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
西洋文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
フランス史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
イギリス史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
歴史学文献講読Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
歴史学文献講読Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
都市社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
比較ジェンダー史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
日本古代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本古代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本中世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本中世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本古代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本古代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本中世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本中世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
日本近代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
東アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
東アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
東アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
東アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋政治史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋政治史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
西洋政治史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31102	

Ⅲ

授業科目一覧

2

文教育学部
専門教育科目

<p>①教育目標 総合科学（関係の学）としての地理学の知識を講義、演習によって提供し、自然・人文・社会科学のそれぞれの分野が問題とする現象の地域性、場所性について、地理的センスを身に付けてもらいます。</p> <p>②内容・構成 自然、政治、経済、社会、文化、言語などのいずれの現象においても、それらが生起する特定の地理的コンテキストの理解が不可欠です。近年の知識情報化社会では、地理的知識・スキル・センスのもつ重要性は、ますます高まるものと考えられます。こうした社会的要請にこたえるための地理学的基礎を、講義と実習で行います。</p>
--

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
人間と空間	2	I～II	選択	11102	以下の科目から12単位選択
自然と人間	2	I～II	選択	11102	
都市と自然	2	I	選択	11102	
地誌学	2	II～IV	選択	21102	
都市地理学	2	I～IV	選択	21102	
経済地理学	2	I～IV	選択	21102	
社会地理学	2	I～IV	選択	21102	
自然地理学	2	I～IV	選択	21102	
地理学英書講読	2	I～II	選択	21102	以下の科目から4単位選択
地図学	2	I～IV	選択	21102	
測量学	2	II～IV	選択	21102	
地理学分析基礎演習 I	2	II～III	選択	21102	
地理学分析基礎演習 II	2	II～III	選択	21102	以下の科目から2単位選択
地域分析学演習 I	2	II～IV	選択	31102	
環境地理学演習 I	2	II～III	選択	31102	
自然地理学演習 I	2	II～IV	選択	31102	
社会地理学演習 I	2	II～IV	選択	31102	
都市・福祉地理学演習 I	2	II～IV	選択	31102	
地理学フィールドワーク	2	I～III	必修	21102	

①教育目標

本プログラムにおいては、日本語・日本文学について広範に学び、言語と文学の観点から日本文化の本質を考察する識見と力量を育むことを目標とします。日本語学・日本上代文学・日本中古文学・日本中世文学・日本近世文学・日本近代文学・日本現代文学の各領域にわたって、その基礎的なところを学習します。

②内容・構成

副プログラムは、日本語・日本文学以外のプログラムを主とする学生のためのカリキュラムです。基礎的知識の広範な習得を重視して、科目群も広範かつ基本的なものを配置しています。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
日本文学概説	2	I～II	必修	11202	
日本古典文学史論（上代）	2	I～II	選択	21202	以下の科目から6単位選択
日本古典文学史論（中古）	2	I～III	選択	21202	
日本古典文学史論（中世）	2	II～III	選択	21202	
日本古典文学史論（近世）	2	II～IV	選択	21202	
日本近代文学史論（近代）	2	III～IV	選択	21202	
日本近代文学史論（現代）	2	III～IV	選択	21202	
日本語学通論	2	I～II	選択	11202	
日本語彙論	2	I～IV	選択	21202	以下の科目から4単位選択
日本語文法総論	2	II～IV	選択	21202	
日本語音声表現論	2	II～IV	選択	21202	
日本語文章表現論	2	I～IV	選択	11202	
日本文学論講読Ⅰ	2	I～III	選択	11202	
日本文学論講読Ⅱ	2	I～III	選択	11202	
日本文学論講読Ⅲ	2	I～III	選択	11202	
日本文学論講読Ⅳ	2	I～III	選択	11202	以下の科目から6単位選択
日本言語文化論Ⅰ	2	I～IV	選択	11202	
日本言語文化論Ⅱ	2	I～IV	選択	11202	
日本語学特殊研究	2	II～IV	選択	21202	
日本語史特殊研究	2	II～IV	選択	21202	
日本古典文学論特殊研究（上代）	2	I～IV	選択	21202	
日本古典文学論特殊研究（中古）	2	II～IV	選択	21202	
日本古典文学論特殊研究（中世）	2	II～IV	選択	21202	
日本古典文学論特殊研究（近世）	2	II～IV	選択	21202	
日本近代文学論特殊研究（近代）	2	II～IV	選択	21202	
日本近代文学論特殊研究（現代）	2	II～IV	選択	21202	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	31202	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	31202	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	31202	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	31202	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	II～IV	選択	31202	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	31202	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	31202	

①教育目標

中国語圏言語文化以外の主プログラムを履修する学生が、その主プログラムの学習内容と中国の言語文化とを連携させて学際的な学習・研究を行うことを目標とします。

②内容・構成

本プログラムは、中国語の実践的運用能力を習得するための科目群（選択）、現代文化・現代語学・古典文献・古典文学の四分野の基本的知識を習得するための科目群（選択）、四分野に関する研究的アプローチの方法を習得するための科目群（選択）から構成されます。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
中国語学概論	2	Ⅱ～Ⅳ	必修	21202	
中国古典文学史（先秦～唐）	2	Ⅰ～Ⅱ	必修	11202	
中国語ヒアリング基礎	2	Ⅰ～Ⅱ	選択	21202	以下の科目から4単位以上選択
中国語コミュニケーション・スキル	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国語作文基礎演習	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
中国語作文応用演習	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
中国語講読	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	以下の科目から6単位以上選択
中国現代作家論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
日中対照言語学	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国語統語論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国古典文献講読入門	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国古典文献講読基礎	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国文学古典講読	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中国文学古典演習	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	

①教育目標

英語圏言語文化副プログラムは、英語圏言語文化以外の領域を主専攻とする学生が副専攻として履修することを主たる目的として設置されています。また英語圏言語文化以外の主プログラムとこのプログラムを併せて履修する形で、中学・高等学校の教員免許（英語）を取得することも可能です。

②内容・構成

本プログラムの内容は、主として、英語圏の言語文化を研究するための基礎的科目群、中学・高等学校の教員免許（英語）取得に必要な単位を取得することのできる科目群、学際的研究に関心をもつ他専攻の学生に教養として英語圏言語文化に関する最先端の学問的成果を提供することを想定した科目群から構成されています。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
英文法Ⅰ(1)	1	I	必修	11201	
英文法Ⅰ(2)	1	I	必修	11201	
英文法Ⅱ	2	I	必修	11202	
英米文学演習(初級)	2	II	選択	11202	以下の科目から4単位選択
英作文演習(初級)	2	II	選択	11202	
英会話演習(初級)	2	II	選択	11202	
英語学入門(1)	1	II	選択	11201	以下の科目から4～6単位選択
英語学入門(2)	1	II	選択	11201	
英語学概論	2	II～IV	選択	21202	
英文法演習	2	II～IV	選択	21202	
英語音声学演習	2	II	選択	21202	
英文学史Ⅰ(1)	1	II	選択	21201	
英文学史Ⅰ(2)	1	II	選択	21201	
英文学史Ⅱ	2	II	選択	21202	
米文学史Ⅰ(1)	1	III	選択	21201	
米文学史Ⅰ(2)	1	III	選択	21201	
米文学史Ⅱ	2	III	選択	21202	
英作文演習(中級)	2	II～IV	選択	21202	
英会話演習(中級)	2	II～IV	選択	21202	以下の科目から6～8単位選択
英文学特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅲ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅳ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅴ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅵ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅶ	2	II～IV	選択	31202	
英文学特殊講義Ⅷ	2	II～IV	選択	31202	
英語学特殊講義Ⅰ	2	III～IV	選択	31202	
英語学特殊講義Ⅲ	2	III～IV	選択	31202	
英語学特殊講義Ⅴ	2	III～IV	選択	31202	
英語学特殊講義Ⅶ	2	III～IV	選択	31202	
英語圏言語文化研究Ⅰ	2	I～IV	選択	21202	
英語圏言語文化研究Ⅱ	2	II～IV	選択	21202	
英語圏言語文化研究Ⅲ	2	II～IV	選択	21202	
英語圏事情(1)	1	II～IV	選択	21201	
英語圏事情(2)	1	II～IV	選択	21201	
第二言語教授法研究Ⅰ	2	III～IV	選択	31202	
第二言語教授法研究Ⅱ	2	III～IV	選択	31202	

<p>①教育目標 仏語圏言語文化以外の主プログラムを履修した学生が、自分が学んだ主プログラムの内容と本プログラムの内容とを関連させて、学際的な知識や複合的な能力を獲得することを目標とします。</p> <p>②内容・構成 主プログラムを構成する5つの科目群から、学科共通科目の科目群を除いた残りの4つの科目群から構成されます。履修者の関心に応じて、特に1つの分野を集中的に履修してもよく、また幅広くいくつかの分野を履修するのもよいでしょう。</p>

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
仏語圏言語文化基礎演習	2	I～II	選択	11202	以下の科目から20単位選択
欧州文化論 I	2	II～IV	選択	21202	
欧州文化論 II	2	II～IV	選択	21202	
欧州文化論 III	2	II～IV	選択	21202	
欧州文化論 IV	2	II～IV	選択	21202	
西欧社会文化論 I	2	I～IV	選択	11202	
西欧社会文化論 II	2	I～IV	選択	11202	
西欧社会文化論 III	2	II～IV	選択	21202	
西欧社会文化論 IV	2	II～IV	選択	21202	
独語圏文化講読演習 I	2	II～IV	選択	31202	
独語圏文化講読演習 II	2	II～IV	選択	31202	
独語圏文化講読演習 III	2	II～IV	選択	31202	
独語圏文化講読演習 IV	2	II～IV	選択	31202	
独語圏文化講読演習 V	2	II～IV	選択	31202	
独語圏文化講読演習 VI	2	II～IV	選択	31202	
ドイツ語圏文学史 I	2	I～IV	選択	11202	
ドイツ語圏文学史 II	2	I～IV	選択	11202	
ドイツ語圏文学史 III	2	I～IV	選択	11202	
ドイツ語圏文化論 I	2	II～IV	選択	21202	
ドイツ語圏文化論 II	2	II～IV	選択	21202	
ドイツ語圏文化論 III	2	II～IV	選択	21202	
ギリシャ語	4	I～IV	選択	11104	
ラテン語	4	I～IV	選択	11104	
フランス史	2	II～IV	選択	21102	
西洋近世史	2	II～IV	選択	21102	
仏語圏言語文化論 I	2	II～IV	選択	31202	
仏語圏言語文化論 II	2	II～IV	選択	31202	
仏語圏言語文化論 III	2	II～IV	選択	31202	
仏語圏言語文化論 IV	2	II～IV	選択	31202	
仏語圏社会言語論 I	2	II～IV	選択	31202	
仏語圏社会言語論 II	2	II～IV	選択	31202	
フランス社会文化論 I	2	II～IV	選択	21202	
フランス社会文化論 II	2	II～IV	選択	21202	
フランス社会文化論 III	2	II～IV	選択	21202	
フランス社会文化論 IV	2	II～IV	選択	21202	
基礎仏作文演習 I	2	II～IV	選択	21202	
基礎仏作文演習 II	2	II～IV	選択	21202	
中級仏作文演習 I	2	II～IV	選択	21202	
中級仏作文演習 II	2	II～IV	選択	21202	
仏語圏言語文化実習 I	2	I～IV	選択	21202	
仏語圏言語文化実習 II	2	I～IV	選択	21202	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
基礎仏語学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
基礎仏語学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中級仏語学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
中級仏語学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21202	
上級仏語学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
上級仏語学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
仏語圏文化資料研究Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
仏語圏文化資料研究Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
仏語圏文化資料研究Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
仏語圏文化資料研究Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31202	
近代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
近代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
近代仏文学演習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
近代仏文学特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
現代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
現代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
仏文学特殊研究	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	
仏文学特別研究	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	31202	

Ⅲ

授業科目一覧

2

文教育学部
専門教育科目

<p>①教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な言語・文化的背景を持つ日本語学習者を理解し、彼らのコミュニケーション能力を向上させるための基盤となる理論や方法、専門性と実践力をもったグローバル社会の日本語教育専門家を育成します。 ・外国語または第二言語としての日本語教育のスキルを獲得します。 <p>②内容・構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育副プログラムの科目を学ぶことにより、国内外の教育機関等で活躍する日本語教育専門家に必要とされる専門知識の基礎や実践力を学びます。 ・所定の科目群中、必修科目を2単位、選択科目を18単位履修すればこのプログラムの必要要件を満たすことができます。 ・5つの領域と実習科目から合計26単位を履修すると日本語教育機関就職時に有効な資格証を受領することができます。
--

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	領域	CCNum	備考
第二言語教授法演習Ⅰ	2	I～Ⅳ	必修	言語と教育	11202	以下の科目から18単位選択
第二言語教授法演習Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	社会・文化・地域	11202	
日本語表現法概論	2	I～Ⅳ	選択	言語	11202	
日本語教育学研究法実習	2	I～Ⅳ	選択	言語と心理	21202	
日本語教育学概論Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	言語と教育	11202	
日本語教育学概論Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	言語と教育	11202	
日本語教育法演習Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	実習	21202	
日本語教育法演習Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	実習	21202	
日本語教育法演習Ⅲ	4	I～Ⅳ	選択	実習	21204	
多文化間人間関係論演習	2	I～Ⅳ	選択	言語と心理	21202	
異文化間教育学演習	2	I～Ⅳ	選択	言語と社会	21202	
社会言語学演習	2	I～Ⅳ	選択	言語と社会	21202	
日本語学概論Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	言語	11202	
日本語学概論Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	言語	11202	
子どもの日本語教育学概論	2	I～Ⅳ	選択	社会・文化・地域	11202	
日本語教育学特殊講義	2	I～Ⅳ	選択	言語と心理	21202	
言語と文化(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	言語と社会	21501	
言語と文化(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	言語と社会	21501	
多文化共生論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	社会・文化・地域	21502	
多文化間交流論(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	社会・文化・地域	21501	
多文化間交流論(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	社会・文化・地域	21501	

①教育目標

社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目標としています。社会学の基礎理論と研究方法、および社会意識、ジェンダー、社会政策、文化人類学等の主用な研究領域に対応する科目、および教育社会学、子ども社会学、地理学等の隣接領域に関する科目を用意し、学生それぞれが持つ社会に対する関心を育てる事を目指しています。

②内容・構成

社会学以外の主プログラムを履修する学生を対象とした副プログラムでは、社会学・行動科学の基礎を学ぶ為の、「社会学総論」を含む学科共通科目を2科目4単位履修する他、社会調査法4単位を必修とする事で社会学の特色である実証研究の方法を修得します。また社会学の講義科目から8単位履修する事で多様な社会学的テーマについての理解を深め、社会学の演習科目2科目に参加する事で、反省的批判的思考の訓練をしながら自らの問題関心を育ててゆく事を目指します。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
社会学総論	2	I～II	必修	11302	以下の科目から必修を含め4単位選択。ただし、人間社会科学科の学生は、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。
人間科学論	2	I～II	選択	11302	
子ども学総論	2	I～II	選択	11302	
人間と発達	2	I～II	選択	11302	
ジェンダー社会論	2	I～IV	選択	11302	以下の科目から8単位選択
現代社会論	2	I～IV	選択	11302	
現代生活論	2	I～IV	選択	11302	
社会意識論	2	II～IV	選択	21302	
比較社会論	2	II～IV	選択	21302	
社会政策論I	2	I～IV	選択	11302	
社会政策論II	2	II～IV	選択	21302	
社会問題論(1)	1	II～IV	選択	21301	
社会問題論(2)	1	II～IV	選択	21301	
社会調査の設計と実施	2	I～IV	選択	11302	
文化人類学概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
文化人類学概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
文化人類学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
民族誌学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
ジェンダー論演習I	2	III～IV	選択	31302	以下の科目から4単位選択
ジェンダー論演習II	2	III～IV	選択	31302	
現代社会論演習I	2	III～IV	選択	31302	
現代社会論演習II	2	III～IV	選択	31302	
社会保障論演習I	2	III～IV	選択	31302	
社会保障論演習II	2	III～IV	選択	31302	
社会政策論演習I	2	II～IV	選択	31302	
社会政策論演習II	2	II～IV	選択	31302	
現代生活論演習I	2	III～IV	選択	31302	
現代生活論演習II	2	III～IV	選択	31302	
社会意識論演習I	2	III～IV	選択	31302	
社会意識論演習II	2	III～IV	選択	31302	
文化人類学演習I	2	III～IV	選択	31302	
文化人類学演習II	2	III～IV	選択	31302	
民族誌学演習I	2	III～IV	選択	31302	
民族誌学演習II	2	III～IV	選択	31302	
社会調査法I	2	II～IV	必修	31302	
社会調査法II	2	II～IV	必修	31302	

Ⅲ
授業科目一覧
2
専門教育科目
文教育学部

<p>①教育目標 舞踊教育学副プログラムでは、舞踊教育学以外の主プログラムを履修した学生を対象として、舞踊や運動科学に関する基礎的な科目を提供します。このプログラムを履修することにより、舞踊や運動が人間にとってどのような意義があるのかについての理解を深めることが出来、自らの専門分野の研究に活かすことが出来ます。</p> <p>②内容・構成 舞踊学概論は本プログラムにおける中心的科目であり、必修科目に位置づけられています。その他の科目は概論、演習、特殊講義、実習から構成されていますが、演習科目の履修には、概論や基礎となる講義科目をあらかじめ履修しておくことが条件とされます。実習科目は舞踊や運動経験の少ない人でも無理なく履修できる内容となっており、理論面での理解を深めるためにも履修することが望ましいものです。</p>

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考	
舞踊学概論	2	I	必修	11402		
表現行動論 I	2	I～IV	選択	11402	以下の科目から6～14単位選択	
表現行動論 II	2	I～IV	選択	11402		
舞踊芸術学	2	II	選択	21402		
民族舞踊学(1)	1	II	選択	21401		
民族舞踊学(2)	1	II	選択	21401		
臨床舞踊論	2	II～IV	選択	21402		
スポーツ人間学(1)	1	I～IV	選択	21401		
スポーツ人間学(2)	1	I～IV	選択	21401		
体育原理	2	II	選択	21402		
動作学(1)	1	II	選択	21401		
動作学(2)	1	II	選択	21401		
舞踊・運動科学研究法入門	2	II	選択	11402		
舞踊芸術学実験演習(1)	1	III	選択	31401		以下の科目から0～4単位選択
舞踊芸術学実験演習(2)	1	III	選択	31401		
民族舞踊学実験演習(1)	1	III	選択	31401		
民族舞踊学実験演習(2)	1	III	選択	31401		
臨床舞踊論実験演習(1)	1	III	選択	31401		
臨床舞踊論実験演習(2)	1	III	選択	31401		
動作学実験演習(1)	1	III	選択	31401		
動作学実験演習(2)	1	III	選択	31401		
スポーツ文化論演習(1)	1	III	選択	31401	以下の科目から0～8単位選択	
スポーツ文化論演習(2)	1	III	選択	31401		
体育心理学	2	I～IV	選択	21402		
運動学（運動方法学を含む）	2	I～IV	選択	21402		
解剖学	2	II	選択	21402		
生理学（運動生理学を含む）	2	II	選択	21402		
舞踊学特殊講義	2	I～IV	選択	21402		
運動科学特殊講義	2	I～IV	選択	21402		
舞踊教育法実習（初等教育）	1	I～IV	選択	21401	以下の科目から0～2単位選択	
舞踊教育法実習（中等教育）	1	III	選択	21401		
民族舞踊実習（基礎）	1	I～IV	選択	11401		

①教育目標

音楽表現副プログラムでは、音楽表現以外の主プログラムを履修した学生を対象として、音楽学に関する基礎的な科目を提供します。このプログラムを履修することにより、音楽に対してどのような学問的アプローチがあるのか、について理解を深めるとともに、自らの専門分野との関連を学ぶことが出来ます。

②内容・構成

音楽学概論と日本音楽史概論、西洋音楽史ⅠとⅡは、基礎となる概論科目です。その他の科目を受講する前に、あらかじめ履修しておく必要があります。なお、西洋音楽史ⅠおよびⅡ、音楽学研究法はいずれも英語のテキストを使用します。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
日本音楽史概論	2	I	選択	11402	以下の科目から8～10単位選択
西洋音楽史Ⅰ	2	I	選択	11402	
西洋音楽史Ⅱ	2	II	選択	21402	
音楽学研究法	2	II	選択	21402	
音楽形式論	2	I～II	選択	11402	
音楽学概論	2	I～IV	選択	11402	以下の科目から6～8単位選択
民族音楽学	2	II～IV	選択	21402	
音楽学研究演習	4	III～IV	選択	31404	
現代音楽Ⅰ	2	II～IV	選択	21402	以下の科目から2～4単位選択
現代音楽Ⅱ	2	II～IV	選択	21402	
音楽学特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	21402	
音楽学特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	21402	
西洋音楽史特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	21402	
西洋音楽史特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	21402	

<p>①教育目標 子どもと教育を理解することにより、自分の専門をより深め、あるいはより広い視野から捉えることを目指します。</p> <p>②内容・構成 教育科学プログラムと子ども学プログラムの科目で構成しています。 教育科学主プログラムを選択している学生は、「子ども学総論」を含めて子ども学プログラムの科目の6単位以上、子ども学主プログラムを選択している学生は、「人間と発達」を含めて教育科学プログラムの科目の6単位以上、履修してください。これらの科目を主プログラムとして履修した場合は、それ以外の科目で20単位履修してください。 それ以外の主プログラムを選択している学生は、備考欄の指示に従って本プログラムの科目を自由に履修してください。</p>
--

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
人間と発達	2	I～II	選択	11302	2単位以上選択
子ども学総論	2	I～II	選択	11302	
教育思想概論(1)	1	I～IV	選択	11301	6単位以上選択
教育思想概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育史概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
教育史概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育・発達心理学概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
教育・発達心理学概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育社会学概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
教育社会学概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育制度概論	2	I～IV	選択	11302	
教育方法学概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
教育方法学概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育課程概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
教育課程概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
特別支援教育概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
特別支援教育概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育開発概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
教育開発概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
生涯学習概論	2	I～IV	選択	11302	
教育科学概論	2	I～IV	選択	11302	
幼児教育学原論(1)	1	II～IV	選択	21301	
幼児教育学原論(2)	1	II～IV	選択	21301	
幼児教育方法学概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
幼児教育方法学概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
幼児教育課程概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
幼児教育課程概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
子ども社会学概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
子ども社会学概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
幼児教育制度概論(1)	1	I～IV	選択	11301	
幼児教育制度概論(2)	1	I～IV	選択	11301	
保育内容総論(子どもと遊び)(1)	1	I～IV	選択	11301	
保育内容総論(子どもと遊び)(2)	1	I～IV	選択	11301	
教育思想特殊講義	2	I～IV	選択	21302	4単位以上選択
教育人間学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育史特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育制度特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育心理学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
発達心理学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育社会学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
学校社会学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育方法学特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育課程特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
特別支援教育特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
障害児教育特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育開発特殊講義	2	I～IV	選択	21302	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
比較教育特殊講義	2	I～IV	選択	21302	
教育科学特殊講義 I	2	I～IV	選択	21302	
教育科学特殊講義 II	2	I～IV	選択	21302	
子ども発達論(1)	1	I～IV	選択	21301	
子ども発達論(2)	1	I～IV	選択	21301	
人間関係論(1)	1	I～IV	選択	21301	
人間関係論(2)	1	I～IV	選択	21301	
子ども文化論(1)	1	I～IV	選択	21301	
子ども文化論(2)	1	I～IV	選択	21301	
子ども学特殊講義(1)	1	I～IV	選択	21301	
子ども学特殊講義(2)	1	I～IV	選択	21301	
学校インターンシップ	1	II～IV	選択	21301	
子ども学フィールドワーク	2	II～IV	選択	21302	
教育思想演習 I	2	II～III	選択	31302	0～8 単位選択
教育思想演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育人間学演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育人間学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育史演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育史演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育制度演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育制度演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育心理学演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育心理学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
発達心理学演習 I	2	II～III	選択	31302	
発達心理学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育社会学演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育社会学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
学校社会学演習 I	2	II～III	選択	31302	
学校社会学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育方法学演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育方法学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育課程演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育課程演習 II	2	III～IV	選択	31302	
特別支援教育演習 I	2	II～III	選択	31302	
特別支援教育演習 II	2	III～IV	選択	31302	
障害児教育演習 I	2	II～III	選択	31302	
障害児教育演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育開発演習 I	2	II～III	選択	31302	
教育開発演習 II	2	III～IV	選択	31302	
比較教育演習 I	2	II～III	選択	31302	
比較教育演習 II	2	III～IV	選択	31302	
教育科学演習 A I	2	II～III	選択	31302	
教育科学演習 A II	2	III～IV	選択	31302	
教育科学演習 B I	2	II～III	選択	31302	
教育科学演習 B II	2	III～IV	選択	31302	
幼児教育学演習 I	2	II～III	選択	31302	
幼児教育学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
保育学演習 I	2	II～III	選択	31302	
保育学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
子ども社会学演習 I	2	II～III	選択	31302	
子ども社会学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
家庭教育論演習 I	2	II～III	選択	31302	
家庭教育論演習 II	2	III～IV	選択	31302	
幼児教育制度演習 I	2	II～III	選択	31302	
幼児教育制度演習 II	2	III～IV	選択	31302	
子ども発達環境論演習 I	2	II～III	選択	31302	
子ども発達環境論演習 II	2	III～IV	選択	31302	
乳幼児心理学演習 I	2	II～III	選択	31302	
乳幼児心理学演習 II	2	III～IV	選択	31302	
子ども学調査法演習 I	2	II～III	選択	31302	
子ども学調査法演習 II	2	III～IV	選択	31302	

<p>①教育目標 グローバル化時代に、文化の差異を理解しながら、その差異をこえて協働し、人々と共に新しい関係や価値を創り出していく力をもった市民を育てます。</p> <p>②内容・構成 次の科目群からなり、いずれの科目においても学生との双方向的な教育を重視し、国内外からの講師招聘やインターネットを含む交流授業をとりいれています。</p> <p>(1) 政治・経済・文化のグローバル化を理解する基礎科目 (2) 変容する地域や文化をどのように理解するかを学ぶ「地域研究・地域文化 (COMPREHENSION)」 (3) 多様な文化をもつ人々が交流するための理論と実践を学ぶ「多文化交流 (COMMUNICATION)」 (4) 国際的な場での平和と協力について学ぶ「国際関係・国際協力 (COLLABORATION)」 (5) 地域研究、多文化交流、国際協力にかかわる現場を体験し、現場でのコミュニケーションや問題解決の力を養う「実習」 (6) グローバル文化学にかかわる研究法</p>
--

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考	
グローバル文化学総論	2	I～IV	選択	11502	以下の科目から4～8単位選択	
国際関係論	2	I～IV	選択	11502		
政治学総論 I	2	I～IV	選択	11302		
政治学総論 II	2	I～IV	選択	11302		
グローバル化と経済	2	I～IV	選択	11502		
グローバル化と社会	2	I～IV	選択	11502		
比較ジェンダー論	2	I～IV	選択	21502		
グローバル・ヒストリー	2	I～IV	選択	11502		
地域研究方法論	2	II～IV	選択	21502		
文化理論研究	2	II～IV	選択	21502		
多文化間交流論(1)	1	II～IV	選択	21501		
多文化間交流論(2)	1	II～IV	選択	21501		
言語と文化(1)	1	II～IV	選択	21501		
言語と文化(2)	1	II～IV	選択	21501		
国際協力学	2	I～IV	選択	21502		
文化変動論 I	2	II～IV	選択	21502		
文化変動論 II	2	III～IV	選択	31502		
イスラム社会文化論 I(1)	1	II～IV	選択	21501		
イスラム社会文化論 I(2)	1	II～IV	選択	21501		
イスラム社会文化論 II	2	III～IV	選択	31502		
オセアニア社会文化論 I	2	II～IV	選択	21502		
オセアニア社会文化論 II	2	III～IV	選択	31502		
アジア社会とジェンダー I	2	II～IV	選択	21501		
アジア社会とジェンダー II	2	III～IV	選択	31502		
対日交流論	2	II～IV	選択	21502		
中国社会文化論	2	II～IV	選択	21502		
東南アジア社会文化論	2	I～IV	選択	21502		
アフリカ社会文化論	2	I～IV	選択	21502		
地域研究特論	2	II～IV	選択	21502		
英語圏事情(1)	1	III～IV	選択	21201		
英語圏事情(2)	1	III～IV	選択	21201		
文化と人間関係 I	2	II～IV	選択	21502		
文化と人間関係 II	2	III～IV	選択	31502		
グローバル化と言語教育 I(1)	1	I～IV	選択	21501		
グローバル化と言語教育 I(2)	1	I～IV	選択	21501		

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
グローバル化と言語教育Ⅱ(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	31501	
グローバル化と言語教育Ⅱ(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	31501	
表現行動論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	11402	
表現行動論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	11402	
言語と社会	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
多文化共生論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
国際交流論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
国際交流論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
多文化交流特論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
国際協力方法論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
国際協力方法論Ⅱ(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	31501	
国際協力方法論Ⅱ(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	31501	
平和構築論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
平和構築論Ⅱ(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	31501	
平和構築論Ⅱ(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	31501	
国際開発論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
国際開発論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
グローバル化と労働Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
グローバル化と労働Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	31502	
国際機構論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
国際教育協力論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
NGO/NPO論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
地域開発論	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
国際金融論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
国際協力特論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
多文化交流実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
多文化交流実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	31502	
多文化交流実習Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
多文化交流実習Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	31502	
多文化交流実習Ⅴ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	31502	
グローバル文化学実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
グローバル文化学実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
地域研究実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
地域研究実習Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
国際協力実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
国際協力実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	31502	
国際協力実習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	21502	
フィールドワーク方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	
グローバル文化学方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21502	

芸術・表現行動学科 舞踊教育学専修プログラム

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
●必修					
舞踊芸術学	2	Ⅱ	必修	21402	
民族舞踊学(1)	1	Ⅱ	必修	21401	
民族舞踊学(2)	1	Ⅱ	必修	21401	
臨床舞踊論	2	Ⅱ	必修	21402	
体育原理	2	Ⅱ	必修	21402	
動作学(1)	1	Ⅱ	必修	21401	
動作学(2)	1	Ⅱ	必修	21401	
モダンダンス・テクニック (初級)	1	Ⅰ	必修	11401	
舞踊創作法実習 (舞踊構成法)	1	Ⅱ	必修	21401	
舞踊創作法実習 (即興創作)	1	Ⅰ	必修	11401	
民族舞踊実習 (基礎)	1	Ⅰ	必修	11401	
舞踊教育法実習 (中等教育)	1	Ⅲ	必修	21401	
舞踊・運動科学研究法入門	2	Ⅱ	必修	11402	
舞踊・運動科学研究法演習	2	Ⅲ	必修	31402	
卒業論文	8	Ⅳ	必修	31408	
●選択					
スポーツ人間学(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	以下の科目から 37 単位以上選択
スポーツ人間学(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊学概論	2	Ⅰ	選択	11402	
表現行動論Ⅰ	2	Ⅰ	選択	11402	
表現行動論Ⅱ	2	Ⅰ	選択	11402	
モダンダンス・テクニック (中級)Ⅰ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
モダンダンス・テクニック (中級)Ⅱ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
モダンダンス・テクニック (上級)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊創作法実習 (舞踊上演・制作)	2	Ⅲ	選択	31402	
舞踊教育法実習 (初等教育)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
民族舞踊実習 (発展)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊上演法実習 (初級)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊上演法実習 (中級)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊上演法実習 (上級)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊表現技法実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
舞踊芸術学実験演習(1)	1	Ⅲ	選択	31401	
舞踊芸術学実験演習(2)	1	Ⅲ	選択	31401	
民族舞踊学実験演習(1)	1	Ⅲ	選択	31401	
民族舞踊学実験演習(2)	1	Ⅲ	選択	31401	
臨床舞踊論実験演習(1)	1	Ⅲ	選択	31401	
臨床舞踊論実験演習(2)	1	Ⅲ	選択	31401	
動作学実験演習(1)	1	Ⅲ	選択	31401	
動作学実験演習(2)	1	Ⅲ	選択	31401	
スポーツ文化論演習(1)	1	Ⅲ	選択	31401	
スポーツ文化論演習(2)	1	Ⅲ	選択	31401	
陸上競技	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
器械体操	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
球技	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
体づくり運動・武道	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	
水泳実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	21401	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
日本舞踊実習	1	I～IV	選択	21401	
バレエ実習	1	I～IV	選択	21401	
舞踊音楽構成法	1	I～IV	選択	21401	
運動学（運動方法学を含む）	2	I～IV	選択	21402	
解剖学	2	II	選択	21402	
生理学（運動生理学を含む）	2	II	選択	21402	
体育心理学	2	I～IV	選択	21402	
衛生学及び公衆衛生学	2	I～IV	選択	21402	
学校保健	2	I～IV	選択	21402	
病理学	2	I～IV	選択	21402	
学校安全と救急看護	2	I～IV	選択	21402	
舞踊学特殊講義	2	I～IV	選択	21402	
運動科学特殊講義	2	I～IV	選択	21402	
表現療法講義演習	2	I～IV	選択	31402	
●選択					
教育方法学概論(1)	1		選択	11301	
教育方法学概論(2)	1		選択	11301	
教育社会学概論(1)	1		選択	11301	
教育社会学概論(2)	1		選択	11301	
文化人類学概論(1)	1		選択	11301	
文化人類学概論(2)	1		選択	11301	
生涯学習概論	2		選択	11302	
●高大連携科目（選択）					
舞踊教育学選択基礎	2	I	選択	01402	
高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1（第6条関係）「自由に選択して履修する科目・単位」として認定することができる。					

芸術・表現行動学科 音楽表現専修プログラム

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
●必修					
ソルフェージュ	2	I	必修	11402	
音楽形式論	2	I～II	必修	11402	
ピアノ基礎	4	I	必修	11404	
声楽基礎	4	I	必修	11404	
作曲原論 I	2	I	必修	11402	
作曲原論 II	2	I	必修	11402	
西洋音楽史 I	2	I	必修	11402	
西洋音楽史 II	2	II	必修	21402	
日本音楽史概論	2	I	必修	11402	
音楽学研究法	2	II	必修	21402	
音楽学概論	2	I	必修	11402	
民族音楽学	2	II～IV	必修	21402	
現代音楽 I	2	II～IV	必修	21402	
現代音楽 II	2	II～IV	必修	21402	
卒業研究	8	IV	必修	31408	
●選択					
ソルフェージュ発展 A	2	II～IV	選択	21402	以下の科目から 24 単位以上選択
ソルフェージュ発展 B	2	II～IV	選択	21402	
ソルフェージュ発展 C	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ I	4	I	選択	21404	
ピアノ II	4	II	選択	31404	
ピアノ III	4	III	選択	31404	
ピアノ IV	4	IV	選択	31404	
ピアノ研究演習 A I	2	II～IV	選択	11402	
ピアノ研究演習 A II	2	II～IV	選択	11402	
ピアノ研究演習 B I	2	II～IV	選択	11402	
ピアノ研究演習 B II	2	II～IV	選択	11402	
ピアノ研究演習 C I	2	II～IV	選択	11402	
ピアノ研究演習 C II	2	II～IV	選択	11402	
ピアノレパートリー研究 A I	2	II～IV	選択	21402	
ピアノレパートリー研究 A II	2	II～IV	選択	21402	
ピアノレパートリー研究 B I (1)	1	II～IV	選択	21401	
ピアノレパートリー研究 B I (2)	1	II～IV	選択	21401	
ピアノレパートリー研究 B II (1)	1	II～IV	選択	21401	
ピアノレパートリー研究 B II (2)	1	II～IV	選択	21401	
ピアノレパートリー研究 C I	2	II～IV	選択	21402	
ピアノレパートリー研究 C II	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ特別演習 A I	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ特別演習 A II	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ特別演習 B I	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ特別演習 B II	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ特別演習 C I	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ特別演習 C II	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ演奏法研究 A I	2	II～IV	選択	31402	
ピアノ演奏法研究 A II	2	II～IV	選択	31402	
ピアノ演奏法研究 B I	2	II～IV	選択	31402	
ピアノ演奏法研究 B II	2	II～IV	選択	31402	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
ピアノ演奏法研究C I	2	II～IV	選択	31402	
ピアノ演奏法研究C II	2	II～IV	選択	31402	
ピアノ合奏研究(基礎)	2	II～IV	選択	21402	
ピアノ合奏研究(発展)	2	II～IV	選択	21402	
室内楽研究	2	II～IV	選択	21402	
副科ピアノA	2	II～IV	選択	11402	
副科ピアノB	2	II～IV	選択	11402	
副科ピアノC	2	II～IV	選択	11402	
ピアノ指導法研究(1)	1	II～IV	選択	21401	
ピアノ指導法研究(2)	1	II～IV	選択	21401	
声楽発展A	4	II～IV	選択	31404	
声楽発展B	4	II～IV	選択	31404	
声楽発展C	4	II～IV	選択	31404	
声楽特別演習	4	II～IV	選択	11404	
歌曲研究A I	2	II～IV	選択	21402	
歌曲研究A II	2	II～IV	選択	21402	
歌曲研究B I	2	II～IV	選択	21402	
歌曲研究B II	2	II～IV	選択	21402	
歌曲研究C I	2	II～IV	選択	21402	
歌曲研究C II	2	II～IV	選択	21402	
オペラ研究A I	2	I～IV	選択	31402	
オペラ研究A II	2	I～IV	選択	31402	
オペラ研究A III	2	I～IV	選択	31402	
オペラ研究A IV	2	I～IV	選択	31402	
オペラ研究B I	2	II～IV	選択	31402	
オペラ研究B II	2	II～IV	選択	31402	
オペラ研究B III	2	II～IV	選択	31402	
オペラ研究B IV	2	II～IV	選択	31402	
演奏身体論A I	2	II～IV	選択	21402	
演奏身体論A II	2	II～IV	選択	21402	
演奏身体論B I	2	II～IV	選択	21402	
演奏身体論B II	2	II～IV	選択	21402	
演奏身体論C I	2	II～IV	選択	21402	
演奏身体論C II	2	II～IV	選択	21402	
副科声楽A	2	II～IV	選択	11402	
副科声楽B	2	II～IV	選択	11402	
副科声楽C	2	II～IV	選択	11402	
声楽指導法研究 I	2	II～IV	選択	21402	
声楽指導法研究 II	2	II～IV	選択	21402	
指揮法	2	II～IV	選択	11402	
西洋音楽史特殊講義 I	2	II～IV	選択	21402	
西洋音楽史特殊講義 II	2	II～IV	選択	21402	
音楽学各論 I	2	III～IV	選択	31402	
音楽学各論 II	2	III～IV	選択	31402	
音楽学各論 III	2	III～IV	選択	31402	
音楽学各論 IV	2	III～IV	選択	31402	
音楽学研究演習	4	III	選択	31404	
音楽学特殊講義 I	2	II～IV	選択	21402	
音楽学特殊講義 II	2	II～IV	選択	21402	
日本音楽演奏法	2	III～IV	選択	11402	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考	
合唱演習Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	11402		
合唱演習Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	21402		
合唱演習Ⅲ	2	I～Ⅳ	選択	21402		
合唱演習Ⅳ	2	I～Ⅳ	選択	21402		
合奏演習	2	I	選択	11402		
クリエイティブ・ミュージック・メイキング	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	21404		
クリエイティブ・ミュージック・メイキング(発展)	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	21404		
クリエイティブ・ミュージック・メイキング(応用)	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	21404		
卒業演奏研究(ピアノ)	2	Ⅳ	選択	31402		
卒業演奏研究(声楽)	2	Ⅳ	選択	31402		
卒業論文演習	4	Ⅳ	選択	31404		
●高大連携科目(選択)						
音楽表現選択基礎	2	I	選択	01402		
<p>高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1(第6条関係)「自由に選択して履修する科目・単位」として認定することができる。</p>						

学部共通科目

授業科目名	単位	CCNum
ギリシャ語	4	11104
ラテン語	4	11104
人文情報学研究	2	21102
人文情報学演習	2	31102
データベース論	2	21102
デザイン思考とロジックモデル	2	11102

全学共通科目

授業科目名	単位	CCNum	備考
NPO入門	2	14002	
未来起点ゼミⅠ	2	14002	
未来起点ゼミⅡ	2	14002	
未来起点ゼミⅢ	2	14002	
未来起点ゼミⅣ	2	14002	
パーソナル・ブランディング	2	14002	
女性のキャリアと経済	2	14002	
ファシリテーション	2	24002	
平和と共生演習	2	14002	
国際共生社会論実習	2	14002	
キャリアプラン	2	14002	
ICTとコミュニケーションスキル(基礎)	2	14002	
ICTとコミュニケーションスキル(応用)	2	14002	
アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)	2	04002	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション入門編)	2	04002	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(モノ編))	1	24001	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(コト編))	1	24001	
アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1	24001	
アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1	24001	
未来開拓入門	1	04001	
女性のキャリアと法制度	2	14002	卒業単位に含めることができない
ダイバーシティ論	2	24002	卒業単位に含めることができない
キャリアプランと進路選択	2	14002	卒業単位に含めることができない
インターンシップⅠ	1	14001	卒業単位に含めることができない
インターンシップⅡ	2	14002	卒業単位に含めることができない
Ocha-Solution Program(基礎)	2	14002	卒業単位に含めることができない
博物館概論	2	44002	
博物館資料論	2	44002	
博物館経営論	2	44002	
博物館資料保存論	2	44002	
博物館展示論	2	44002	
博物館教育論	2	44002	
博物館実習	3	44003	
博物館情報・メディア論	2	44002	
日本の伝統芸能	2	04002	
初等解析学Ⅰ	2	14002	
初等解析学Ⅱ(1)	1	14001	
初等解析学Ⅱ(2)	1	14001	
初等線形代数学	2	14002	

授業科目名	単位	CCNum	備考
初等代数学	2	14002	
物理学概論A	2	14002	
物理学概論B	2	14002	
基礎化学A	2	14002	
基礎化学B(1)	1	14001	
基礎化学B(2)	1	14001	
基礎生物学A	2	14002	
基礎生物学B	2	14002	
大気・海洋科学概論	2	14002	
物理学基礎実験	2	14002	
化学基礎実験	2	14002	
生物学基礎実験	2	14002	
数理基礎論	2	14002	
確率序論	2	24002	
コンピュータシステム序論	2	14002	
生命情報学概論(1)	1	24001	
生命情報学概論(2)	1	24001	
計算生物学(1)	1	24001	
計算生物学(2)	1	24001	
海外交換留学等認定科目	2～12	0400X	
Academic Writing	2	34002	
Academic Presentation	2	34002	
Pre Summer Program in English	2	14002	
Summer Program in English I	2	14002	
Summer Program in English II	2	14002	
Summer Program in English III	2	14002	
Summer Program in English IV	2	14002	
Summer Program in English V	2	14002	
Summer Program in English VI	2	14001	
グローバル・インターンシップ I	2	14002	
グローバル・インターンシップ II	2	14002	
グローバル・インターンシップ III	2	14002	
グローバル EDI I	2	14002	
グローバル EDI II	2	14002	
グローバル EDI III	2	14002	
国際交流実習 I	2	34002	
国際交流実習 II	2	34002	
Interdisciplinary Lectures in English I	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English II	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English III	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English IV	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English V	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English VI	2	04002	
舞台芸術実践概論 I	2	04002	
舞台芸術実践概論 II	2	04002	
文化芸術制作演習 I	2	04002	
文化芸術制作演習 II	2	04002	
物理学サプリメント	2	14002	卒業単位に含めることができない
生物学サプリメント	2	14002	卒業単位に含めることができない
英語基礎強化ゼミ	2	14002	卒業単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ R/L	2	04002	卒業単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ S/W	2	04002	卒業単位に含めることができない
IELTS 対策ゼミ R/L	2	04002	卒業単位に含めることができない
IELTS 対策ゼミ S/W	2	04002	卒業単位に含めることができない
企画・運営力養成講座	2	04002	卒業単位に含めることができない
中国語力強化ゼミ I	2	24002	卒業単位に含めることができない
中国語力強化ゼミ II	2	24002	卒業単位に含めることができない

教職課程科目

授業科目名	単位	CCNum
教職概論(1)	1	44001
教職概論(2)	1	44001
教育思想概論(1)	1	11301
教育思想概論(2)	1	11301
教育史概論(1)	1	11301
教育史概論(2)	1	11301
教育原論(思想・歴史)(1)	1	44001
教育原論(思想・歴史)(2)	1	44001
教育・発達心理学概論(1)	1	11301
教育・発達心理学概論(2)	1	11301
教育心理	2	44002
特別支援教育概論(1)	1	11301
特別支援教育概論(2)	1	11301
特別支援教育の理論と方法	1	44001
教育社会学概論(1)	1	11301
教育社会学概論(2)	1	11301
教育制度概論	2	11302
教育原論(社会・制度)(1)	1	44001
教育原論(社会・制度)(2)	1	44001
教育課程概論(1)	1	11301
教育課程概論(2)	1	11301
教育課程論	2	44002
中等社会科教育法Ⅰ(地理歴史)	2	44002
中等社会科教育法Ⅱ(公民)	2	44002
中等社会科教育法Ⅲ(地理歴史)	2	44002
中等社会科教育法Ⅳ(公民)	2	44002
国語科教育法Ⅰ	2	44002
国語科教育法Ⅱ	2	44002
国語科教育法Ⅲ	2	44002
国語科教育法Ⅳ	2	44002
中国語科教育法Ⅰ	2	44002
中国語科教育法Ⅱ	2	44002
中国語科教育法Ⅲ	2	44002
中国語科教育法Ⅳ	2	44002
英語科教育法Ⅰ	2	44002
英語科教育法Ⅱ	2	44002
英語科教育法Ⅲ	2	44002
英語科教育法Ⅳ	2	44002
保健体育科教育法Ⅰ	2	44002

授業科目名	単位	CCNum
保健体育科教育法Ⅱ	2	44002
保健体育科教育法Ⅲ	2	44002
保健体育科教育法Ⅳ	2	44002
音楽科教育法Ⅰ	2	44002
音楽科教育法Ⅱ	2	44002
音楽科教育法Ⅲ	2	44002
音楽科教育法Ⅳ	2	44002
道徳教育の理論と方法	2	44002
総合的な学習の時間の理論と方法	1	44001
特別活動の理論と方法	2	44002
教育方法学概論(1)	1	11301
教育方法学概論(2)	1	11301
教育方法論	1	44001
ICT活用の理論と方法	1	44001
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	44002
学校カウンセリング	2	44002
事前・事後指導(中高)	1	44001
事前・事後指導(小中)	1	44001
教育実習(中高)	1、2 又は4	44001 44002 44004
教育実習(小中)	4	44004
教職実践演習	2	44002
初等科教育法(国語)	2	44002
初等科教育法(社会)	2	44002
初等科教育法(算数)	2	44002
初等科教育法(理科)	2	44002
初等科教育法(生活)	2	44002
初等科教育法(音楽)	2	44002
初等科教育法(図画工作)	2	44002
初等科教育法(家庭)	2	44002
初等科教育法(体育)	2	44002
初等科教育法(外国語)	2	44002
国語科教育論	1	44001
社会科教育論	1	44001
算数科教育論	1	44001
理科教育論	1	44001
体育実技	1	44001
外国語科教育論	1	44001

外国人留学生特別科目

授業科目名	単位	CCNum
日本語演習ⅠA	2	11202
日本語演習ⅠB	2	11202
日本語演習ⅡA	2	21202
日本語演習ⅡB	2	21202
日本語演習ⅢA	2	21202
日本語演習ⅢB	2	21202
日本語演習ⅣA	2	21202
日本語演習ⅣB	2	21202
日本語演習ⅤA	2	21202
日本語演習ⅤB	2	21202
日本事情演習ⅠA	2	11202
日本事情演習ⅠB	2	11202
日本事情演習ⅡA	2	21202

授業科目名	単位	CCNum
日本事情演習ⅡB	2	21202
日本事情演習ⅢA	2	21202
日本事情演習ⅢB	2	21202
日本事情演習ⅣA	2	21202
日本事情演習ⅣB	2	21202
日本事情演習ⅤA	2	21202
日本事情演習ⅤB	2	21202
総合日本語サマープログラムⅠ	2	11202
総合日本語サマープログラムⅡ	2	11202
総合日本語Ⅰ	2	11202
総合日本語Ⅱ	2	11202

2 理学部

理学部履修規程（P.246）により、以下の別表のとおり卒業に必要な単位124単位を修得してください。各学科プログラム等に関することは、理学部履修規程別表第2～11を参照してください。

別表第1（第5条関係）																		
学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位					卒業に必要な履修単位数			
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)				コア科目	専門教育科目	関連科目	他学部の科目	全学共通科目		教職課程科目	必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム									学際プログラム
数	学	科																124
物	理	学	科															124
化	学	科																124
生	物	学	科															124
情	報	科	学	科														124

備考

- 1 情報処理演習（情報）2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 教職課程科目の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目（外国人留学生対象）の単位については16単位までをコア科目として取り扱う。

別表第2 (第5条関係)

【(理)二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
数 学 科		○	×	×	○	○	×	×	○
物 理 学 科	○		○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○		○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○		○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	×	×		○	×	×	○

【(理)三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	哲 学・倫 理 学・美 術 史 (副)	比 較 史 学 (副)	地 理 学 (副)	日 本 語・日 本 文 学 (副)	中 国 語 圏 言 語 文 化 (副)	英 語 圏 言 語 文 化 (副)	仏 語 圏 言 語 文 化 (副)	日 本 語 教 育 (副)	社 会 学 (副)	舞 踊 学 (副)	音 楽 表 現 (副)	教 育 科 学・子 ども 学 (学 際)	グ ロー バ ル 文 化 学 (学 際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(理)三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
数 学 科		○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○		○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○		○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○		○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○		○	○	○	○

【(理)三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	人 間 ・ 環 境 科 学 (副)	生 活 社 会 科 学 (副)	生 活 文 化 学 (副)	心 理 学 (副)	消 費 者 学 (学 際)
数 学 科	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○

理学部 主プログラム・強化プログラム

数学科 数学プログラム

		主：60 単位	強化：20 単位
主プログラム			
①教育目標			
この主プログラムにおいては二つの大きな目標を持つ。ひとつは広分野に及ぶ現代数学の基礎教育を施すことであり、もうひとつは数学的論理思考力を身に付けさせることである。これにより数学を学び研究しようと志す学生に対しては高度職業人あるいは研究者として自ら学んでいける素地を育むことになる。また数学的論理思考力を身に付けるといことはどの分野に進むとしても社会における有為な人物となりうるということで、そのような人物が輩出されることになる。			
②内容・構成			
数学を学ぶ上での基礎となる内容のものや4年間の数学の学習の総まとめとなる「数学講究」を含み、必修もしくは必修に準ずる科目群からなる。数学科で提供する強化プログラム、または、副プログラムの科目を履修する為の予備知識もこのプログラムで提供される。数学科を卒業するためには、この科目群の殆ど全ての60単位以上を履修しなければならない。			
強化プログラム			
①教育目標			
数学における様々な分野を特化してより深く理解し追求するためのより高度な専門性の高い知識や能力を養うことに加えて、一つの専門にこだわらず、数学全般に対する視野を広げることがこのプログラムの教育目標であり、現代数学の新しい結果や問題に触れることにより、問題の発見力・構成力を育む他、数学の重要性・おもしろさを後世に伝えていくコミュニケーション力を身につけた、専門性の高い職業人が養成されることが期待される。			
②内容・構成			
各人の興味と能力に応じて、数学の多岐にわたる分野を幅広く学習、あるいは特定の分野を深く学習できるように、様々な科目が選択科目として用意されている。これらの科目群のうちのすべての科目が毎年開講される訳ではないが、主プログラムの科目よりは専門性が高いが、現代数学における基礎として位置付けられる科目は毎年、または、隔年で開講され、講義内容の理解を深める為の演習も用意されている。			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
集合論 1	1	I	12101	◎			
集合論 2	1	I	12101	◎			
線形代数学 1	2	I	22102	◎			
線形代数学 2	2	I	22102	◎			
線形代数学 3	2	I	22102	◎			
線形代数学 4	2	I	22102	◎			
線形代数学 5	2	II	22102	◎			
微分積分学 1	2	I	22102	◎			
微分積分学 2	2	I	22102	◎			
微分積分学 3	2	I	22102	◎			
微分積分学 4	2	I	22102	◎			
微分積分学 5	2	II	22102	◎			
位相空間論 1	2	II	22102	◎			
位相空間論 2	2	II	22102	◎			
群論 1	2	II	22102	◎			
群論 2	2	II	22102	◎			
環論	2	III	22102	◎			
関数論 1	2	III~IV	24002	◎			
多様体論 1	2	III~IV	32102	◎			
積分論 1	2	III	32102	◎			
数学講究	8	IV	32108	◎			
集合論 3	2	II	22102	○	以下の科目から14単位選択		
線形代数学 6	2	II	22102	○			
微分積分学 6	2	II	22102	○			
数学輪講	2	III	32102	○			
ベクトル解析	2	II	22102	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
初等代数学	2	I～IV	14002	○			
確率序論	2	I	24002	○			
数理解析序論	2	II	22102	○			
数学選択基礎	2	I	02102	○			
体論	2	III	22102			○	以下の科目から20単位以上選択
加群と表現	2	III～IV	32102			○	
関数論2	2	III～IV	24002			○	
多様体論2	2	III～IV	32102			○	
積分論2	2	III	32102			○	
微分方程式論	2	III～IV	32102			○	
数学英語	2	II	22102			※○	
関数解析	2	III～IV	32102			○	
微分幾何学	2	III～IV	32102			○	
位相幾何学	2	III～IV	32102			○	
ガロア理論	2	III～IV	32102			○	
フーリエ解析とラプラス変換	2	III～IV	32502			○	
関数論統論	2	III～IV	32102			○	
確率論	2	III～IV	32102			○	
グラフ理論	2	II～IV	24002			○	
組み合わせ論	2	III～IV	34002			○	
暗号と符号	2	III～IV	34002			○	
計算基礎論	2	III～IV	32502			○	
数理統計学	2	III～IV	32102			○	
コンピュータシステム序論	2	I～IV	14002			○	
数理構造特別講義Ⅰ	2	III～IV	32102			○	
数理構造特別講義Ⅱ	2	III～IV	32102			○	
数理構造特別講義Ⅲ	2	III～IV	32102			○	
数理構造特別講義Ⅳ	2	III～IV	32102			○	
数理構造特別講義Ⅴ	2	III～IV	32102			○	
数理構造特別講義Ⅵ	1	I～IV	32101			○	
数理構造特別講義Ⅶ	1	I～IV	32101			○	
数理構造特別講義Ⅷ	1	I～IV	32101			○	
数理構造特別講義Ⅸ	1	I～IV	32101			○	
数理構造特別講義Ⅹ	1	I～IV	32101			○	
数学演習Ⅰ	2	I～IV	32102			○	
数学演習Ⅱ	2	I～IV	32102			○	
数学演習Ⅲ	2	I～IV	32102			○	
数学演習Ⅳ	2	I～IV	32102			○	
数学演習Ⅴ	2	III～IV	32102			○	
数学演習Ⅵ	1	I～IV	32101			○	
数学演習Ⅶ	1	I～IV	32101			○	
数学演習Ⅷ	1	I～IV	32101			○	
数学演習Ⅸ	1	I～IV	32101			○	
数学演習Ⅹ	1	I～IV	32101			○	
数理逍遥Ⅰ	2	I～III	32102			○	
数理逍遥Ⅱ	2	I～III	32102			○	
数理逍遥Ⅲ	2	I～III	32102			○	
数理逍遥Ⅳ	2	I～III	32102			○	

※印はコア科目外国語（必修）英語の「中級英語Ⅱ(1)2」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication TrainingⅣ(1)2」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication TrainingⅥ(1)2」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication TrainingⅣ(1)2」もしくは「Advanced Communication TrainingⅥ(1)2」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(1)2・Ⅱ(1)2」（特別クラス）に配属されていること。

物理学科 物理学プログラム

主：60 単位	強化：20 単位
主プログラム ①教育目標 物理学の主要分野の基礎を講義により学習する。それと平行して、問題解決の能力を養うための演習と、物理現象の自発的な発見と検証の能力を磨くための実験を行う。以上を経て、各人が課題を設定し、これを首尾一貫した系統的な物理学の考え方をを用いて問題を解決することを目標として特別研究を行い、その完成を修了要件とする。	
②内容・構成 物理学科が用意する講義科目・演習科目・実験科目・特別研究からなる。物理学を学ぶ上で有用であると思われる、数学、地学、ほか、理学の基礎実験科目を含んでいる。	
強化プログラム ①教育目標 主プログラムで学んだ物理学の基礎的内容を発展させた専門性の高い科目群を履修する。それにより、物理学の細分化された専門分野での高度な知識を習得し、将来、大学院等で具体的かつ最前線の研究テーマに取り組むための実力を身につける。	
②内容・構成 素粒子・宇宙・原子核・物性物理等の幅広い分野の専門的・応用的科目から構成されている。講義科目に加えて計算機実習科目、および各研究室に配属してそこで行われている研究に触れる科目（物理学基礎研究）を用意している。	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
古典力学(1)	1	I	12201	◎			
古典力学(2)	1	I	12201	◎			
解析力学(1)	1	I	22201	◎			
解析力学(2)	1	I	22201	◎			
電磁気学 I (1)	1	I	12201	◎			
電磁気学 I (2)	1	I	12201	◎			
電磁気学 II (1)	1	I	22201	◎			
電磁気学 II (2)	1	I	22201	◎			
物理数学 I (1)	1	I	12201	◎			
物理数学 I (2)	1	I	12201	◎			
物理数学 II (1)	1	I	12201	◎			
物理数学 II (2)	1	I	12201	◎			
数理物理学(1)	1	II	22201	◎			
数理物理学(2)	1	II	22201	◎			
力学系理論(1)	1	II	22201	◎			
力学系理論(2)	1	II	22201	◎			
熱力学(1)	1	II	12201	◎			
熱力学(2)	1	II	12201	◎			
統計力学(1)	1	III	22201	◎			
統計力学(2)	1	III	22201	◎			
量子力学 I (1)	1	II	22201	◎			
量子力学 I (2)	1	II	22201	◎			
量子力学 II (1)	1	II	22201	◎			
量子力学 II (2)	1	II	22201	◎			
量子力学 III (1)	1	III	32201	◎			
量子力学 III (2)	1	III	32201	◎			
力学演習(1)	1	I	12201	◎			
力学演習(2)	1	I	12201	◎			
電磁気学演習(1)	1	I	12201	◎			
電磁気学演習(2)	1	I	12201	◎			
物理数学演習(1)	1	II	12201	◎			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択				
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考	
物理数学演習(2)	1	Ⅱ	12201	◎				
量子力学演習(1)	1	Ⅱ	12201	◎				
量子力学演習(2)	1	Ⅱ	12201	◎				
統計力学演習(1)	1	Ⅲ	22201	◎				
統計力学演習(2)	1	Ⅲ	22201	◎				
基礎物理学実験(1)	1	Ⅱ	12201	◎				
基礎物理学実験(2)	1	Ⅱ	12201	◎				
物理学実験(1)	1	Ⅲ	22201	◎				
物理学実験(2)	1	Ⅲ	22201	◎				
物理学実験(3)	1	Ⅲ	22201	◎				
物理学実験(4)	1	Ⅲ	22201	◎				
特別研究	12	Ⅳ	3220C	◎				
物理英語(1)	1	Ⅰ	12201	※○	以下の科目から6単位以上選択			
物理英語(2)	1	Ⅰ	12201	※○				
初等解析学Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○				
初等解析学Ⅱ(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	14001	○				
初等解析学Ⅱ(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	14001	○				
初等線形代数学	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○				
宇宙・地球科学	2	Ⅰ～Ⅳ	12202	○				
大気・海洋科学概論	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○				
化学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○				
生物学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○				
地学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	12202	○				
物理学選択基礎	2	Ⅰ～Ⅳ	02202	○				
固体電子論(1)	1	Ⅲ	32201				○	以下の科目から20単位選択
固体電子論(2)	1	Ⅲ	32201				○	
相転移物理学	2	Ⅲ～Ⅳ	32202			○		
凝縮系物理学(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○		
凝縮系物理学(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○		
原子核物理学	2	Ⅲ～Ⅳ	32202			○		
素粒子物理学(1)	1	Ⅲ	32201			○		
素粒子物理学(2)	1	Ⅲ	32201			○		
物性物理学序論(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	22201			○		
物性物理学序論(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	22201			○		
相対論(1)	1	Ⅱ	22201			○		
相対論(2)	1	Ⅱ	22201			○		
宇宙物理学(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○		
宇宙物理学(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○		
連続体物理学	2	Ⅱ～Ⅳ	22202			○		
流体物理学	2	Ⅲ～Ⅳ	22202			○		
物理実験学(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	22201			○		
物理実験学(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	22201			○		
基礎エレクトロニクス(1)	1	Ⅲ	22201			○		
基礎エレクトロニクス(2)	1	Ⅲ	22201			○		
量子光学(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○		
量子光学(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○		

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
ソフトマター物理	2	Ⅱ～Ⅳ	32202			○	
場の量子論(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○	
場の量子論(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	32201			○	
計算物理学講義・演習(1)	2	Ⅲ	22202			○	
計算物理学講義・演習(2)	2	Ⅲ	22202			○	
物理学基礎研究	2	Ⅲ～Ⅳ	12202			○	
物理学特別講義Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅴ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅵ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅶ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅷ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅸ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義Ⅹ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅠ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅡ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅢ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅣ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅤ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅥ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅦ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅧ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅨ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
物理学特別講義ⅩⅩ	2	Ⅰ～Ⅳ	32202			○	
放射線基礎講義(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	12201			○	
放射線基礎講義(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	12201			○	

※印はコア科目外国語（必修）英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training Ⅳ(1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training Ⅵ(1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training Ⅳ(1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training Ⅵ(1)(2)」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。

化学科 化学プログラム

主：60 単位 強化：20 単位

主プログラム

①教育目標

講義科目における、化学及びそれに関連する分野の概念を理解すること、また、それに基づいた基礎的知識の系統的な修得を目指すとともに、講義科目によって身につけた力を、講義と密接に連携した実験科目の履修により、化学あるいはその関連分野に展開可能かつ実践的な基礎的力を身につけることを目標とする。

②内容・構成

主プログラムでは、化学の5つの主要分野である物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学の専門分野の基礎を講義により順次学習し、化学の体系を理解する。さらに講義内容の十分な理解と化学の研究に必要な実験手法を身につけるために各分野の実験をおこなう。化学の専門課程を理解する為の基礎を身につけることを目標とする。

強化プログラム

①教育目標

強化プログラムでは、各分野の基礎に立脚し、専門的事柄について講義および実験を通して学習する。これにより、幅広くかつ深い知識を習得するとともに、物質の構造、性質、反応に関する理解を深め、化学的視点に基づいた問題解決能力と問題発見能力を涵養することを目標とする。

②内容・構成

物質の構造、性質、反応に関する共通的内容を含む必修科目と、それらを発展させたものもしくは現代化学の先端的内容を含んだ選択科目群から構成される。

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
物理化学Ⅰ	2	Ⅱ	22302	◎			
物理化学Ⅱ	2	Ⅱ	22302	◎			
物理化学Ⅲ	2	Ⅱ	22302	◎			
無機化学Ⅰ	2	Ⅰ	22302	◎			
無機化学Ⅱ	2	Ⅱ	22302	◎			
有機化学Ⅰ	2	Ⅱ	22302	◎			
有機化学Ⅱ	2	Ⅱ	22302	◎			
分析化学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	22301	◎			
分析化学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	22301	◎			
生物化学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	22301	◎			
生物化学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	22301	◎			
生物化学Ⅱ	2	Ⅱ	22302	◎			
基本化学実験Ⅰ	2	Ⅰ	12302	◎			
基本化学実験Ⅱ	2	Ⅱ	22302	◎			
基本化学実験Ⅲ	2	Ⅱ	22302	◎			
基本化学実験Ⅳ	2	Ⅱ	22302	◎			
専門化学実験Ⅰ	2	Ⅲ	32302	◎			
専門化学実験Ⅱ	2	Ⅲ	32302	◎			
専門化学実験Ⅲ	2	Ⅲ	32302	◎			
専門化学実験Ⅳ	2	Ⅲ	32302	◎			
専門化学実験Ⅴ	2	Ⅲ	32302	◎			
化学演習Ⅰ	2	Ⅳ	32302	◎			
化学演習Ⅱ	2	Ⅳ	32302	◎			
特別研究Ⅰ	4	Ⅳ	32304	◎			
特別研究Ⅱ	8	Ⅳ	32308	◎			
化学特別ゼミⅠ	2	Ⅰ	12302	○	以下の科目から6単位選択		
化学特別ゼミⅡ	2	Ⅰ	12302	○			
化学英語	2	Ⅱ	22302	○			
基礎化学A	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○			

Ⅲ

授業科目一覧

2

理学部 専門教育科目

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
基礎化学B(1)	1	I～IV	14001	○			
基礎化学B(2)	1	I～IV	14001	○			
物理学概論A	2	I～IV	14002	○			
物理学概論B	2	I～IV	14002	○			
基礎生物学A	2	I～IV	14002	○			
基礎生物学B	2	I～IV	14002	○			
生物学基礎実験	2	I～IV	14002	○			
物理学基礎実験	2	I～IV	14002	○			
化学選択基礎	2	I	02302	○			
生物学概論A	2	I～III	12302	○			
生物学概論B	2	II～IV	12302	○			
地球環境科学	2	I～IV	12302	○			
有機化学Ⅲ	2	Ⅲ	32302			◎	
分析化学Ⅱ	2	Ⅲ	32302			◎	
分子分光法	2	Ⅲ	32302			◎	
無機化学Ⅲ	2	Ⅲ	32302			○	以下の科目から14単位選択
生体分子機能・反応学	2	Ⅲ	32302			○	
物理化学Ⅳ	2	Ⅲ	32302			○	
有機化学Ⅳ	2	Ⅲ	32302			○	
量子化学	2	Ⅲ	32302			○	
計算化学	2	II～III	32302			○	
反応物理化学	2	III～IV	32302			○	
高分子化学	2	III～IV	32302			○	
実験値解析法	2	III～IV	32302			○	
放射化学	2	III～IV	32302			○	
生物物理化学	2	III～IV	32302			○	
物理化学特別講義Ⅰ	2	III～IV	32302			○	
物理化学特別講義Ⅱ	2	III～IV	32302			○	
物理化学特別講義Ⅲ	2	III～IV	32302			○	
無機化学特別講義Ⅰ	2	III～IV	32302			○	
無機化学特別講義Ⅱ	2	III～IV	32302			○	
無機化学特別講義Ⅲ	2	III～IV	32302			○	
分析化学特別講義Ⅰ	2	III～IV	32302			○	
分析化学特別講義Ⅱ	2	III～IV	32302			○	
分析化学特別講義Ⅲ	2	III～IV	32302			○	
有機化学特別講義Ⅰ	2	III～IV	32302			○	
有機化学特別講義Ⅱ	2	III～IV	32302			○	
有機化学特別講義Ⅲ	2	III～IV	32302			○	
生物化学特別講義Ⅰ	2	III～IV	32302			○	
生物化学特別講義Ⅱ	2	III～IV	32302			○	
生物化学特別講義Ⅲ	2	III～IV	32302			○	
化学特別講義Ⅰ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅱ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅲ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅳ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅴ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅵ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅶ	1	III～IV	22301			○	
化学特別講義Ⅷ	1	III～IV	22301			○	

生物学科 生物学プログラム

		主：60 単位	強化：20 単位
主プログラム			
①教育目標			
生物学は自然科学の1分野にとどまらず、周辺領域の医学、薬学、農学、情報科学などの学問分野に影響を与え、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼしている。このような時代背景の下で、生物学を学んだ人材の必要性は益々高まっている。生物学主プログラムでは、1、2年次における生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって、核となる知識・理解力・論理力・実験手法を身につけ、3、4年次での専門的な実習及び特別研究を通して、実践力のある人材を育成することを目標とする。			
②内容・構成			
上記の目標を達成するために、生物学主プログラムは、学年ごとに段階的に学習を積み重ねる構成内容となっている。1、2年次は、生物学の基礎概念を理解するための必修科目（26 単位）及び基礎的な実験手法を学ぶ必修実習（4 単位）を中心として学んでいく。2、3年次では、この基礎の上に、生物学の各分野の実験手法を学ぶ選択必修実習（8 単位以上）及び選択科目を学ぶ。3年次において生物学強化プログラム、学際プログラム、または他学科の副プログラムを学びながら、3年次後半から自らの力で生命科学研究を展開する準備を始め、4年次において、生物学主プログラムの総まとめとしての特別研究（12 単位）及び生物学演習（4 単位）を履修する。			
強化プログラム			
①教育目標			
生物学主プログラムを履修する学生を対象に、生物学各分野の専門性の高い講義と実習を含む科目群を提供する。これらの科目群の中から各自の興味に応じた科目を選択することにより、より広く高度な応用的または先進的な知識・理解力・論理力・実践手法を身につけることを目的とする。この強化プログラムを踏まえて、実践的な研究活動を行う主プログラムの特別研究に移行することにより、高度な専門教育の実践が可能となる。また、この強化プログラムにより、大学院における生物学の特定分野の専門性を高める教育に対して学問的な基礎を身につける。			
②内容・構成			
生物学主プログラムを学び終えた学生を対象にしているため、必修の科目は設けずに、多様な高度で専門的な講義及び実習から構成される内容となっている。学生の興味に従い、20 単位以上を履修することが要件である。この強化プログラムは、学生に必要と判断される内容を柔軟に含めることができる構成となっている。学生は、自らの主体的な履修科目の選択により、個性的・独創的な生物学を構築することができる。			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
生化学	2	I	12402	◎			
生物物理学	2	I	12402	◎			
動物系統学	2	I	22402	◎			
植物系統学	2	II	22402	◎			
動物生理学	2	II	22402	◎			
植物生理学	2	I	22402	◎			
代謝生物学	2	II	22402	◎			
基礎遺伝学	2	II	22402	◎			
分子遺伝学	2	II	22402	◎			
細胞生物学	2	II	22402	◎			
発生生物学	2	II	22402	◎			
進化生物学	2	I	12402	◎			
生物統計学	2	II	22402	◎			
生物学実習 I	2	I	22402	◎			
生物学実習 II	2	II	22402	◎			
生物学演習 I	2	IV	32402	◎			
生物学演習 II	2	IV	32402	◎			
特別研究 I	6	IV	32406	◎			
特別研究 II	6	IV	32406	◎			
基礎遺伝学実習	1	II	22401	○	以下の科目から 8 単位以上 選択		
分子遺伝学実習	1	III	22401	○			
細胞生物学実習	1	III	22401	○			
細胞生化学実習	1	III	22401	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
代謝生物学実習	1	Ⅲ	22401	○			
植物生理学実習	1	Ⅲ	22401	○			
動物生理学実習	1	Ⅲ	22401	○			
発生生物学実習	1	Ⅲ	22401	○			
植物系統学実習	1	Ⅱ	22401	○			
動物系統学臨海実習	1	Ⅱ	22401	○			
植物系統学臨海実習	1	Ⅰ	12401	○			
生物学外書講読	2	Ⅲ	22402	※○			
植物生態学	2	Ⅰ～Ⅱ	22402	○			
動物生態学	2	Ⅰ～Ⅱ	22402	○			
生物学選択基礎	2	Ⅰ	02402	○			
生物学研究基礎	2	Ⅲ	32402	○			
生物学特別講義Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	32402	○	以下の科目から本プログラムとして2単位までを含めることができる	○	以下の科目から20単位選択
生物学特別講義Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	32402	○		○	
生物学特別講義Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	32402	○		○	
生物学特別講義Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	32402	○		○	
生物学特別講義Ⅴ	2	Ⅰ～Ⅳ	32402	○		○	
生物学特殊講義Ⅰ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅱ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅲ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅳ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅴ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅵ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅶ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅷ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅸ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義Ⅹ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅠ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅡ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅢ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅣ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅤ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅥ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅦ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅧ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○		○	
生物学特殊講義ⅩⅨ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○	○		
生物学特殊講義ⅩⅩ	1	Ⅰ～Ⅳ	32401	○	○		
細胞生化学	2	Ⅱ～Ⅲ	32402			○	
分子細胞情報学	2	Ⅱ～Ⅲ	22402			○	
生物系統地理学	2	Ⅲ	22402			○	
進化遺伝学	2	Ⅲ	32402			○	
発生遺伝学(1)	1	Ⅲ	32401			○	
発生遺伝学(2)	1	Ⅲ	32401			○	
バイオメカニクス(1)	1	Ⅲ	32401			○	
バイオメカニクス(2)	1	Ⅲ	32401			○	
植物生理学(1)	1	Ⅲ	32401			○	
植物生理学(2)	1	Ⅲ	32401			○	
遺伝子工学(1)	1	Ⅲ	32401			○	
遺伝子工学(2)	1	Ⅲ	32401			○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
植物機能制御学	2	Ⅱ～Ⅲ	32402			○	
動物環境応答学(1)	1	Ⅲ	32401			○	
動物環境応答学(2)	1	Ⅲ	32401			○	
分子構造生物学(1)	1	Ⅱ～Ⅲ	32401			○	
分子構造生物学(2)	1	Ⅱ～Ⅲ	32401			○	
免疫学	2	Ⅱ～Ⅲ	32402			○	
生命情報プログラミング演習	1	Ⅲ	32401			○	
発生生物学臨海実習	1	Ⅱ～Ⅲ	22401			○	
公開臨海実習	2	Ⅰ～Ⅳ	32402			○	
化学概論A	2	Ⅰ～Ⅲ	12402			○	
化学概論B	2	Ⅱ～Ⅳ	12402			○	
地史・古生物学概論	2	Ⅰ～Ⅳ	12402			○	

※印はコア科目外国語（必修）英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」（特別クラスを除く）、「Advanced Communication Training Ⅳ(1)(2)」（理学部特別クラス）、もしくは「Advanced Communication Training Ⅵ(1)(2)」（理学部特別クラス）の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training Ⅳ(1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training Ⅵ(1)(2)」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」（特別クラス）に配属されていること。

情報科学科 情報科学プログラム

主：60 単位	強化：20 単位
主プログラム ①教育目標 情報科学を学ぶために必要な基礎を身につけるためのプログラムです。研究テーマを決めて指導教員のもとで専門的な情報科学の研究を行う特別研究も含まれますが、特別研究の履修には主プログラムの基礎科目だけでなく強化プログラムまたは副プログラムでそれぞれの専門分野について深く学ぶ必要があります。	
②内容・構成 コンピュータシステム序論、データ構造とアルゴリズムなどの情報科学の基礎科目、線形代数学1～4、微分積分学1～6、数理基礎論、確率序論、離散数学などの数学系の基礎科目、プログラミング実習、システムプログラミング実習などのプログラミング力を身につけるための実習科目、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータネットワーク、マルチメディアなどの情報科学技術を学ぶ科目、特別研究が含まれます。	
強化プログラム ①教育目標 主プログラムで情報科学を学ぶために必要な基礎を身につけた後で、更に情報科学についての理解を深めるためのプログラムです。特別研究を円滑に行えるように希望する指導教員の推奨する科目を中心に専門分野について深く学びます。	
②内容・構成 主プログラムで学んだ基礎を元に、専門性を強化するためのプログラムです。情報科学の様々な研究分野からそれぞれの興味にあった科目を選択して履修することができます。特別研究を担当するそれぞれの教員が履修を推奨する科目を中心になるべく多くの科目を履修できるように情報科学の専門科目を幅広く開講します。	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
線形代数学1	2	I	22502	◎			
線形代数学2	2	I	22502	◎			
線形代数学3	2	I	22502	◎			
線形代数学4	2	I	22502	◎			
微分積分学1	2	I	22502	◎			
微分積分学2	2	I	22502	◎			
微分積分学3	2	I	22502	◎			
微分積分学4	2	I	22502	◎			
数理基礎論	2	I	14002	◎			
コンピュータシステム序論	2	I	14002	◎			
データ構造とアルゴリズム	2	I	22502	◎			
コンピュータ基礎演習	2	I	22502	◎			
プログラミング実習	2	I	22502	◎			
確率序論	2	I	24002	◎			
離散数学	2	II	22502	◎			
システムプログラミング実習	2	II	22502	◎			
コンピュータアーキテクチャI	2	II	22502	◎			
コンピュータアーキテクチャII	2	II	22502	◎			
コンピュータネットワークI	2	II	22502	◎			
マルチメディア	2	II	22502	◎			
マルチメディアプログラミング実習	2	II	22502	◎			
特別研究	6	IV	32506	◎			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
データ解析序論	2	Ⅱ	22502	○	以下の科目から 12単位選択		
微分積分学5	2	Ⅱ	22502	○			
微分積分学6	2	Ⅱ	22502	○			
初等代数学	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○			
グラフ理論	2	Ⅱ～Ⅳ	24002	○			
関数型言語	2	Ⅱ	22502	○			
英文講読	2	Ⅲ	22502	○			
計算機代数演習	2	Ⅱ	22502	○			
位相空間論	2	Ⅱ	22502	○			
情報理論	2	Ⅱ	22502	○			
物理学概論A	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○			
物理学概論B	2	Ⅰ～Ⅳ	14002	○			
情報科学選択基礎	2	Ⅰ	02502	○			
情報科学集中演習	2	Ⅲ	32502			○	以下の科目から 20単位選択
関数論1	2	Ⅲ～Ⅳ	34002			○	
関数論2	2	Ⅲ～Ⅳ	34002			○	
数値計算	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
数値計算演習	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
言語理論とオートマトン	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
計算基礎論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報解析学	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
組み合わせ論	2	Ⅲ～Ⅳ	34002			○	
暗号と符号	2	Ⅲ～Ⅳ	34002			○	
フーリエ解析とラプラス変換	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
微分方程式論	2	Ⅲ～Ⅳ	32102			○	
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	32102			○	
情報倫理	2	Ⅲ～Ⅳ	22502			○	
情報と職業	2	Ⅲ～Ⅳ	22502			○	
計算モデル論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
コンパイラ構成論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
形式言語論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
人工知能論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
自然言語論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
バイオインフォマティクス	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
データベース設計論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
コンピュータグラフィックス	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
コンピュータビジョン	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
コンピュータネットワークⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
ヒューマンインターフェイス	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
ソフトウェア工学	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
環境情報論	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
シミュレーション科学	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学演習Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学演習Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	
情報科学演習Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	32502			○	

副プログラム・学際プログラム

数学副プログラム

単位数：20

①教育目標

他学科の純粋数学を学ぼうとする学生を対象とし、数学における抽象化、一般化、論理性が数学の発展の上でどのように寄与してきたかを学ぶ事により、物事を抽象的に把握し、その本質を見ぬく力を身につける事がこのプログラムの教育目標である。数学の専門性を追求しながら論理的・抽象的思考力を培い、数学の面白さを理解する知識と感性を備えた人物が養成されることが期待できる。

②内容・構成

数学の基礎科目に加えて、解析学、幾何学、代数学の各分野の3科目、概論的な科目である『数理逍遥』を選択科目とする科目構成より成る。基礎を身につけた上で、各人の興味の傾向に従って分野を主体的に選択することが可能である。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
初等代数学	2	I～IV	選択	14002	以下の科目から20単位選択 (※印の科目は、情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
集合論1	1	I	選択	12101	
集合論2	1	I	選択	12101	
集合論3	2	II	選択	22102	
線形代数学5	2	II	※選択	22102	
線形代数学6	2	II	※選択	22102	
微分積分学5	2	II	※選択	22102	
微分積分学6	2	II	※選択	22102	
位相空間論1	2	II	※選択	22102	
位相空間論2	2	II	選択	22102	
関数論1	2	III～IV	選択	24002	
関数論2	2	III～IV	選択	24002	
積分論1	2	III	選択	32102	
関数解析	2	III～IV	選択	32102	
微分方程式論	2	III～IV	選択	32102	
多様体論1	2	III～IV	選択	32102	
位相幾何学	2	III～IV	選択	32102	
微分幾何学	2	III～IV	選択	32102	
群論1	2	II	選択	22102	
環論	2	III	選択	22102	
ガロア理論	2	III～IV	選択	32102	
数理逍遥I	2	I～III	選択	32102	
数理逍遥II	2	I～IV	選択	32102	
数理逍遥III	2	I～III	選択	32102	
数理逍遥IV	2	I～III	選択	32102	

<p>①教育目標 数学は、自然、社会諸科学の“言葉”として用いられ、それら諸科学を解明する方法となる。このプログラムでは、数理的方法による諸科学の基礎となる数学と、実際に応用される諸分野を広く学び、数理的方法の有用性を知り、この方法による問題解決力を身につけることが目標である。</p> <p>②内容・構成 数学、物理学、情報科学の3つの科目群からなる。数学科目は数学の中でも、特に応用される事多い科目から成っている。物理学の科目群は物理学の基礎として重要な科目から成り、情報科学の科目は数学の応用として捉えやすい科目から成る。</p>
--

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
【履修にあたっての注意】					
以下の（数学）・（物理学）・（情報科学）のグループから2つ以上を選択し、それぞれ6単位以上を修得すること					
関数解析	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	（数学）
関数論統論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
確率論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
フーリエ解析とラプラス変換	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	
ガロア理論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
多様体論1	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
微分幾何学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
微分方程式論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102	
数理解物理学(1)	1	Ⅱ	※選択	22201	
数理解物理学(2)	1	Ⅱ	※選択	22201	
古典力学(1)	1	Ⅰ	※選択	12201	
古典力学(2)	1	Ⅰ	※選択	12201	
電磁気学Ⅰ(1)	1	Ⅰ	※選択	12201	
電磁気学Ⅰ(2)	1	Ⅰ	※選択	12201	
電磁気学Ⅱ(1)	1	Ⅰ	※選択	22201	
電磁気学Ⅱ(2)	1	Ⅰ	※選択	22201	
量子力学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	※選択	22201	
量子力学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	※選択	22201	
量子力学Ⅱ(1)	1	Ⅱ	※選択	22201	
量子力学Ⅱ(2)	1	Ⅱ	※選択	22201	
解析力学(1)	1	Ⅰ	※選択	22201	
解析力学(2)	1	Ⅰ	※選択	22201	
熱力学(1)	1	Ⅱ	※選択	12201	
熱力学(2)	1	Ⅱ	※選択	12201	
統計力学(1)	1	Ⅲ	※選択	22201	
統計力学(2)	1	Ⅲ	※選択	22201	
量子光学(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
量子光学(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
凝縮系物理学(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
凝縮系物理学(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
場の量子論(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
場の量子論(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
物性物理学序論(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	22201	
物性物理学序論(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	22201	
素粒子物理学(1)	1	Ⅲ	選択	32201	
素粒子物理学(2)	1	Ⅲ	選択	32201	
相対論(1)	1	Ⅱ	選択	22201	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
相対論(2)	1	Ⅱ	選択	22201	
流体物理学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	22202	
宇宙物理学(1)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
宇宙物理学(2)	1	Ⅲ～Ⅳ	選択	32201	
物理学基礎研究	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	12202	
計算基礎論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	(情報科学) (*印の科目は、情報科学科は本プログラム としては履修できない)
グラフ理論	2	Ⅱ～Ⅳ	*選択	24002	
情報理論	2	Ⅱ	*選択	22502	
組み合わせ論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	34002	
コンピュータシステム序論	2	Ⅰ	*選択	14002	
暗号と符号	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	34002	
情報解析学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	

①教育目標

他専攻の学生で、物理学に関心のある者がはじめに修めるべき主要分野の基礎的内容を講義により学習する。講義内容の消化と問題解決能力の養成のための演習を行う。以上を経て、各人が物理学的な考え方に習熟し、それをある程度使いこなせるようになることを目指す。

②内容・構成

物理学科が用意する主要分野の基礎的な講義科目・演習科目から成る。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
物理学概論A	2	I～IV	選択	14002	以下の科目から20単位選択
物理学概論B	2	I～IV	選択	14002	
物理学基礎実験	2	I～IV	選択	14002	
宇宙・地球科学	2	I～IV	選択	12202	
古典力学(1)	1	I	選択	12201	
古典力学(2)	1	I	選択	12201	
解析力学(1)	1	I	選択	22201	
解析力学(2)	1	I	選択	22201	
電磁気学Ⅰ(1)	1	I	選択	12201	
電磁気学Ⅰ(2)	1	I	選択	12201	
電磁気学Ⅱ(1)	1	I	選択	22201	
電磁気学Ⅱ(2)	1	I	選択	22201	
物理数学Ⅰ(1)	1	I	選択	12201	
物理数学Ⅰ(2)	1	I	選択	12201	
物理数学Ⅱ(1)	1	I	選択	12201	
物理数学Ⅱ(2)	1	I	選択	12201	
力学系理論(1)	1	II	選択	22201	
力学系理論(2)	1	II	選択	22201	
熱力学(1)	1	II	選択	12201	
熱力学(2)	1	II	選択	12201	
量子力学Ⅰ(1)	1	II	選択	22201	
量子力学Ⅰ(2)	1	II	選択	22201	
量子力学Ⅱ(1)	1	II	選択	22201	
量子力学Ⅱ(2)	1	II	選択	22201	
力学演習(1)	1	I	選択	12201	
力学演習(2)	1	I	選択	12201	
電磁気学演習(1)	1	I	選択	12201	
電磁気学演習(2)	1	I	選択	12201	
物理数学演習(1)	1	II	選択	12201	
物理数学演習(2)	1	II	選択	12201	
量子力学演習(1)	1	II	選択	12201	
量子力学演習(2)	1	II	選択	12201	

①教育目標

物理や化学の主プログラムで学んだ、当該分野の基礎的内容を発展させた専門科目を履修すると共に、相互の分野の基礎的および専門的科目を同時に履修する。それにより、物理学と化学の学際領域で活躍するための基本的な力を身につける。

②内容・構成

物理と化学の学際分野に進むために有用である、両分野の入門的科目（基礎化学、物理学概論）および基礎実験科目を配置し、基礎的および専門的な講義科目を集めている。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
基礎化学A	2	I～IV	☆選択	14002	以下の科目から20単位選択 (☆印の科目は、化学科は本プログラムとしては履修できない) (※印の科目は、化学科は履修できない) (*印の科目は、物理学科は履修できない)
基礎化学B(1)	1	I～IV	☆選択	14001	
基礎化学B(2)	1	I～IV	☆選択	14001	
化学基礎実験	2	I～IV	※選択	14002	
物理学概論A	2	I～IV	*選択	14002	
物理学概論B	2	I～IV	*選択	14002	
物理学基礎実験	2	I～IV	*選択	14002	
物理化学I	2	II	☆選択	22302	
物理化学II	2	II	☆選択	22302	
物理化学III	2	II	☆選択	32302	
物理化学IV	2	III	選択	32302	
無機化学I	2	I	☆選択	22302	
有機化学I	2	II	☆選択	22302	
分析化学I(1)	1	II	☆選択	22301	
分析化学I(2)	1	II	☆選択	22301	
分析化学II	2	III	選択	32302	
計算化学	2	II～III	選択	32302	
分子分光法	2	III	選択	32302	
量子化学	2	III	選択	32302	
反応物理化学	2	III～IV	選択	32302	
生物物理化学	2	III～IV	選択	32302	
放射化学	2	III～IV	選択	32302	
量子力学I(1)	1	II	◇選択	22201	(◇印の科目は、物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学I(2)	1	II	◇選択	22201	
量子力学II(1)	1	II	◇選択	22201	
量子力学II(2)	1	II	◇選択	22201	
熱力学(1)	1	II	◇選択	12201	
熱力学(2)	1	II	◇選択	12201	
統計力学(1)	1	III	◇選択	22201	
統計力学(2)	1	III	◇選択	22201	
物理数学I(1)	1	I	◇選択	12201	
物理数学I(2)	1	I	◇選択	12201	
物性物理学序論(1)	1	II～IV	選択	22201	
物性物理学序論(2)	1	II～IV	選択	22201	
固体電子論(1)	1	III	選択	32201	
固体電子論(2)	1	III	選択	32201	
相転移物理学	2	III～IV	選択	32202	
凝縮系物理学(1)	1	III～IV	選択	32201	
凝縮系物理学(2)	1	III～IV	選択	32201	
ソフトマター物理	2	II～IV	選択	32202	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
物理実験学(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	22201	
物理実験学(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	22201	
基礎エレクトロニクス(1)	1	Ⅲ	選択	22201	
基礎エレクトロニクス(2)	1	Ⅲ	選択	22201	
物理学基礎研究	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	12202	
計算物理学講義・演習(1)	2	Ⅲ	選択	22202	
計算物理学講義・演習(2)	2	Ⅲ	選択	22202	

Ⅲ

授業科目一覧

2

理学部
専門教育科目

①教育目標

化学の分野における基本的な考え方、基礎知識を身につけるとともに、先端的化学について、その概要をある程度理解できる様な力を養う。

②内容・構成

化学関連の全学共通科目において、初歩的なところを学び、化学の各分野の基礎的なものを選択して学べる様な構成となっている。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
基礎化学A	2	I～IV	必修	14002	
基礎化学B(1)	1	I～IV	必修	14001	
基礎化学B(2)	1	I～IV	必修	14001	
化学基礎実験	2	I～IV	必修	14002	
物理化学Ⅰ	2	Ⅱ	選択	22302	以下の科目から14単位選択
物理化学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	22302	
物理化学Ⅲ	2	Ⅱ	選択	22302	
無機化学Ⅰ	2	Ⅰ	選択	22302	
無機化学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	22302	
有機化学Ⅰ	2	Ⅱ	選択	22302	
有機化学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	22302	
分析化学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	選択	22301	
分析化学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	選択	22301	
生物化学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	選択	22301	
生物化学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	選択	22301	
生物化学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	22302	
化学英語	2	Ⅱ	選択	22302	
化学特別ゼミⅠ	2	Ⅰ	選択	12302	

①教育目標

生物学の主プログラムを専攻しない他学科の学生に向けて、生物学のエッセンスを学び、生物学を構成する基本的な知識および概念を学ぶことを目的とする。近年の地球環境問題や生命倫理の問題が重要視される社会情勢の中で、生物学を主たる専攻としない学生に対する生物学教育の重要性は、益々高まるものと考えられる。主たる専門に加えて、このような生物学の基礎的な素養を持つ学生を育成することが、本プログラムの目標である。

②内容・構成

この副プログラムの履修要件として、生物学の全学共通科目である基礎生物学 A、B 及び生物学基礎実験を必修科目（6 単位）として履修し、これらに加えて生物学の必修科目の中から 7 科目以上を選択することとする。なお、生物学科の学生はこのプログラムを履修することができない。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
基礎生物学 A	2	I～IV	必修	14002	以下の科目から 14 単位選択
基礎生物学 B	2	I～IV	必修	14002	
生物学基礎実験	2	I～IV	必修	14002	
生化学	2	I	選択	12402	
生物物理学	2	I	選択	12402	
動物系統学	2	I	選択	22402	
植物系統学	2	II	選択	22402	
動物生理学	2	II	選択	22402	
植物生理学	2	I	選択	22402	
代謝生物学	2	II	選択	22402	
基礎遺伝学	2	II	選択	22402	
分子遺伝学	2	II	選択	22402	
細胞生物学	2	II	選択	22402	
発生生物学	2	II	選択	22402	
進化生物学	2	I	選択	12402	
生物統計学	2	II	選択	22402	

<p>①教育目標</p> <p>化学または生物の基礎をもつ学生がその知識と考え方を発展させて、生体分子および生物の働きを解明する学際分野へ進むための橋渡しをする。生命のしくみを物質の視点からより深く学ぶとともに、生体物質の構造と機能の解明、ならびに生体機能を制御する物質の合成・創成のために必要な基盤を習得する。</p> <p>②内容・構成</p> <p>化学主プログラムまたは生物主プログラムを履修した学生について必要なケミカルバイオロジー分野の基盤的科目及び、それらを発展して学ぶ科目及び周辺領域に視野を広げる科目から構成されている。</p>

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考	
有機化学Ⅲ	2	Ⅲ	選択	32302	以下の科目から12単位以上選択	
生体分子機能・反応学	2	Ⅲ	選択	32302		
有機化学Ⅳ	2	Ⅲ	選択	32302		
生物物理化学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
細胞生化学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	32402		
分子細胞情報学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	22402		
分子構造生物学(1)	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	32401		
分子構造生物学(2)	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	32401		
植物生理学(1)	1	Ⅲ	選択	32401		
植物生理学(2)	1	Ⅲ	選択	32401		
細胞生物学	2	Ⅱ	☆選択	22402		(☆印の科目は、生物学科は本プログラムとしては履修できない)
代謝生物学	2	Ⅱ	☆選択	22402		
公開臨海実習	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	32402	(◇印の科目は、化学科は本プログラムとしては履修できない)	
動物環境応答学(1)	1	Ⅲ	選択	32401		
動物環境応答学(2)	1	Ⅲ	選択	32401		
植物機能制御学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	32402		
遺伝子工学(1)	1	Ⅲ	選択	32401		
遺伝子工学(2)	1	Ⅲ	選択	32401		
分析化学Ⅱ	2	Ⅲ	選択	32302		
計算化学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	32302		
無機化学Ⅲ	2	Ⅲ	選択	32302		
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
高分子化学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
生物化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
生物化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
生物化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
有機化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
有機化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
有機化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
有機化学Ⅰ	2	Ⅱ	◇選択	22302		
有機化学Ⅱ	2	Ⅱ	◇選択	22302		
生物化学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	◇選択	22301		
生物化学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	◇選択	22301		
生物化学Ⅱ	2	Ⅱ	◇選択	22302		
基礎生物学A	2	Ⅰ～Ⅳ	※選択	14002	(※印の科目は生物学科は履修できない)	
基礎生物学B	2	Ⅰ～Ⅳ	※選択	14002		
生物学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	※選択	14002		
化学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	*選択	14002	(*印の科目は化学科は履修できない)	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
基礎化学 A	2	I～IV	◇選択	14002	以下の科目から本プログラムとして4単位までを含めることができる
基礎化学 B(1)	1	I～IV	◇選択	14001	
基礎化学 B(2)	1	I～IV	◇選択	14001	
生物学特別講義 I	2	I～IV	選択	32402	
生物学特別講義 II	2	I～IV	選択	32402	
生物学特別講義 III	2	I～IV	選択	32402	
生物学特別講義 IV	2	I～IV	選択	32402	
生物学特別講義 V	2	I～IV	選択	32402	
生物学特殊講義 I	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 II	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 III	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 IV	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 V	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 VI	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 VII	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 VIII	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 IX	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X I	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X II	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X III	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X IV	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X V	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X VI	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X VII	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X VIII	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X IX	1	I～IV	選択	32401	
生物学特殊講義 X X	1	I～IV	選択	32401	

Ⅲ

授業科目一覧

2

理学部
専門教育科目

①教育目標

生命情報学学際プログラムは、理学部プログラムの基礎を習得した学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供する。生命情報学研究に最低限必要な基礎知識の習得と様々なデータを解析し新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力の取得を目的とする。これらの習得により、ライフサイエンスのさまざまな分野で活躍できる人材の育成に資する。

②内容・構成

理学部の主プログラムを終えた学生に対して、生命情報学の基礎知識と基礎技術を習得させるために、2科目の必修と8科目の選択必修を提供する。選択必修からは6単位を履修する。その上で、今までに学んできた主プログラムと生命情報学の基礎とを合流させて、学生自らがもっとも力を発揮できる領域を見だし、12単位以上（必修として選択しなかった選択必修科目と選択科目から）を履修する。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
生命情報学概論(1)	1	I～IV	必修	24001	
生命情報学概論(2)	1	I～IV	必修	24001	
計算生物学(1)	1	I～IV	選択	24001	以下の科目から6単位以上選択 (※印の科目は、生物学科は本プログラムとしては履修できない) (*印の科目は、情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
計算生物学(2)	1	I～IV	選択	24001	
進化遺伝学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32402	
分子遺伝学	2	Ⅱ	※選択	22402	
バイオインフォマティクス	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	
コンピュータシステム序論	2	I	*選択	14002	
生体分子機能・反応学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302	
計算化学	2	Ⅱ	選択	32302	
生命情報プログラミング演習	1	Ⅲ	選択	32401	
生化学	2	I	※選択	12402	
細胞生物学	2	Ⅱ	※選択	22402	
発生遺伝学(1)	1	Ⅲ	選択	32401	
発生遺伝学(2)	1	Ⅲ	選択	32401	
動物生理学	2	Ⅱ	※選択	22402	
遺伝子工学(1)	1	Ⅲ	選択	32401	
遺伝子工学(2)	1	Ⅲ	選択	32401	
植物生態学	2	I～Ⅱ	選択	22402	
動物生態学	2	I～Ⅱ	選択	22402	
生物統計学	2	Ⅱ	※選択	22402	
分子構造生物学(1)	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	32401	
分子構造生物学(2)	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	32401	
データ構造とアルゴリズム	2	I	*選択	22502	
情報解析学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	
数理基礎論	2	I	*選択	14002	
確率序論	2	I	*選択	24002	
グラフ理論	2	Ⅱ～Ⅳ	*選択	24002	
情報理論	2	Ⅱ	*選択	22502	
組み合わせ論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	34002	
暗号と符号	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	34002	
データベース設計論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	
マルチメディア	2	Ⅱ	*選択	22502	
環境情報論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32502	
物理化学Ⅰ	2	Ⅱ	☆選択	22302	
物理化学Ⅱ	2	Ⅱ	☆選択	22302	
有機化学Ⅰ	2	Ⅱ	☆選択	22302	
有機化学Ⅱ	2	Ⅱ	☆選択	22302	
有機化学Ⅲ	2	Ⅲ	選択	22302	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考	
有機化学Ⅳ	2	Ⅲ	選択	22302	(◇印の科目は、物理学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理化学Ⅲ	2	Ⅱ	☆選択	22302		
物理化学Ⅳ	2	Ⅲ	選択	32302		
高分子化学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32302		
実験値解析法	2	Ⅲ	選択	32302		
分析化学Ⅰ(1)	1	Ⅱ	☆選択	22301		
分析化学Ⅰ(2)	1	Ⅱ	☆選択	22301		
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102		
数理解物理学(1)	1	Ⅱ	◇選択	22201		
数理解物理学(2)	1	Ⅱ	◇選択	22201		
微分幾何学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	32102		
基礎生物学A	2	Ⅰ～Ⅳ	◆選択	14002		(◆印の科目は生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	Ⅰ～Ⅳ	◆選択	14002		
基礎化学A	2	Ⅰ～Ⅳ	☆選択	14002		
基礎化学B(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	☆選択	14001		
基礎化学B(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	☆選択	14001		
生物学特別講義Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	32402		以下の科目から本プログラムとして4単位までを含めることができる
生物学特別講義Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	32402		
生物学特別講義Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	32402		
生物学特別講義Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	32402		
生物学特別講義Ⅴ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	32402		
生物学特殊講義Ⅰ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅱ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅲ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅳ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅴ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅵ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅶ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅷ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅸ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義Ⅹ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅠ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅡ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅢ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅣ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅤ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅥ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅦ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅧ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅨ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		
生物学特殊講義ⅩⅩ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	32401		

①教育目標

情報科学の基礎を学ぶための情報科学科以外の学生のための科目です。プログラミングの指導はできませんので各自で勉強してから履修してください。プログラミング課題を伴うマルチメディア、コンピュータネットワークについては、コア科目のプログラミング演習の成績がSまたはAであることを履修の要件とします。人数制限がある場合にはプログラミング演習の成績がSの学生を優先します。

②内容・構成

コンピュータシステム序論などの情報科学の基礎科目、数理基礎論、確率序論、離散数学などの数学系の基礎科目、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータネットワーク、マルチメディア、暗号と符号などの情報科学技術を学ぶ科目が含まれます。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
数理基礎論	2	I	必修	14002	
情報理論	2	II	必修	22502	
コンピュータシステム序論	2	I	選択	14002	(※印の科目は、数学科は本プログラムとしては履修できない) (*印の科目は数学科は履修できない)
確率序論	2	I	※選択	24002	
離散数学	2	II	*選択	22502	
コンピュータアーキテクチャ I	2	II	選択	22502	
コンピュータネットワーク I	2	II	選択	22502	
マルチメディア	2	II	選択	22502	
グラフ理論	2	II～IV	選択	24002	
位相空間論	2	II	※選択	22502	
情報倫理	2	III～IV	選択	22502	
情報と職業	2	III～IV	選択	22502	
バイオインフォマティクス	2	III～IV	選択	32502	
組み合わせ論	2	III～IV	選択	34002	
暗号と符号	2	III～IV	選択	34002	
ヒューマンインターフェイス	2	III～IV	選択	32502	
環境情報論	2	III～IV	選択	32502	

関連科目 数学科

授業科目	単位	CCNum
基礎化学A	2	14002
基礎化学B(1)	1	14001
基礎化学B(2)	1	14001
基礎生物学A	2	14002

授業科目	単位	CCNum
基礎生物学B	2	14002
大気・海洋科学概論	2	14002
数理基礎論	2	14002
コンピュータシステム序論	2	14002

関連科目 物理学科

授業科目	単位	CCNum
初等解析学Ⅰ	2	14002
初等解析学Ⅱ(1)	1	14001
初等解析学Ⅱ(2)	1	14001
初等線形代数学	2	14002
初等代数学	2	14002
基礎化学A	2	14002
基礎化学B(1)	1	14001

授業科目	単位	CCNum
基礎化学B(2)	1	14001
基礎生物学A	2	14002
基礎生物学B	2	14002
大気・海洋科学概論	2	14002
数理基礎論	2	14002
確率序論	2	24002
コンピュータシステム序論	2	14002

関連科目 化学科

授業科目	単位	CCNum
初等解析学Ⅰ	2	14002
初等解析学Ⅱ(1)	1	14001
初等解析学Ⅱ(2)	1	14001
初等線形代数学	2	14002
初等代数学	2	14002
基礎化学A	2	14002
基礎化学B(1)	1	14001

授業科目	単位	CCNum
基礎化学B(2)	1	14001
基礎生物学A	2	14002
基礎生物学B	2	14002
大気・海洋科学概論	2	14002
数理基礎論	2	14002
確率序論	2	24002
コンピュータシステム序論	2	14002

関連科目 生物学科

授業科目	単位	CCNum
初等解析学 I	2	14002
初等解析学 II(1)	1	14001
初等解析学 II(2)	1	14001
初等線形代数学	2	14002
初等代数学	2	14002
基礎化学 A	2	14002

授業科目	単位	CCNum
基礎化学 B(1)	1	14001
基礎化学 B(2)	1	14001
大気・海洋科学概論	2	14002
数理基礎論	2	14002
確率序論	2	24002
コンピュータシステム序論	2	14002

関連科目 情報科学科

授業科目	単位	CCNum
初等代数学	2	14002
基礎化学 A	2	14002
基礎化学 B(1)	1	14001
基礎化学 B(2)	1	14001

授業科目	単位	CCNum
基礎生物学 A	2	14002
基礎生物学 B	2	14002
大気・海洋科学概論	2	14002

全学共通科目

授業科目	単位	CCNum	備考
NPO入門	2	14002	
未来起点ゼミⅠ	2	14002	
未来起点ゼミⅡ	2	14002	
未来起点ゼミⅢ	2	14002	
未来起点ゼミⅣ	2	14002	
パーソナル・ブランディング	2	14002	
女性のキャリアと経済	2	14002	
ファシリテーション	2	24002	
平和と共生演習	2	14002	
国際共生社会論実習	2	14002	
キャリアプラン	2	14002	
ICTとコミュニケーションスキル(基礎)	2	14002	
ICTとコミュニケーションスキル(応用)	2	14002	
アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)	2	04002	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション入門編)	2	04002	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション実践編(モノ編))	1	24001	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション実践編(コト編))	1	24001	
アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1	24001	
アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1	24001	
未来開拓入門	1	04001	
女性のキャリアと法制度	2	14002	卒業単位に含めることができない
ダイバーシティ論	2	24002	卒業単位に含めることができない
キャリアプランと進路選択	2	14002	卒業単位に含めることができない
インターンシップⅠ	1	14001	卒業単位に含めることができない
インターンシップⅡ	2	14002	卒業単位に含めることができない
Ocha-Solution Program(基礎)	2	14002	卒業単位に含めることができない
博物館概論	2	44002	
博物館資料論	2	44002	
博物館経営論	2	44002	
博物館資料保存論	2	44002	
博物館展示論	2	44002	
博物館教育論	2	44002	
博物館実習	3	44003	
博物館情報・メディア論	2	44002	
日本の伝統芸能	2	04002	
初等解析学Ⅰ	2	14002	数学科、情報科学科は履修できない
初等解析学Ⅱ(1)	1	14001	数学科、情報科学科は履修できない
初等解析学Ⅱ(2)	1	14001	数学科、情報科学科は履修できない
初等線形代数学	2	14002	数学科、情報科学科は履修できない
初等代数学	2	14002	
物理学概論A	2	14002	物理学科は履修できない
物理学概論B	2	14002	物理学科は履修できない
基礎化学A	2	14002	
基礎化学B(1)	1	14001	
基礎化学B(2)	1	14001	

授業科目	単位	CCNum	備考
基礎生物学A	2	14002	生物学科は履修できない
基礎生物学B	2	14002	生物学科は履修できない
大気・海洋科学概論	2	14002	
物理学基礎実験	2	14002	物理学科は履修できない
化学基礎実験	2	14002	化学科は履修できない
生物学基礎実験	2	14002	生物学科は履修できない
数理基礎論	2	14002	
確率序論	2	24002	
コンピュータシステム序論	2	14002	
生命情報学概論(1)	1	24001	
生命情報学概論(2)	1	24001	
計算生物学(1)	1	24001	
計算生物学(2)	1	24001	
海外交換留学等認定科目	2～12	0400X	
Academic Writing	2	34002	
Academic Presentation	2	34002	
Pre Summer Program in English	1	34001	
Summer Program in English I	2	14002	
Summer Program in English II	2	14002	
Summer Program in English III	2	14002	
Summer Program in English IV	2	14002	
Summer Program in English V	2	14002	
Summer Program in English VI	2	14002	
グローバル・インターンシップ I	2	14002	
グローバル・インターンシップ II	2	14002	
グローバル・インターンシップ III	2	14002	
グローバル EDI I	2	14002	
グローバル EDI II	2	14002	
グローバル EDI III	2	14002	
国際交流実習 I	2	34002	
国際交流実習 II	2	34002	
Interdisciplinary Lectures in English I	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English II	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English III	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English IV	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English V	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English VI	2	04002	
舞台芸術実践概論 I	2	04002	
舞台芸術実践概論 II	2	04002	
文化芸術制作演習 I	2	04002	
文化芸術制作演習 II	2	04002	
物理学サブプリメント	2	14002	卒業単位に含めることができない
生物学サブプリメント	2	14002	卒業単位に含めることができない
英語基礎強化ゼミ	2	14002	卒業単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ R/L	2	04002	卒業単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ S/W	2	04002	卒業単位に含めることができない
IELTS 対策ゼミ R/L	2	04002	卒業単位に含めることができない
IELTS 対策ゼミ S/W	2	04002	卒業単位に含めることができない
企画・運営力養成講座	2	04002	卒業単位に含めることができない
中国語力強化ゼミ I	2	24002	卒業単位に含めることができない
中国語力強化ゼミ II	2	24002	卒業単位に含めることができない

教職課程科目

授業科目名	単位	CCNum
教職概論(1)	1	44001
教職概論(2)	1	44001
教育思想概論(1)	1	11301
教育思想概論(2)	1	11301
教育史概論(1)	1	11301
教育史概論(2)	1	11301
教育原論(思想・歴史)(1)	1	44001
教育原論(思想・歴史)(2)	1	44001
教育・発達心理学概論(1)	1	11301
教育・発達心理学概論(2)	1	11301
教育心理	2	44002
特別支援教育概論(1)	1	11301
特別支援教育概論(2)	1	11301
特別支援教育の理論と方法	1	44001
教育社会学概論(1)	1	11301
教育社会学概論(2)	1	11301
教育制度概論	2	11302
教育原論(社会・制度)(1)	1	44001
教育原論(社会・制度)(2)	1	44001
教育課程概論(1)	1	11301
教育課程概論(2)	1	11301
教育課程論	2	44002
数学科教育法Ⅰ	2	44002
数学科教育法Ⅱ	2	44002
数学科教育法Ⅲ	2	44002
数学科教育法Ⅳ	2	44002
理科教育法Ⅰ	2	44002
理科教育法Ⅱ	2	44002
理科教育法Ⅲ	2	44002
理科教育法Ⅳ	2	44002
情報科教育法Ⅰ	2	44002
情報科教育法Ⅱ	2	44002

授業科目名	単位	CCNum
道德教育の理論と方法	2	44002
総合的な学習の時間の理論と方法	1	44001
特別活動の理論と方法	2	44002
教育方法学概論(1)	1	11301
教育方法学概論(2)	1	11301
教育方法論	1	44001
ICT活用の理論と方法	1	44001
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	44002
学校カウンセリング	2	44002
事前・事後指導(中高)	1	44001
事前・事後指導(小中)	1	44001
教育実習(中高)	1、2 又は4	44001
		44002
		44004
教育実習(小中)	4	44004
教職実践演習	2	44002
初等科教育法(国語)	2	44002
初等科教育法(社会)	2	44002
初等科教育法(算数)	2	44002
初等科教育法(理科)	2	44002
初等科教育法(生活)	2	44002
初等科教育法(音楽)	2	44002
初等科教育法(図画工作)	2	44002
初等科教育法(家庭)	2	44002
初等科教育法(体育)	2	44002
初等科教育法(外国語)	2	44002
国語科教育論	1	44001
社会科教育論	1	44001
算数科教育論	1	44001
理科教育論	1	44001
体育実技	1	44001
外国語科教育論	1	44001

外国人留学生特別科目

授業科目名	単位	CCNum
日本語演習ⅠA	2	11202
日本語演習ⅠB	2	11202
日本語演習ⅡA	2	21202
日本語演習ⅡB	2	21202
日本語演習ⅢA	2	21202
日本語演習ⅢB	2	21202
日本語演習ⅣA	2	21202
日本語演習ⅣB	2	21202
日本語演習ⅤA	2	21202
日本語演習ⅤB	2	21202
日本事情演習ⅠA	2	11202
日本事情演習ⅠB	2	11202
日本事情演習ⅡA	2	21202

授業科目名	単位	CCNum
日本事情演習ⅡB	2	21202
日本事情演習ⅢA	2	21202
日本事情演習ⅢB	2	21202
日本事情演習ⅣA	2	21202
日本事情演習ⅣB	2	21202
日本事情演習ⅤA	2	21202
日本事情演習ⅤB	2	21202
総合日本語サマープログラムⅠ	2	11202
総合日本語サマープログラムⅡ	2	11202
総合日本語Ⅰ	2	11202
総合日本語Ⅱ	2	11202

3 生活科学部

生活科学部履修規程（P.258）により、以下の別表のとおり卒業に必要な単位124単位を修得してください（ただし、食物栄養学科については、138単位を修得してください）。各学科プログラム等に関することは、生活科学部履修規程別表第2～14を参照してください。

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位										自由に選択して履修する科目・単位						卒業に必要な履修単位数	
		コア科目					専門教育科目(必修プログラム)					コア科目	専門教育科目	学部共通科目	自由科目	全学共通科目	教職課程科目		必修以外の選択プログラム
		文理融合ペラリアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム	専修プログラム								
食物栄養学科		30										105	3						138
人間・環境科学科		34					60		20				10						124
人間生活学科		34					42		20				28						124
心理学科		34					42		20				28						124

備考

- 1 情報処理演習（情報）2単位は、必修とする。
- 2 外国語は、12単位を必修とする。
- 3 スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別途定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 教職課程科目の単位については、食物栄養学科、人間生活学科及び心理学科は14単位まで、人間・環境科学科は10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目（外国人留学生対象）の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。
- 11 生活科学部の「学部共通科目」は、別表第9のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。

別表第2 (第5条関係)

【(生) 二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」				
	人間・環境科学(副)	生活社会科学(副)	生活文化学(副)	心理学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科					
人間・環境科学科		×	×	×	○
人間生活社会科学	○		○	○	○
生活学科生活文化学	○	○		×	○
心理学科	○	○	○		○

【(生) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	教育学・子ども学(学際)	グローバル文化学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活社会科学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活学科生活文化学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
心理学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(生) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活社会科学	○	○	○	○	○	×	×	×	×
生活学科生活文化学	○	○	○	○	○	×	×	×	×
心理学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(生) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	人間・環境科学(副)	生活社会科学(副)	生活文化学(副)	心理学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○
人間・環境科学科		○	○	○	○
人間生活社会科学	○		○	○	○
生活学科生活文化学	○	○		○	○
心理学科	○	○	○		○

生活科学部 主プログラム・強化プログラム

人間・環境科学科 人間・環境科学プログラム

	主：60 単位	強化：20 単位
主プログラム		
①教育目標		
環境と人間との間でのアンバランスから生じるさまざまな問題に対し、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置付けた上で、互いに影響を受け合って変化する環境と人間との間のダイナミクス（相互作用）を、環境と人間の双方の視点から、また歴史・進化的視点のもとで科学的に理解することを目標とする。さらには、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせる具体的な対策を、社会に対して提案して実践する能力を養うことを教育目標とする。		
②内容・構成		
人間と環境のあいだの問題の解決には定量性や客観性といった科学的な思考能力が不可欠であるため、入学後の1・2年次には、徹底した自然科学系基礎教育を行い、卒業研究のための基礎力を涵養する。3年次には関心に従い、応用へ展開する諸科目を学習する。4年間の勉学を通じて、科学技術の実践的な応用、生活関連分野におけるタイムリーなテーマへの取組み、研究成果の社会での応用・評価などを学ぶ。		
強化プログラム		
①教育目標		
科学技術応用による具体課題の解決に対する社会的要求に応えるべく、実験実習を中心に充実した工学教育プログラムを提供する。本プログラムでは工学分野における主要科目（講義科目ならびに実験演習科目）を配置し、設計から評価にわたる徹底した一連の工学教育を展開する。そして、理系における実務教育の実施および女性技術者の育成に努める。なお、建築士受験資格を取得する場合必要となる単位数が異なるので注意すること。（備考欄参照）		
②内容・構成		
主プログラムで学んだ自然科学基礎力を一層発展させることとし、工学的トレーニングを通じて、設計・評価能力を養う。また、プレゼンテーション技術を身につける。世界的科学技術競争の激化、少子高齢化、安全と安心の問題や地球的課題などに対応すべく、優れた創造の人材を育成する。理工系の基礎能力を身に付け、かつ、生活・生活の質に関連した具体的応用課題に対する解決能力を有する人材の育成をはかる。		

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
統計学	2	Ⅱ	23202	◎			
基礎有機化学	2	Ⅰ	13202	◎			
数学物理学演習Ⅰ(1)	1	Ⅰ	13201	◎			
数学物理学演習Ⅰ(2)	1	Ⅰ	13201	◎			
環境科学(1)	1	Ⅱ	23201	◎			
環境科学(2)	1	Ⅱ	23201	◎			
環境材料物性(1)	1	Ⅲ	33201	◎			
環境材料物性(2)	1	Ⅲ	33201	◎			
情報工学演習(1)	1	Ⅱ	33201	◎			
情報工学演習(2)	1	Ⅱ	33201	◎			
人間環境科学演習(1)	1	Ⅲ	33201	◎			
人間環境科学演習(2)	1	Ⅲ	33201	◎			
人間環境科学実験実習Ⅰ	2	Ⅲ	33202	◎			
人間環境科学実験実習Ⅱ	2	Ⅲ	33202	◎			
人間環境科学実験実習Ⅲ	2	Ⅲ	33202	◎			
人間環境科学輪講Ⅰ	2	Ⅳ	33202	◎			
人間環境科学輪講Ⅱ	2	Ⅳ	33202	◎			
卒業論文	10	Ⅳ	3320A	◎			
数学物理学演習Ⅱ(1)	1	Ⅰ	13201	○	以下の科目から 26 単位以上選択		
数学物理学演習Ⅱ(2)	1	Ⅰ	13201	○			
デザイン工学演習(1)	1	Ⅰ	13201	○			
デザイン工学演習(2)	1	Ⅰ	13201	○			
設計製造演習(1)	1	Ⅱ	23201	○			
設計製造演習(2)	1	Ⅱ	23201	○			
デザインとテクノロジー(1)	1	Ⅰ～Ⅱ	23201	○			
デザインとテクノロジー(2)	1	Ⅰ～Ⅱ	23201	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
機械と運動(1)	1	I～II	23201	○			
機械と運動(2)	1	I～II	23201	○			
物理化学(1)	1	II	23201	○			
物理化学(2)	1	II	23201	○			
生物化学(1)	1	II	23201	○			
生物化学(2)	1	II	23201	○			
環境反応論(1)	1	II	23201	○			
環境反応論(2)	1	II	23201	○			
計測工学	1	II～III	23201	○			
ヒトと文化(1)	1	I～IV	13201	○			
ヒトと文化(2)	1	I～IV	13201	○			
人体計測学演習(1)	2	II	23202	○			
人体計測学演習(2)	2	II	23202	○			
機器分析演習(1)	1	II	23201	○			
機器分析演習(2)	1	II	23201	○			
応用統計学	2	I～IV	23202	○			
資源循環工学	2	II	23202	○			
建築一般構造	2	I	13202	○			
基礎構造力学	2	I	13202	○			
住居学概論	2	I	13202	○			
建築環境計画論	2	II	23202	○			
西洋建築史	2	II～III	23202	○			
設計製図基礎	2	I	13202	○			
生活科学概論	2	I	14002	○			
人間環境科学選択基礎	2	I	03202	○			
人間工学	1	II～III	33201			○	以下の科目から20単位以上選択
電子工学	2	III	33202			○	
システム工学	2	II～III	33202			○	
水環境工学	2	III	33202			○	
環境評価学	2	III	33202			○	
都市エネルギー工学	2	III	33202			○	
医用工学	2	III	33202			○	
第四紀学概論	2	III	33202			○	
人間環境科学特別実習Ⅰ	2	III	33202			○	
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	III	33202			○	
環境衛生学(1)	1	II	23201			○	
環境衛生学(2)	1	II	23201			○	
LIDEE 演習	2	I～IV	23202			○	
生活工学特別講義	2	I～IV	23202			○	
建築環境工学	2	II	23202			○	
環境心理学	2	II～III	33202			○	
建築材料学Ⅰ	2	II～III	23202			○	
建築施設計画	2	III	33202			○	
都市計画論	2	II～III	33202			○	
建築構造力学	2	II～III	33202			○	
日本建築史	2	I～IV	23202			○	
建築設計製図演習Ⅰ	2	II	23202			○	
建築設計製図演習Ⅱ	2	II	33202			○	
建築設計製図演習Ⅲ	2	III	33202			○	
建築法規	1	II～III	23201			○	
建築生産	2	II～III	23202			○	
建築構法計画	1	II～III	23201			○	
BIM 演習	1	II～IV	23201			○	
建築材料学Ⅱ	2	II～III	23202			○	
建築設備学	2	II～III	23202			○	
建築意匠論	2	II～III	33202			○	
測量学	2	II～IV	21102			○	
環境デザイン論	2	II～III	23302			○	

以下の科目は建築士受験資格に関する科目です。強化プログラムに必要な20単位には含まれません。

人間生活学科 生活社会科学プログラム

	主：42 単位	強化：20 単位
主プログラム ①教育目標 本プログラムは、社会科学の理論と方法論を習得し、身近な生活問題の発生メカニズムを理解するとともに、その解決の方途について提案する力を養うことを目的とする。法学、政治学、経済学、社会学の4分野にわたり広く社会科学の基礎知識を習得し、これを応用して各自の研究課題を解明するための基礎力を身につける。		
②内容・構成 社会科学の理論と方法論の基礎を集中的に学ぶとともに、家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法、生活政治学等、本主プログラムと強化プログラムの柱となる現代的トピックについて学ぶ。3年次にはいずれかの演習を選択して密度濃い指導を受けつつ卒業研究のテーマを明確にし、4年次では卒業論文の作成に取り組む。		
強化プログラム ①教育目標 生活社会科学主プログラムにより基礎的な力を養った後、各自の研究テーマ及びその関連領域につき体系的な知識を習得するためのプログラムである。本強化プログラムを履修することにより、社会科学の高度な知識と研究方法を自在に使いこなす力を身につけることができる。		
②内容・構成 講義科目は、家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法、生活政治学など、主プログラムにより提示された柱となるトピックへの関心をさらに広げ、同時に深めるための科目群からなる。一部必修化するが、大半の科目は選択科目であり、各自の関心に応じて自由に選ぶことができる。また、演習科目については、主プログラムに組み込まれた2科目4単位分は必修であるが、さらにもう一種の演習（ⅠⅡ）を選択して学際的な視点をもって卒業論文の作成に取り組むことも可能である。		

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
人間生活論(1)	1	I	13301	◎			
人間生活論(2)	1	I	13301	◎			
生活社会科学概論(1)	1	I	13301	◎			
生活社会科学概論(2)	1	I	13301	◎			
生活文化学概論	2	I	14002	○	以下の科目から 2単位以上選択		
生活科学概論	2	I	13302	○			
生活社会科学演習(1)	1	Ⅱ	23301	◎			
生活社会科学演習(2)	1	Ⅱ	23301	◎			
家族社会学(1)	1	Ⅲ	23301	◎			
家族社会学(2)	1	Ⅲ	23301	◎			
応用生活統計学(1)	1	I	13301	◎			
応用生活統計学(2)	1	I	13301	◎			
社会統計学Ⅰ	2	Ⅱ	23302	◎			
ジェンダー論	2	I～Ⅳ	13302	◎			
生活関連法	2	Ⅱ	23302	◎			
家族法	2	Ⅲ	23302	◎			
生活政治学(1)	1	Ⅱ	23301	◎			
生活政治学(2)	1	Ⅱ	23301	◎			
家政経済学概論	2	I～Ⅳ	13302	◎			
消費者経済学	2	Ⅱ	23302	◎			
家族関係論	2	I～Ⅱ	13302	◎			
社会保障論	2	I～Ⅳ	13302	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	33308	◎			
家庭機械及び家庭電気	2	I	14002	○			
調理実習	1	Ⅱ	14001	○			
生活社会科学選択基礎	2	I	03302	○			
家族法演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○	以下の科目か ら4単位選択	○	以下の科目か ら4単位まで を含めること ができる
家族法演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	33302	○		○	
生活法学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活法学演習Ⅱ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活政治学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活政治学演習Ⅱ	2	Ⅲ	33302	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
家族社会学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
家族社会学演習Ⅱ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活福祉学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活福祉学演習Ⅱ	2	Ⅲ	33302	○		○	
消費者経済学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
消費者経済学演習Ⅱ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活経済学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
生活経済学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	33302	○		○	
労働経済学演習Ⅰ	2	Ⅲ	33302	○		○	
労働経済学演習Ⅱ	2	Ⅲ	33302	○		○	
社会福祉学	2	Ⅱ	23302			◎1	
労働経済学総論	2	Ⅲ	23302			◎	
社会統計学Ⅱ(1)	1	Ⅱ	23301			◎	
社会統計学Ⅱ(2)	1	Ⅱ	23301			◎	
生活社会科学論文演習Ⅰ	2	Ⅳ	33302			◎	
生活社会科学論文演習Ⅱ	2	Ⅳ	33302			◎	
女性政策論	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
法女性学	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
労働法	2	Ⅰ～Ⅱ	23302			○	
比較ジェンダー論	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
政治とジェンダー	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
消費者教育論	2	Ⅱ	23302			○	
企業経営論	2	Ⅱ	23302			○	
老年学	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
児童福祉論	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
人口学	2	Ⅰ～Ⅳ	13302			○	
地域社会論	2	Ⅱ	23302			○	
生活調査法	2	Ⅱ	23302			○	
生活社会調査実習	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
生活経営学	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
財産と法	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
刑事法	2	Ⅰ～Ⅱ	23302			○	
生活法学	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
イタリア法史	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
生活と行政	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
生活経済学	2	Ⅱ	23302			○	
生活と金融	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
生活と財政	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
国際経済と生活	2	Ⅱ～Ⅳ	23302			○	
国民経済と生活	2	Ⅱ～Ⅳ	33302			○	
児童学概論	2	Ⅰ	14402			○	
生活社会科学特論	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
生活社会科学実習	2	Ⅰ～Ⅳ	23302			○	
マーケティング	2	Ⅱ～Ⅳ	33302			○	
社会問題論(1)	1	Ⅱ～Ⅳ	21301			○	以下の科目から4単位までを含めることができる
社会問題論(2)	1	Ⅱ～Ⅳ	21301			○	
現代社会論	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	
現代生活論	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	
社会意識論	2	Ⅱ～Ⅳ	21302			○	
比較社会論	2	Ⅱ～Ⅳ	21302			○	
社会政策論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	11302			○	
社会政策論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	21302			○	
都市地理学	2	Ⅰ～Ⅳ	21102			○	
経済地理学	2	Ⅰ～Ⅳ	21102			○	
社会地理学	2	Ⅰ～Ⅳ	21102			○	

人間生活学科 生活文化学プログラム

主：42 単位	強化：20 単位
主プログラム ①教育目標 生活文化学は、日常生活に関わる文化事象、とくに服飾、住まい、工芸、デザインなどの生活造形を生み出し、子どもを育ててきた文化・歴史を対象とし、比較文化論、民俗学、歴史学、保育学などの手法によって新しい文化論を構築することを目指している。生活に根差した文化論の考究を基盤とすることにより、現代生活の諸問題を解決する実践能力を養い、生活文化をリードする見識と創造力を養う。	
②内容・構成 古今東西の生活文化に関する幅広い知識の習得と、自ら問題意識をもって文化事象を追究することのできる基礎力を養うことを重視する。そのために、人間生活学科の共通科目、生活文化学各領域の基本的な知識を習得する概論科目、分析スキルを習得する基礎科目、自らの問題意識で分析・解釈を試みる基礎演習、および卒業論文で構成される。	
強化プログラム ①教育目標 生活造形・保育の領域に関する専門的な知識に加え、より広範の生活文化に関する知識を習得し、また自ら分析・解釈を試みる演習を複数の領域で履修することにより、生活文化に対する深い見識を養うとともに、より深い思考力と柔軟な分析力を養う。服飾制作実習やフィールドワークを含む実習によって身体を通して学び、理解力を深める。	
②内容・構成 生活造形・保育に関するより専門的な講義科目、生活史・生活思想、芸術・情報・環境など生活文化の関連領域に関するより広範なテーマの講義科目、基礎演習を展開させ、自らの分析スキルによって調査・解釈を試みる演習科目、あるいは実習科目、そして生活文化学専門英語で構成される。	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
人間生活論(1)	1	I	13301	◎			
人間生活論(2)	1	I	13301	◎			
生活文化学概論	2	I	13302	◎			
生活社会科学概論(1)	1	I	13301	○	以下の科目から 2単位以上選択		
生活社会科学概論(2)	1	I	13301	○			
生活科学概論	2	I	14002	○			
生活造形論	2	I	13302	◎			
民俗学	2	I	13302	◎			
服飾文化概論	2	I	13302	◎			
比較生活文化論	2	I	13302	◎			
児童学概論	2	I	13302	◎			
服飾史論(1)	1	II	23301	○	以下の科目から 10単位以上選択		
服飾史論(2)	1	II	23301	○			
服飾史資料論(1)	1	II	23301	○		○	
服飾史資料論(2)	1	II	23301	○		○	
比較生活文化史 I (1)	1	II	23301	○			
比較生活文化史 I (2)	1	II	23301	○			
比較生活文化史 II (1)	1	II	23301	○		○	
比較生活文化史 II (2)	1	II	23301	○		○	
民俗文化史論(1)	1	II	23301	○			
民俗文化史論(2)	1	II	23301	○			
歴史民俗文化論(1)	1	II	23301	○		○	
歴史民俗文化論(2)	1	II	23301	○		○	
服飾史 I (1)	1	II	23301	○			
服飾史 I (2)	1	II	23301	○			
服飾史 II (1)	1	II	23301	○		○	
服飾史 II (2)	1	II	23301	○		○	
保育デザイン論(1)	1	II	23301	○			
保育デザイン論(2)	1	II	23301	○			

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
発達と文化(1)	1	Ⅱ	23301	○		○	
発達と文化(2)	1	Ⅱ	23301	○		○	
生活文化学論文演習Ⅰ	2	Ⅳ	33302	◎			
生活文化学論文演習Ⅱ	2	Ⅳ	33302	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	33308	◎			
比較文化論基礎演習	2	Ⅲ	33302	○	以下の科目から4単位以上選択	○	
民俗文化史基礎演習	2	Ⅲ	33302	○		○	
日本服飾史基礎演習	2	Ⅲ	33302	○		○	
服飾文化論基礎演習	2	Ⅲ	33302	○		○	
保育デザイン論基礎演習	2	Ⅲ	33302	○		○	
家庭看護学	1	Ⅰ～Ⅳ	23301	○			
保育実践論	2	Ⅰ～Ⅳ	23302	○			
被服学概論	2	Ⅰ	13302	○			
家族関係論	2	Ⅰ～Ⅱ	13302	○			
家政経済学概論	2	Ⅰ～Ⅳ	13302	○			
被服製作実習	1	Ⅱ～Ⅳ	23301	○			
家庭機械及び家庭電気	2	Ⅰ	14002	○			
調理実習	1	Ⅱ	14001	○			
生活文化学選択基礎	2	Ⅰ	03302	○			
比較文化論演習	2	Ⅲ	33302			○	以下の科目から2単位以上選択
民俗文化史演習	2	Ⅲ	33302			○	
服飾文化論演習	2	Ⅲ	33302			○	
日本服飾史演習	2	Ⅲ	33302			○	
保育デザイン論演習	2	Ⅲ	33302			○	
民俗文化史各論	2	Ⅱ～Ⅲ	33302			○	
環境デザイン論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
生活文化論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
生活造形史	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
工芸史	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
地域文化論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
現代文化論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
文化情報論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
美学・芸術学	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
児童文化論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
西洋服飾論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
日本服飾論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
服飾文化各論	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
服飾制作実習	1	Ⅱ	23301			○	
服飾文化実習	1	Ⅱ～Ⅲ	33301			○	
生活文化実習	1	Ⅱ～Ⅳ	33301			○	
生活文化学専門英語	2	Ⅱ～Ⅲ	23302			○	
LIDEE 演習	2	Ⅰ～Ⅳ	23202			○	
生活芸術論	2	Ⅱ～Ⅲ	23202			○	

心理学科

主：42 単位	強化：20 単位
主プログラム ①教育目標 心理学科は、心理学に関する基礎から実践までの多面的な知識と理解力を有し、科学的エビデンス、論理的分析力に基づく臨床・応用実践、社会的課題にセンシティブな実証的探求の視点や実践的能力を養うことを目的とする。	
②内容・構成 心理学科の主プログラムは基礎・実証系心理学領域及び臨床・実践系心理学領域の科目が融合した形で構成される。必修科目（専門基礎11科目を含む計13科目、32単位卒業論文を含む）を核とし、学生の進路希望に応じて、専門基礎・専門応用科目等（5科目10単位）を選択できる構成になっている。また、学生の進路希望の多様性を勘案し、4つの領域の応用融合科目を中心とする専門応用科目（31科目、62単位）を用意している。	
強化プログラム ①教育目標 強化プログラムは、心理学に関する理解を強化・発展させるため、主プログラムで選択履修した専門応用科目に加え、他の応用融合科目や応用実習科目などを履修し、心理学の専門性を培う。	
②内容・構成 心理学科の特色は、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の融合領域として、「認知・生物系」、「社会・福祉系」、「医療・健康系」、「発達・教育系」の4つの系列の専門領域を設定し、それぞれの領域内に専門応用科目として心理学応用融合科目を設けている点である。また、保健医療機関や教育機関における心理学的支援について実習体験などを含む。	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
こころの科学（心理学概論）	2	I	13402	◎			
こころの科学:研究と実践（心理学研究法）	2	I	13402	◎			
認知心理学概論（知覚・認知心理学）	2	I～II	13402	◎			
発達心理学概論（発達心理学）	2	I～II	13402	◎			
教育心理学概論	2	I～II	13402	◎			
社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	2	I～II	13402	◎			
臨床心理学概論（臨床心理学概論）	2	I～II	13402	◎			
心理学基礎演習	2	I	13402	◎			
心理統計法（心理学統計法）	2	II	13402	◎			
心理学基礎実験演習（心理学実験）	2	II	13402	◎			
心理学基礎実践演習（心理演習）	2	II	13402	◎			
心理学選択基礎	2	I	13402	○			
心理職の職業倫理（公認心理師の職責）	2	II～IV	23402	○			
心理学実践演習：質問紙法	2	II～III	23402	○			
心理学実践演習：質的研究法	2	II～III	23402	○			
心理臨床実習Ⅰ（心理実習Ⅰ）	2	III	23402	○	以下の科目から8単位以上選択	○	以下の科目から20単位以上選択（主プログラムで選択した科目を除く）
心理臨床実習Ⅱ（心理実習Ⅱ）	2	III	23402	○		○	
認知神経科学（神経・生理心理学）	2	II～IV	23402	○		○	
学習と言語の心理学（学習・言語心理学）	2	II～IV	23402	○		○	
臨床医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	II～IV	23402	○		○	
応用社会心理学	2	II～IV	23402	○		○	
福祉心理学（福祉心理学）	2	II～IV	23402	○		○	
コミュニティ心理学	2	II～IV	23402	○		○	
司法心理学（司法・犯罪心理学）	2	II～IV	23402	○		○	
産業心理学（産業・組織心理学）	2	II～IV	23402	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCNum	プログラム◎必修○選択			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
健康心理学（健康・医療心理学）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
心理療法学（心理学的支援法）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
障害臨床心理学（障害者・障害児心理学）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
心理臨床アセスメント（心理的アセスメント）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
医療心理学（精神疾患とその治療）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
感情・人格心理学（感情・人格心理学）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
発達臨床心理学	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
家族心理学	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
学校臨床心理学（教育・学校心理学）	2	Ⅱ～Ⅳ	23402	○		○	
認知心理学演習	2	Ⅲ	33402	○	以下の科目から2単位以上選択	○	
認知発達心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
社会心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
ジェンダー心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
健康心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
障害臨床心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
心理療法学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
人格発達心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
犯罪心理学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
心理支援学演習	2	Ⅲ	33402	○		○	
心理臨床に関する法と制度（関係行政論）	2	Ⅱ～Ⅳ	33402	○			○
心理学専門英語	2	Ⅲ	33402	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	33408	◎			
生活科学概論	2	Ⅰ	14002	○			

※注) () 内は公認心理師となるために必要な科目名

副プログラム・学際プログラム

人間・環境科学副プログラム

単位数：20

①教育目標

人間や環境に係る理学や工学を総合的に幅広く学ぶことを目標とする。環境と科学技術のあり方について、今後の技術動向に関する分析力を養うとともに、人間・環境に係る科学技術についての理解を目指す。文系・理系学習者のいずれも受講可とする。

②内容・構成

人間・環境科学科の主プログラムならびに強化プログラムにおいて提供される科目群から、受講者の関心に従って選択して受講する。なお、所属学部学科にかかわらず、建築士受験資格に関する科目を所定の単位以上履修修得した上で、卒業すれば二級建築士の受験資格を得ることができる。（取得単位数により必要な実務経験が0年～2年となる。）ただし、二級建築士受験資格を取得するには、厳しい履修条件が課されているので、二級建築士受験資格希望者は、かならず、人間・環境科学科の教員に事前に相談すること。詳細は、IV. 諸資格の取得、建築士受験資格の項を参照のこと。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
統計学	2	Ⅱ	選択	23202	以下の科目から20単位以上選択
環境科学(1)	1	Ⅱ	選択	23201	
環境科学(2)	1	Ⅱ	選択	23201	
環境反応論(1)	1	Ⅱ	選択	23201	
環境反応論(2)	1	Ⅱ	選択	23201	
ヒトと文化(1)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	13201	
ヒトと文化(2)	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	13201	
資源循環工学	2	Ⅱ	選択	23202	
建築一般構造	2	Ⅰ	選択	13202	
基礎構造力学	2	Ⅰ	選択	13202	
住居学概論	2	Ⅰ	選択	13202	
建築環境計画論	2	Ⅱ	選択	23202	
都市エネルギー工学	2	Ⅲ	選択	33202	
人間工学	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	33201	
システム工学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	33202	
環境材料物性(1)	1	Ⅲ	選択	33201	
環境材料物性(2)	1	Ⅲ	選択	33201	
水環境工学	2	Ⅲ	選択	33202	
医用工学	2	Ⅲ	選択	33202	
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	Ⅲ	選択	33202	
情報工学演習(1)	1	Ⅱ	選択	33201	
情報工学演習(2)	1	Ⅱ	選択	33201	
建築環境工学	2	Ⅱ	選択	23202	
環境心理学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	33202	
建築材料学Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23202	
建築材料学Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23202	
設計製図基礎	2	Ⅰ	選択	13202	
建築設計製図演習Ⅰ	2	Ⅱ	選択	23202	
建築設計製図演習Ⅱ	2	Ⅱ	選択	33202	
建築設計製図演習Ⅲ	2	Ⅲ	選択	33202	
西洋建築史	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23202	
日本建築史	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23202	
建築法規	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	23201	
建築生産	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23202	
建築構法計画	1	Ⅱ～Ⅲ	選択	23201	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
BIM 演習	1	Ⅱ～Ⅳ	選択	23201	
建築設備学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23202	
建築意匠論	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	33202	
建築施設計画	2	Ⅲ	選択	33202	
都市計画論	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	33202	
建築構造力学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	33202	
測量学	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	21102	
環境デザイン論	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23302	

Ⅲ

授業科目一覧

2

専門教育科目
生活科学部

①教育目標

さまざまな主専攻領域で学んできた学生を想定し、社会科学の基本的な考え方と方法論の基礎を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ、社会問題、経済問題など生活に関わる問題を生活者の視点で考え、実践に生かすための力を養うことを目的とする。公務員試験等資格試験を受験する者にも役立つカリキュラムを提供する。

②内容・構成

社会科学の基本的な考え方と方法論を習得するために、「生活社会科学概論(1)(2)」「生活社会科学演習(1)(2)」を必修とする。また自ら調べ自ら考える力を強化するために、演習科目に参加することが望ましい。ジェンダー研究の基本的な考え方と方法論を習得する科目も多く整備されている。他の講義科目については、各自の関心に応じ、体系的なメニューのもとに学んでいく。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
生活社会科学概論(1)	1	I	必修	13301	ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たす必要がある。
生活社会科学概論(2)	1	I	必修	13301	
生活社会科学演習(1)	1	II	必修	23301	
生活社会科学演習(2)	1	II	必修	23301	
家族法演習 I	2	III	選択	33302	以下の科目から4単位までを含めることができる
家族法演習 II	2	III~IV	選択	33302	
生活法学演習 I	2	III	選択	33302	
生活法学演習 II	2	III	選択	33302	
生活政治学演習 I	2	III	選択	33302	
生活政治学演習 II	2	III	選択	33302	
家族社会学演習 I	2	III	選択	33302	
家族社会学演習 II	2	III	選択	33302	
生活福祉学演習 I	2	III	選択	33302	
生活福祉学演習 II	2	III	選択	33302	
消費者経済学演習 I	2	III	選択	33302	
消費者経済学演習 II	2	III	選択	33302	
生活経済学演習 I	2	III	選択	33302	
生活経済学演習 II	2	III~IV	選択	33302	
労働経済学演習 I	2	III	選択	33302	
労働経済学演習 II	2	III	選択	33302	
ジェンダー論	2	I~IV	選択	13302	
生活関連法	2	II	選択	23302	
家族法	2	III	選択	23302	
生活政治学(1)	1	II	選択	23301	
生活政治学(2)	1	II	選択	23301	
家政経済学概論	2	I~IV	選択	13302	
消費者経済学	2	II	選択	23302	
女性政策論	2	I~IV	選択	23302	
労働法	2	I~II	選択	23302	
政治とジェンダー	2	II~IV	選択	23302	
社会福祉学	2	II	選択	23302	
消費者教育論	2	II	選択	23302	
労働経済学総論	2	III	選択	23302	
社会保障論	2	I~IV	選択	13302	
児童福祉論	2	II~IV	選択	23302	
地域社会論	2	II~IV	選択	23302	
生活経営学	2	I~IV	選択	23302	
財産と法	2	I~IV	選択	23302	
刑事法	2	I~II	選択	23302	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
生活法学	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	23302	
イタリア法史	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23302	
生活と行政	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23302	
生活経済学	2	Ⅱ	選択	23302	
生活と金融	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23302	
生活と財政	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23302	
国際経済と生活	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	23302	
国民経済と生活	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	33302	
家族関係論	2	Ⅰ～Ⅱ	選択	13302	
法女性学	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23302	
比較ジェンダー論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	23302	
家族社会学(1)	1	Ⅲ	選択	23301	
家族社会学(2)	1	Ⅲ	選択	23301	
老年学	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	23302	
生活社会科学特論	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23302	

Ⅲ

授業科目一覧

2

生活科学部
専門教育科目

①教育目標

生活科学を学ぶ学生が文化的視野をもち、人間の精神生活に対する理解を深めることは、生活の質を考える上でもっとも重要である。またどのような学問領域であれ、学生が生活を取りまく身近な文化に関心をもつことは、生活者として重要である。本プログラムは、生活造形・保育を中心とした生活文化学の基本を学ぶことにより、より創造的な生活の感性を養うことを目指す。

②内容・構成

生活造形・保育に関するもっとも基礎的な知識を習得する概論などの基礎5科目から4単位を必修とし、演習科目1つを必修とする。他は自由に選択することができる。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
生活造形論	2	I	選択	13302	以下の科目から4単位以上必修
民俗学	2	I	選択	13302	
服飾文化概論	2	I	選択	13302	
比較生活文化論	2	I	選択	13302	
児童学概論	2	I	選択	13302	
日本服飾史基礎演習	2	III	選択	33302	以下の科目から2単位以上必修
民俗文化史基礎演習	2	III	選択	33302	
服飾文化論基礎演習	2	III	選択	33302	
比較文化論基礎演習	2	III	選択	33302	
保育デザイン論基礎演習	2	III	選択	33302	
服飾史論(1)	1	II	選択	23301	以下の科目から14単位以上選択
服飾史論(2)	1	II	選択	23301	
服飾史資料論(1)	1	II	選択	23301	
服飾史資料論(2)	1	II	選択	23301	
服飾史I(1)	1	II	選択	23301	
服飾史I(2)	1	II	選択	23301	
服飾史II(1)	1	II	選択	23301	
服飾史II(2)	1	II	選択	23301	
比較生活文化史I(1)	1	II	選択	23301	
比較生活文化史I(2)	1	II	選択	23301	
比較生活文化史II(1)	1	II	選択	23301	
比較生活文化史II(2)	1	II	選択	23301	
民俗文化史論(1)	1	II	選択	23301	
民俗文化史論(2)	1	II	選択	23301	
歴史民俗文化論(1)	1	II	選択	23301	
歴史民俗文化論(2)	1	II	選択	23301	
保育デザイン論(1)	1	II	選択	23301	
保育デザイン論(2)	1	II	選択	23301	
発達と文化(1)	1	II	選択	23301	
発達と文化(2)	1	II	選択	23301	
民俗文化史各論	2	II～III	選択	33302	
環境デザイン論	2	II～III	選択	23302	
生活文化論	2	II～III	選択	23302	
生活造形史	2	II～III	選択	23302	
工芸史	2	II～III	選択	23302	
地域文化論	2	II～III	選択	23302	
現代文化論	2	II～III	選択	23302	
文化情報論	2	II～III	選択	23302	
美学・芸術学	2	II～III	選択	23302	
西洋服飾論	2	II～III	選択	23302	
日本服飾論	2	II～III	選択	23302	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
服飾文化各論	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23302	
児童文化論	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23302	
生活芸術論	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23302	

Ⅲ

授業科目一覧

2

専門教育科目
生活科学部

<p>①教育目標 主プログラムと併行して、心理学の基本について幅広い知識を得て、様々な生活環境・場面における人間の心理・行動に対して、その基礎的なプロセスと機能への理解と科学的な見方を養う。</p> <p>②内容・構成 心理学基礎講義科目並びに心理学応用融合科目の履修が可能である。</p>

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
こころの科学（心理学概論）	2	I	選択	13402	以下の科目から 20 単位以上選択
こころの科学:研究と実践(心理学研究法)	2	I	選択	13402	
認知心理学概論(知覚・認知心理学)	2	I～II	選択	13402	
発達心理学概論（発達心理学）	2	I～II	選択	13402	
教育心理学概論	2	I～II	選択	13402	
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	2	I～II	選択	13402	
臨床心理学概論（臨床心理学概論）	2	I～II	選択	13402	
認知神経科学（神経・生理心理学）	2	II～IV	選択	23402	
学習と言語の心理学(学習・言語心理学)	2	II～IV	選択	23402	
臨床医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	2	II～IV	選択	23402	
応用社会心理学	2	II～IV	選択	23402	
福祉心理学（福祉心理学）	2	II～IV	選択	23402	
コミュニティ心理学	2	II～IV	選択	23402	
司法心理学（司法・犯罪心理学）	2	II～IV	選択	23402	
産業心理学（産業・組織心理学）	2	II～IV	選択	23402	
健康心理学（健康・医療心理学）	2	II～IV	選択	23402	
心理療法学（心理学的支援法）	2	II～IV	選択	23402	
障害臨床心理学(障害者・障害児心理学)	2	II～IV	選択	23402	
心理臨床アセスメント(心理的アセスメント)	2	II～IV	選択	23402	
医療心理学（精神疾患とその治療）	2	II～IV	選択	23402	
感情・人格心理学（感情・人格心理学）	2	II～IV	選択	23402	
発達臨床心理学	2	II～IV	選択	23402	
家族心理学	2	II～IV	選択	23402	
学校臨床心理学(教育・学校心理学)	2	II～IV	選択	23402	

※注（ ）内は公認心理師となるために必要な科目名

①教育目標

消費生活にともなう諸問題を学際的・総合的に学ぶ。成熟した市民社会を担う能動的消費者となるための基礎的カリキュラム。消費生活アドバイザー資格試験を受ける人などにも最適。

②内容・構成

消費者科学の基礎となる「消費者科学入門」「国民経済と生活」「消費者法」の3科目6単位を必修科目として履修する。選択科目として、消費者科学に関連する科目を14単位履修する。

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
消費者科学入門	2	I～III	必修	13302	以下の科目から14単位以上選択
国民経済と生活	2	II～IV	必修	33302	
消費者法	2	II～IV	必修	23302	
消費者教育論	2	II	選択	23302	
企業経営論	2	II	選択	23302	
家政経済学概論	2	I～IV	選択	13302	
環境衛生学(1)	1	II	選択	23201	
環境衛生学(2)	1	II	選択	23201	
建築環境計画論	2	II	選択	23202	
医療と健康	2	I～IV	選択	23102	
社会保障論	2	I～IV	選択	13302	
被服学概論	2	I～IV	選択	13302	
食物学概論	2	I	選択	13102	
住居学概論	2	I	選択	13202	
生活と財政	2	I～IV	選択	23302	
生活と金融	2	I～IV	選択	23302	
社会統計学 I	2	II	選択	23302	
社会統計学 II(1)	1	II	選択	23301	
社会統計学 II(2)	1	II	選択	23301	
生活調査法	2	II	選択	23302	
消費者経済学	2	II	選択	23302	
生活造形論	2	I	選択	13302	
現代文化論	2	II	選択	23302	
児童学概論	2	I	選択	13302	
応用統計学	2	I～IV	選択	23202	
建築一般構造	2	I	選択	13202	
国際栄養学	2	I～IV	選択	23102	
マーケティング	2	II～IV	選択	33302	

食物栄養学科 食物栄養学専修プログラム

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考
解剖生理学Ⅰ	2	I	必修	13102	学部共通科目
生化学	2	I	必修	13102	
解剖生理学Ⅱ	2	I	必修	13102	
調理科学	2	I	必修	13102	
基礎調理学実習	2	I	必修	13101	
基礎有機化学	2	I	必修	13102	
細胞生化学	2	II	必修	23102	
臨床医学総論	2	II	必修	23102	
代謝栄養学	2	II	必修	23102	
社会福祉学	2	II	必修	23102	
食品化学	2	II	必修	23102	
栄養教育論Ⅰ	2	II	必修	23102	
生活環境学	2	II	必修	23102	
食嗜好評価学	2	II	必修	23102	
応用調理学実習	1	II	必修	23101	
臨床医学各論Ⅰ	2	II	必修	23102	
臨床医学各論Ⅱ	2	II	必修	23102	
応用栄養学	2	II	必修	23102	
給食経営管理論	2	II	必修	23102	
食品製造・保存学	2	II	必修	23102	
食品微生物学	2	II	必修	23102	
臨床栄養アセスメント学	2	II	必修	23102	
栄養カウンセリング論	2	II	必修	23102	
分析化学実験	2	II	必修	23102	
解剖生理学実験	1	II	必修	23101	
食品微生物学実験	1	III	必修	23101	
分析化学	2	II	必修	23102	学部共通科目
病態栄養学	2	III	必修	33102	
食品衛生学	2	III	必修	33102	
臨床栄養療法学	2	III	必修	33102	
公衆栄養学	2	III	必修	33102	
栄養教育論Ⅱ	2	III	必修	33102	
ライフステージ栄養学	2	III	必修	33102	
公衆衛生学	2	III	必修	33102	
給食マネジメント論	2	III	必修	33102	
栄養疫学・統計	2	III	必修	33102	
ライフスタイル栄養学	2	III	必修	33102	
食品機能論	2	III	必修	33102	
食事療法学	2	III	必修	33102	
栄養学実験	2	III	必修	33102	
応用栄養学実習	1	III	必修	33101	
食品製造・保存学実験	1	III	必修	33102	
栄養カウンセリング論実習	1	III	必修	33101	
公衆栄養学実習	1	III	必修	33101	
臨床栄養アセスメント学実習	2	III	必修	33102	
食品化学実験	2	III	必修	33102	
調理科学実験	2	III	必修	33102	
給食経営管理実習	2	III	必修	33102	

授業科目名	単位	履修年次	必修・選択	CCNum	備考	
食物栄養管理論総合演習Ⅰ	1	Ⅲ	必修	33101		
食物栄養管理論総合演習Ⅱ	1	Ⅳ	必修	33101		
栄養臨地実習Ⅰ	1	Ⅲ	必修	33101		
栄養臨地実習Ⅱ	3	Ⅳ	必修	33103		
卒業論文	6	Ⅳ	必修	33106		
選択						
食物栄養学入門	1	Ⅰ	選択	13101		
食品評価論	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	23102		
学校栄養教育論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23102		
学校栄養教育論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	23102		
食物栄養学輪講	4	Ⅳ	選択	33104		
高大連携科目（選択）						
食物栄養学選択基礎	2	Ⅰ		03102		
<p>高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1（第5条関係）「自由に選択して履修する科目・単位」として認定することができる。</p>						

学部共通科目

授業科目名	単位	CCNum	備考
生活科学概論	2	14002	
基礎有機化学	2	13102	食物栄養学科は必修
分析化学	2	23102	食物栄養学科は必修
ジェンダー論	2	13302	
比較ジェンダー論	2	23302	
人口学	2	13302	
社会保障論	2	13302	
企業経営論	2	23302	
消費者科学入門	2	13302	
生活造形論	2	13302	
民俗学	2	13302	
国際栄養学	2	23102	
食物学概論	2	13102	
医療と健康	2	23102	

全学共通科目

授業科目名	単位	CCNum	備考
NPO入門	2	14002	
未来起点ゼミⅠ	2	14002	
未来起点ゼミⅡ	2	14002	
未来起点ゼミⅢ	2	14002	
未来起点ゼミⅣ	2	14002	
パーソナル・ブランディング	2	14002	
女性のキャリアと経済	2	14002	
ファシリテーション	2	24002	
平和と共生演習	2	14002	
国際共生社会論実習	2	14002	
キャリアプラン	2	14002	
ICTとコミュニケーションスキル(基礎)	2	14002	
ICTとコミュニケーションスキル(応用)	2	14002	
アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)	2	04002	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション入門編)	2	04002	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(モノ編))	1	24001	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(コト編))	1	24001	
アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1	24001	
アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1	24001	
アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1	24001	
未来開拓入門	1	04001	
女性のキャリアと法制度	2	14002	卒業単位に含めることができない
ダイバーシティ論	2	24002	卒業単位に含めることができない
キャリアプランと進路選択	2	14002	卒業単位に含めることができない
インターンシップⅠ	1	14001	卒業単位に含めることができない
インターンシップⅡ	2	14002	卒業単位に含めることができない
Ocha-Solution Program(基礎)	2	14002	卒業単位に含めることができない
博物館概論	2	44002	
博物館資料論	2	44002	
博物館経営論	2	44002	
博物館資料保存論	2	44002	
博物館展示論	2	44002	
博物館教育論	2	44002	
博物館実習	3	44003	
博物館情報・メディア論	2	44002	
日本の伝統芸能	2	04002	
初等解析Ⅰ	2	14002	
初等解析Ⅱ(1)	1	14001	
初等解析Ⅱ(2)	1	14001	
初等線形代数学	2	14002	
初等代数学	2	14002	
物理学概論A	2	14002	
物理学概論B	2	14002	
基礎化学A	2	14002	
基礎化学B(1)	1	14001	
基礎化学B(2)	1	14001	

授業科目名	単位	CCNum	備考
基礎生物学A	2	14002	
基礎生物学B	2	14002	
大気・海洋科学概論	2	14002	
物理学基礎実験	2	14002	
化学基礎実験	2	14002	
生物学基礎実験	2	14002	
数理基礎論	2	14002	
確率序論	2	24002	
コンピュータシステム序論	2	14002	
生命情報学概論(1)	1	24001	
生命情報学概論(2)	1	24001	
計算生物学(1)	1	24001	
計算生物学(2)	1	24001	
海外交換留学等認定科目	2～12	0400X	
Academic Writing	2	34002	
Academic Presentation	2	34002	
Pre Summer Program in English	2	14002	
Summer Program in English I	2	14002	
Summer Program in English II	2	14002	
Summer Program in English III	2	14002	
Summer Program in English IV	2	14002	
Summer Program in English V	2	14002	
Summer Program in English VI	2	14002	
グローバル・インターンシップ I	2	14002	
グローバル・インターンシップ II	2	14002	
グローバル・インターンシップ III	2	14002	
グローバル EDI I	2	14002	
グローバル EDI II	2	14002	
グローバル EDI III	2	14002	
国際交流実習 I	2	34002	
国際交流実習 II	2	34002	
Interdisciplinary Lectures in English I	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English II	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English III	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English IV	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English V	2	04002	
Interdisciplinary Lectures in English VI	2	04002	
舞台芸術実践概論 I	2	04002	
舞台芸術実践概論 II	2	04002	
文化芸術制作演習 I	2	04002	
文化芸術制作演習 II	2	04002	
物理学サプリメント	2	14002	卒業単位に含めることができない
生物学サプリメント	2	14002	卒業単位に含めることができない
英語基礎強化ゼミ	2	14002	卒業単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ R/L	2	04002	卒業単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ S/W	2	04002	卒業単位に含めることができない
IELTS 対策ゼミ R/L	2	04002	卒業単位に含めることができない
IELTS 対策ゼミ S/W	2	04002	卒業単位に含めることができない
企画・運営力養成講座	2	04002	卒業単位に含めることができない
中国語力強化ゼミ I	2	24002	卒業単位に含めることができない
中国語力強化ゼミ II	2	24002	卒業単位に含めることができない

教職課程科目

授業科目名	単位	CCNum	授業科目名	単位	CCNum
教職概論(1)	1	44001	総合的な学習の時間の理論と方法	1	44001
教職概論(2)	1	44001	特別活動の理論と方法	2	44002
教育思想概論(1)	1	11301	教育方法学概論(1)	1	11301
教育思想概論(2)	1	11301	教育方法学概論(2)	1	11301
教育史概論(1)	1	11301	教育方法論	1	44001
教育史概論(2)	1	11301	ICT活用の理論と方法	1	44001
教育原論(思想・歴史)(1)	1	44001	生徒指導と進路指導の理論と方法	2	44002
教育原論(思想・歴史)(2)	1	44001	学校カウンセリング	2	44002
教育・発達心理学概論(1)	1	11301	事前・事後指導(中高)	1	44001
教育・発達心理学概論(2)	1	11301	事前・事後指導(小中)	1	44001
教育心理	2	44002	教育実習(中高)	1、2 又は4	44001
特別支援教育概論(1)	1	11301			44002
特別支援教育概論(2)	1	11301			44004
特別支援教育の理論と方法	1	44001	教育実習(小中)	4	44004
教育社会学概論(1)	1	11301	栄養教育実習	2	44002
教育社会学概論(2)	1	11301	教職実践演習	2	44002
教育制度概論	2	11302	教職実践演習(栄養教諭)	2	44002
教育原論(社会・制度)(1)	1	44001	初等科教育法(国語)	2	44002
教育原論(社会・制度)(2)	1	44001	初等科教育法(社会)	2	44002
教育課程概論(1)	1	11301	初等科教育法(算数)	2	44002
教育課程概論(2)	1	11301	初等科教育法(理科)	2	44002
教育課程論	2	44002	初等科教育法(生活)	2	44002
家庭科教育法Ⅰ	2	44002	初等科教育法(音楽)	2	44002
家庭科教育法Ⅱ	2	44002	初等科教育法(図画工作)	2	44002
家庭科教育法Ⅲ	2	44002	初等科教育法(家庭)	2	44002
家庭科教育法Ⅳ	2	44002	初等科教育法(体育)	2	44002
道德教育の理論と方法	2	44002	初等科教育法(外国語)	2	44002

Ⅲ

授業科目一覧

2

専門教育科目
生活科学部

外国人留学生特別科目

授業科目名	単位	CCNum
日本語演習ⅠA	2	11202
日本語演習ⅠB	2	11202
日本語演習ⅡA	2	21202
日本語演習ⅡB	2	21202
日本語演習ⅢA	2	21202
日本語演習ⅢB	2	21202
日本語演習ⅣA	2	21202
日本語演習ⅣB	2	21202
日本語演習ⅤA	2	21202
日本語演習ⅤB	2	21202
日本事情演習ⅠA	2	11202
日本事情演習ⅠB	2	11202
日本事情演習ⅡA	2	21202

授業科目名	単位	CCNum
日本事情演習ⅡB	2	21202
日本事情演習ⅢA	2	21202
日本事情演習ⅢB	2	21202
日本事情演習ⅣA	2	21202
日本事情演習ⅣB	2	21202
日本事情演習ⅤA	2	21202
日本事情演習ⅤB	2	21202
総合日本語サマープログラムⅠ	2	11202
総合日本語サマープログラムⅡ	2	11202
総合日本語Ⅰ	2	11202
総合日本語Ⅱ	2	11202

1. 概要

固定的な性別意識や性別役割観念に捉われず、ひとりひとりがその個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に多様な女性と多様な男性とが平等に参画できる社会の実現（ジェンダー平等）は、私たちの共通の願いといえます。

全学ジェンダー学際カリキュラムは、お茶の水女子大学で開講されているジェンダーに関する科目を体系化し、カリキュラム（科目群）として提示することにより、全学部の学生が、学部・学科を超えて、自分の関心を起点に、学際的・系統的に様々な角度からジェンダーや性・性別について学習することを目的として、2019年度から設置されました。

この科目群から一定の科目数を履修した学生は、履修証明（サーティフィケート）をうることができ、将来さまざまな分野で活躍するときに、本学でジェンダーに関する幅広い知識を系統的に身につけ、男女共同参画を推進できる人物であることを示すことができます。

大学院に進学しジェンダーに関する問題を専攻する学生にとっては、多領域におけるジェンダーの学習をすすめ、ジェンダー研究の土台を築くことができます。また、学士・修士一貫トラックや大学院科目履修制度をつかって、大学院科目（とくに男女共同参画リソース副専攻プログラム科目）を受講することも可能です。

自分の関心のある科目から履修を始めて、ジェンダー学の扉を開きましょう。さまざまな分野に関連するジェンダー学の広がりや自分とのつながりが見つかるはずです。

2. 対象科目と履修証明

基幹科目群と連携科目群で構成されます。各年度に開講される対象科目は、ウェブシラバスの「資格別検索」のページで確認できます。

①基幹科目群LA「ジェンダー」と「色・音・香」は、文理融合リベラルアーツ（LA）の科目群で、ジェンダーの観点から社会・文化・技術のあり方を学習する科目です。（主に1～2年次に履修します）

②基幹科目群専門科目は、ジェンダーをひとつの軸とする専門科目で、人文・社会科学の専門分野におけるジェンダーの問題や位置づけを学習できる科目です。（2年次以降に履修します）

③基幹科目群全学共通科目はジェンダード・イノベーションへの理解を深め、そこから生みだされたアイデアを社会実装する方法を学びます。

④連携科目群は、授業の一部でジェンダーや性・性別が扱われる科目で（2回以上）、人文・社会・自然の諸分野を学びながら、ジェンダーとの関わりについても学習できる科目です。（2年次以降に履修します）

科目群から一定の科目数（必修1科目「ジェンダー論」+基幹科目5科目以上+連携科目4科目以上=計10科目以上）を履修すると、卒業時に履修証明書が授与されます（成績証明書に記載します）。履修証明（サーティフィケート）をめざす人は、2年次終了までに事前申請をしてください。



基幹科目群 20科目 (ジェンダーをひとつの軸とする)		連携科目群 32科目 (ジェンダーや性・性別について複数回扱う)		
専門科目	LA「ジェンダー」④	LA「生命と環境」	生活科学部専門科目	文教育学部専門科目
()内は開講学部・プログラム *は、隔年開講	(いずれも隔年開講)	(毎年開講)	()内は開講プログラム *は、隔年開講	()内は開講プログラム *は、隔年開講
ジェンダー論(必修)(生活科学・生活社会科学)	1 女性史・男性史とジェンダー	1 生命の科学	女性政策論*	比較ジェンダー史(比較歴史学)*
比較ジェンダー論(生活科学・生活社会科学&文教育グロ文)*	2 グローバル経済とジェンダー	4 生物人類学	生活経営学* 家政経済学概論	社会地理学(地理環境学)*
政治とジェンダー(生活科学・生活社会科学)*	3 文化メディアとジェンダー		家族社会学(1)(2)	美術史学特殊講義Ⅰ～Ⅲ(哲学・倫理学・美術史)
アジア社会とジェンダーⅠ(*・Ⅱ(文教育・グロ文))	4 アートとジェンダー		家族関係論	日本語学特殊研究(日本語・日本文学)
ジェンダー社会論(文教育・社会学)*	5 宗教文化とジェンダー		生活経済学* 労働経済学総論 (生活社会科学)	日本近代文学論特殊研究(近代)(日本語・日本文学)
法女性学(生活科学・生活社会科学)*	6 グローバル化/ローカル性とジェンダー		服飾史資料論(1)(2)(生活文化学)	英語圏言語文化研究Ⅰ(英語圏言語文化)
	8 政治・政策とジェンダー		医療と健康*(食物栄養学)	中国事情(中国語圏言語文化)*
	9 開発とジェンダー		環境心理学(人間・環境科学)	教育開発概論(1)(2)、 教育史概論(1)(2)(教育科学)
	10 テクノロジーとジェンダー			幼児教育学原論(1)(2) 幼児教育方法学概論(1)(2)(子ども学)
	LA「色・音・香」			社会意識論*、 ジェンダー論演習Ⅰ、Ⅱ(社会学)*
	5 心の健康とジェンダー			表現行動論Ⅰ、Ⅱ(舞踊教育学)*
	全学共通科目			グローバル化と労働Ⅰ、Ⅱ(グロ文)
	アントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション入門編)			
	アントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション実践編(モノ編))			
	アントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション実践編(コト編))			

1. 概要

データサイエンスとは、データを処理し分析することで科学や社会に有益な新しい知見を引き出す学問や方法論の総称です。データサイエンスは統計的あるいは計算的（情報处理的）手法にもとづいてデータを分析する手法であると同時に、人間的視点や専門知識と照合しながら知見を引き出す手法でもあります。このことからデータサイエンスは、文系・理系を問わず幅広い学問領域において客観性の高い知見を見出す方法論であると同時に、卒業後多様な職種において業務上の問題解決の有用な方法論となり得ます。このような考え方から本カリキュラムでは、全ての学生が統計学や情報処理学の基礎的応用的な知識を修得し、それぞれの専門分野でデータを使いこなす人材になるための科目群を提供します。

このカリキュラムは、データサイエンスに関する開講科目を体系化しカリキュラム（科目群）として提示することにより、全学部の学生にデータサイエンスへの関心を喚起し、これに関心をもつ学生が学部・学科を超えて、学際的・系統的に履修することを目的としています。また文系・理系を問わず多様な分野で有用なスキルとなるデータサイエンスを全学的に普及することで、卒業研究や大学院進学後の研究においてデータにもとづいた客観的な研究手法を学ぶことができます。

2. 対象科目

必修科目群・基幹科目群・連携科目群で構成されます。

①必修科目群「文理融合データサイエンスⅠ・Ⅱ」はデータサイエンスの核となる統計学や情報処理などの概要を平易に履修し、専門分野への応用例として人文学領域のデータ分析を体験する全学科目（コア科目）です。

②基幹科目群は、データサイエンスの基礎的なスキルとなる数学・情報処理・プログラミングなどに関するコア科目や全学共通科目で構成されます。また「文理融合データサイエンスⅢ・Ⅳ」は、特に生活科学・社会科学を専攻する学生が卒業研究でデータを駆使するために必要な知識・スキルを修得する科目です。

③連携科目群は各学術分野のデータ関連科目で構成されます。

- 社会科学・生活工学・理学などの各分野において、データを駆使した卒業研究を目指す学生は、連携科目群に含まれる専門科目を主に履修しつつ、必要に応じて基幹科目群を履修することで学力を高める。
- 最先端の本格的なデータサイエンティストを志願する学生は、数学・情報系の科目を積極的に履修することで、データサイエンスの核となる分野での専門性を高める。
- 専門に関わる演習・実習科目を履修することで、データサイエンスとその活用についての実践的能力を高める。

必修科目群

【コア科目】

文理融合データサイエンスⅠ・Ⅱ（情報科目）：Ⅰ・Ⅱとも必修

※履修指導により、データサイエンス（基礎）・（中級）・（上級）のうち2科目（4単位）の単位を修得している場合は、文理融合データサイエンスⅠ・Ⅱの単位を修得したものととして取り扱う。

基幹科目群

【コア科目】計16科目

- ・基礎線形代数学／基礎微分積分学／統計学／文化情報工学総論／データサイエンス（基礎）・（中級）・（上級）（以上基礎講義）
- 情報科学(1)(2)／情報処理学(1)(2)／メディアリテラシ(1)(2)／プログラミング演習1、2／情報学演習1、2／
- 文理融合データサイエンスⅢ・Ⅳ（以上情報科目）

※以下の専門科目については、基幹科目群を履修したこととして取り扱う。ただし、履修指導により文理融合データサイエンスⅠ・Ⅱの代わりにデータサイエンス（基礎）・（中級）の単位を修得している場合は、基礎科目群の科目にてカウントしない。
線形代数学Ⅰ／微分積分学Ⅰ／統計学（人間・環境科学科専門科目）／数学物理学演習Ⅰ・Ⅱ

【全学共通科目】計2科目

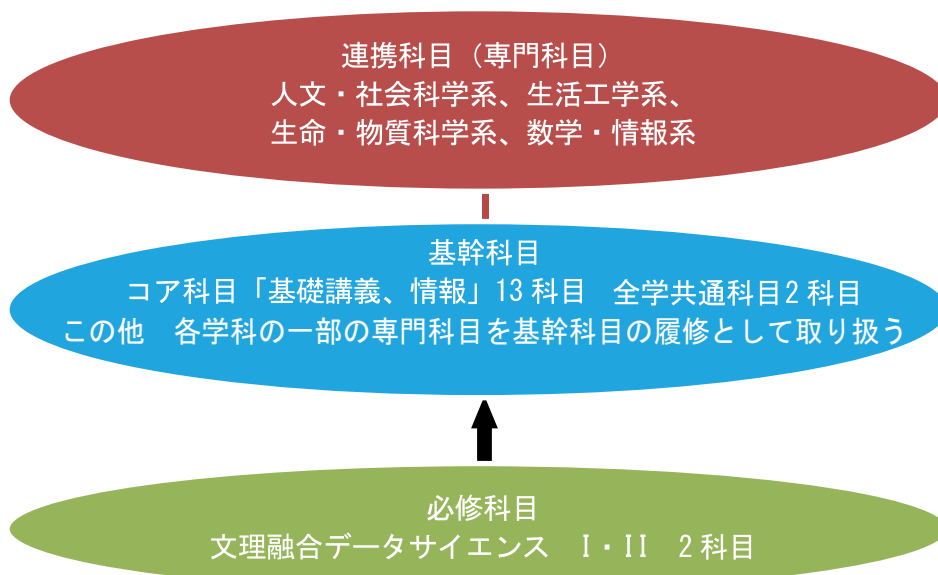
- ・生命情報学概論(1)(2)／計算生物学(1)(2)

連携科目群（専門科目）

	人文・社会科学系	生活工学系	生命・物質科学系	数学・情報系
文教育学部	地理学分析基礎演習Ⅰ（*）			人文情報学研究
	地理学分析基礎演習Ⅱ（*）			人文情報学演習
	地理情報システム演習Ⅰ（*）			データベース論
	地理情報システム演習Ⅱ（*）			
	人間科学論			
	現代社会論			
	社会調査の設計と実施			
	社会調査法Ⅰ（*）			
	社会調査法Ⅱ（*）			
	学校社会学特殊講義			
教育社会学特殊講義				
生活科学部	応用生活統計学(1)(2)（*）	情報工学演習(1)(2)（*）	BIM演習（*）	システム工学
	社会統計学Ⅰ（*）	計測工学（*）	デザイン工学演習(1)(2)（*）	応用統計学
	社会統計学Ⅱ(1)(2)（*）	人間工学（*）		統計学 (人間・環境科学科専門)
	心理統計法（心理学統計法）	電子工学（*）		
	生活調査法（*）	環境評価学		
	生活社会調査実習（*）	栄養疫学・統計（**）		
理学部			物理実験学(1)(2)	グラフ理論
			計算物理学講義・演習(1)(2)	数理統計学
			実験値解析法	確率序論
			計算化学	データ構造とアルゴリズム
			生物統計学	コンピュータシステム序論
			生命情報プログラミング演習	データ解析序論
			計算生物学(1)(2)	マルチメディア
				情報理論
				情報と職業
				情報倫理
			環境情報論	

（*）：演習・実習科目（履修の都合上、受講者数を制限する場合があります。）

（**）：食物栄養学科に在籍する学生のみ履修可能



3. 履修証明（サーティフィケート）

科目群から一定の科目数（必修2科目4単位＋基幹・連携16単位以上＝計20単位以上）を履修し、履修証明申請書を提出した学生には、卒業時に履修証明書を授与し、成績証明書に記載されます。履修証明（サーティフィケート）をめざす人は、2年次終了までに事前申請をしてください。

5

全学実学型 EDI 学際カリキュラム

1. 概要

EDIとはEquity（公平性）、Diversity（多様性）、Inclusion（包摂性）の略で、「実学型EDI」とはインターンシップを含む科目群の中で人々の様々なバックグラウンドに対する公平性、多様性、包摂性を理解するグローバルリーダーを実学の視点から育成することを目的とする学際カリキュラムです。



EDI教育を積極的に進める海外協力大学（協定校）と連携し、それら大学からの留学生とともに、またこれら大学へ留学しながら、グローバル・スタディーズ、キャリアデザイン、ジェンダーなどについての幅広い知見やスキルを身につけるとともに、豊かな語学力を育みます。授業は、海外受入留学生を対象とした選択特別科目群の科目を除き、英語で開講されます。

2. 対象科目

「領域別科目」と「留学先認定科目」から構成されます。

【1】領域別科目

下記①～④それぞれから1科目以上履修する必要があります。ただし、一部の授業科目は開講しない年度もあります。

① インターンシップ科目（1科目以上履修）

- グローバル・インターンシップI (Global Internship I、2単位)
- グローバル・インターンシップII (Global Internship II、2単位)
- グローバル・インターンシップIII (Global Internship III、2単位)

② ジェンダー領域科目（※の授業科目を含め1科目以上履修）

- テクノロジーとジェンダー (Technology & Gender、2単位)
- 英文学特殊講義VI (Advanced Lecture in English Literature VI、2単位)
- 英語圏言語文化研究III (Lecture on Anglophone Literature and Culture III、2単位)
- 生活経営学 (Family Resource Management、2単位、英語開講の年度のみ)
- 比較ジェンダー論 (Comparative Women's Studies、2単位)
- ※ Summer Program in English I-III (ジェンダー論) (2単位) ^{注1)}
- グローバル EDI I (Global EDI I、2単位) ^{注2)}

注1) 毎年度、I, II, IIIのうちいずれか1科目が開講されます。

注2) 留学先でジェンダーに関する授業科目を単位取得した場合認定します。

③ グローバル3C領域科目（※の授業科目を含め1科目以上履修）

- 文化と人間関係I (Culture and Human Relations I、2単位)
- グローバル化と労働I (Globalization and Labor I、2単位)
- 文化変動論I (Cultural Transformations、2単位)
- 地域開発論I (Regional Development I、2単位)
- 平和構築論I (Peace Building I、2単位)
- ※ グローバル化と言語教育 I (Language Education in Globalizing World I) (2単位)
- グローバル EDI II (Global EDI II、2単位) ^{注3)}

注3) 留学先でグローバル3Cに関する授業科目を単位取得した場合認定します。

④ キャリアデザイン領域科目（※の授業科目を含め1科目以上履修）

- グローバル・リーダーシップ実習I (Practicum for Global Leadership I) (2単位)
- パーソナル・ブランディング (Personal Branding、2単位)
- ファシリテーション (Facilitation、2単位)
- ※ Summer Program in English IV-VI (リーダーシップ論) (2単位) ^{注4)}
- グローバル EDI III (Global EDI III、2単位) ^{注5)}

注4) 毎年度、IV, V, VIのうちいずれか1科目が開講されます。

注5) 留学先でキャリアデザインに関する授業科目を単位取得した場合認定します。

【2】 留学先認定科目（1科目以上読み替え）

EDIプログラムは留学先の海外協力大学（3を参照）で上記①～④に関連がある授業科目の単位を取得し、1科目以上（最大4科目8単位）を留学先認定単位として読み替える必要があります。そのため、留学先の海外協力大学で履修する授業科目が留学先認定科目として読み替え可能なのか事前に相談をしてください。

グローバルEDI I (Global EDI I、2単位)

グローバルEDI II (Global EDI II、2単位)

グローバルEDI III (Global EDI III、2単位)

グローバル・インターンシップIII (Global Internship III、2単位)

3. 海外協力大学（派遣大学、2023年4月現在）

イーストアングリア大学（英国、協定校）

シドニー工科大学（オーストラリア、協定校）

セントメアリーズ大学（米国、協定校）

プレシア大学（カナダ、協定校）

4. 履修証明（サーティフィケート）

本カリキュラムには毎年度定員が定められていますので、履修を希望する本学学生は、所定の手続きを済ませ、申請してください。選抜後、科目群から一定の科目数（必修科目（赤字）6単位+選択科目14単位以上=計20単位以上）を履修し、かつ指定の大学に指定の期間留学した学生には、卒業時に履修証明書を授与し、成績証明書に記載されます。本カリキュラムの履修証明（サーティフィケート）をめざす方は事前に申請をしてください。海外からの留学生の場合には別途指定します。

表 履修科目の領域別一覧

領域	科目名	
インターンシップ	グローバル・インターンシップI	1科目以上履修
	グローバル・インターンシップII	
	グローバル・インターンシップIII	
ジェンダー	テクノロジーとジェンダー	1科目以上履修
	英文学特殊講義VI	
	英語圏言語文化研究III	
	生活経営学	
	比較ジェンダー論	
	※ Summer Program in English I-III (ジェンダー論)	
	グローバル EDI I	
グローバル3C	文化と人間関係 I	1科目以上履修
	グローバル化と労働 I	
	文化変動論 I	
	地域開発論 I	
	平和構築論 I	
	※グローバル化と言語教育 I	
	グローバル EDI II	
キャリアデザイン	グローバル・リーダーシップ実習I	1科目以上履修
	パーソナル・ブランディング	
	ファシリテーション	
	※ Summer Program in English IV-VI (リーダーシップ論)	
	グローバル EDI III	
留学先認定科目	グローバル EDI I	1科目以上履修
	グローバル EDI II	
	グローバル EDI III	
	グローバル・インターンシップIII	

各領域の授業科目を1科目以上履修し合計20単位以上取得する必要がある。

※は必修科目。

「自分が何をめざし、そのために何を学ぶのかを、みきわめ実行する力」「社会的課題を認識し、目標を設定して成果をあげる力」——これらは、お茶の水女子大学の教養教育や専門教育、さらには課外活動などを含めた大学生活全体で養われるものです。こうした力を、自分にあった仕事を見つけ就職する「就業力」として開花させていくことが求められています。

1. コンピテンシーの開発

「コンピテンシー」とは、問題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせ成果をあげる包括的な能力とその行動特性のことです。OECD（経済協力開発機構）が提案しているキー・コンピテンシーの枠組みをもとに、＜双方向的活動＞＜自律的活動＞＜協働的活動＞という3分野のコンピテンシー（図1）を開発しました。状況に応じて適切に組み合わせ、成果をあげる力を養います。

コンピテンシー		課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせ成果をあげる包括的な能力とその行動特性
双方向的活動	コミュニケーション力	「言語・非言語」の双方向的な活用に関するコンピテンシー。伝えたいことを組み立て論理的に表現する力、表情や態度等の非言語から聴き手を理解する力、数値・図表等の数量情報を解釈・表現する力など。
	知性・思考力	「知識・情報」の双方向的な活用に関するコンピテンシー。知識・情報を得ることに対しモチベーションを高める力、問題分析、問題解決にむけた論理的な思考力、新しいアイデアを出す企画力など。
	ICT活用力	「ICT（情報通信技術）」の双方向的な活用に関するコンピテンシー。情報のインプットからアウトプットまでのプロセスにおいて、目的に合わせてICTを活用する力、情報社会への適応力など。
自律的活動	自己管理能力	計画実行前の「自己管理」に関するコンピテンシー。自分自身や自分の置かれている状況を俯瞰する力、自分の資源や経験を次の行動に活用する力、長期的な視点で行動する力など。
	計画実行力	「計画・実行」の各段階に関するコンピテンシー。主体的に活動の意味を見出す力、計画・実行に移し対処する力、変化に応じてしながら目的を果たす力など。
	社会性	「社会」と「自己」との関わり方に関するコンピテンシー。所属する組織や社会の中で、規律を守り、義務を果たす力、権利を活用・保守する力、自ら貢献する場を求め取り組む力など。
協働的活動	関係構築力	「チーム形成」に関するコンピテンシー。チームワークが求められる場で、メンバーと良好な関係を作るための態度や心遣い、多様な価値観を受け入れる力など。
	協調性	「メンバーシップ」に関するコンピテンシー。チーム全体の状況や役割を理解する力、状況に応じて助け合う力、必要に応じてチームのモチベーションを高める力など。
	統率力	「リーダーシップ」に関するコンピテンシー。対立や不調和の場面で、ストレスに対処する力、ディスカッションや交渉・説得などで、チームを調整し、1つの方向にまとめていく力など。

図1 コンピテンシー

これらのコンピテンシーを開発していくために2つの学修の柱があります。自分の適性や能力を冷静にみきわめて将来像を描くための「コンピテンシー・チェック・プログラム」と、主体的に授業や学生生活に取り組むための思考力や行動力を育てる「キャリアデザインプログラム科目群」です。

「自分にはどのような適性や能力があるのか」「それらを活かすにはどの分野にすすむべきか」「社会からはどのような課題解決が求められているのか」「大学で学ぶ内容をどう社会で活用していけばよいのか」といった問いを考えながら、将来の生活や仕事を見すえ自ら意欲的・計画的に大学での学修を促していくのがねらいです。

コンピテンシー開発の基本にあるのは、「自身で深く考え、行動する」こと。成熟化した複雑な社会では、単純な回答やこれまで通りの知識や方法では立ち行かないことが多くあります。自主的に、そして人々と協力して、経験から学びながら、深く考え行動することが大切です。キャリアデザインのために、「計画：課題をもとに目標を設定する」→「学習：正課活動・正課外活動に参加する」→「分析：コンピテンシーを自己分析する」→「評価：分析をもとに行動特性を整理し、課題を抽出する」というサイクル（図2）を想定しています。このサイクルを繰り返すことで、コンピテンシーを開発していきます。

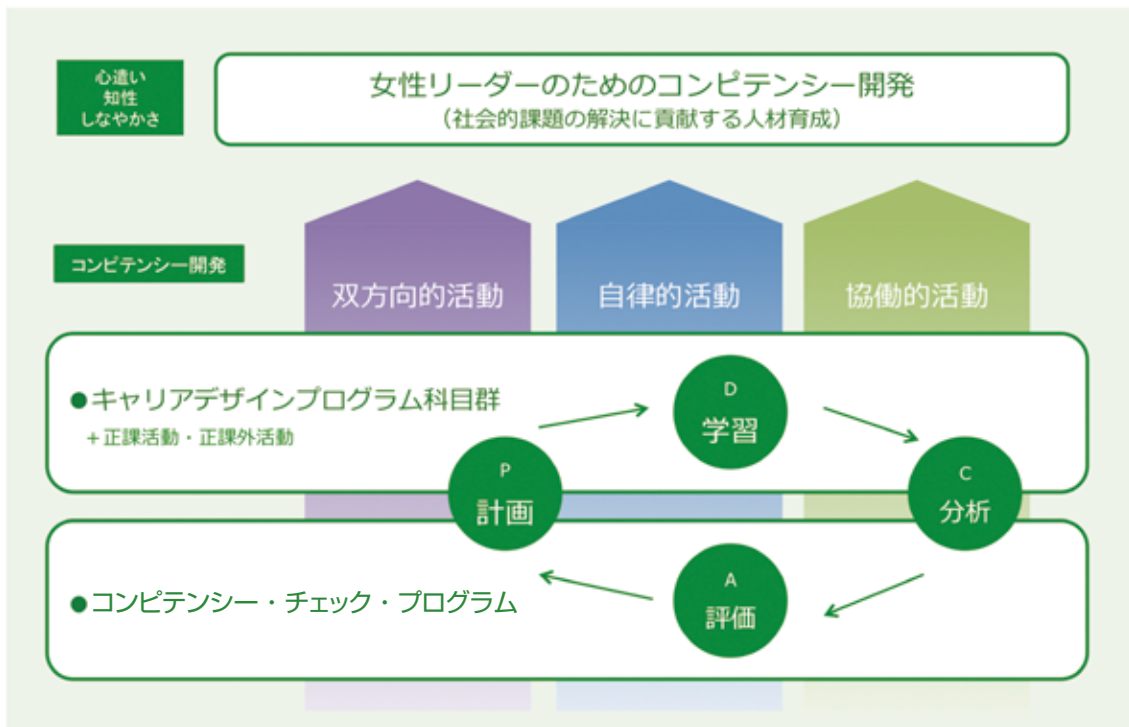


図2 コンピテンシー開発のサイクル

学生の皆さん一人一人が、在学中の折々にコンピテンシーを自己評価し、そこから計画（P）→学習（D）→分析（C）→評価（A）のコンピテンシー開発サイクルを回していくことで、コンピテンシーを高めていくことを支援するコンピテンシー・チェック・プログラムがあります。このプログラムは入学後1年次の早いうちにコンピテンシー・チェックを行い、スタート地点の確認と目標設定を行うことから始まります。2023年度から新しい枠組みのコンピテンシー・チェックを導入する予定です。

2. キャリアデザインプログラム科目群

キャリアデザインプログラム科目群は、「基幹科目群」(表1)と「関連科目群」(表2)から構成され、コンピテンシーの分野ごとに配置されています。

「基幹科目群」は、大学で将来のキャリアを視野にいれて学ぶための視点を得る導入科目という位置づけもっています。大学から社会を見渡す「窓」の役割をもち、社会で必要とされるコンピテンシーとそれを伸ばす方法を学びます。基幹科目群の特徴は、キャリアデザインに直接関わる課題や、実社会から提起される課題を、多く取り扱っていることです。実際に学び自身のキャリアプランを考える、企業などからゲストを招き実際の課題制作を行う、IT機器を活用してグループワークを行う、といった課題解決型学習(Project Based Learning, PBL)の手法を積極的に導入し、学生のみなさんが主体的に学ぶことを動機づけます。

「関連科目群」は、教養教育・専門教育の中からキャリアデザインに関わりの深い科目として全学から提供されたもので、基幹科目群との相乗的な学びとして位置づけています。それぞれの科目は、専門的な内容を扱うとともに、たとえばグループで課題制作をする方法を学ぶといった、包括的なコンピテンシー育成にもかかわっています。

表1 キャリアデザインプログラム「基幹科目群」

科目名	単位数	履修年次	CCNum	科目区分	卒業単 位算入	コンピテンシーの分野/科目の目的	備考
お茶の水女子大学論	2	I~IV	04002	コア科目 (基礎講義)	可	プログラムで育成する就業力を 方向づける	
コンピテンシー基礎論	2	I~IV	04002	コア科目 (基礎講義)	可	プログラムで育成する就業力を 方向づける	
コンピテンシー演習	2	I	04002	コア科目 (LA)	可	プログラムで育成する就業力を 方向づける	
パーソナル・ブランディング	2	I	14002	全学共通科目	可	双方向的 活動	言語・図表の活用力 英語開講
ことばと世界 12	2	*I~IV	04002	コア科目 (LA)	可		知識・情報の活用力 2024年度開講
ICTとコミュニケーションスキル (基礎)	2	I~IV	14002	全学共通科目	可		テクノロジーの基礎的 活用力
ICTとコミュニケーションスキル (応用)	2	I~IV	14002	全学共通科目	可	テクノロジーの応用的 活用力	2024年度開講
ファシリテーション	2	I~IV	24002	全学共通科目	可	自律的 活動	大局的な行動力 英語開講
キャリアプラン	2	I~IV	14002	全学共通科目	可		人生の設計・実行力
女性のキャリアと経済	2	I~IV	14002	全学共通科目	可		
未来開拓入門	1	I~II	04001	全学共通科目	可	協働的 活動	自己理解と人間関係構 築力
ダイバーシティ論	2	I~IV	14002	全学共通科目	不可		人間関係の構築力
インターンシップ I	1	I~IV	14001	全学共通科目	不可	実践	知識や技能を適切に組 み合わせ、実践する
インターンシップ II	2	I~II	14002	全学共通科目	不可		
キャリアプランと進路選択	2	I~IV	14002	全学共通科目	不可		

表2 キャリアデザインプログラム「関連科目群」

科目名	単位	履修年次	CCNum	コンピテンシーの分野	科目区分	
色・音・香4 コンピュータが創る色と音	2	* I～II	04002	双方向的活動	コア科目 (LA)	
ビジネス英語 I(1)	1	II～IV	24001		コア科目 (外国語)	
ビジネス英語 I(2)	1	II～IV	24001		コア科目 (外国語)	
ビジネス英語 II(1)	1	II～IV	24001		コア科目 (外国語)	
ビジネス英語 II(2)	1	II～IV	24001		コア科目 (外国語)	
英語プレゼンテーション I(1)	1	III～IV	24001		コア科目 (外国語)	
英語プレゼンテーション I(2)	1	III～IV	24001		コア科目 (外国語)	
英語プレゼンテーション II(1)	1	III～IV	24001		コア科目 (外国語)	
英語プレゼンテーション II(2)	1	III～IV	24001		コア科目 (外国語)	
地理情報システム演習 I	2	II～III	21102		専門教育科目 (人文科学/地理)	
日本語学概論 I	2	I～IV	11202		専門教育科目 (言語文化/日本語)	
日本語学概論 II	2	I～IV	11202		専門教育科目 (言語文化/日本語)	
中国語コミュニケーション・スキル	2	II～IV	21202		専門教育科目 (言語文化/中国語)	
中国語作文基礎演習	2	II～IV	31202		専門教育科目 (言語文化/中国語)	
中国語作文応用演習	2	II～IV	31202		専門教育科目 (言語文化/中国語)	
社会調査法 I	2	II～IV	31302		専門教育科目 (人間社会/社会)	
社会調査法 II	2	II～IV	31302		専門教育科目 (人間社会/社会)	
グローバル化と言語教育 I(1)	1	II～IV	21501		専門教育科目 (グローバル文化学環)	
グローバル化と言語教育 I(2)	1	II～IV	21501		専門教育科目 (グローバル文化学環)	
実験値解析法	2	III～IV	32302		専門教育科目 (化学)	
比較文化論基礎演習	2	III	33302		専門教育科目 (人間生活/生文)	
マクロ経済学入門	2	I～IV	04002		自律的活動	コア科目 (基礎)
情報処理学(1)	1	I～IV	14001			コア科目 (情報)
情報処理学(2)	1	I～IV	14001			コア科目 (情報)
時事英語 I(1)	1	II～IV	24001	コア科目 (外国語)		
時事英語 I(2)	1	II～IV	24001	コア科目 (外国語)		
時事英語 II(1)	1	II～IV	24001	コア科目 (外国語)		
時事英語 II(2)	1	II～IV	24001	コア科目 (外国語)		
NPO 入門	2	I～IV	14002	全学共通科目		
社会保障論	2	I～IV	13302	学部共通科目 (生活科学)		
地理学フィールドワーク	2	I～III	21102	専門教育科目 (人文科学/地理)		
中国事情	2	II～IV	21202	専門教育科目 (言語文化/中国語)		
生活と金融	2	I～IV	23302	専門教育科目 (人間生活/生社)		
国際金融論	2	II～IV	21502	専門教育科目 (グローバル文化学環)		
生活世界の安全保障 23 「NPO インターンシップ」(実習)	2	* I	04002	コア科目 (LA)		
総合コース 事業構想総論	2～4	I～IV	04002	コア科目 (基礎)		
地域研究方法論	2	II～IV	21502	専門教育科目 (グローバル文化学環)		
情報と職業	2	III～IV	22502	専門教育科目 (情報)		
人体計測学演習(1)	2	II	23202	専門教育科目 (人間環境)		
人体計測学演習(2)	2	II	23202	専門教育科目 (人間環境)		

* コア科目 (LA) の履修年次については、卒業までの4年間に履修可能ですが、1・2年次のうちに履修するのが効率的です。

IV

諸資格の取得

1	教育職員免許状	205
2	博物館学芸員	205
3	日本語教員	207
4	社会調査士	208
5	栄養士	209
6	食品衛生管理者及び食品衛生監視員	209
7	管理栄養士	210
8	建築士	210
9	公認心理師	213

IV 諸資格の取得

本学では、各種教育職員免許状、博物館学芸員・社会調査士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格、管理栄養士・一級建築士・二級建築士の国家試験受験資格を取得することができます。取得のためには、卒業に必要な授業科目のほかに、それぞれ指定された授業科目の単位を修得し、所定の手続きを経ることにより、それぞれの資格等を取得することができます。

【取得できる資格一覧】

学部	学科等	中学校・高等学校教諭（一種）										小学校教諭（一種）	幼稚園教諭（一種）	栄養教諭（一種）	博物館学芸員	社会調査士	食品衛生監視員	食品衛生管理者	栄養士	管理栄養士	一級・二級建築士		
		国語	社会	地理歴史	公民	数学科	理科	音楽	保健体育	家庭	情報											英語	中国語
文教育学部	人文科学科		○	○	○								*			△	△						
	言語文化学科	○										○	○	*		△	△						
	人間社会科学科		○		○									*	○	△	△						
	芸術・表現行動学科							○	○					*		△	△						
理学部	数学科					○								*		△	△						
	物理学科						○							*		△	△						
	化学科						○							*		△	△						
	生物学科						○							*		△	△						
	情報科学科					○					○					△	△						
生活科学部	食物栄養学科														○	△	△	△	△	△	□		
	人間・環境科学科															△	△						□
	人間生活学科									○				*		△	△						
	心理学科															△	△						

○ = 免許、△ = 資格、□ = 国家試験受験資格

注) ※地理歴史、公民、情報は、高等学校教諭（一種）のみ

※一級・二級建築士については、P.210~P.212参照

※*のある学科では一定の要件のもとに小学校教諭一種免許状を取得することができる（要確認）

1 教育職員免許状

本学で教員免許状を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許関係法令（「教育職員免許法」「同法施行規則」「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」）が定めるそれぞれの免許状に必要な科目の単位を併せて修得する必要があります。

食物栄養学科の学生は、栄養教諭一種免許状を取得することが可能です。

なお、教職課程の説明会を何度か行うので、必ず参加してください。その他不明な点は、学務課教職担当に問い合わせてください。

基礎資格・最低修得単位数・介護等体験

教育職員免許状の種類	基礎資格	教育職員免許法に定められた単位数						合計単位数	介護等体験
		教科及び教科の指導法に関する科目 (幼稚園教諭)領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目			
幼稚園教諭	専修	修士の学位を有すること。	16	10	4	7	38	75	不要
	一種	学士の学位を有すること。	16	10	4	7	14	51	不要
小学校教諭	専修	修士の学位を有すること。	30	10	10	7	26	83	*
	一種	学士の学位を有すること。	30	10	10	7	2	59	必要
中学校教諭	専修	修士の学位を有すること。	28	10	10	7	28	83	*
	一種	学士の学位を有すること。	28	10	10	7	4	59	必要
高等学校教諭	専修	修士の学位を有すること。	24	10	8	5	36	83	不要
	一種	学士の学位を有すること。	24	10	8	5	12	59	不要
栄養教諭	一種	学士の学位を有すること、かつ管理栄養士の免許を受けていること又は指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、栄養士の免許を受けていること。	4	8	6	4	0	22	不要

注) ① 介護等体験の「*」は、既に小学校又は中学校の免許状を取得している者（取得要件を満たしている者を含む。）は不要。

② 「修士の学位を有すること」には、大学の専攻科又は文部科学大臣の指定するこれに相当する課程に一年以上在学し、30単位以上修得した場合を含むものとします。

③ この表に規定する最低単位数の他に日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション4単位及び情報機器の操作2単位を修得することを必要とします。

※教育職員免許状取得の方法、授業科目等の詳細については、別冊「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」を参照してください。

2 博物館学芸員

博物館学芸員の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、博物館法施行規則に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて修得する必要があります。したがって資格の取得を希望するものは、低学年次から計画的に履修する必要があります。なお、選択科目は文教育学部（地理環境学生プログラムを除く）及び生活科学部人間生活学科、心理学科の学生は文化史・美術史・考古学・民俗学の中から、文教育学部人文科学地理環境学主プログラム選択学生は文化史・美術史・考古学・民俗学・地学の中から選択して履修する。

理学部及び生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科の学生は物理学・化学・生物学・地学の中から選択して履修してください。

博物館学芸員として就職する際には、本学が発行する卒業証明書及び学芸員の資格認定に関する科目の単位修得証明書を任命権者（都道府県及び市町村の教育委員会等、博物館の管理機関）に提出する必要があります。

なお、本学における学芸員（博物館）の資格取得のための履修は、原則学部学生を対象としています。ただし、履修人数に余裕がある場合などに限っては、大学院生も履修できることがありますので、希望者は学務課まで相談してください。

博物館学芸員の資格を取得するための履修科目

	博物館法施行規則に定める科目	単位数	本学における開講科目	単位数
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
	博物館概論	2	博物館概論	2
	博物館経営論	2	博物館経営論	2
	博物館資料論	2	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2	博物館展示論	2
	博物館教育論	2	博物館教育論	2
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2
	博物館実習	3	博物館実習	3
	計	19	計	19
選択科目	文化史	左記系列の中より2系列以上にわたって8単位以上を選択履修すること。	文化人類学特殊講義	2
			民族誌学特殊講義	2
			日本史概説	2
			日本文化史概論	2
			アジア史概説	2
			西洋史概説	2
			日本古典文学史論(上代)	2
			◇(中古)	2
			◇(中世)	2
			◇(近世)	2
日本近代文学史論(近代)	2			
◇(現代)	2			
比較生活文化史Ⅰ(1)×2	各1			
比較生活文化史Ⅱ(1)×2	各1			
美術史			美術史学特殊講義Ⅰ～Ⅲ	} 各4
			美術史学演習Ⅰ～Ⅲ	
			形象分析学特殊講義Ⅰ～Ⅲ	
			形象分析学演習Ⅰ～Ⅲ	} 各2
			西洋美術史AⅠ～AⅢ、BⅠ～BⅢ	
			東洋美術史AⅠ～AⅢ、BⅠ～BⅢ	
工芸史	2			
生活造形史	2			
考古学			考古学通論Ⅰ	2
			考古学通論Ⅱ	2
民俗学			民俗学	2
			服飾史論(1)×2	各1
			服飾史資料論(1)×2	各1
			服飾史Ⅰ(1)×2	各1
			服飾史Ⅱ(1)×2	各1
			民俗文化史論(1)×2	各1
			民俗文化史各論	2
			歴史民俗文化論(1)×2	各1

	博物館法施行規則に定める科目	単位数	本学における開講科目	単位数
選 択 科 目	物 理 学		物理学概論 A	2
			物理学概論 B	2
			古典力学(1)(2)	各1
			電磁気学 I (1)(2)	各1
	化 学		基礎化学 A	2
			基礎化学 B(1)(2)	各1
			無機化学 I	2
			有機化学 I	2
	生 物 学		基礎生物学 A	2
			基礎生物学 B	2
			動物系統学	2
			植物系統学	2
	地 学		宇宙・地球科学	2
			大気・海洋科学概論	2
			地史・古生物学概論	2
			地球環境科学	2

3 日本語教員

日本語を母語としてではなく、第二言語として学ぶ人、例えば外国籍の人などに日本語を教える教員が、日本語教員です。社会のグローバル化の進展にともない、国内外で日本語を教える日本語教員のニーズは高まっており、日本の言語文化を教えることはもちろん、グローバル化した社会に生きる市民性を育む役割にも期待が寄せられています。

本学ではそうした社会的要請に応えるため、日本語教員の養成課程を設置しております。

この課程に従って必要な単位を修得すると、卒業後に、国内の日本語学校等の日本語教育機関にて日本語教員として働くための資格を得ることができます。本課程修了者には、学生からの申請に基づき、課程を修了したことの証明書を発行します。

本課程の主な履修者は、日本語教育副プログラムの選択者を想定していますが、当該プログラムを選択しない者でも、必要な単位を修得すれば、日本語教員となるための要件を満たすことができます。

なお、本課程は、日本語教育機関の告示基準（法務省入国管理局平成28年7月22日策定）第1条第1項第13号ロで求められた日本語教育に関する科目26単位以上を修得する教育課程です。

日本語教員の要件を満たすための履修科目

文化庁「日本語教育のための教員養成について」に示された科目区分	本学における開講科目	単位数
社会・文化・地域	第二言語教授法演習Ⅱ	2
	子どもの日本語教育学概論	2
	多文化共生論	2
	多文化間交流論(1), (2)	各1
言語と社会	異文化間教育学演習	2
	社会言語学演習	2
	言語と文化(1), (2)	各1
言語と心理	日本語教育学研究法実習	2
	多文化間人間関係論演習	2
	日本語教育学特殊講義	2
言語と教育	第二言語教授法演習Ⅰ	2
	日本語教育学概論Ⅰ	2
	日本語教育学概論Ⅱ	2

言語	日本語学概論Ⅰ	2
	日本語学概論Ⅱ	2
	日本語表現法概論	2
教育実習	日本語教育法演習Ⅰ	2
	日本語教育法演習Ⅱ	2
	日本語教育法演習Ⅲ	4

※ 上記全ての科目区分から、最低1科目以上、合計26単位以上を修得すること。

※ なお、副プログラム修了に必要な20単位とは異なることに留意すること。(単位の重複は可)

4 社会調査士

社会調査士とは、一般社団法人社会調査協会が認定・発行する資格であり、社会調査に関する基礎的な知識、技能、相応の応用力と倫理観を習得したことを証明するものです。資格取得には、社会調査協会が認定した機関・大学における標準カリキュラムの履修と、大学学部卒業を要件とします。また、社会調査士資格は、より上位の専門社会調査士の取得の要件となっています。

本学では、文教育学部人文科学科・人間社会科学科、生活科学部人間生活学科・心理学科が共同で対応カリキュラムを組織しています。社会調査士の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、社会調査協会が定める標準カリキュラムA～Gに対応するものとして認定された所定の科目を修得する必要があります。資格の取得を希望する学生は、早い段階から計画的に履修する必要があります。具体的な標準カリキュラム対応科目は年度ごとに異なり、またGの実習科目に関しては受講制限をする場合もありますので注意してください。詳細は毎年度初頭に予定される説明会等でお知らせします。

社会調査士資格取得のための標準カリキュラムと本学での必要単位数

標準カリキュラム	本学での必要単位数
A 社会調査の基本的事項に関する科目	2単位
B 調査設計と実施方法に関する科目	2単位
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目	2単位
D 社会調査に必要な統計学に関する科目	2単位
E 多変量解析の方法に関する科目	いずれか一方を2単位
F 質的な調査と分析の方法に関する科目	
G 社会調査を実際に経験し学習する科目	4単位

5 栄養士

栄養士の資格は、生活科学部食物栄養学科の卒業に必要な履修単位138単位を修得すると取得できます。栄養士免許取得に必要な教育内容と授業科目については、以下の通りです。

教育内容	規定単位数				授業科目名	単位数				教育内容	規定単位数				授業科目名	単位数					
	分野	講義・演習	実験・実習	必修		選択	必修	選択	必修		選択	分野	講義・演習	実験・実習		必修	選択	必修	選択		
																				必修	選択
社会生活と健康	4					公衆衛生学	2				栄養と健康	8					代謝栄養学	2			
						社会福祉学	2										栄養学実験			2	
人体の構造と機能	8	4				生活環境学	2				栄養の指導	10					ライフステージ栄養学	2			
						小計	6	0	0	0							ライフスタイル栄養学	2			
						生化学	2										応用栄養学	2			
						解剖生理学Ⅰ	2										応用栄養学実習			1	
						解剖生理学Ⅱ	2										臨床栄養アセスメント学	2			
						臨床医学総論	2										臨床栄養療法学	2			
						細胞生化学	2										病態栄養学	2			
						臨床医学各論Ⅰ	2										食事療法学	2			
						臨床医学各論Ⅱ	2										臨床栄養アセスメント学実習			2	
						解剖生理学実験			1								食物栄養管理論総合演習Ⅰ	1			
小計	14	0	1	0	食物栄養管理論総合演習Ⅱ	1															
食品と衛生	6					食品化学	2				給食の運営	4					小計	18	0	5	0
						食品製造・保存学	2										公衆栄養学	2			
						食品機能論	2										栄養疫学・統計	2			
						食嗜好評価学	2										公衆栄養学実習			1	
						食品衛生学	2										栄養教育論Ⅰ	2			
						食品微生物学	2										栄養教育論Ⅱ	2			
						食品微生物学実験			1								栄養カウンセリング論	2			
						食品製造・保存学実験			1								栄養カウンセリング論実習			1	
						食品化学実験			2								小計	10	0	2	0
						小計	12	0	4	0							調理科学	2			
合計	18	4			合計	32	0	5	0	給食の運営	4					基礎調理学実習			2		
					応用調理学実習			1													
					調理科学実験			2													
					給食マネジメント論	2															
					給食経営管理論	2															
					給食経営管理実習			2													
					栄養臨地実習Ⅰ			1													
					栄養臨地実習Ⅱ*			3													
					小計	6	0	11	0												
					合計	18	10		合計							34	0	18	0		
					総計	36	14		総計	66	0	23	0								

*給食の運営に係る校外実習

6 食品衛生管理者及び食品衛生監視員

食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格は、以下のA群からD群までで22単位以上かつE群を含めて40単位以上修得すると得られます。これらの資格は、必要な職種についたとき、その任につくことができる任用資格です。

専門分野	授業科目	単位
A群 化学関係	◎基礎有機化学	2
	◎分析化学	2
	◎分析化学実験	2
B群 生物化学	◎生化学	2
	◎細胞生化学	2
	◎食品化学	2
C群 微生物学	◎食品化学実験	2
	◎食品製造・保存学	2
	◎食品微生物学	2
	◎食品微生物学実験	1
D群 公衆衛生学	◎食品製造・保存学実験	1
	◎食品衛生学	2
	◎生活環境学	2
	◎公衆衛生学	2

◎は必修科目

専門分野	授業科目	単位
E群 関連科目	◎代謝栄養学	2
	◎病態栄養学	2
	◎調理科学	2
	◎栄養学実験	2
	◎解剖生理学Ⅰ	2
	◎解剖生理学Ⅱ	2
	◎食品機能論	2
	◎臨床医学総論	2
	◎臨床医学各論Ⅰ	2
	◎臨床医学各論Ⅱ	2
	◎解剖生理学実験	1

7 管理栄養士

管理栄養士は、医療機関などで傷病者に対する栄養評価・判定に基づく専門的な病気療養のための栄養管理、保健所における健康増進を図るための専門的な栄養指導、および特定給食施設において利用者の栄養状態等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理などを行う専門職です。生活科学部食物栄養学科の卒業に必要な履修単位138単位を修得すると国家試験受験資格が与えられます。管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な教育内容と授業科目については、以下の通りです。

教育内容		規定単位数		授業科目名	単位数				教育内容		規定単位数		授業科目名	単位数					
分野	講義・演習	実験・実習	講義・演習		実験・実習	必修	選択	必修	選択	分野	講義・演習	実験・実習		講義・演習	実験・実習	必修	選択	必修	選択
専門基礎分野	環境と健康・社会	6	公衆衛生学	2					専門基礎分野	基礎栄養学	2	代謝栄養学	2						
			社会福祉学	2								栄養学実験			2				
			生活環境学	2								小計	2	0	2	0			
			小計	6	0	0	0					ライフステージ栄養学	2						
			生化学	2								ライフスタイル栄養学	2						
			解剖生理学 I	2								応用栄養学	2						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	解剖生理学 II	2						応用栄養学実習				1					
			臨床医学総論	2						小計	6	0	1	0					
			細胞生化学	2						栄養教育論 I	2								
			臨床医学各論 I	2						栄養教育論 II	2								
			臨床医学各論 II	2						栄養カウンセリング論	2								
			解剖生理学実験			1				栄養カウンセリング論実習				1					
			小計	14	0	1	0			小計	6	0	1	0					
			食べ物と健康	8	食品化学	2						臨床栄養アセスメント学	2						
					食品製造・保存学	2						臨床栄養療法学	2						
					食品機能論	2						病態栄養学	2						
					調理科学	2						食事療法学	2						
					食嗜好評価学	2						臨床栄養アセスメント学実習				2			
					食品衛生学	2						小計	8	0	2	0			
					食品微生物学	2						公衆栄養学	2						
基礎調理学実習						2		栄養疫学・統計	2										
応用調理学実習						1		公衆栄養学実習					1						
食品微生物学実験						1		小計	4	0	1	0							
調理科学実験				2			給食マネジメント論	2											
食品製造・保存学実験				1			給食経営管理論	2											
食品化学実験				2			給食経営管理実習				2								
小計	14	0	9	0			小計	4	0	2	0								
合計	28	10	合計	34	0	10	0	専門基礎分野	臨床栄養学	8	給食マネジメント論	2							
							給食経営管理実習							2					
							小計				4	0	2	0					
							食物栄養管理論総合演習 I				1								
							食物栄養管理論総合演習 II		1										
							小計		2	0	0	0							
							栄養臨床実習 I						1						
							栄養臨床実習 II *						3						
							小計		0	0	4	0							
							合計		32	12	合計	32	0	13	0				
							総計	60	22	総計	66	0	23	0					

*給食の運営に係る校外実習

8 建築士

建築物に関し、設計、工事監理その他の業務を行う専門職です。建築士法にもとづく国家資格です。本学では、人間・環境科学科のカリキュラム（主プログラム+強化プログラム、副プログラム）の科目が、国土交通大臣の指定する建築に関する科目に認定されています。人間・環境科学科以外の学生でも受験資格を取得することができます。

生活科学部人間・環境科学科の学生

○一級建築士受験資格

- ・人間・環境科学科に入学し、所定の一級建築士受験資格に関する科目を条件にしたがって必要単位以上修得して卒業した場合、一級建築士の受験資格が得られます（修得単位数により、一級建築士登録に必要な実務経験が3年もしくは2年～4年となります）。
- ・単位修得条件、必要単位、必要実務経験については、「建築士受験資格取得のための履修科目（一級建築士受験資格）」の表を参照してください。

○二級建築士受験資格

- ・人間・環境科学科に入学し、所定の二級建築士受験資格に関する科目を条件にしたがって必要単位以上修得して卒業した場合、二級建築士の受験資格が得られます（修得単位数により、二級建築士登録に必要な実務経験が0年～2年となります）。
- ・単位修得条件、必要単位、必要実務経験については、「建築士受験資格取得のための履修科目（二級建築士受験資格）」の表を参照してください。

生活科学部人間・環境科学科以外の学生

○二級建築士受験資格

- ・人間・環境科学副プログラムを履修し、所定の二級建築士受験資格に関する科目を条件にしたがって必要単位以上修得して卒業した場合、二級建築士の受験資格が得られます（修得単位数により、必要な実務経験が0年～2年となります）。
- ・単位修得条件、必要単位、必要実務経験については、「建築士受験資格取得のための履修科目（二級建築士受験資格）」の表を参照してください。

○一級建築士受験資格

- ・人間・環境科学科以外の学生が一級建築士受験資格を希望する場合は、国土交通省の個別認定制度を利用します。ただし、そのための申請は各自行うこと、また、ケースによっては認定されない可能性もあることを十分考慮してください。（人間・環境科学科の教員に事前に相談してください）
- ・一級建築士受験資格に関する科目、単位修得条件、必要単位、必要実務経験については、生活科学部人間・環境科学科の一級建築士受験資格と同等です。「建築士受験資格取得のための履修科目（一級建築士受験資格）」の表を参照してください。

一級建築士、二級建築士受験資格とも、人間・環境科学科以外の学生にとっては厳しい履修条件となります。受験資格の取得希望者は、必ず人間・環境科学科の教員に事前に相談してください。

建築士受験資格取得のための履修科目（一級建築士受験資格）

一級建築士受験資格に関する指定科目の分類	単位修得条件	本学における開講科目名	単位数
①建築設計製図	7 単位以上	設計製図基礎	2
		建築設計製図演習 I	2
		建築設計製図演習 II	2
		建築設計製図演習 III	2
②建築計画	7 単位以上	住居学概論	2
		建築環境計画論	2
		西洋建築史	2
		建築意匠論	2
		建築施設計画	2
		日本建築史	2
③建築環境工学	2 単位以上	建築環境工学	2
		知覚認知と環境デザイン	2
		環境心理学	2
④建築設備	2 単位以上	建築設備学	2
⑤構造力学	4 単位以上	基礎構造力学	2
		建築構造力学	2
		システム工学	2
⑥建築一般構造	3 単位以上	建築一般構造	2
		建築構法計画	1
⑦建築材料	2 単位以上	建築材料学 I	2
		建築材料学 II	2
		人間環境科学実験実習 I	2
⑧建築生産	2 単位以上	建築生産	2
⑨建築法規	1 単位以上	建築法規	1
⑩その他	適宜	都市エネルギー工学	2
		人間環境科学実験実習 II	2
		人間環境科学実験実習 III	2
		人間環境科学特別実習 II	2
		環境デザイン論	2
		測量学	2

		デザインとテクノロジー(1)	1
		デザインとテクノロジー(2)	1
		設計製造演習(1)	1
		設計製造演習(2)	1
		資源循環工学	2
		都市計画論	2
		デザイン工学演習(1)	1
		デザイン工学演習(2)	1
		BIM 演習	1
建築に関する科目の総単位数 (①～⑩の単位数合計)	60 単位以上 (必要実務経験 2 年) 50 単位以上 (必要実務経験 3 年) 40 単位以上 (必要実務経験 4 年)		69

※上記の建築士受験資格取得のための履修科目は、変更（追加）されることがあります。詳細は人間・環境科学科教員に相談してください。

建築士受験資格取得のための履修科目（二級建築士受験資格）

二級建築士受験資格に関する指定科目の分類	単位修得条件	本学における開講科目名	単位数
①建築設計製図	5 単位以上	設計製図基礎	2
		建築設計製図演習 I	2
		建築設計製図演習 II	2
		建築設計製図演習 III	2
②建築計画	7 単位以上	住居学概論	2
		建築環境計画論	2
		西洋建築史	2
		建築意匠論	2
		建築施設計画	2
		日本建築史	2
③建築環境工学		建築環境工学	2
		知覚認知と環境デザイン	2
		環境心理学	2
④建築設備		建築設備学	2
⑤構造力学	6 単位以上	基礎構造力学	2
		建築構造力学	2
		システム工学	2
⑥建築一般構造		建築一般構造	2
		建築構法計画	1
⑦建築材料		建築材料学 I	2
		建築材料学 II	2
⑧建築生産	1 単位以上	建築生産	2
⑨建築法規	1 単位以上	建築法規	1
⑩その他	適宜	都市エネルギー工学	2
		人間環境科学特別実習 II	2
		環境デザイン論	2
		測量学	2
		資源循環工学	2
		都市計画論	2
		BIM 演習	1
建築に関する科目の総単位数 (①～⑩の単位数合計)	40 単位以上 (必要実務経験 0 年) 30 単位以上 (必要実務経験 1 年) 20 単位以上 (必要実務経験 2 年)		57

※上記の建築士受験資格取得のための履修科目は、変更（追加）されることがあります。詳細は人間・環境科学科教員に相談してください。

9 公認心理師

公認心理師は、心理支援を要する者や関係者の相談に応じ援助などを行う国家資格です。学部レベルでは国が定めた25科目をすべて修得することで、受験資格の一部を得ることができます。本学ではこの25科目をすべて開講していますが、その一部は履修制限がかけられているため、受験資格を得られるのは生活科学部心理学科生のみとなります。本学で開講している授業科目の対応は以下のとおりです。

	国が定めた科目名	本学での開講科目	単位数
1	公認心理師の職責	心理職の職業倫理（公認心理師の職責）	2
2	心理学概論	こころの科学（心理学概論）	2
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論（臨床心理学概論）	2
4	心理学研究法	こころの科学：研究と実践（心理学研究法）	2
5	心理学統計法	心理統計法（心理学統計法）	2
6	心理学実験	心理学基礎実験演習（心理学実験）	2
7	知覚・認知心理学	認知心理学概論（知覚・認知心理学）	2
8	学習・言語心理学	学習と言語の心理学（学習・言語心理学）	2
9	感情・人格心理学	感情・人格心理学（感情・人格心理学）	2
10	神経・生理心理学	認知神経科学（神経・生理心理学）	2
11	社会・集団・家族心理学	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	2
12	発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	2
13	障害者・障害児心理学	障害臨床心理学（障害者・障害児心理学）	2
14	心理的アセスメント	心理臨床アセスメント（心理的アセスメント）	2
15	心理学的支援法	心理療法学（心理学的支援法）	2
16	健康・医療心理学	健康心理学（健康・医療心理学）	2
17	福祉心理学	福祉心理学（福祉心理学）	2
18	教育・学校心理学	学校臨床心理学（教育・学校心理学）	2
19	司法・犯罪心理学	司法心理学（司法・犯罪心理学）	2
20	産業・組織心理学	産業心理学（産業・組織心理学）	2
21	人体の構造と機能及び疾病	臨床医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2
22	精神疾患とその治療	医療心理学（精神疾患とその治療）	2
23	関係行政論	心理臨床に関する法と制度（関係行政論）	2
24	心理演習	心理学基礎実践演習（心理演習）	2
25	心理実習	心理臨床実習Ⅰ（心理実習Ⅰ）	2
		心理臨床実習Ⅱ（心理実習Ⅱ）	2



諸規程等〔規則集〕

1	お茶の水女子大学学則	216
2	お茶の水女子大学複数プログラム 選択履修制度実施規則	223
3	お茶の水女子大学文教育学部履修規程	224
4	お茶の水女子大学理学部履修規程	246
5	お茶の水女子大学生活科学部履修規程	258
6	お茶の水女子大学学位規則	268
7	本学在学中に他大学等で 修得した単位の取扱いについて	275
8	転学及び編入学した学生の 既修得単位の取扱いについて	276
9	新たに第1年次に入学した学生の 既修得単位等の取扱いについて	277
10	お茶の水女子大学個人情報の 管理に関する規則	279
11	お茶の水女子大学授業料未納者に 係る除籍及び復籍に関する規程	284
12	お茶の水女子大学における学生の 旧姓及び通称名使用の取扱い等に関する要項	285

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)は、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、もって社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与することを目的とする。

(点検及び評価)

第2条 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究水準の向上を図り、その状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 点検及び評価の項目並びにその実施体制等に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 構成及び収容定員等

(学部)

第3条 国立大学法人お茶の水女子大学組織運営規則(以下「組織運営規則」という。)第4条第1項の規定に基づき置かれる学部の学科及び収容定員等は、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	第3年次入学定員	収容定員
文 教 育 学 部	人文科学科	55人		220人
	言語文化学科	80人	6人	332人
	人間社会科学科	40人	4人	168人
	芸術・表現行動学科	27人		108人
	計	202人	10人	828人
理 学 部	数学科	20人	2人	84人
	物理学科	20人	2人	84人
	化学科	20人	2人	84人
	生物学科	25人	2人	104人
	情報科学科	40人	2人	164人
	計	125人	10人	520人
生 活 科 学 部	食物栄養学科	36人		144人
	人間・環境科学科	24人	3人	102人
	人間生活学科	39人	4人	164人
	心理学科	26人	3人	110人
	計	125人	10人	520人
合 計	452人	30人	1,868人	

2 前項に規定する学科に、コース、講座等を置くことができる。

(文教育学部の目的)

第4条 文教育学部は、人文・社会科学系の学問を中心に、講義、演習、実験、実習等の多様な授業を通じて、学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見能力、情報処理能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、前条第1項に定める文教育学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 人文科学科

人文科学科は、人間の様々な歩みの中の現象を広く文化として捉え、深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理した上で、独自の論理を築きあげる総合的な力を有する人材を養成する。

(2) 言語文化学科

言語文化学科は、人間の言語活動や様々な言語表現の本質について深い知見を有するような人材、また、個々の言語に関して高い運用能力を有するような人材、更には各言語圏に固有の文化とそれら相互間の交流について幅広い知識を有するような人材を養成する。

(3) 人間社会科学科

人間社会科学科は、幼稚園及び小・中・高等学校教員の養成を目的としつつ、教育科学、社会学及び子ども学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得し、人間に対する深い理解に基づき、グローバルな視野に立って学校その他の社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成する。

(4) 芸術・表現行動学科

芸術・表現行動学科は、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的研究と実践の両面から追求し、現代の問題への対応に適用できるような人材を養成する。

(理学部の目的)

第5条 理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、第3条第1項に定める理学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 数学科

数学科は、数学的素養と論理的思考力を備え社会の様々な分野で主導的役割を果たすことができる人材及び現代数学の基礎知識と数学的論理思考を身に付け数理的諸科学の発展に貢献できる人材を養成する。

(2) 物理学科

物理学科は、自然科学の基礎である物理学の基礎知識を修得し、それを実際の問題に適用して解決する能力を身に付けた人材を養成する。

(3) 化学科

化学科は、様々な物質から成り立つ自然界を、原子・分子の構成とその変化の視点で捉え、得られた知識を体系化しつつ、化学の諸分野はもとより、

生物学、物理学などの基礎分野から、工学や薬学、農学、医学、地球科学、情報学など多彩な応用分野まで幅広く展開できる人材を養成する。

(4) 生物学科

生物学科は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を有して豊かな人間社会の構築に貢献できる人材を養成する。

(5) 情報科学科

情報科学科は、20世紀に登場し新しい科学の対象となった「情報」というものを探究するための基礎となる知識や方法論と、その種々な応用の実態を学び、更にその成果の上に、これらを自ら開拓するための研究力の基礎を身に付けた人材を養成する。

(生活科学部の目的)

第6条 生活科学部は、自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身に付け、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、第3条第1項に定める生活科学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 食物栄養学科

食物栄養学科は、人間の「食」を自然科学的かつ総合的に捉え、豊かな食生活や健康な社会を実現するために、食物と栄養について科学的知識と実践的能力を備えた人材を養成する。

(2) 人間・環境科学科

人間・環境科学科は、生活者たる人間と環境との相互作用に関する深い理解を備え、科学的手法を応用して、生活面での諸課題に対して人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる優秀な人材を養成する。

(3) 人間生活学科

人間生活学科は、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し、分析する力を備えた優秀な人材を養成する。

(4) 心理学科

心理学科は、心理学に関する基礎から実践までの多面的な知識と理解力を有し、科学的エビデンス、論理的分析力に基づく臨床・応用実践、社会的課題にセンシティブな実証的探求の視点や実践的能力を獲得できる人材を養成する。

(大学院)

第7条 組織運営規則第5条第1項の規定に基づき置かれる大学院に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 学部通則

第1節 教育課程及び履修方法

(修業年限)

第8条 学部の修業年限は、4年とする。

2 学生は、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。ただし、第23条、第34条及び第37条の規定により入学した学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、第30条の規定により入学した学生の修業すべき年数及び在学年限は、退学前の在学期間を通算し、第1項に規定する修業年限及び前項に規定する在学年限とする。

4 入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、第12条の規定により認められた単位の全部又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、第1項に規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができる。

(授業科目)

第9条 各学部が開設する授業科目は、学部ごとに別に定める。

(授業の方法)

第9条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(教育課程及び履修方法)

第10条 各学部の教育課程及び履修方法は、学部ごとに別に定める。

(他大学等における授業科目の履修及び大学以外の教育施設等における学修)

第11条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学(以下「他大学等」という。)との協議に基づき、学生が当該他大学等において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第12条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学若しくは短期大学(以下「大学等」という。)又は外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、当該学部教授会の議を経て、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議を経て、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第11条第3項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、既修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得)

第13条 学部において取得することができる教育職員の免許状の種類は、別表に掲げるとおりとする。

2 前項の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所

要の単位を修得しなければならない。

第14条 削除

(学芸員資格の取得)

第15条 学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法(昭和26年法律第285号)及び博物館法施行規則(昭和30年文部省令第24号)に定める科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目及びその履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 卒業及び学位

(卒業)

第16条 学部に4年以上在学し、定められた授業科目を履修し、124単位以上を修得した者は、卒業者としてこれに卒業証書を授与する。ただし、文教育学部人間社会科学科教育科学コースについては、136単位以上を、生活科学部食物栄養学科については、138単位以上を修得した者とする。

2 転学者、編入学者の学業に関し必要な事項は、別に定める。

3 第1項に規定する卒業に必要な単位のうち、第9条の2第2項に規定する授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(学位の授与)

第17条 卒業者に対しては、別に定めるところにより、学士の学位を授与する。

第3節 学年、学期及び休業日

(学年)

第18条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第19条 学年を次の2学期又は4学期に分ける。

二学期制

学期	期間
前学期	4月1日から9月30日まで
後学期	10月1日から翌年3月31日まで

四学期制

学期	期間
第1学期	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
第2学期	
第3学期	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
第4学期	

(休業日)

第20条 学年中の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 日曜日
- (3) 創立記念日 11月29日
- (4) 春期休業
- (5) 夏期休業
- (6) 冬期休業

2 前項第4号から第6号までの休業日の期間は、学長が別に定める。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

4 休業日において、必要がある場合には、授業を行うことができる。

第4節 入学、退学、休学、転学、留学、編入学、転学部及び転学科

(入学の時期)

第21条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第22条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を受けた者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものの

(第3年次入学資格)

第23条 第3条第1項に定める第3年次入学定員により入学することのできる者は、前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 短期大学を卒業した者

- (4) 高等専門学校を卒業した者
- (5) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (6) 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者
- (7) 外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)

(入学出願手続)

第24条 入学志願者は、入学願書に調査書その他所定の書類及び検定料を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第25条 学長は、前条の入学志願者について、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て合格者を決定する。

(入学手続)

第26条 前条の合格者は、所定の期日までに誓約書その他所定の書類を提出するとともに、入学金を納付しなければならない。

(入学許可)

第27条 学長は、前条の入学手続を完了した者(第43条の規定により入学金の免除を申請した者を含む。)に入学を許可する。

第28条 次の各号のいずれかに該当する者は、第25条の規定にかかわらず入学を許可することができる。

- (1) 一学部を卒業した者で、更に他の学部又は同一学部の他の学科に入学を志願する者
- (2) 退学した者で、更に同一の学部に入学金を納付する者
- (3) 他の大学の学部を卒業した者

(退学)

第29条 退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(再入学)

第30条 一度退学した者が再入学を願い出た場合は、審査の上これを許可することができる。

(除籍)

第31条 次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
 - (2) 第8条第2項及び第3項に定める在学年限を超えた者
 - (3) 第33条第4項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
 - (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- 2 入学金の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は一部免除を許可された場合であって、納付すべき入学金を所定の期日までに納付しないときは、学長は、これを除籍する。

(復籍)

第32条 前条第1項第1号に該当し除籍となった者が当該除籍の事由となった未納の授業料に相当する額を納付して復籍を願い出た場合は、審査の上これを許可することができる。

2 復籍に関し必要な事項は、別に定める。

(休学)

第33条 病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができない者は、事由を具して学長に願い出てその許可を得て休学することができる。

- 2 健康上修学に不適当と認められた者に対しては、休学を命ずることができる。
- 3 休学の期間は、その学年末までとする。ただし、学長が特別の事情があると認められた者については、引き続き休学を許可することができる。
- 4 休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができない。
- 5 休学期間は、在学期間には算入しない。
- 6 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第34条 他の大学から本学に転学を志望する者があるときは、収容力のある限り、審査の上、入学させることができる。

2 前項の場合、入学願書には現に在学する大学の学長の承認書を添えなければならない。

第35条 本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければならない。

(留学)

第36条 学生は、当該学部教授会が教育上有益であると認めるときは、学長の許可を得て外国の大学等に留学することができる。

- 2 前項の留学期間は、1年を限度として第16条第1項に規定する在学期間に参入するものとする。
- 3 第11条第3項の規定は、外国の大学等へ留学する場合に準用する。
- 4 前2項に定めるもののほか、留学に関し必要な事項は、別に定める。

(編入学)

第37条 第3条第1項に定める第3年次入学定員によるもの以外で編入学を志願する者があるときは、第34条を準用する。

(転学部及び転学科)

第38条 学生が、本学の他学部への転入又は当該学生が在学している学部内の他学科等への転入を希望したときは、当該学部又は当該学科に収容力のある限り、審査の上、許可することができる。

第5節 検定料、入学金、授業料及び寄宿料

(検定料等の額)

第39条 検定料、入学金、授業料及び寄宿料の額は、別に定める。

(授業料の納付)

第40条 授業料は、年額の2分の1ずつを、次の2期に分けて納めなければならない。ただし、前期に係る授業料を納めるときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納めることができる。

前期 5月末日まで

後期 11月末日まで

2 前項の規定にかかわらず、入学年度の授業料について、入学を許可される者の申出があったときは、入学手続時に徴収するものとする。

(寄宿料の納付)

第41条 寄宿料は、毎月その月の20日までに納めなければならない。

(検定料等の返付)

第42条 一度納めた検定料、入学料、授業料及び寄宿料は、これを返さない。ただし、入学手続き時に授業料を納付した者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により当該授業料相当額を返還する。

(入学料の免除)

第43条 特別な事情により納付が著しく困難であると認められる者で、学長に願い出たときは、入学料の全額又は半額を免除することができる。

2 入学料の免除に関し必要な事項は、別に定める。

(入学料の徴収猶予)

第44条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、学長に願い出たときは、入学料の徴収を猶予することができる。

2 入学料の徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(授業料及び寄宿料の免除並びに授業料の徴収猶予)

第45条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、当該学部を経て学長に願い出たときは、授業料及び寄宿料の全部若しくは一部を免除し、又は授業料の徴収を猶予(月割分納による徴収の猶予を含む。以下同じ。)することができる。

2 授業料及び寄宿料の免除並びに授業料の徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(退学者の授業料)

第46条 退学の許可を得た者の授業料は、その者が在学していた学期までの分を納めなければならない。

(休学者の授業料)

第47条 休学の許可を得た者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月(休学の開始日が月の初日であるときは、休学当月)から復学月の前月までの分を免除する。

(停学者の授業料)

第48条 停学を命ぜられた期間中の授業料は、これを徴収する。

第6節 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、委託生、研究生、研究員等

(科目等履修生)

第49条 本学の学生以外の者で本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、別に定めるところにより、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第50条 本学の定める課程の一部を選択し聴講を希望する者があるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第51条 特定の授業科目を履修することを希望する他の大学又は外国の大学の学生があるときは、当該大学との協議に基づき、所定の手続を経て、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第52条 教育委員会、学校その他の公共機関から授業及び研究指導の委託出願があるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上、委託生として入学を許可することができる。

2 委託生に関し必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第53条 特定事項に関する研究に従事することを希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(研究員等の受入れ)

第54条 他の機関、民間会社等から、その職員等が特定事項に関する研究に従事することの申出又は研修受入れの申出があるときは、研究員等として受入れを許可することができる。

2 研究員等に関し必要な事項は、別に定める。

第7節 外国人留学生

(外国人留学生)

第55条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生で、大学間交流協定に基づき入学する者に係る検定料、入学料及び授業料については、所定の要件を満たした場合は、これを徴収しない。

3 前2項に定めるもののほか、外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第8節 寄附講座等

(寄附講座等)

第56条 教育研究の進展及び充実に資するとともに、社会貢献の推進を図るため、本学に寄附講座及び寄附研究部門並びに社会連携講座(以下「寄附講座等」という。)を設置することができる。

2 寄附講座等に関し必要な事項は、別に定める。

第9節 公開講座及び通信教育

(公開講座及び通信教育)

第57条 公開講座及び通信教育は、一般市民の教養を高めるため適時これを行う。

2 公開講座及び通信教育に関し必要な事項は、別に定める。

第10節 賞罰

(表彰)

第58条 学生が学業その他の活動において優れた成績を挙げたときは、学長は、これを表彰することができる。

2 学生の表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第59条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。

2 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

(学生団体の活動停止等)

第60条 学生団体の活動が学生準則に違反し、その他本学の使命に反するものと認められたとき、学生委員会の議を経て、学長が学生団体の活動の制限停止又は解散を命ずることができる。

2 前項の処分に対して関係者より相当の理由を附して異議の申出があったときは、教育研究評議会の議を経て、学長が適当な措置を行うことができる。

第11節 寄宿舍

(寄宿舍)

第61条 本学に、寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この学則の施行の際廃止されたお茶の水女子大学学則の規定により存続するものとされた文教育学部史学科及び生活科学部生活環境学科は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 第3条第2項に掲げる表の生活科学部の項及び合計の項に定める収容定員は、同項の規定にかかわらず、平成16年度から平成18年度までは、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	平成16年度	平成17年度	平成18年度
生活科学部	食物栄養学科	36人	72人	108人
	人間・環境科学科	24人	48人	72人
	人間生活学科	260人	260人	260人
	学部共通	20人	20人	20人
	計	340人	400人	460人
合 計	1,688人	1,748人	1,808人	

附 則 (平成17年2月23日)

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年3月24日)

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年6月15日)

この学則は、平成17年6月15日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則 (平成17年12月14日)

この学則は、平成17年12月14日から施行する。ただし、第29条第2号の改正規定は、平成17年10月1日から適用する。

附 則 (平成19年3月22日)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年3月21日)

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第22条の改正規定は、平成20年度入学者から適用する。

2 この学則の施行前から引き続き生活科学部食物栄養学科に在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則 (平成21年3月26日)

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表の規定は、平成21年度入学者から適用する。

2 この学則の施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則 (平成21年6月10日)

この学則は、平成21年6月10日から施行する。

附 則 (平成22年3月26日)

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年7月28日)

この学則は、平成22年7月28日から施行する。

附 則 (平成22年12月22日)

この学則は、平成22年12月22日から施行する。

附 則 (平成23年1月26日)

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年2月23日)

この学則は、平成23年2月23日から施行する。

附 則 (平成23年2月23日)

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

- 附 則（平成23年3月28日）
この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 附 則（平成24年11月27日）
この学則は、平成24年11月27日から施行する。
- 附 則（平成25年3月26日）
この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則（平成25年12月24日）
この学則は、平成25年12月24日から施行する。
- 附 則（平成26年3月26日）
この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 附 則（平成27年3月25日）
この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 附 則（平成28年3月25日）
この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 附 則（平成30年3月30日）

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 第3条第1項に掲げる表の下記学部学科の項に定める収容定員は、同項の規定にかかわらず、平成30年度から平成32年度までは、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	平成30年度	平成31年度	平成32年度
文教育学部	言語文化学科	320人	320人	326人
	人間社会科学科	160人	160人	164人
理 学 部	数学科	80人	80人	82人
	物理学科	80人	80人	82人
	化学科	80人	80人	82人
	生物学科	100人	100人	102人
	情報科学科	160人	160人	162人
	人間・環境科学科	96人	96人	99人
生活科学部	人間生活学科	234人	208人	186人
	心理学科	26人	52人	81人

- 3 この学則の施行前から引き続き文教育学部人間社会科学科に在籍し、心理学主プログラムを選択する者及び生活科学部人間生活学科に在籍し、発達臨床心理学主プログラムを選択する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

- 附 則（平成30年9月28日）
この学則は、平成30年9月28日から施行する。
- 附 則（平成31年3月29日）
この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 附 則（令和2年1月31日）
この学則は、令和2年1月31日から施行する。
- 附 則（令和2年3月31日）
この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 附 則（令和3年3月26日）
この学則は、令和3年3月26日から施行する。
- 附 則（令和4年4月1日）

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表の規定は、令和4年度入学者から適用する。
- 2 この学則の施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

- 附 則（令和5年2月15日）
この学則は、令和5年2月15日から施行し、令和4年度入学者から適用する。

別表（第13条関係）

学部	学科等	免許状の種類
文教育学部	人文科学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）
	言語文化学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（国語） 中学校教諭一種免許状（中国語） 中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（中国語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	人間社会科学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）
	芸術・表現行動学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（保健体育） 中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（音楽）

学部	学科等	免許状の種類
理 学 部	数学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学）
	物理学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（理科） 高等学校教諭一種免許状（理科）
	化学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（理科） 高等学校教諭一種免許状（理科）
	生物学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（理科） 高等学校教諭一種免許状（理科）
	情報科学科	中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（情報）
生活科学部	食物栄養学科	栄養教諭一種免許状
	人間生活学科	小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）

(趣旨)

第1条 お茶の水女子大学(以下「本学」という。)における複数プログラム選択履修制度(以下「複数履修制」という。)の実施については、国立大学法人お茶の水女子大学学則の定めによるほか、この規則の定めるところによる。

(目的)

第2条 複数履修制は、本学の学部専門教育において、学生が主体的な学習プログラムを構築し、深い専門性と幅広い教養を備えた自主自律の精神を養うことを目的として実施する。

(構成)

第3条 複数履修制は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムにより構成する。

2 前項の各プログラムは各学部が定めるところにより、学科、講座、コースその他の単位ごとに開設する。ただし、学際プログラムについては開設しないことができる。

(主プログラム)

第4条 主プログラムは、学位の取得を目的として、各専門領域の基礎的な知識や技能を全学年間に一貫的及び調和的に修得するためのプログラムをいう。

2 主プログラムは、学生が所属する学部及び学科内で開設するプログラムとする。

3 主プログラムの履修に関し必要な事項は、学部が定める。

(強化プログラム)

第5条 強化プログラムは、各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラムをいう。

2 強化プログラムは、学生が所属する学部及び学科内で開設するプログラムとする。

3 強化プログラムの履修に関し必要な事項は、学部が定める。

(副プログラム)

第6条 副プログラムは、学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、主プログラムと併行して、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラムをいう。

2 副プログラムの履修資格は学部が定め、その他履修に関し必要な事項は別に定める。

(学際プログラム)

第7条 学際プログラムは、新たな領域型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材育成に対応するプログラムをいう。

2 学際プログラムの履修資格は学部が定め、その他履修に関し必要な事項は別に定める。

(選択及び登録)

第8条 学生による主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムの選択及び登録に関する基本方針は、別に定める。

(実施体制)

第9条 複数履修制に関し審議及び連絡調整をするため、学務部会のもとに複数プログラム選択履修専門部会(以下「専門部会」という。)を置く。

2 専門部会は前項の業務を行うにあたっては、教学IR、教育開発・学修支援センターとの緊密な連携をとるものとする。

(教育目標等)

第10条 第3条第1項に定めるプログラムごとに、その教育目標並びにプログラム選択に必要な情報及び履修方法等については、別に定める。

(点検・評価・改善)

第11条 学部は、前条に定める教育目標の達成度等を基に点検・評価・改善を行うものとする。

2 前項の場合において、学部をまたがって開設するプログラムにあっては、関係する学部が協議の上、全学教育システム改革推進本部の承認を得るものとする。

(開設)

第12条 学部は、前条第1項に規定する点検・評価・改善を行った結果、複数履修制を構成する新たなプログラムの開設が必要と認める場合には、全学教育システム改革推進本部の議を経て、開設を決定するものとする。

2 前項において、学部をまたがって開設する場合は、あらかじめ関係する学部が協議の上、全学教育システム改革推進本部本部会議の議を経て、開設を決定するものとする。

(廃止)

第13条 学部は、第11条第1項に規定する点検・評価・改善を行った結果、複数履修制を構成しているプログラムの廃止が必要と認める場合には、全学教育システム改革推進本部本部会議の議を経て、廃止を決定するものとする。

2 前項において、学部をまたがって開設している場合は、あらかじめ関係する学部が協議の上、全学教育システム改革推進本部本部会議の議を経て、廃止を決定するものとする。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、複数履修制の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

(趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学文教育学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

(履修コース・グローバル文化学環)

第2条 広領域に及ぶ幅広い知識と、高度で実践的な専門的知識を教育するため、学科ごとに、履修方法を異にする履修コース及びグローバル文化学環(以下「環」という。)を設ける。

2 前項の履修コース及び環に係る履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、学部共通科目、全学共通科目、教職課程科目及び外国人留学生特別科目とする。

2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語及びアジア諸語)及びスポーツ健康とする。

3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム、学際プログラム及び専修プログラムを構成する科目とする。

4 各学科・環で共通して履修できる科目として、学部共通科目を置く。

5 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。

6 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める教職課程科目を置く。

7 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

(他学部の授業科目の履修)

第4条 理学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

(単位の計算方法)

第5条 各授業科目の単位数の計算方法は、1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

三 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、個人指導による実技及び教育実習等の授業科目については、別に定める。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究については別に定める。

(卒業要件)

第6条 卒業するためには、別表第1に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。ただし、人間社会科学科教育科学コースについては、別表第1に定めることにより、136単位以上を修得しなければならない。

2 人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及びグローバル文化学環において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第3から別表第7及び別表第9に定めるところとする。また、芸術・表現行動学科においては、別表第3、別表第8及び別表第9に定めるところとする。

3 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第10に定めるところとする。

4 教職課程科目の授業科目及び単位数は、別表第11に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考9のとおりとする。

5 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第12に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考10のとおりとする。

(履修手続)

第7条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

2 学生が前項により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消し手続を行い、担当教員の許可を得なければならない。

3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

(単位の授与)

第8条 授業科目を履修した者については、試験(論文、報告等を含む。以下同じ。)により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

2 試験は、原則として学年又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続により追試験を受けることができる。

(成績の評価)

第9条 成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

2 成績の評価は、「S」(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、「A」(基本的な目標を十分に達成している)、「B」(基本的な目標を達成している)、「C」(基本的な目標を最低限度達成している)、「D」(基本的な目標を達成していない。再履修が必要である)の5種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。

3 前項の成績の評価又は科目の原成績(素点)に基づき、成績の数値平均Grade Point Average(以下「GPA」という。)を算出するものとする。GPAに関し必要な事項は別に定める。

(成績不振の学生に対する学修指導)

第10条 病気その他やむを得ない事情がないにもかかわらず、学修状況が著しく不良の者には、成績不振の学修指導を行うことがある。

2 その他学修指導に関し必要な事項は、別に定める。

(細則)

第11条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項については、文教育学部教授会が定める。

附則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。

2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

1 この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。

2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行し、平成18年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成19年1月17日から施行し、平成17年度入学者から適用する。

附則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行し、改正後の別表第3及び第3の2の規定は、平成19年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成19年10月24日から施行し、平成19年10月1日から適用する。

附則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行し、平成21年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行し、平成22年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行し、平成24年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成25年10月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表第3から第11まで、第13及び第14の規定は、平成26年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成26年10月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 3 前2項の規定にかかわらず、第10条の改正規定は、この改正規程の施行前から引き続き文教育学部に在学する者から適用する。

附則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行し、平成28年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成28年10月1日から施行する。ただし、改正後の別表第4から第6まで及び別表第8の規定は、平成28年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行し、平成29年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成29年10月1日から施行する。ただし、施行日に在籍し、かつ施行日以前に当該改正に係る授業科目を履修した者にも適用する。

附則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行し、平成30年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成30年10月24日から施行し、平成30年10月1日から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 3 この規程により規定した授業科目は、平成32年3月31日限り、その効力を失う。

附則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行し、令和2年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行し、令和3年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行し、令和4年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- この規程は、令和4年7月20日から施行し、令和4年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 前2項の規定にかかわらず、授業科目のうち教育実習(中高)の単位数については、1単位に限り、平成31年度以降に入学し、この改正規程の施行前から引き続き人間社会科学科に在学する者から適用する。

附則

- この規程は、令和5年4月1日から施行し、令和5年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

別表第1(第6条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位										自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)						コア科目	専門教育科目	学部共通科目	他学部共通科目	全学共通科目	教職課程科目	必修以外の選択プログラム			
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム	専修プログラム										
人文科学科		18		20	2	44		20							20						124
言語文化学科		18		20	2	44		20							20						124
人間社会科学科																					
教育科学コース		18		12	2	60	14	20							30(24)						136
社会学コース		18		12	2	48		20							24						124
子ども学コース		18		12	2	50	18	20							24(22)						124
芸術・表現行動学科		18		12	2							64							28		124
グローバル文化学環		18		20	2	44				20					20						124

備考

- 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 必修以外の選択プログラムは、所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 人間社会科学科教育科学コース・子ども学コースを除き、教職課程科目の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。
ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。
- 教育科学コースまたは子ども学コースの学生が、副プログラムまたは学際プログラムを選択した場合は、自由に選択して履修する科目の単位は、教育科学コースの場合24単位、子ども学コースの場合22単位とする。
- グローバル文化学環履修者は、所属学科によらず、グローバル文化学環の欄に記載される科目・単位を履修すること。また、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと所属学科の副プログラム又は学際プログラムを履修すること。

別表第2(第5条関係)

【(文)二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・ 倫理学・ 美術史 (副)	比 歴 史 (副)	教 学 (副)	地 環 境 学 (副)	理 学	日 本 語 ・ 日 本 文 学 (副)	中 国 語 圏 言 語 文 化 (副)	英 語 圏 言 語 文 化 (副)	仏 語 圏 言 語 文 化 (副)	日 本 語 育 (副)	社 会 学 (副)	舞 踊 学 (副)	音 楽 表 現 (副)	教育科学・ 子ども学 (学際)	グ ロ ー バ ル 文 化 学 (学際)
人文学科	哲学		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○		×	×	×	×	×	×	×	×	×	
言語文化学科	日 文	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	
人間社会科学科	教 育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	子 ども	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○		
芸術・表現行動学科	舞 踊														
	音 楽														

【(文)三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・ 倫理学・ 美術史 (副)	比 歴 史 (副)	教 学 (副)	地 環 境 学 (副)	理 学	日 本 語 ・ 日 本 文 学 (副)	中 国 語 圏 言 語 文 化 (副)	英 語 圏 言 語 文 化 (副)	仏 語 圏 言 語 文 化 (副)	日 本 語 育 (副)	社 会 学 (副)	舞 踊 学 (副)	音 楽 表 現 (副)	教育科学・ 子ども学 (学際)	グ ロ ー バ ル 文 化 学 (学際)
人文学科	哲学		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
言語文化学科	日 文	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
人間社会科学科	教 育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	子 ども	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
芸術・表現行動学科	舞 踊	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	音 楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

【(文)三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	数 学 (副)	物理学 (副)	化 学 (副)	生物学 (副)	情報科学 (副)	応用数理 (学際)	物理・ 化学 (学際)	ケミカルバ イオロジー (学際)	生 命 情報学 (学際)
人 文 学 科	哲 学	○	○	○	○	○	×	×	×
	歴 史	○	○	○	○	○	×	×	×
	地 理	○	○	○	○	○	×	×	×
言 語 文 化 学 科	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×
	日 文	○	○	○	○	○	×	×	×
	中 文	○	○	○	○	○	×	×	×
	英 文	○	○	○	○	○	×	×	×
	仏 文	○	○	○	○	○	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×
	教 育	○	○	○	○	○	×	×	×
人 間 社 会 学 科	社 会	○	○	○	○	○	×	×	×
	子 ども	○	○	○	○	○	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	舞 踊	○	○	○	○	○	×	×	×
	音 楽	○	○	○	○	○	×	×	×

【(文)三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	人間・環 境科学 (副)	生活社会 科 学 (副)	生活文化 学 (副)	心理学 (副)	消費者学 (学際)
人 文 学 科	哲 学	○	○	○	○
	歴 史	○	○	○	○
	地 理	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○
言 語 文 化 学 科	日 文	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○
人 間 社 会 学 科	グロ文	○	○	○	○
	教 育	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○
	子 ども	○	○	○	○
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	舞 踊	○	○	○	○
	音 楽	○	○	○	○

別表第3 コア科目(第6条関係)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
文理融合リベラルアーツ		
リベラルアーツ演習Ⅰ	2	
リベラルアーツ演習Ⅱ	2	
系列1 生命と環境 (講義)		
生命と環境1	2	
生命と環境2	2	
生命と環境3	2	
生命と環境4	2	
生命と環境5	2	
生命と環境6	2	
生命と環境7	2	
生命と環境8	2	
生命と環境10 (演習・実習)	2	
生命と環境22	2	
生命と環境23	2	
生命と環境26	2	
系列2 色・音・香 (講義)		
色・音・香1	2	
色・音・香2	2	
色・音・香3	2	
色・音・香4	2	
色・音・香5	2	
色・音・香6	2	
色・音・香7	2	
色・音・香8	2	
色・音・香9	2	
色・音・香10 (演習・実習)	2	
色・音・香22	2	
系列3 生活世界の安全保障 (講義)		
生活世界の安全保障1	2	
生活世界の安全保障2	2	
生活世界の安全保障3	2	
生活世界の安全保障4	2	
生活世界の安全保障5	2	
生活世界の安全保障7	2	
生活世界の安全保障8	2	
生活世界の安全保障9	2	

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
生活世界の安全保障10 (演習・実習)	2	
生活世界の安全保障23	2	
生活世界の安全保障25	2	
系列4 ことばと世界 (講義)		
ことばと世界1	2	
ことばと世界2	2	
ことばと世界3	2	
ことばと世界5	2	
ことばと世界6	2	
ことばと世界7	2	
ことばと世界8	2	
ことばと世界10	2	
ことばと世界11	2	
ことばと世界12	2	
ことばと世界13 (演習・実習)	2	
ことばと世界27	2	
系列5 ジェンダー (講義)		
ジェンダー1	2	
ジェンダー2	2	
ジェンダー3	2	
ジェンダー4	2	
ジェンダー5	2	
ジェンダー6	2	
ジェンダー8	2	
ジェンダー9	2	
ジェンダー10	2	
基礎講義		
哲学	2	
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	
法学Ⅱ(法学入門)	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微積分学	2	
基礎線形代数学	2	
統計学	2	
総合コース	1~4	(Ⅰ~Ⅳ)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
お茶の水女子大学論	2	(I)
コンピテンシー基礎論	2	
防災・危機管理	1	
自然災害に対する防災・減災	1	
学修ポートフォリオ入門	1	
自然科学課題研究支援プログラム	1	
情報(必修)		
情報処理演習(1)	1	
情報処理演習(2)	1	
情報(選択)		
メディアリテラシ(1)	1	
メディアリテラシ(2)	1	
文理融合データサイエンス I	2	
文理融合データサイエンス II	2	
文理融合データサイエンス III	2	
文理融合データサイエンス IV	2	
情報科学(1)	1	
情報科学(2)	1	
情報処理学(1)	1	
情報処理学(2)	1	
プログラミング演習 1	2	
プログラミング演習 2	2	
コンピュータ演習 1	2	
コンピュータ演習 2	2	
情報学演習 1	2	
情報学演習 2	2	
文化情報工学総論	2	
データサイエンス(基礎)	2	
データサイエンス(中級)	2	
データサイエンス(上級)	2	
外国語(必修)		<p>●人文科学科、言語文化学科：外国語の必修単位数は20単位。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、二つの言語についてそれぞれ8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>●グローバル文化学環：外国語の必修単位数は20単位。英語・ドイツ語・フランス語・中国語を第一外国語とし、その中から一つの言語について8単位修得すること。残りの12単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。ただし第一外国語として選択した言語で満たすことのできる外国語の必修単位の合計は12単位が上限である。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>●人間社会科学科、芸術・表現行動学科：外国語の必修単位数は12単位。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>●編入学生のコア外国語履修については別に定める。 *及び**：必修単位に充てることができる基本科目。 ***：第二外国語あるいは第三外国語として8単位未満履修する場合のみ必修単位に充てることができる単基本科目。 *、**および***のついていない科目の単位は、特別措置等による認定がない限り、必修単位に充てることができない。</p>
英語		
*基礎英語 I(1)	1	(I)
*基礎英語 I(2)	1	(I)
*基礎英語 II(1)	1	(I)
*基礎英語 II(2)	1	(I)
*中級英語 I(1)	1	(II)
*中級英語 I(2)	1	(II)
*中級英語 II(1)	1	(II)
*中級英語 II(2)	1	(II)
**英語コミュニケーション III(1)	1	(II～IV)
**英語コミュニケーション III(2)	1	(II～IV)
**英語コミュニケーション IV(1)	1	(II～IV)
**英語コミュニケーション IV(2)	1	(II～IV)
**英語コミュニケーション V(1)	1	(II～IV)
**英語コミュニケーション V(2)	1	(II～IV)
**英語コミュニケーション VI(1)	1	(II～IV)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
**英語コミュニケーション VI(2)	1	(II～IV)
**英語プレゼンテーション I(1)	1	(II～IV)
**英語プレゼンテーション I(2)	1	(II～IV)
**英語プレゼンテーション II(1)	1	(II～IV)
**英語プレゼンテーション II(2)	1	(II～IV)
**グローバル・イングリッシュ I(1)	1	(II～IV)
**グローバル・イングリッシュ I(2)	1	(II～IV)
**グローバル・イングリッシュ II(1)	1	(II～IV)
**グローバル・イングリッシュ II(2)	1	(II～IV)
**Advanced Communication Training I(1)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training I(2)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training II(1)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training II(2)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training III(1)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training III(2)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training IV(1)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training IV(2)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training V(1)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training V(2)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training VI(1)	1	(I～IV)
**Advanced Communication Training VI(2)	1	(I～IV)
英語コミュニケーション I(1)	1	(I・II)
英語コミュニケーション I(2)	1	(I・II)
英語コミュニケーション II(1)	1	(I・II)
英語コミュニケーション II(2)	1	(I・II)
上級英語 I(1)	1	(III・IV)
上級英語 I(2)	1	(III・IV)
上級英語 II(1)	1	(III・IV)
上級英語 II(2)	1	(III・IV)
上級英語 III(1)	1	(III・IV)
上級英語 III(2)	1	(III・IV)
上級英語 IV(1)	1	(III・IV)
上級英語 IV(2)	1	(III・IV)
ビジネス英語 I(1)	1	(II～IV)
ビジネス英語 I(2)	1	(II～IV)
ビジネス英語 II(1)	1	(II～IV)
ビジネス英語 II(2)	1	(II～IV)
時事英語 I(1)	1	(II～IV)
時事英語 I(2)	1	(II～IV)
時事英語 II(1)	1	(II～IV)
時事英語 II(2)	1	(II～IV)
ドイツ語		
*基礎ドイツ語 I	2	(I)
*基礎ドイツ語 II	2	(I)
*基礎ドイツ語 III	2	(I)
*基礎ドイツ語 IV	2	(I)
*基礎ドイツ語(応用) I(1)	1	(I)
*基礎ドイツ語(応用) I(2)	1	(I)
*基礎ドイツ語(応用) II(1)	1	(I)
*基礎ドイツ語(応用) II(2)	1	(I)
*発展ドイツ語 I(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 I(2)	1	(II)
*発展ドイツ語 II(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 II(2)	1	(II)
*発展ドイツ語 III(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 III(2)	1	(II)
*発展ドイツ語 IV(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 IV(2)	1	(II)
***基礎ドイツ語会話 I(1)	1	(I～IV)
***基礎ドイツ語会話 I(2)	1	(I～IV)
***基礎ドイツ語会話 II(1)	1	(I～IV)
***基礎ドイツ語会話 II(2)	1	(I～IV)
***ドイツ語初歩 I(1)	1	(I～IV)
***ドイツ語初歩 I(2)	1	(I～IV)
***ドイツ語初歩 II(1)	1	(I～IV)
***ドイツ語初歩 II(2)	1	(I～IV)
フランス語		
*基礎フランス語 I	2	(I)
*基礎フランス語 II	2	(I)
*基礎フランス語 III	2	(I)
*基礎フランス語 IV	2	(I)
*基礎フランス語(応用) I(1)	1	(I)
*基礎フランス語(応用) I(2)	1	(I)
*基礎フランス語(応用) II(1)	1	(I)
*基礎フランス語(応用) II(2)	1	(I)
*発展フランス語 I(1)	1	(II)
*発展フランス語 I(2)	1	(II)
*発展フランス語 II(1)	1	(II)
*発展フランス語 II(2)	1	(II)
*発展フランス語 III(1)	1	(II)
*発展フランス語 III(2)	1	(II)
*発展フランス語 IV(1)	1	(II)
*発展フランス語 IV(2)	1	(II)
***基礎フランス語会話 I(1)	1	(I～IV)
***基礎フランス語会話 I(2)	1	(I～IV)
***基礎フランス語会話 II(1)	1	(I～IV)
***基礎フランス語会話 II(2)	1	(I～IV)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
***基礎フランス語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***フランス語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***フランス語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***フランス語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***フランス語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
中国語		
*基礎中国語Ⅰ	2	(Ⅰ)
*基礎中国語Ⅱ	2	(Ⅰ)
*基礎中国語Ⅲ	2	(Ⅰ)
*基礎中国語Ⅳ	2	(Ⅰ)
*基礎中国語(応用)Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)
*基礎中国語(応用)Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)
*基礎中国語(応用)Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)
*基礎中国語(応用)Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)
*発展中国語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅲ(1)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅲ(2)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅳ(1)	1	(Ⅱ)
*発展中国語Ⅳ(2)	1	(Ⅱ)
***基礎中国語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)
***基礎中国語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)
***基礎中国語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅱ～Ⅳ)
***基礎中国語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅱ～Ⅳ)
***中国語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***中国語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***中国語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
***中国語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
中国語プレゼンテーションⅠ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
中国語プレゼンテーションⅡ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
ロシア語		
*ロシア語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*ロシア語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
朝鮮語		
*朝鮮語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*朝鮮語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
スペイン語		
*現代スペイン語Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*現代スペイン語Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*スペイン語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*スペイン語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*スペイン語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
*スペイン語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ～Ⅳ)
イタリア語		
*現代イタリア語Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*現代イタリア語Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
アジア諸語		
*現代アジア諸語Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*現代アジア諸語Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*現代アジア諸語Ⅲ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*現代アジア諸語Ⅳ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
スポーツ健康(必修)		
スポーツ健康実習	2	(Ⅰ)
スポーツ健康(選択)		
スポーツ科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)
健康科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)
生涯スポーツ	0.5～3	(Ⅰ～Ⅳ)

別表第4 専門教育科目(第6条関係)

主プログラム

哲学・倫理学・美術史主プログラム		単位数：44	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から4単位選択
倫理学基礎論	2	選択	
美術史基礎論	2	選択	
比較文化史	2	選択	以下の科目から4単位選択
比較社会史	2	選択	
自然と人間	2	選択	
人間と空間	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
哲学・倫理学・美術史選択基礎	2	選択	
卒業論文	8	必修	
哲学研究指導A	4	選択	哲学、倫理学、美術史いずれかの分野について12単位選択
哲学研究指導B	4	選択	
哲学研究指導C	4	選択	
倫理学研究指導A	4	選択	
倫理学研究指導B	4	選択	
倫理学研究指導C	4	選択	
美術史学研究指導Ⅰ	4	選択	
美術史学研究指導Ⅱ	4	選択	
美術史学研究指導Ⅲ	4	選択	
哲学概論Ⅰ	2	選択	以下の科目から16単位選択
哲学概論Ⅱ	2	選択	
倫理学概論Ⅰ	2	選択	
倫理学概論Ⅱ	2	選択	
美術史学概論	2	選択	
概念分析論Ⅰ	2	選択	
概念分析論Ⅱ	2	選択	
理論分析論Ⅰ	2	選択	
理論分析論Ⅱ	2	選択	
問題分析論Ⅰ	2	選択	
問題分析論Ⅱ	2	選択	
哲学CⅠ	2	選択	
日本倫理思想史Ⅰ	2	選択	
日本倫理思想史Ⅱ	2	選択	
西洋美術史AⅠ	2	選択	
西洋美術史AⅡ	2	選択	
西洋美術史AⅢ	2	選択	
西洋美術史BⅠ	2	選択	
西洋美術史BⅡ	2	選択	
西洋美術史BⅢ	2	選択	
東洋美術史AⅠ	2	選択	
東洋美術史AⅡ	2	選択	
東洋美術史AⅢ	2	選択	
東洋美術史BⅠ	2	選択	
東洋美術史BⅡ	2	選択	
東洋美術史BⅢ	2	選択	
哲学演習AⅠ	2	選択	
哲学演習AⅡ	2	選択	
哲学演習AⅢ	2	選択	
哲学演習AⅣ	2	選択	
哲学演習AⅤ	2	選択	
哲学演習AⅥ	2	選択	
哲学演習BⅠ	2	選択	
哲学演習BⅡ	2	選択	
哲学演習BⅢ	2	選択	
哲学演習BⅣ	2	選択	
哲学演習BⅤ	2	選択	
哲学演習BⅥ	2	選択	
倫理学演習A	4	選択	
倫理学演習B	4	選択	
倫理思想史演習A	4	選択	
倫理思想史演習B	4	選択	
倫理学資料講読	4	選択	
日本倫理思想史資料講読	4	選択	
西洋倫理思想史資料講読	4	選択	
倫理学研究	2	選択	
日本倫理思想史研究	2	選択	
西洋倫理思想史研究	2	選択	
宗教と倫理学	2	選択	
生命と倫理学	2	選択	
日本の社会と文化	2	選択	
日本文化の解釈学Ⅰ	2	選択	
日本文化の解釈学Ⅱ	2	選択	
日本文化の解釈学Ⅲ	2	選択	
形象分析学演習Ⅰ	4	選択	
形象分析学演習Ⅱ	4	選択	
形象分析学演習Ⅲ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	選択	
美術史学演習Ⅰ	4	選択	
美術史学演習Ⅱ	4	選択	
美術史学演習Ⅲ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	選択	

比較歴史学主プログラム			単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考
比較文化史	2	必修	
比較社会史	2	必修	
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から 4単位選択
倫理学基礎論	2	選択	
美術史基礎論	2	選択	
自然と人間	2	選択	
人間と空間	2	選択	
日本文化史概論	2	選択	
日本史概説	2	選択	
アジア史概説	2	選択	
西洋史概説	2	選択	
日本史入門講読	2	選択	
外国史入門講読Ⅰ	2	選択	
外国史入門講読Ⅱ	2	選択	
比較歴史学選択基礎	2	選択	
日本史研究法(1)	1	選択	
日本史研究法(2)	1	選択	
アジア史研究法(1)	1	選択	
アジア史研究法(2)	1	選択	
西洋史研究法(1)	1	選択	
西洋史研究法(2)	1	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
日本史講読	2	選択	
アジア史講読	2	選択	
西洋史講読	2	選択	
古文書学	2	選択	
歴史史料学	2	選択	
日本史論文講読	2	選択	
外国史論文講読	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	選択	
日本古代史演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から 12単位以上選択
日本古代史演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史演習Ⅱ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	選択	
史学研究指導	2	選択	
卒業論文	8	必修	

地理環境学主プログラム			単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間と空間	2	必修	
自然と人間	2	必修	
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から 4単位選択
倫理学基礎論	2	選択	
美術史基礎論	2	選択	
比較文化史	2	選択	
比較社会史	2	選択	
地理学選択基礎	2	選択	以下の科目から
都市と自然	2	選択	12単位選択
地理学英書講読	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
地図学	2	選択	
都市地理学	2	選択	
経済地理学	2	選択	
社会地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
測量学	2	選択	
地誌学	2	選択	
自然地理学フィールドワーク	2	選択	以下の科目から 6単位選択
人文地理学フィールドワーク	2	選択	
地理学分析基礎演習Ⅰ	2	選択	
地理学分析基礎演習Ⅱ	2	選択	
地理情報システム演習Ⅰ	2	選択	
地理情報システム演習Ⅱ	2	選択	
地域分析学演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から 2単位選択
環境地理学演習Ⅰ	2	選択	
自然地理学演習Ⅰ	2	選択	
社会地理学演習Ⅰ	2	選択	
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	選択	
地理学フィールドワーク	2	必修	
地理学研究法演習	2	必修	
地域分析学演習Ⅱ	2	選択	以下の科目から 2単位選択
環境地理学演習Ⅱ	2	選択	
社会地理学演習Ⅱ	2	選択	
都市・福祉地理学演習Ⅱ	2	選択	
地理学卒業演習	2	必修	
卒業論文	8	必修	

日本語・日本文学主プログラム			単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学概説	2	選択	以下の科目から 8単位選択
日本語学通論	2	選択	
英語圏言語文化入門(1)	1	選択	
英語圏言語文化入門(2)	1	選択	
中国現代文学史	2	選択	
中国古典文学史(宋～清)	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	選択	
言語学入門Ⅰ(1)	1	選択	
言語学入門Ⅰ(2)	1	選択	
言語学入門Ⅱ	2	選択	
日本古典文学史論(上代)	2	選択	以下の科目から 8単位選択
日本古典文学史論(中古)	2	選択	
日本古典文学史論(中世)	2	選択	
日本古典文学史論(近世)	2	選択	
日本近代文学史論(近代)	2	選択	
日本近代文学史論(現代)	2	選択	
日本語学総論	2	選択	以下の科目から 2単位選択
日本語文法総論	2	選択	
日本語音声表現論	2	選択	
日本語文章表現論	2	選択	以下の科目から 2単位選択
日本文学論講読Ⅰ	2	選択	
日本文学論講読Ⅱ	2	選択	
日本文学論講読Ⅲ	2	選択	
日本文学論講読Ⅳ	2	選択	
日本語文化論Ⅰ	2	選択	
日本語文化論Ⅱ	2	選択	
日本語学特殊研究	2	選択	以下の科目から 6単位選択
日本語学特殊研究	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(上代)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中古)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中世)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(近世)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(近代)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(現代)	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本語・日本文学選択基礎	2	選択	
日本古典文学論基礎演習Ⅰ	2	必修	
日本古典文学論演習(上代)Ⅰ	2	選択	以下の科目から 6単位選択(同一演習のⅠ、Ⅱを必ず一組は含むこと)
日本古典文学論演習(上代)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(中古)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(中古)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(中世)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(中世)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(近世)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(近世)Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習(近代)Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習(近代)Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習(現代)Ⅰ	2	選択	

V
諸規程等(規則集)

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本近代文学論演習(現代)Ⅱ	2	選択	
日本語学演習(日本語史)Ⅰ	2	選択	
日本語学演習(日本語史)Ⅱ	2	選択	
日本語学演習(近・現代語)Ⅰ	2	選択	
日本語学演習(近・現代語)Ⅱ	2	選択	
日本語学研究指導	2	選択	以下の科目から
日本文学研究指導	2	選択	2単位選択
卒業論文	8	必修	

中国語圏言語文化主プログラム			単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学概説	2	選択	以下の科目から
日本語学通論	2	選択	8単位選択
英語圏言語文化入門(1)	1	選択	
英語圏言語文化入門(2)	1	選択	
中国現代文学史	2	選択	
中国古典文学史(宋～清)	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	選択	
言語学入門Ⅰ(1)	1	選択	
言語学入門Ⅰ(2)	1	選択	
言語学入門Ⅱ	2	選択	
中国語ヒアリング基礎	2	必修	
中国語コミュニケーション・スキル	2	必修	
中国語作文基礎演習	2	必修	
中国語作文応用演習	2	必修	
中国語講読	2	必修	
中国語学概論	2	必修	
中国古典文学史(先秦～唐)	2	必修	
中国文化論	2	選択	以下の科目から
中国現代作家論	2	選択	12単位選択
日中対照言語学	2	選択	
中国語統語論	2	選択	
中国古典文献講読入門	2	選択	
中国古典文献講読基礎	2	選択	
中国文学古典講読	2	選択	
中国文学古典演習	2	選択	
中国語圏言語文化選択基礎	2	選択	
中国現代文化特別演習	2	選択	以下の科目から
中国現代語学特別演習	2	選択	2単位選択
中国古典文献特別演習	2	選択	
中国古典文学特別演習	2	選択	
卒業論文	8	必修	

英語圏言語文化主プログラム			単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学概説	2	選択	以下の科目から
日本語学通論	2	選択	8単位選択
英語圏言語文化入門(1)	1	選択	
英語圏言語文化入門(2)	1	選択	
中国現代文学史	2	選択	
中国古典文学史(宋～清)	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	選択	
言語学入門Ⅰ(1)	1	選択	
言語学入門Ⅰ(2)	1	選択	
言語学入門Ⅱ	2	選択	
英米文学演習(初級)	2	必修	
英作文演習(初級)	2	必修	
英会話演習(初級)	2	必修	
対照表現学演習Ⅰ(1)	1	必修	
対照表現学演習Ⅰ(2)	1	必修	
対照表現学演習Ⅱ	2	必修	
英文法Ⅰ(1)	1	必修	
英文法Ⅰ(2)	1	必修	
英文法Ⅱ	2	必修	
卒業論文	8	必修	
特別演習(言語研究方法論)Ⅰ(1)	1	選択	以下の科目から
特別演習(言語研究方法論)Ⅰ(2)	1	選択	6単位選択
特別演習(言語研究方法論)Ⅱ	2	選択	
特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ(1)	1	選択	
特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ(2)	1	選択	
特別演習(英米文学研究方法論)Ⅱ	2	選択	
特別演習(作品分析)	2	選択	
特別演習(言語資料分析)	2	選択	
英語学入門(1)	1	選択	以下の科目から
英語学入門(2)	1	選択	8単位選択
英語学概論	2	選択	
英文法演習	2	選択	
英語音声学演習	2	選択	
英文学史Ⅰ(1)	1	選択	
英文学史Ⅰ(2)	1	選択	
英文学史Ⅱ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
米文学史Ⅰ(1)	1	選択	
米文学史Ⅰ(2)	1	選択	
米文学史Ⅱ	2	選択	
英語圏言語文化選択基礎	2	選択	
英語圏テキスト研究入門(1)	1	選択	
英語圏テキスト研究入門(2)	1	選択	
英作文演習(中級)	2	選択	
英会話演習(中級)	2	選択	
英文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語圏言語文化研究Ⅰ	2	選択	
英語圏言語文化研究Ⅱ	2	選択	
英語圏言語文化研究Ⅲ	2	選択	
英語圏事情(1)	1	選択	
英語圏事情(2)	1	選択	
第二言語教授法研究Ⅰ	2	選択	
第二言語教授法研究Ⅱ	2	選択	

仏語圏言語文化主プログラム			単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学概説	2	選択	以下の科目から
日本語学通論	2	選択	8単位選択
英語圏言語文化入門(1)	1	選択	
英語圏言語文化入門(2)	1	選択	
中国現代文学史	2	選択	
中国古典文学史(宋～清)	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	選択	
言語学入門Ⅰ(1)	1	選択	
言語学入門Ⅰ(2)	1	選択	
言語学入門Ⅱ	2	選択	
仏語圏言語文化基礎演習	2	必修	
欧州文化論Ⅰ	2	選択	以下の科目から
欧州文化論Ⅱ	2	選択	24単位選択
欧州文化論Ⅲ	2	選択	
欧州文化論Ⅳ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅰ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅱ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅲ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅳ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅱ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅳ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅴ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅵ	2	選択	
ドイツ語圏文学史Ⅰ	2	選択	
ドイツ語圏文学史Ⅱ	2	選択	
ドイツ語圏文学史Ⅲ	2	選択	
ドイツ語圏文化論Ⅰ	2	選択	
ドイツ語圏文化論Ⅱ	2	選択	
ドイツ語圏文化論Ⅲ	2	選択	
ギリシャ語	4	選択	
ラテン語	4	選択	
フランス史	2	選択	
西洋近世史	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	選択	
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	選択	
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅰ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅱ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅲ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅳ	2	選択	
基礎仏作文演習Ⅰ	2	選択	
基礎仏作文演習Ⅱ	2	選択	
中級仏作文演習Ⅰ	2	選択	
中級仏作文演習Ⅱ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
仏語圏言語文化実習Ⅰ	2	選択	
仏語圏言語文化実習Ⅱ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅱ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅲ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅳ	2	選択	
基礎仏語学演習Ⅰ	2	選択	
基礎仏語学演習Ⅱ	2	選択	
中級仏語学演習Ⅰ	2	選択	
中級仏語学演習Ⅱ	2	選択	
上級仏語学演習Ⅰ	2	選択	
上級仏語学演習Ⅱ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅰ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅱ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅲ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅳ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅲ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
仏文学特殊研究	2	選択	
仏文学特別研究	2	選択	
仏語圏言語文化研究指導	2	必修	
卒業論文	8	必修	
仏語圏言語文化選択基礎	2	選択	

教育科学主プログラム			
			単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間と発達	2	必修	必修の科目を含めて6単位以上選択
教職概論(1)	1	必修	
教職概論(2)	1	必修	
社会学総論	2	必修	
人間科学論	2	選択	
子ども学総論	2	選択	
ジェンダー社会論	2	選択	以下の科目から2単位以上選択
現代社会論	2	選択	
社会意識論	2	選択	
社会政策論Ⅰ	2	選択	
文化人類学概論(1)	1	選択	
文化人類学概論(2)	1	選択	
幼児教育学原論(1)	1	選択	
幼児教育学原論(2)	1	選択	
子ども社会学概論(1)	1	選択	
子ども社会学概論(2)	1	選択	
幼児教育制度概論(1)	1	選択	
幼児教育制度概論(2)	1	選択	
幼児教育方法学概論(1)	1	選択	
幼児教育方法学概論(2)	1	選択	
幼児教育課程概論(1)	1	選択	
幼児教育課程概論(2)	1	選択	
保育内容総論(子どもと遊び)(1)	1	選択	
保育内容総論(子どもと遊び)(2)	1	選択	
教育思想概論(1)	1	必修	必修の科目を含めて16単位以上選択
教育思想概論(2)	1	必修	
教育史概論(1)	1	必修	
教育史概論(2)	1	必修	
教育・発達心理学概論(1)	1	必修	
教育・発達心理学概論(2)	1	必修	
教育社会学概論(1)	1	必修	
教育社会学概論(2)	1	必修	
教育制度概論	2	必修	
教育方法学概論(1)	1	必修	
教育方法学概論(2)	1	必修	
教育課程概論(1)	1	必修	
教育課程概論(2)	1	必修	
特別支援教育概論(1)	1	必修	
特別支援教育概論(2)	1	必修	
教育開発概論(1)	1	選択	
教育開発概論(2)	1	選択	
生涯学習概論	2	選択	
教育科学概論	2	選択	
教育思想特殊講義	2	選択	以下の科目から2単位以上選択
教育人間学特殊講義	2	選択	
教育史特殊講義	2	選択	
教育制度特殊講義	2	選択	
教育社会学特殊講義	2	選択	
学校社会学特殊講義	2	選択	
教育方法学特殊講義	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
教育課程特殊講義	2	選択	
教育開発特殊講義	2	選択	
比較教育特殊講義	2	選択	
教育心理学特殊講義	2	選択	
発達心理学特殊講義	2	選択	
特別支援教育特殊講義	2	選択	
障害児教育特殊講義	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅰ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅱ	2	選択	
教育科学選択基礎	2	選択	
教育思想演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から12単位選択
教育思想演習Ⅱ	2	選択	
教育人間学演習Ⅰ	2	選択	
教育人間学演習Ⅱ	2	選択	
教育史演習Ⅰ	2	選択	
教育史演習Ⅱ	2	選択	
教育制度演習Ⅰ	2	選択	
教育制度演習Ⅱ	2	選択	
教育社会学演習Ⅰ	2	選択	
教育社会学演習Ⅱ	2	選択	
学校社会学演習Ⅰ	2	選択	
学校社会学演習Ⅱ	2	選択	
教育方法学演習Ⅰ	2	選択	
教育方法学演習Ⅱ	2	選択	
教育課程演習Ⅰ	2	選択	
教育課程演習Ⅱ	2	選択	
教育開発演習Ⅰ	2	選択	
教育開発演習Ⅱ	2	選択	
比較教育演習Ⅰ	2	選択	
比較教育演習Ⅱ	2	選択	
教育心理学演習Ⅰ	2	選択	
教育心理学演習Ⅱ	2	選択	
発達心理学演習Ⅰ	2	選択	
発達心理学演習Ⅱ	2	選択	
特別支援教育演習Ⅰ	2	選択	
特別支援教育演習Ⅱ	2	選択	
障害児教育演習Ⅰ	2	選択	
障害児教育演習Ⅱ	2	選択	
教育科学演習AⅠ	2	選択	
教育科学演習AⅡ	2	選択	
教育科学演習BⅠ	2	選択	
教育科学演習BⅡ	2	選択	
学校インターンシップ	1	選択	以下の科目から10単位以上選択
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
道徳教育の理論と方法	2	選択	
特別活動の理論と方法	2	選択	
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	選択	
学校カウンセリング	2	選択	
ICT活用の理論と方法	1	選択	
初等科教育法(国語)	2	選択	
初等科教育法(社会)	2	選択	
初等科教育法(算数)	2	選択	
初等科教育法(理科)	2	選択	
初等科教育法(生活)	2	選択	
初等科教育法(音楽)	2	選択	
初等科教育法(図画工作)	2	選択	
初等科教育法(家庭)	2	選択	
初等科教育法(体育)	2	選択	
初等科教育法(外国語)	2	選択	
国語科教育論	1	選択	
社会科教育論	1	選択	
算数科教育論	1	選択	
理科教育論	1	選択	
体育実技	1	選択	
外国語科教育論	1	選択	
政治学総論Ⅰ	2	選択	
倫理学総論	2	選択	
教育実習(幼小)	4	選択	
事前・事後指導(幼小)	1	選択	
教職実践演習(幼小中高)	2	選択	
卒業論文	8	必修	

社会主プログラム			
			単位数：48
授業科目	単位数	必修・選択	備考
社会学総論	2	必修	以下の科目から6～8単位選択
人間科学論	2	選択	
子ども学総論	2	選択	
人間と発達	2	選択	
教職概論(1)	1	選択	
教職概論(2)	1	選択	
社会学選択基礎	2	選択	以下の科目から14～16単位選択(内次の科目からは2単位まで、※の科目からは、6単位までを含めることができる)
☆政治学総論Ⅰ	2	選択	
☆政治学総論Ⅱ	2	選択	
☆経済学総論Ⅰ	2	選択	

V
諸規程等(規則集)

授業科目	単位数	必修・選択	備考
☆経済学総論Ⅱ	2	選択	
☆法学総論Ⅰ	2	選択	
☆法学総論Ⅱ	2	選択	
☆哲学総論	2	選択	
☆倫理学総論	2	選択	
ジェンダー社会論	2	選択	
現代社会論	2	選択	
現代生活論	2	選択	
社会意識論	2	選択	
比較社会論	2	選択	
社会政策論Ⅰ	2	選択	
社会政策論Ⅱ	2	選択	
社会問題論(1)	1	選択	
社会問題論(2)	1	選択	
社会調査の設計と実施	2	選択	
教育社会学概論(1)	1	選択	
教育社会学概論(2)	1	選択	
教育社会学特殊講義	2	選択	
学校社会学特殊講義	2	選択	
文化人類学概論(1)	1	選択	
文化人類学概論(2)	1	選択	
文化人類学特殊講義	2	選択	
民族誌学特殊講義	2	選択	
子ども社会学概論(1)	1	選択	
子ども社会学概論(2)	1	選択	
フィールドワーク方法論	2	選択	
人間と空間	2	選択	
都市地理学	2	選択	
※社会福祉学	2	選択	
※家族社会学(1)	1	選択	
※家族社会学(2)	1	選択	
※老年学	2	選択	
※地域社会論	2	選択	
※児童福祉論	2	選択	
※応用生活統計学(1)	1	選択	
※応用生活統計学(2)	1	選択	
※社会統計学Ⅰ	2	選択	
ジェンダー論演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から
ジェンダー論演習Ⅱ	2	選択	10～12単位選択
現代社会論演習Ⅰ	2	選択	
現代社会論演習Ⅱ	2	選択	
社会保障論演習Ⅰ	2	選択	
社会保障論演習Ⅱ	2	選択	
社会政策論演習Ⅰ	2	選択	
社会政策論演習Ⅱ	2	選択	
現代生活論演習Ⅰ	2	選択	
現代生活論演習Ⅱ	2	選択	
社会意識論演習Ⅰ	2	選択	
社会意識論演習Ⅱ	2	選択	
教育社会学演習Ⅰ	2	選択	
教育社会学演習Ⅱ	2	選択	
学校社会学演習Ⅰ	2	選択	
学校社会学演習Ⅱ	2	選択	
文化人類学演習Ⅰ	2	選択	
文化人類学演習Ⅱ	2	選択	
民族誌学演習Ⅰ	2	選択	
民族誌学演習Ⅱ	2	選択	
子ども社会学演習Ⅰ	2	選択	
子ども社会学演習Ⅱ	2	選択	
社会調査法Ⅰ	2	必修	
社会調査法Ⅱ	2	必修	
社会学研究指導Ⅰ	2	必修	
社会学研究指導Ⅱ	2	必修	
卒業論文	8	必修	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
幼児教育学原論(1)	1	必修	
幼児教育学原論(2)	1	必修	
子ども発達論(1)	1	選択	
子ども発達論(2)	1	選択	
人間関係論(1)	1	選択	
人間関係論(2)	1	選択	
子ども文化論(1)	1	選択	
子ども文化論(2)	1	選択	
子ども学特殊講義(1)	1	選択	
子ども学特殊講義(2)	1	選択	
子ども学選択基礎	2	選択	
幼児教育学演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から
幼児教育学演習Ⅱ	2	選択	10単位以上選択
保育学演習Ⅰ	2	選択	
保育学演習Ⅱ	2	選択	
子ども社会学演習Ⅰ	2	選択	
子ども社会学演習Ⅱ	2	選択	
家庭教育論演習Ⅰ	2	選択	
家庭教育論演習Ⅱ	2	選択	
幼児教育制度演習Ⅰ	2	選択	
幼児教育制度演習Ⅱ	2	選択	
子ども発達環境論演習Ⅰ	2	選択	
子ども発達環境論演習Ⅱ	2	選択	
乳幼児心理学演習Ⅰ	2	選択	
乳幼児心理学演習Ⅱ	2	選択	
子ども学調査法演習Ⅰ	2	選択	
子ども学調査法演習Ⅱ	2	選択	
子ども学研究指導Ⅰ	1	必修	
子ども学研究指導Ⅱ	1	必修	
卒業論文	8	必修	
ジェンダー社会論	2	選択	以下の科目から2
現代社会論	2	選択	単位以上選択
社会意識論	2	選択	
社会政策論Ⅰ	2	選択	
文化人類学概論(1)	1	選択	
文化人類学概論(2)	1	選択	
教育開発概論(1)	1	選択	
教育開発概論(2)	1	選択	
生涯学習概論	2	選択	
児童福祉論	2	選択	
発達臨床心理学	2	選択	
臨床心理学概論(臨床心理学概論)	2	選択	
子ども学フィールドワーク	2	選択	以下の科目から
子ども学インターンシップ	2	選択	10単位以上選択
学校インターンシップ	1	選択	(「子ども学フィールドワーク」または「子ども学インターンシップ」のいずれか2単位を必ず履修すること)
幼児理解と教育相談	2	選択	
保育内容指導法(健康)	2	選択	
保育内容指導法(人間関係)	2	選択	
保育内容指導法(環境)	2	選択	
保育内容指導法(言葉)	2	選択	
保育内容指導法(表現Ⅰ)	2	選択	
保育内容指導法(表現Ⅱ)	2	選択	
子どもと健康	1	選択	
子どもと人間関係	1	選択	
子どもと環境	1	選択	
子どもと言葉	1	選択	
子どもと表現	1	選択	
教育・発達心理学概論(1)	1	選択	
教育・発達心理学概論(2)	1	選択	
特別支援教育概論(1)	1	選択	
特別支援教育概論(2)	1	選択	
教育実習(幼小)	4	選択	
事前・事後指導(幼小)	1	選択	
教職実践演習(幼小中高)	2	選択	

子ども学主プログラム				単位数：50
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
子ども学総論	2	必修	必修の科目を含めて6単位選択	
教職概論(1)	1	必修		
教職概論(2)	1	必修		
社会学総論	2	選択		
人間と発達	2	選択		
人間科学論	2	選択		
幼児教育方法学概論(1)	1	必修	以下の科目から	
幼児教育方法学概論(2)	1	必修	12単位以上選択	
幼児教育課程概論(1)	1	必修		
幼児教育課程概論(2)	1	必修		
子ども社会学概論(1)	1	必修		
子ども社会学概論(2)	1	必修		
幼児教育制度概論(1)	1	必修		
幼児教育制度概論(2)	1	必修		
保育内容総論(子どもと遊び)(1)	1	必修		
保育内容総論(子どもと遊び)(2)	1	必修		

グローバル文化学主プログラム				単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から	
倫理学基礎論	2	選択	所属する学科が	
美術史基礎論	2	選択	開講する科目4	
比較文化史	2	選択	単位選択	
比較社会史	2	選択		
人間と空間	2	選択		
自然と人間	2	選択		
日本文学概説	2	選択		
日本語学通論	2	選択		
英語圏言語文学入門(1)	1	選択		
英語圏言語文学入門(2)	1	選択		
中国古典文学史(宋～清)	2	選択		
中国現代文学史	2	選択		
言語学入門Ⅰ(1)	1	選択		
言語学入門Ⅰ(2)	1	選択		
言語学入門Ⅱ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	2	選択	
社会学総論	2	選択	
人間と発達	2	選択	
人間科学論	2	選択	
子ども学総論	2	選択	
グローバル文化学総論	2	必修	必修の科目を含めて8単位以上選択
国際関係論	2	選択	
政治学総論Ⅰ	2	選択	
政治学総論Ⅱ	2	選択	
グローバル化と経済	2	選択	
グローバル化と社会	2	選択	
比較ジェンダー論	2	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
地域研究方法論	2	選択	
文化理論研究	2	選択	
多文化間交流論(1)	1	選択	
多文化間交流論(2)	1	選択	
言語と文化(1)	1	選択	
言語と文化(2)	1	選択	
国際協力学	2	選択	
グローバル文化学選択基礎	2	選択	
文化変動論Ⅰ	2	選択	以下の科目から4単位以上選択
文化変動論Ⅱ	2	選択	
イスラム社会文化論Ⅰ(1)	1	選択	
イスラム社会文化論Ⅰ(2)	1	選択	
イスラム社会文化論Ⅱ	2	選択	
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	選択	
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	選択	
アジア社会とジェンダーⅠ	2	選択	
アジア社会とジェンダーⅡ	2	選択	
対日交流論	2	選択	
中国社会文化論	2	選択	
東南アジア社会文化論	2	選択	
アフリカ社会文化論	2	選択	
地域研究特論	2	選択	
英語圏事情(1)	1	選択	
英語圏事情(2)	1	選択	
文化と人間関係Ⅰ	2	選択	以下の科目から4単位以上選択
文化と人間関係Ⅱ	2	選択	
グローバル化と言語教育Ⅰ(1)	1	選択	
グローバル化と言語教育Ⅰ(2)	1	選択	
グローバル化と言語教育Ⅱ(1)	1	選択	
グローバル化と言語教育Ⅱ(2)	1	選択	
表現行動論Ⅰ	2	選択	
表現行動論Ⅱ	2	選択	
言語と社会	2	選択	
多文化共生論	2	選択	
国際交流論Ⅰ	2	選択	
国際交流論Ⅱ	2	選択	
多文化交流特論	2	選択	
国際協力方法論Ⅰ	2	選択	以下の科目から4単位以上選択
国際協力方法論Ⅱ(1)	1	選択	
国際協力方法論Ⅱ(2)	1	選択	
平和構築論Ⅰ	2	選択	
平和構築論Ⅱ(1)	1	選択	
平和構築論Ⅱ(2)	1	選択	
国際開発論Ⅰ	2	選択	
国際開発論Ⅱ	2	選択	
グローバル化と労働Ⅰ	2	選択	
グローバル化と労働Ⅱ	2	選択	
国際機構論	2	選択	
国際教育協力論	2	選択	
NGO/NPO論	2	選択	
地域開発論	2	選択	
国際金融論	2	選択	
国際協力特論	2	選択	
多文化交流実習Ⅰ	2	選択	以下の科目から4単位以上選択
多文化交流実習Ⅱ	2	選択	
多文化交流実習Ⅲ	2	選択	
多文化交流実習Ⅳ	2	選択	
多文化交流実習Ⅴ	2	選択	
グローバル文化学実習Ⅰ	2	選択	
グローバル文化学実習Ⅱ	2	選択	
地域研究実習Ⅰ	2	選択	
地域研究実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅰ	2	選択	
国際協力実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅲ	2	選択	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ	2	選択	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅱ	2	選択	
フィールドワーク方法論	2	選択	
グローバル文化学方法論	2	必修	
グローバル文化学特論	2	必修	
卒業研究	8	必修	

別表第5 専門教育科目(第6条関係)

強化プログラム

哲学・倫理学・美術史強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
哲学演習AⅠ	2	選択	以下の科目から	
哲学演習AⅡ	2	選択	18～20単位選択	
哲学演習AⅢ	2	選択		
哲学演習AⅣ	2	選択		
哲学演習AⅤ	2	選択		
哲学演習AⅥ	2	選択		
哲学演習BⅠ	2	選択		
哲学演習BⅡ	2	選択		
哲学演習BⅢ	2	選択		
哲学演習BⅣ	2	選択		
哲学演習BⅤ	2	選択		
哲学演習BⅥ	2	選択		
倫理学演習A	4	選択		
倫理学演習B	4	選択		
倫理思想史演習A	4	選択		
倫理思想史演習B	4	選択		
倫理学資料講読	4	選択		
日本倫理思想史資料講読	4	選択		
西洋倫理思想史資料講読	4	選択		
倫理学研究	2	選択		
日本倫理思想史研究	2	選択		
西洋倫理思想史研究	2	選択		
宗教と倫理学	2	選択		
生命と倫理学	2	選択		
日本の社会と文化	2	選択		
日本文化の解釈学Ⅰ	2	選択		
日本文化の解釈学Ⅱ	2	選択		
日本文化の解釈学Ⅲ	2	選択		
形象分析学演習Ⅰ	4	選択		
形象分析学演習Ⅱ	4	選択		
形象分析学演習Ⅲ	4	選択		
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	選択		
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	選択		
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	選択		
美術史学演習Ⅰ	4	選択		
美術史学演習Ⅱ	4	選択		
美術史学演習Ⅲ	4	選択		
美術史学特殊講義Ⅰ	4	選択		
美術史学特殊講義Ⅱ	4	選択		
美術史学特殊講義Ⅲ	4	選択		
哲学A	2	選択		
哲学B	2	選択		
哲学C	2	選択		
哲学D	2	選択		
哲学E	2	選択		
哲学F	2	選択		
哲学G	2	選択		
哲学H	2	選択		
倫理学特殊講義A	2	選択		
倫理学特殊講義B	2	選択		
倫理学特殊講義C	2	選択		
倫理学特殊講義D	2	選択		
倫理学特殊講義E	2	選択		
倫理学特殊講義F	2	選択		
倫理思想史特殊講義A	2	選択		
倫理思想史特殊講義B	2	選択		
倫理思想史特殊講義C	2	選択		
倫理思想史特殊講義D	2	選択		
倫理思想史特殊講義E	2	選択		
倫理思想史特殊講義F	2	選択		
形象分析学調査演習	2	選択		
社会学通論Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
社会学通論Ⅱ	2	選択	0～2単位選択	
経済学総論Ⅰ	2	選択		
経済学総論Ⅱ	2	選択		

比較歴史学強化プログラム

比較歴史学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本文化史概論	2	選択	以下の科目から	
日本史概説	2	選択	18～20単位選択	
アジア史概説	2	選択		
西洋史概説	2	選択		
日本史入門講読	2	選択		
外国史入門講読Ⅰ	2	選択		
外国史入門講読Ⅱ	2	選択		
日本史研究法(1)	1	選択		
日本史研究法(2)	1	選択		
アジア史研究法(1)	1	選択		
アジア史研究法(2)	1	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
西洋史研究法(1)	1	選択	
西洋史研究法(2)	1	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
日本史講読	2	選択	
アジア史講読	2	選択	
西洋史講読	2	選択	
古文書学	2	選択	
歴史科学	2	選択	
日本史論文講読	2	選択	
外国史論文講読	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	選択	
歴史史料調査Ⅰ	2	選択	
歴史史料調査Ⅱ	2	選択	
歴史現地調査Ⅰ	2	選択	
歴史現地調査Ⅱ	2	選択	
考古学通論Ⅰ	2	選択	
考古学通論Ⅱ	2	選択	
日本古代中世文化史	2	選択	
日本近世近代文化史	2	選択	
日本古代中世特殊講義	2	選択	
日本近世近代史特殊講義	2	選択	
日本古代中世政治史	2	選択	
日本近世近代政治史	2	選択	
日本古代中世社会経済史	2	選択	
日本近世近代社会経済史	2	選択	
東アジア政治史	2	選択	
西アジア政治史	2	選択	
東アジア社会経済史	2	選択	
西アジア社会経済史	2	選択	
東アジアの歴史と文化	2	選択	
西アジアの歴史と文化	2	選択	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	選択	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	選択	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	選択	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	選択	
西洋政治史	2	選択	
西洋社会経済史	2	選択	
西洋社会史	2	選択	
西洋中世史	2	選択	
西洋近世史	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
フランス史	2	選択	
イギリス史	2	選択	
歴史学文献講読Ⅰ	2	選択	
歴史学文献講読Ⅱ	2	選択	
都市社会史	2	選択	
歴史情報論	2	選択	
比較ジェンダー史	2	選択	
西洋史学の探究	2	選択	
日本古代史演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史演習Ⅱ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	選択	
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	選択	
社会学通論Ⅰ	2	選択	以下の科目から0～2単位選択
社会学通論Ⅱ	2	選択	
経済学総論Ⅰ	2	選択	
経済学総論Ⅱ	2	選択	

地理環境学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
都市と自然	2	選択	以下の科目から18～20単位選択	
地理学英書講読	2	選択		
地図学	2	選択		
都市地理学	2	選択		
経済地理学	2	選択		
社会地理学	2	選択		
自然地理学	2	選択		
測量学	2	選択		
地誌学	2	選択		
自然地理学フィールドワーク	2	選択		
人文地理学フィールドワーク	2	選択		
地理学分析基礎演習Ⅰ	2	選択		
地理学分析基礎演習Ⅱ	2	選択		
地理情報システム演習Ⅰ	2	選択		
地理情報システム演習Ⅱ	2	選択		
地域分析学演習Ⅰ	2	選択		
環境地理学演習Ⅰ	2	選択		
自然地理学演習Ⅰ	2	選択		
社会地理学演習	2	選択		
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	選択		
地理環境学演習Ⅰ	2	選択		
地理環境学演習Ⅱ	2	選択		
地理環境学演習Ⅲ	2	選択		
地理環境学演習Ⅳ	2	選択		
フィールドワーク方法論	2	選択		
考古学通論Ⅰ	2	選択		
考古学通論Ⅱ	2	選択		
文化理論研究	2	選択		
地域開発論	2	選択		
グローバル化と経済	2	選択		
国際協力学	2	選択		
国際関係論	2	選択		
人口学	2	選択		
老年学	2	選択		
地域社会論	2	選択		
社会政策論Ⅰ	2	選択		
社会政策論Ⅱ	2	選択		
民俗学	2	選択		
歴史民俗文化論(1)	1	選択		
歴史民俗文化論(2)	1	選択		
住居学概論	2	選択		
建築環境計画論	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		
西洋建築史	2	選択		
地球環境科学	2	選択		
宇宙・地球科学	2	選択		
大気・海洋科学概論	2	選択		
地学基礎実験	2	選択		
地史・古生物学概論	2	選択		
環境科学(1)	1	選択		
環境科学(2)	1	選択		
生物系統地理学	2	選択		
植物生態学	2	選択		
動物生態学	2	選択		
生物統計学	2	選択		
環境情報論	2	選択		
社会学通論Ⅰ	2	選択	以下の科目から0～2単位選択	
社会学通論Ⅱ	2	選択		
経済学総論Ⅰ	2	選択		
経済学総論Ⅱ	2	選択		

日本語・日本文学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本古典文学史論(上代)	2	選択	以下の科目から4単位選択	
日本古典文学史論(中古)	2	選択		
日本古典文学史論(中世)	2	選択		
日本古典文学史論(近世)	2	選択		
日本近代文学史論(近代)	2	選択		
日本近代文学史論(現代)	2	選択		
日本語語彙論	2	選択	以下の科目から2単位選択	
日本語文法総論	2	選択		
日本語音声表現論	2	選択		
日本語文章表現論	2	選択	以下の科目から4単位選択	
日本文学論講読Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学論講読Ⅱ	2	選択	
日本文学論講読Ⅲ	2	選択	
日本文学論講読Ⅳ	2	選択	
日本語文化論Ⅰ	2	選択	
日本語文化論Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論基礎演習Ⅱ	2	選択	
日本語学基礎演習	2	選択	
日本語学特殊研究	2	選択	以下の科目から
日本語史特殊研究	2	選択	6単位選択
日本古典文学論特殊研究(上代)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中古)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中世)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(近世)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(近代)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(現代)	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
書道Ⅰ	2	選択	以下の科目から
書道Ⅱ	2	選択	2単位選択
日本古典文学論演習(上代)Ⅰ	2	選択	以下の科目から
日本古典文学論演習(上代)Ⅱ	2	選択	2単位選択
日本古典文学論演習(中古)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(中古)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(中世)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(中世)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(近世)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(近世)Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習(近代)Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習(近代)Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習(現代)Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習(現代)Ⅱ	2	選択	
日本語学演習(日本語史)Ⅰ	2	選択	
日本語学演習(日本語史)Ⅱ	2	選択	
日本語学演習(近・現代語)Ⅰ	2	選択	
日本語学演習(近・現代語)Ⅱ	2	選択	

中国語圏言語文化強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
中国言語文化論演習	2	必修		
中国事情	2	必修		
中国語会話演習	2	必修		
中国語ヒアリング演習	2	必修		
中国現代作品論	2	必修		
中国語文法論	2	必修		
中国語学文献講読	2	必修		
中国古典詩講義演習	2	必修		
中国文化論	2	選択	以下の科目から、	
中国現代作家論	2	選択	主プログラムに	
日中対照言語学	2	選択	において既修得の	
中国語統論	2	選択	科目を除く4単位	
中国古典文献講読入門	2	選択	選択	
中国古典文献講読基礎	2	選択		
中国文学古典講読	2	選択		
中国文学古典演習	2	選択		

英語圏言語文化強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
英文法演習	2	選択	以下の科目から	
英語音声学演習	2	選択	6～8単位選択	
英文学史Ⅰ(1)	1	選択		
英文学史Ⅰ(2)	1	選択		
英文学史Ⅱ	2	選択		
米文学史Ⅰ(1)	1	選択		
米文学史Ⅰ(2)	1	選択		
米文学史Ⅱ	2	選択		
英米文学演習(中級)	2	選択		
英米文学演習(上級)(1)	1	選択		
英米文学演習(上級)(2)	1	選択		
中国文化論	2	選択	以下の科目から	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択	12～14単位選択	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	選択		
英作文演習(上級)	2	選択		
英作文演習(中級)	2	選択		
英会話演習(中級)	2	選択		
英会話演習(上級)	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
英文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語圏言語文化研究Ⅰ	2	選択	
英語圏言語文化研究Ⅱ	2	選択	
英語圏言語文化研究Ⅲ	2	選択	
ギリシャ語	4	選択	
ラテン語	4	選択	

仏語圏言語文化強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
欧州文化論Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
欧州文化論Ⅱ	2	選択	20単位選択	
欧州文化論Ⅲ	2	選択		
欧州文化論Ⅳ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅲ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅳ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅱ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅳ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅴ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅵ	2	選択		
ドイツ語圏文学史Ⅰ	2	選択		
ドイツ語圏文学史Ⅱ	2	選択		
ドイツ語圏文学史Ⅲ	2	選択		
ドイツ語圏文化論Ⅰ	2	選択		
ドイツ語圏文化論Ⅱ	2	選択		
ドイツ語圏文化論Ⅲ	2	選択		
ギリシャ語	4	選択		
ラテン語	4	選択		
フランス史	2	選択		
西洋近世史	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	選択		
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	選択		
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅰ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅱ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅲ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅳ	2	選択		
基礎仏作文演習Ⅰ	2	選択		
基礎仏作文演習Ⅱ	2	選択		
中級仏作文演習Ⅰ	2	選択		
中級仏作文演習Ⅱ	2	選択		
仏語圏言語文化実習Ⅰ	2	選択		
仏語圏言語文化実習Ⅱ	2	選択		
上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ	2	選択		
上級仏語コミュニケーション演習Ⅱ	2	選択		
上級仏語コミュニケーション演習Ⅲ	2	選択		
上級仏語コミュニケーション演習Ⅳ	2	選択		
基礎仏語学演習Ⅰ	2	選択		
基礎仏語学演習Ⅱ	2	選択		
中級仏語学演習Ⅰ	2	選択		
中級仏語学演習Ⅱ	2	選択		
上級仏語学演習Ⅰ	2	選択		
上級仏語学演習Ⅱ	2	選択		
仏語圏文化資料研究Ⅰ	2	選択		
仏語圏文化資料研究Ⅱ	2	選択		
仏語圏文化資料研究Ⅲ	2	選択		
仏語圏文化資料研究Ⅳ	2	選択		
近代仏文学演習Ⅰ	2	選択		
近代仏文学演習Ⅱ	2	選択		
近代仏文学演習Ⅲ	2	選択		
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択		
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択		
近代仏文学特殊講義Ⅲ	2	選択		
現代仏文学演習Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
現代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
仏文学特殊研究	2	選択	
仏文学特別研究	2	選択	

教育科学強化プログラム				単位数：14
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
教育開発概論(1)	1	選択	以下の科目から2	
教育開発概論(2)	1	選択	単位以上選択	
生涯学習概論	2	選択		
教育科学概論	2	選択		
教育思想特殊講義	2	選択	以下の科目から4	
教育人間学特殊講義	2	選択	単位以上選択	
教育史特殊講義	2	選択		
教育制度特殊講義	2	選択		
教育社会学特殊講義	2	選択		
学校社会学特殊講義	2	選択		
教育方法学特殊講義	2	選択		
教育課程特殊講義	2	選択		
教育開発特殊講義	2	選択		
比較教育特殊講義	2	選択		
教育心理学特殊講義	2	選択		
発達心理学特殊講義	2	選択		
特別支援教育特殊講義	2	選択		
障害児教育特殊講義	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅰ	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅱ	2	選択		
教育思想演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から4	
教育思想演習Ⅱ	2	選択	単位以上選択	
教育人間学演習Ⅰ	2	選択		
教育人間学演習Ⅱ	2	選択		
教育史演習Ⅰ	2	選択		
教育史演習Ⅱ	2	選択		
教育制度演習Ⅰ	2	選択		
教育制度演習Ⅱ	2	選択		
教育社会学演習Ⅰ	2	選択		
教育社会学演習Ⅱ	2	選択		
学校社会学演習Ⅰ	2	選択		
学校社会学演習Ⅱ	2	選択		
教育方法学演習Ⅰ	2	選択		
教育方法学演習Ⅱ	2	選択		
教育課程演習Ⅰ	2	選択		
教育課程演習Ⅱ	2	選択		
教育開発演習Ⅰ	2	選択		
教育開発演習Ⅱ	2	選択		
比較教育演習Ⅰ	2	選択		
比較教育演習Ⅱ	2	選択		
教育心理学演習Ⅰ	2	選択		
教育心理学演習Ⅱ	2	選択		
発達心理学演習Ⅰ	2	選択		
発達心理学演習Ⅱ	2	選択		
特別支援教育演習Ⅰ	2	選択		
特別支援教育演習Ⅱ	2	選択		
障害児教育演習Ⅰ	2	選択		
障害児教育演習Ⅱ	2	選択		
教育科学演習AⅠ	2	選択		
教育科学演習AⅡ	2	選択		
教育科学演習BⅠ	2	選択		
教育科学演習BⅡ	2	選択		
法学総論Ⅰ	2	選択	以下の科目から0	
法学総論Ⅱ	2	選択	単位以上選択	
政治学総論Ⅱ	2	選択		
経済学総論Ⅰ	2	選択		
経済学総論Ⅱ	2	選択		
哲学総論	2	選択		
教育実習(中高)	1, 2又は4	選択		
事前・事後指導(中高)	1	選択		

社会学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
☆政治学総論Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
☆政治学総論Ⅱ	2	選択	12単位以上選択	
☆経済学総論Ⅰ	2	選択	(内☆の科目からは4単位まで、※	
☆経済学総論Ⅱ	2	選択	の科目からは、主	
ジェンダー社会学	2	選択	プログラムで取得	
現代社会論	2	選択	するものも含め	
現代生活論	2	選択	て、6単位までを	
社会意識論	2	選択	含めることができる。)	
比較社会論	2	選択		
社会政策論Ⅰ	2	選択		
社会政策論Ⅱ	2	選択		
社会問題論(1)	1	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
社会問題論(2)	1	選択	
社会調査の設計と実施	2	選択	
教育社会学特殊講義	2	選択	
学校社会学特殊講義	2	選択	
文化人類学概論(1)	1	選択	
文化人類学概論(2)	1	選択	
文化人類学特殊講義	2	選択	
民族社会学特殊講義	2	選択	
子ども社会学概論(1)	1	選択	
子ども社会学概論(2)	1	選択	
※社会福祉学	2	選択	
※家族社会学(1)	1	選択	
※家族社会学(2)	1	選択	
※老年学	2	選択	
※地域社会論	2	選択	
※児童福祉論	2	選択	
※応用生活統計学(1)	1	選択	
※応用生活統計学(2)	1	選択	
※社会統計学Ⅰ	2	選択	
ジェンダー論演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から
ジェンダー論演習Ⅱ	2	選択	6単位以上選択
現代社会論演習Ⅰ	2	選択	
現代社会論演習Ⅱ	2	選択	
社会政策論演習Ⅰ	2	選択	
社会政策論演習Ⅱ	2	選択	
社会意識論演習Ⅰ	2	選択	
社会意識論演習Ⅱ	2	選択	
文化人類学演習Ⅰ	2	選択	
文化人類学演習Ⅱ	2	選択	
民族社会学演習Ⅰ	2	選択	
民族社会学演習Ⅱ	2	選択	

子ども学強化プログラム				単位数：18
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
ジェンダー社会論	2	選択	以下の科目から2	
現代社会論	2	選択	単位以上選択	
社会意識論	2	選択		
社会政策論Ⅰ	2	選択		
文化人類学概論(1)	1	選択		
文化人類学概論(2)	1	選択		
教育開発概論(1)	1	選択		
教育開発概論(2)	1	選択		
生涯学習概論	2	選択		
児童福祉論	2	選択		
発達臨床心理学	2	選択		
臨床心理学概論(臨床心理学概論)	2	選択		
子ども発達論(1)	1	選択	以下の科目から4	
子ども発達論(2)	1	選択	単位以上選択	
人間関係論(1)	1	選択		
人間関係論(2)	1	選択		
子ども文化論(1)	1	選択		
子ども文化論(2)	1	選択		
子ども学特殊講義(1)	1	選択		
子ども学特殊講義(2)	1	選択		
幼児教育学演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から6	
幼児教育学演習Ⅱ	2	選択	単位以上選択	
保育学演習Ⅰ	2	選択		
保育学演習Ⅱ	2	選択		
子ども社会学演習Ⅰ	2	選択		
子ども社会学演習Ⅱ	2	選択		
家庭教育論演習Ⅰ	2	選択		
家庭教育論演習Ⅱ	2	選択		
幼児教育制度演習Ⅰ	2	選択		
幼児教育制度演習Ⅱ	2	選択		
子ども発達環境論演習Ⅰ	2	選択		
子ども発達環境論演習Ⅱ	2	選択		
乳幼児心理学演習Ⅰ	2	選択		
乳幼児心理学演習Ⅱ	2	選択		
子ども学調査法演習Ⅰ	2	選択		
子ども学調査法演習Ⅱ	2	選択		
教育思想演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から0	
教育思想演習Ⅱ	2	選択	単位以上選択	
教育人間学演習Ⅰ	2	選択		
教育人間学演習Ⅱ	2	選択		
教育史演習Ⅰ	2	選択		
教育史演習Ⅱ	2	選択		
教育制度演習Ⅰ	2	選択		
教育制度演習Ⅱ	2	選択		
教育心理学演習Ⅰ	2	選択		
教育心理学演習Ⅱ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
発達心理学演習Ⅰ	2	選択	
発達心理学演習Ⅱ	2	選択	
教育社会学演習Ⅰ	2	選択	
教育社会学演習Ⅱ	2	選択	
学校社会学演習Ⅰ	2	選択	
学校社会学演習Ⅱ	2	選択	
教育方法学演習Ⅰ	2	選択	
教育方法学演習Ⅱ	2	選択	
教育課程演習Ⅰ	2	選択	
教育課程演習Ⅱ	2	選択	
特別支援教育演習Ⅰ	2	選択	
特別支援教育演習Ⅱ	2	選択	
障害児教育演習Ⅰ	2	選択	
障害児教育演習Ⅱ	2	選択	
教育開発演習Ⅰ	2	選択	
教育開発演習Ⅱ	2	選択	
比較教育演習Ⅰ	2	選択	
比較教育演習Ⅱ	2	選択	
子ども学フィールドワーク	2	選択	以下の科目から0
子ども学インターンシップ	2	選択	単位以上選択
学校インターンシップ	1	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	
子どもと健康	1	選択	
子どもと人間関係	1	選択	
子どもと環境	1	選択	
子どもと言葉	1	選択	
子どもと表現	1	選択	
教育・発達心理学概論(1)	1	選択	
教育・発達心理学概論(2)	1	選択	
特別支援教育概論(1)	1	選択	
特別支援教育概論(2)	1	選択	
教育思想概論(1)	1	選択	
教育思想概論(2)	1	選択	
教育史概論(1)	1	選択	
教育史概論(2)	1	選択	
教育制度概論	1	選択	
教育社会学概論(1)	1	選択	
教育社会学概論(2)	1	選択	
教育方法学概論(1)	1	選択	
教育方法学概論(2)	1	選択	
教育課程概論(1)	1	選択	
教育課程概論(2)	1	選択	

別表第6 専門教育科目(第6条関係)
副プログラム

哲学・倫理学・美術史副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から	
倫理学基礎論	2	選択	20単位選択	
美術史基礎論	2	選択		
哲学概論Ⅰ	2	選択		
哲学概論Ⅱ	2	選択		
倫理学概論Ⅰ	2	選択		
倫理学概論Ⅱ	2	選択		
哲学A	2	選択		
哲学B	2	選択		
哲学C	2	選択		
哲学D	2	選択		
哲学E	2	選択		
哲学F	2	選択		
哲学G	2	選択		
哲学H	2	選択		
哲学CⅠ	2	選択		
日本倫理思想Ⅰ	2	選択		
日本倫理思想Ⅱ	2	選択		
倫理学研究	2	選択		
西洋倫理思想史研究	2	選択		
宗教と倫理学	2	選択		
生命と倫理学	2	選択		
日本の社会と文化	2	選択		
倫理学特殊講義A	2	選択		
倫理学特殊講義B	2	選択		
倫理学特殊講義C	2	選択		
倫理学特殊講義D	2	選択		
倫理学特殊講義E	2	選択		
倫理学特殊講義F	2	選択		
倫理思想史特殊講義A	2	選択		
倫理思想史特殊講義B	2	選択		
倫理思想史特殊講義C	2	選択		
倫理思想史特殊講義D	2	選択		
倫理思想史特殊講義E	2	選択		
倫理思想史特殊講義F	2	選択		
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	選択	
西洋美術史AⅠ	2	選択	
西洋美術史AⅡ	2	選択	
西洋美術史AⅢ	2	選択	
西洋美術史BⅠ	2	選択	
西洋美術史BⅡ	2	選択	
西洋美術史BⅢ	2	選択	
東洋美術史AⅠ	2	選択	
東洋美術史AⅡ	2	選択	
東洋美術史AⅢ	2	選択	
東洋美術史BⅠ	2	選択	
東洋美術史BⅡ	2	選択	
東洋美術史BⅢ	2	選択	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	選択	

比較歴史学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
比較文化史	2	選択	以下の科目から	
比較社会史	2	選択	20単位選択	
日本文化史概論	2	選択		
日本史概説	2	選択		
アジア史概説	2	選択		
西洋史概説	2	選択		
日本史研究法(1)	1	選択		
日本史研究法(2)	1	選択		
アジア史研究法(1)	1	選択		
アジア史研究法(2)	1	選択		
西洋史研究法(1)	1	選択		
西洋史研究法(2)	1	選択		
グローバル・ヒストリー	2	選択		
日本史講読	2	選択		
アジア史講読	2	選択		
西洋史講読	2	選択		
古文書学	2	選択		
歴史史料学	2	選択		
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	選択		
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	選択		
歴史史料調査Ⅰ	2	選択		
歴史史料調査Ⅱ	2	選択		
歴史現地調査Ⅰ	2	選択		
歴史現地調査Ⅱ	2	選択		
考古学通論Ⅰ	2	選択		
考古学通論Ⅱ	2	選択		
日本古代中世文化史	2	選択		
日本近世近代文化史	2	選択		
日本古代中世特殊講義	2	選択		
日本近世近代特殊講義	2	選択		
日本古代中世政治史	2	選択		
日本近世近代政治史	2	選択		
日本古代中世社会経済史	2	選択		
日本近世近代社会経済史	2	選択		
東アジア政治史	2	選択		
西アジア政治史	2	選択		
東アジア社会経済史	2	選択		
西アジア社会経済史	2	選択		
東アジアの歴史と文化	2	選択		
西アジアの歴史と文化	2	選択		
比較アジア社会史論Ⅰ	2	選択		
比較アジア社会史論Ⅱ	2	選択		
比較アジア文化史論Ⅰ	2	選択		
比較アジア文化史論Ⅱ	2	選択		
西洋政治史	2	選択		
西洋社会経済史	2	選択		
西洋社会史	2	選択		
西洋中世史	2	選択		
西洋近世史	2	選択		
西洋文化史	2	選択		
フランス史	2	選択		
イギリス史	2	選択		
歴史学文献講読Ⅰ	2	選択		
歴史学文献講読Ⅱ	2	選択		
都市社会史	2	選択		
比較ジェンダー史	2	選択		
日本古代史演習Ⅰ	2	選択		
日本古代史演習Ⅱ	2	選択		
日本中世史演習Ⅰ	2	選択		
日本中世史演習Ⅱ	2	選択		
日本近世史演習Ⅰ	2	選択		
日本近世史演習Ⅱ	2	選択		
日本近代史演習Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本近代史演習Ⅱ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	選択	

地理環境学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間と空間	2	選択	以下の科目から	
自然と人間	2	選択	12単位選択	
都市と自然	2	選択		
地誌学	2	選択		
都市地理学	2	選択		
経済地理学	2	選択		
社会地理学	2	選択		
自然地理学	2	選択		
地理学英書講読	2	選択	以下の科目から	
地図学	2	選択	4単位選択	
測量学	2	選択		
地理学分析基礎演習Ⅰ	2	選択		
地理学分析基礎演習Ⅱ	2	選択		
地域分析学演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
環境地理学演習Ⅰ	2	選択	2単位選択	
自然地理学演習Ⅰ	2	選択		
社会地理学演習Ⅰ	2	選択		
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	選択		
地理学フィールドワーク	2	必修		

日本語・日本文学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本文学概説	2	必修		
日本古典文学史論(上代)	2	選択	以下の科目から	
日本古典文学史論(中古)	2	選択	6単位選択	
日本古典文学史論(中世)	2	選択		
日本古典文学史論(近世)	2	選択		
日本近代文学史論(近代)	2	選択		
日本近代文学史論(現代)	2	選択		
日本語学通論	2	選択	以下の科目から	
日本語学概論	2	選択	2単位選択	
日本語学総論	2	選択		
日本語学表現論	2	選択		
日本語学文章表現論	2	選択	以下の科目から	
日本文学論講読Ⅰ	2	選択	4単位選択	
日本文学論講読Ⅱ	2	選択		
日本文学論講読Ⅲ	2	選択		
日本文学論講読Ⅳ	2	選択		
日本語文化論Ⅰ	2	選択		
日本語文化論Ⅱ	2	選択		
日本語学特殊研究	2	選択	以下の科目から	
日本語学特殊研究	2	選択	6単位選択	
日本古典文学論特殊研究(上代)	2	選択		
日本古典文学論特殊研究(中古)	2	選択		
日本古典文学論特殊研究(中世)	2	選択		
日本古典文学論特殊研究(近世)	2	選択		
日本近代文学論特殊研究(近代)	2	選択		
日本近代文学論特殊研究(現代)	2	選択		
日本語学特殊講義Ⅰ	2	選択		
日本語学特殊講義Ⅱ	2	選択		
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	選択		
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	選択		
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	

中国語圏言語文化副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
中国語学概論	2	必修		
中国古典文学史(先秦～唐)	2	必修		
中国語ヒアリング基礎	2	選択	以下の科目から	
中国語コミュニケーション・スキル	2	選択	4単位以上選択	
中国語作文基礎演習	2	選択		
中国語作文応用演習	2	選択		
中国語講読	2	選択		
中国文化論	2	選択	以下の科目から	
中国現代作家論	2	選択	6単位以上選択	
日中対照言語学	2	選択		
中国語統語論	2	選択		
中国古典文献講読入門	2	選択		
中国古典文献講読基礎	2	選択		
中国文学古典講読	2	選択		
中国文学古典演習	2	選択		

英語圏言語文化副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
英文法Ⅰ(1)	1	必修		
英文法Ⅰ(2)	1	必修		
英文法Ⅱ	2	必修		
英米文学演習(初級)	2	選択	以下の科目から	
英作文演習(初級)	2	選択	4単位選択	
英会話演習(初級)	2	選択		
英語学入門(1)	1	選択	以下の科目から	
英語学入門(2)	1	選択	4～6単位選択	
英語学概論	2	選択		
英文法演習	2	選択		
英語音声学演習	2	選択		
英文学史Ⅰ(1)	1	選択		
英文学史Ⅰ(2)	1	選択		
英文学史Ⅱ	2	選択		
米文学史Ⅰ(1)	1	選択		
米文学史Ⅰ(2)	1	選択		
米文学史Ⅱ	2	選択		
英作文演習(中級)	2	選択	以下の科目から	
英会話演習(中級)	2	選択	6～8単位選択	
英文学特殊講義Ⅰ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅱ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅲ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅳ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅴ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅵ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅶ	2	選択		
英文学特殊講義Ⅷ	2	選択		
英語学特殊講義Ⅰ	2	選択		
英語学特殊講義Ⅱ	2	選択		
英語学特殊講義Ⅲ	2	選択		
英語学特殊講義Ⅳ	2	選択		
英語学特殊講義Ⅴ	2	選択		
英語学特殊講義Ⅵ	2	選択		
英語圏言語文化研究Ⅰ	2	選択		
英語圏言語文化研究Ⅱ	2	選択		
英語圏言語文化研究Ⅲ	2	選択		
英語圏事情(1)	1	選択		
英語圏事情(2)	1	選択		
第二言語教授法研究Ⅰ	2	選択		
第二言語教授法研究Ⅱ	2	選択		

仏語圏言語文化副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
仏語圏言語文化基礎演習	2	選択	以下の科目から	
欧州文化論Ⅰ	2	選択	20単位選択	
欧州文化論Ⅱ	2	選択		
欧州文化論Ⅲ	2	選択		
欧州文化論Ⅳ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅰ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅱ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅲ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅳ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅰ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅱ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅲ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅳ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅴ	2	選択		
独語圏文化講読演習Ⅵ	2	選択		
ドイツ語圏文学史Ⅰ	2	選択		
ドイツ語圏文学史Ⅱ	2	選択		
ドイツ語圏文学史Ⅲ	2	選択		
ドイツ語圏文化論Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
ドイツ語圏文化論Ⅱ	2	選択	
ドイツ語圏文化論Ⅲ	2	選択	
ギリシャ語	4	選択	
ラテン語	4	選択	
フランス史	2	選択	
西洋近世史	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	選択	
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	選択	
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅰ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅱ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅲ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅳ	2	選択	
基礎仏作文演習Ⅰ	2	選択	
基礎仏作文演習Ⅱ	2	選択	
中級仏作文演習Ⅰ	2	選択	
中級仏作文演習Ⅱ	2	選択	
仏語圏言語文化実習Ⅰ	2	選択	
仏語圏言語文化実習Ⅱ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅱ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅲ	2	選択	
上級仏語コミュニケーション演習Ⅳ	2	選択	
基礎仏語学演習Ⅰ	2	選択	
基礎仏語学演習Ⅱ	2	選択	
中級仏語学演習Ⅰ	2	選択	
中級仏語学演習Ⅱ	2	選択	
上級仏語学演習Ⅰ	2	選択	
上級仏語学演習Ⅱ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅰ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅱ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅲ	2	選択	
仏語圏文化資料研究Ⅳ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅲ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
仏文学特殊研究	2	選択	
仏文学特別研究	2	選択	

日本語教育副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
第二言語教授法演習Ⅰ	2	必修		
第二言語教授法演習Ⅱ	2	選択	以下の科目から	
日本語表現法概論	2	選択	18単位選択	
日本語教育学研究法実習	2	選択		
日本語教育学概論Ⅰ	2	選択		
日本語教育学概論Ⅱ	2	選択		
日本語教育法演習Ⅰ	2	選択		
日本語教育法演習Ⅱ	2	選択		
日本語教育法演習Ⅲ	4	選択		
多文化人間関係論演習	2	選択		
異文化間教育学演習	2	選択		
社会言語学演習	2	選択		
日本語学概論Ⅰ	2	選択		
日本語学概論Ⅱ	2	選択		
子どもの日本語教育学概論	2	選択		
日本語教育学特殊講義	2	選択		
言語と文化(1)	1	選択		
言語と文化(2)	1	選択		
多文化共生論	2	選択		
多文化間交流論(1)	1	選択		
多文化間交流論(2)	1	選択		

社会学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
社会学総論	2	必修	以下の科目から必修を含め4単位	
人間科学論	2	選択	選択。ただし、人間社会科学科	
子ども学総論	2	選択	の学生は、本プログラムの他の	
人間と発達	2	選択	科目で単位を講ずることができる。	
ジェンダー社会論	2	選択	以下の科目から8	
現代社会論	2	選択	単位選択	
現代生活論	2	選択		
社会意識論	2	選択		
比較社会論	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
社会政策論Ⅰ	2	選択	
社会政策論Ⅱ	2	選択	
社会問題論(1)	1	選択	
社会問題論(2)	1	選択	
社会調査の設計と実施	2	選択	
文化人類学概論(1)	1	選択	
文化人類学概論(2)	1	選択	
文化人類学特殊講義	2	選択	
民族誌学特殊講義	2	選択	
ジェンダー論演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から4
ジェンダー論演習Ⅱ	2	選択	単位選択
現代社会論演習Ⅰ	2	選択	
現代社会論演習Ⅱ	2	選択	
社会保障論演習Ⅰ	2	選択	
社会保障論演習Ⅱ	2	選択	
社会政策論演習Ⅰ	2	選択	
社会政策論演習Ⅱ	2	選択	
現代生活論演習Ⅰ	2	選択	
現代生活論演習Ⅱ	2	選択	
社会意識論演習Ⅰ	2	選択	
社会意識論演習Ⅱ	2	選択	
文化人類学演習Ⅰ	2	選択	
文化人類学演習Ⅱ	2	選択	
民族誌学演習Ⅰ	2	選択	
民族誌学演習Ⅱ	2	選択	
社会調査法Ⅰ	2	必修	
社会調査法Ⅱ	2	必修	

舞踊教育学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
舞踊学概論	2	必修		
表現行動論Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
表現行動論Ⅱ	2	選択	6～14単位選択	
舞踊芸術学	2	選択		
民族舞踊学(1)	1	選択		
民族舞踊学(2)	1	選択		
臨床舞踊論	2	選択		
スポーツ人間学(1)	1	選択		
スポーツ人間学(2)	1	選択		
体育原理	2	選択		
動作学(1)	1	選択		
動作学(2)	1	選択		
舞踊・運動科学研究法入門	2	選択		
舞踊芸術学実験演習(1)	1	選択	以下の科目から	
舞踊芸術学実験演習(2)	1	選択	0～4単位選択	
民族舞踊学実験演習(1)	1	選択		
民族舞踊学実験演習(2)	1	選択		
臨床舞踊論実験演習(1)	1	選択		
臨床舞踊論実験演習(2)	1	選択		
動作学実験演習(1)	1	選択		
動作学実験演習(2)	1	選択		
スポーツ文化論演習(1)	1	選択		
スポーツ文化論演習(2)	1	選択		
体育心理学	2	選択	以下の科目から	
運動学(運動方法学を含む)	2	選択	0～8単位選択	
解剖学	2	選択		
生理学(運動生理学を含む)	2	選択		
舞踊学特殊講義	2	選択		
運動科学特殊講義	2	選択		
舞踊教育法実習(初等教育)	1	選択	以下の科目から	
舞踊教育法実習(中等教育)	1	選択	0～2単位選択	
民族舞踊実習(基礎)	1	選択		

音楽表現副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本音楽史概論	2	選択	以下の科目から	
西洋音楽史Ⅰ	2	選択	8～10単位選択	
西洋音楽史Ⅱ	2	選択		
音楽学研究法	2	選択		
音楽形式論	2	選択		
音楽学概論	2	選択	以下の科目から	
民族音楽学	2	選択	6～8単位選択	
音楽学研究演習	4	選択		
現代音楽Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
現代音楽Ⅱ	2	選択	2～4単位選択	
音楽学特殊講義Ⅰ	2	選択		
音楽学特殊講義Ⅱ	2	選択		
西洋音楽史特殊講義Ⅰ	2	選択		
西洋音楽史特殊講義Ⅱ	2	選択		

V
諸規程等(規則集)

別表第7 専門教育科目(第6条関係)

学際プログラム

教育科学・子ども学学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間と発達	2	選択	以下の科目から2	
子ども学総論	2	選択	単位以上選択	
教育思想概論(1)	1	選択	以下の科目から6	
教育思想概論(2)	1	選択	単位以上選択	
教育史概論(1)	1	選択		
教育史概論(2)	1	選択		
教育・発達心理学概論(1)	1	選択		
教育・発達心理学概論(2)	1	選択		
教育社会学概論(1)	1	選択		
教育社会学概論(2)	1	選択		
教育制度概論	2	選択		
教育方法学概論(1)	1	選択		
教育方法学概論(2)	1	選択		
教育課程概論(1)	1	選択		
教育課程概論(2)	1	選択		
特別支援教育概論(1)	1	選択		
特別支援教育概論(2)	1	選択		
教育開発概論(1)	1	選択		
教育開発概論(2)	1	選択		
生涯学習概論	2	選択		
教育科学概論	2	選択		
幼児教育学原論(1)	1	選択		
幼児教育学原論(2)	1	選択		
幼児教育方法学概論(1)	1	選択		
幼児教育方法学概論(2)	1	選択		
幼児教育課程概論(1)	1	選択		
幼児教育課程概論(2)	1	選択		
子ども社会学概論(1)	1	選択		
子ども社会学概論(2)	1	選択		
幼児教育制度概論(1)	1	選択		
幼児教育制度概論(2)	1	選択		
保育内容総論(子どもと遊び)(1)	1	選択		
保育内容総論(子どもと遊び)(2)	1	選択		
教育思想特殊講義	2	選択	以下の科目から4	
教育人間学特殊講義	2	選択	単位以上選択	
教育史特殊講義	2	選択		
教育制度特殊講義	2	選択		
教育社会学特殊講義	2	選択		
学校社会学特殊講義	2	選択		
教育方法学特殊講義	2	選択		
教育課程特殊講義	2	選択		
教育開発特殊講義	2	選択		
比較教育特殊講義	2	選択		
教育心理学特殊講義	2	選択		
発達心理学特殊講義	2	選択		
特別支援教育特殊講義	2	選択		
障害児教育特殊講義	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅰ	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅱ	2	選択		
子ども発達論(1)	1	選択		
子ども発達論(2)	1	選択		
人間関係論(1)	1	選択		
人間関係論(2)	1	選択		
子ども文化論(1)	1	選択		
子ども文化論(2)	1	選択		
子ども学特殊講義(1)	1	選択		
子ども学特殊講義(2)	1	選択		
学校インターンシップ	1	選択		
子ども学フィールドワーク	2	選択		
教育思想演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から0	
教育思想演習Ⅱ	2	選択	～8単位選択	
教育人間学演習Ⅰ	2	選択		
教育人間学演習Ⅱ	2	選択		
教育史演習Ⅰ	2	選択		
教育史演習Ⅱ	2	選択		
教育制度演習Ⅰ	2	選択		
教育制度演習Ⅱ	2	選択		
教育社会学演習Ⅰ	2	選択		
教育社会学演習Ⅱ	2	選択		
学校社会学演習Ⅰ	2	選択		
学校社会学演習Ⅱ	2	選択		
教育方法学演習Ⅰ	2	選択		
教育方法学演習Ⅱ	2	選択		
教育課程演習Ⅰ	2	選択		
教育課程演習Ⅱ	2	選択		
教育開発演習Ⅰ	2	選択		
教育開発演習Ⅱ	2	選択		
比較教育演習Ⅰ	2	選択		
比較教育演習Ⅱ	2	選択		
教育心理学演習Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
教育心理学演習Ⅱ	2	選択	
発達心理学演習Ⅰ	2	選択	
発達心理学演習Ⅱ	2	選択	
特別支援教育演習Ⅰ	2	選択	
特別支援教育演習Ⅱ	2	選択	
障害児教育演習Ⅰ	2	選択	
障害児教育演習Ⅱ	2	選択	
教育科学演習Ⅰ	2	選択	
教育科学演習Ⅱ	2	選択	
教育科学演習Ⅲ	2	選択	
教育科学演習Ⅳ	2	選択	
教育科学演習Ⅴ	2	選択	
教育科学演習Ⅵ	2	選択	
幼児教育学演習Ⅰ	2	選択	
幼児教育学演習Ⅱ	2	選択	
保育学演習Ⅰ	2	選択	
保育学演習Ⅱ	2	選択	
子ども社会学演習Ⅰ	2	選択	
子ども社会学演習Ⅱ	2	選択	
家庭教育論演習Ⅰ	2	選択	
家庭教育論演習Ⅱ	2	選択	
幼児教育制度演習Ⅰ	2	選択	
幼児教育制度演習Ⅱ	2	選択	
子ども発達環境論演習Ⅰ	2	選択	
子ども発達環境論演習Ⅱ	2	選択	
乳幼児心理学演習Ⅰ	2	選択	
乳幼児心理学演習Ⅱ	2	選択	
子ども学調査法演習Ⅰ	2	選択	
子ども学調査法演習Ⅱ	2	選択	

グローバル文化学学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
グローバル文化学総論	2	選択	以下の科目から	
国際関係論	2	選択	4～8単位選択	
政治学総論Ⅰ	2	選択		
政治学総論Ⅱ	2	選択		
グローバル化と経済	2	選択		
グローバル化と社会	2	選択		
比較ジェンダー論	2	選択		
グローバル・ヒストリー	2	選択		
地域研究方法論	2	選択		
文化理論研究	2	選択		
多文化間交流論(1)	1	選択		
多文化間交流論(2)	1	選択		
言語と文化(1)	1	選択		
言語と文化(2)	1	選択		
国際協力学	2	選択		
文化変動論Ⅰ	2	選択		
文化変動論Ⅱ	2	選択		
イスラム社会文化論Ⅰ(1)	1	選択		
イスラム社会文化論Ⅰ(2)	1	選択		
イスラム社会文化論Ⅱ	2	選択		
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	選択		
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	選択		
アジア社会とジェンダーⅠ	2	選択		
アジア社会とジェンダーⅡ	2	選択		
対日交流論	2	選択		
中国社会文化論	2	選択		
東南アジア社会文化論	2	選択		
アフリカ社会文化論	2	選択		
地域研究特論	2	選択		
英語圏事情(1)	1	選択		
英語圏事情(2)	1	選択		
文化と人間関係Ⅰ	2	選択		
文化と人間関係Ⅱ	2	選択		
グローバル化と言語教育Ⅰ(1)	1	選択		
グローバル化と言語教育Ⅰ(2)	1	選択		
グローバル化と言語教育Ⅱ(1)	1	選択		
グローバル化と言語教育Ⅱ(2)	1	選択		
表現行動論Ⅰ	2	選択		
表現行動論Ⅱ	2	選択		
言語と社会	2	選択		
多文化共生論	2	選択		
国際交流論Ⅰ	2	選択		
国際交流論Ⅱ	2	選択		
多文化交流特論	2	選択		
国際協力方法論Ⅰ	2	選択		
国際協力方法論Ⅱ(1)	1	選択		
国際協力方法論Ⅱ(2)	1	選択		
平和構築論Ⅰ	2	選択		
平和構築論Ⅱ(1)	1	選択		
平和構築論Ⅱ(2)	1	選択		
国際開発論Ⅰ	2	選択		
国際開発論Ⅱ	2	選択		
グローバル化と労働Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
グローバル化と労働Ⅱ	2	選択	
国際機構論	2	選択	
国際教育協力論	2	選択	
NGO/NPO論	2	選択	
地域開発論	2	選択	
国際金融論	2	選択	
国際協力特論	2	選択	
多文化交流実習Ⅰ	2	選択	
多文化交流実習Ⅱ	2	選択	
多文化交流実習Ⅲ	2	選択	
多文化交流実習Ⅳ	2	選択	
多文化交流実習Ⅴ	2	選択	
グローバル文化実習Ⅰ	2	選択	
グローバル文化実習Ⅱ	2	選択	
地域研究実習Ⅰ	2	選択	
地域研究実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅰ	2	選択	
国際協力実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅲ	2	選択	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ	2	選択	
グローバル・リーダーシップ実習Ⅱ	2	選択	
フィールドワーク方法論	2	選択	
グローバル文化学方法論	2	選択	

別表第8 専門教育科目(第6条関係)

芸術・表現行動学科

授業科目	単位数	必修・選択	備考
舞踊教育学専修プログラム			
●必修			
舞踊芸術学	2	必修	
民族舞踊学(1)	1	必修	
民族舞踊学(2)	1	必修	
臨床舞踊論	2	必修	
体育原理	2	必修	
動作学(1)	1	必修	
動作学(2)	1	必修	
モダンダンス・テクニク(初級)	1	必修	
舞踊創作法実習(舞踊構成法)	1	必修	
舞踊創作法実習(即興創作)	1	必修	
民族舞踊実習(基礎)	1	必修	
舞踊教育法実習(中等教育)	1	必修	
舞踊・運動科学研究法入門	2	必修	
舞踊・運動科学研究法演習	2	必修	
卒業論文	8	必修	
●選択			
スポーツ人間学(1)	1	選択	以下の科目から
スポーツ人間学(2)	1	選択	37単位以上選択
舞踊学概論	2	選択	
表現行動Ⅰ	2	選択	
表現行動Ⅱ	2	選択	
モダンダンス・テクニク(中級)Ⅰ	1	選択	
モダンダンス・テクニク(中級)Ⅱ	1	選択	
モダンダンス・テクニク(上級)	1	選択	
舞踊創作法実習(舞踊上演・制作)	2	選択	
舞踊教育法実習(初等教育)	1	選択	
民族舞踊実習(発展)	1	選択	
舞踊上演法実習(初級)	1	選択	
舞踊上演法実習(中級)	1	選択	
舞踊上演法実習(上級)	1	選択	
舞踊表現技法実習	1	選択	
舞踊芸術学実験演習(1)	1	選択	
舞踊芸術学実験演習(2)	1	選択	
民族舞踊学実験演習(1)	1	選択	
民族舞踊学実験演習(2)	1	選択	
臨床舞踊論実験演習(1)	1	選択	
臨床舞踊論実験演習(2)	1	選択	
動作学実験演習(1)	1	選択	
動作学実験演習(2)	1	選択	
スポーツ文化論演習(1)	1	選択	
スポーツ文化論演習(2)	1	選択	
陸上競技	1	選択	
器械体操	1	選択	
球技	1	選択	
体づくり運動・武道	1	選択	
水泳実習	1	選択	
日本舞踊実習	1	選択	
バレエ実習	1	選択	
舞踊音楽構成法	1	選択	
運動学(運動方法学を含む)	2	選択	
解剖学	2	選択	
生理学(運動生理学を含む)	2	選択	
体育心理学	2	選択	
衛生学及び公衆衛生学	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
学校保健	2	選択	
病理学	2	選択	
学校安全と救急看護	2	選択	
舞踊学特殊講義	2	選択	
運動科学特殊講義	2	選択	
表現療法講義演習	2	選択	
●選択			
教育方法学概論(1)	1	選択	
教育方法学概論(2)	1	選択	
教育社会学概論(1)	1	選択	
教育社会学概論(2)	1	選択	
文化人類学概論(1)	1	選択	
文化人類学概論(2)	1	選択	
生涯学習概論	2	選択	
●高大連携科目(選択)			
舞踊教育学選択基礎	2	選択	
高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1(第6条関係)「自由」に選択して履修する科目・単位として認定することができる。			

授業科目	単位数	必修・選択	備考
音楽表現専修プログラム			
●必修			
ソルフェージュ	2	必修	
音楽形式論	2	必修	
ピアノ基礎	4	必修	
声楽基礎	4	必修	
作曲原論Ⅰ	2	必修	
作曲原論Ⅱ	2	必修	
西洋音楽史Ⅰ	2	必修	
西洋音楽史Ⅱ	2	必修	
日本音楽史概論	2	必修	
音楽学研究法	2	必修	
音楽学概論	2	必修	
民族音楽学	2	必修	
現代音楽Ⅰ	2	必修	
現代音楽Ⅱ	2	必修	
卒業研究	8	必修	
●選択			
ソルフェージュ発展A	2	選択	以下の科目から
ソルフェージュ発展B	2	選択	24単位以上選択
ソルフェージュ発展C	2	選択	
ピアノⅠ	4	選択	
ピアノⅡ	4	選択	
ピアノⅢ	4	選択	
ピアノⅣ	4	選択	
ピアノ研究演習AⅠ	2	選択	
ピアノ研究演習AⅡ	2	選択	
ピアノ研究演習BⅠ	2	選択	
ピアノ研究演習BⅡ	2	選択	
ピアノ研究演習CⅠ	2	選択	
ピアノ研究演習CⅡ	2	選択	
ピアノレパートリー研究AⅠ	2	選択	
ピアノレパートリー研究AⅡ	2	選択	
ピアノレパートリー研究BⅠ(1)	1	選択	
ピアノレパートリー研究BⅠ(2)	1	選択	
ピアノレパートリー研究BⅡ(1)	1	選択	
ピアノレパートリー研究BⅡ(2)	1	選択	
ピアノレパートリー研究CⅠ	2	選択	
ピアノレパートリー研究CⅡ	2	選択	
ピアノ特別演習AⅠ	2	選択	
ピアノ特別演習AⅡ	2	選択	
ピアノ特別演習BⅠ	2	選択	
ピアノ特別演習BⅡ	2	選択	
ピアノ特別演習CⅠ	2	選択	
ピアノ特別演習CⅡ	2	選択	
ピアノ演奏法研究AⅠ	2	選択	
ピアノ演奏法研究AⅡ	2	選択	
ピアノ演奏法研究BⅠ	2	選択	
ピアノ演奏法研究BⅡ	2	選択	
ピアノ演奏法研究CⅠ	2	選択	
ピアノ演奏法研究CⅡ	2	選択	
ピアノ合奏研究(基礎)	2	選択	
ピアノ合奏研究(発展)	2	選択	
室内楽研究	2	選択	
副科ピアノA	2	選択	
副科ピアノB	2	選択	
副科ピアノC	2	選択	
ピアノ指導法研究(1)	1	選択	
ピアノ指導法研究(2)	1	選択	
声楽発展A	4	選択	
声楽発展B	4	選択	
声楽発展C	4	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
声楽特別演習	4	選択	
歌曲研究A I	2	選択	
歌曲研究A II	2	選択	
歌曲研究B I	2	選択	
歌曲研究B II	2	選択	
歌曲研究C I	2	選択	
歌曲研究C II	2	選択	
オペラ研究A I	2	選択	
オペラ研究A II	2	選択	
オペラ研究A III	2	選択	
オペラ研究A IV	2	選択	
オペラ研究B I	2	選択	
オペラ研究B II	2	選択	
オペラ研究B III	2	選択	
オペラ研究B IV	2	選択	
演奏身体論A I	2	選択	
演奏身体論A II	2	選択	
演奏身体論B I	2	選択	
演奏身体論B II	2	選択	
演奏身体論C I	2	選択	
演奏身体論C II	2	選択	
副科声楽A	2	選択	
副科声楽B	2	選択	
副科声楽C	2	選択	
声楽指導法研究 I	2	選択	
声楽指導法研究 II	2	選択	
指揮法	2	選択	
西洋音楽史特殊講義 I	2	選択	
西洋音楽史特殊講義 II	2	選択	
音楽学各論 I	2	選択	
音楽学各論 II	2	選択	
音楽学各論 III	2	選択	
音楽学各論 IV	2	選択	
音楽学研究演習	4	選択	
音楽学特殊講義 I	2	選択	
音楽学特殊講義 II	2	選択	
日本音楽演奏法	2	選択	
合唱演習 I	2	選択	
合唱演習 II	2	選択	
合唱演習 III	2	選択	
合唱演習 IV	2	選択	
合奏演習	2	選択	
クリエイティブ・ミュージック・メイキング	4	選択	
クリエイティブ・ミュージック・メイキング(発展)	4	選択	
クリエイティブ・ミュージック・メイキング(応用)	4	選択	
卒業演奏研究(ピアノ)	2	選択	
卒業演奏研究(声楽)	2	選択	
卒業論文演習	4	選択	
●高大連携科目(選択)			
音楽表現選択基礎	2	選択	

高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1(第6条関係)「自由を選択して履修する科目・単位」として認定することができる。

別表第9 学部共通科目(第6条関係)

授業科目	単位数	備考
ギリシャ語	4	
ラテン語	4	
人文情報学研究	2	
人文情報学演習	2	
データベース論	2	
デザイン思考とロジックモデル	2	

別表第10 全学共通科目(第6条関係)

授業科目	単位数	備考
NPO入門	2	
未来起点ゼミ I	2	
未来起点ゼミ II	2	
未来起点ゼミ III	2	
未来起点ゼミ IV	2	
パーソナル・ブランディング	2	
女性のキャリアと経済	2	
ファシリテーション	2	
平和と共生演習	2	
国際共生社会論実習	2	
キャリアプラン	2	
ICTとコミュニケーションスキル(基礎)	2	
ICTとコミュニケーションスキル(応用)	2	
アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)	2	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション入門編)	2	

授業科目	単位数	備考
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(モノ編))	1	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(コト編))	1	
アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1	
アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1	
未来開拓入門	1	
女性のキャリアと法制度	2	(卒業単位に含めることができない)
ダイバーシティ論	2	(卒業単位に含めることができない)
キャリアプランと進路選択	2	(卒業単位に含めることができない)
インターンシップ I	1	(卒業単位に含めることができない)
インターンシップ II	2	(卒業単位に含めることができない)
Ocha-Solution Program(基礎)	2	(卒業単位に含めることができない)
博物館概論	2	
博物館資料論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館実習	3	
博物館情報・メディア論	2	
日本の伝統芸能	2	
初等解析学 I	2	
初等解析学 II(1)	1	
初等解析学 II(2)	1	
初等線形代数学	2	
初等代数学	2	
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B(1)	1	
基礎化学B(2)	1	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
大気・海洋科学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率論	2	
コンピュータシステム序論	2	
生命情報学概論(1)	1	
生命情報学概論(2)	1	
計算生物学(1)	1	
計算生物学(2)	1	
海外交換留学等認定科目	2~12	
Academic Writing	2	
Academic Presentation	2	
Pre Summer Program in English	2	
Summer Program in English I	2	
Summer Program in English II	2	
Summer Program in English III	2	
Summer Program in English IV	2	
Summer Program in English V	2	
Summer Program in English VI	2	
グローバル・インターンシップ I	2	
グローバル・インターンシップ II	2	
グローバル・インターンシップ III	2	
グローバル EDI I	2	
グローバル EDI II	2	
グローバル EDI III	2	
国際交流実習 I	2	
国際交流実習 II	2	
Interdisciplinary Lectures in English I	2	
Interdisciplinary Lectures in English II	2	
Interdisciplinary Lectures in English III	2	
Interdisciplinary Lectures in English IV	2	
Interdisciplinary Lectures in English V	2	
Interdisciplinary Lectures in English VI	2	
舞台芸術実践概論 I	2	
舞台芸術実践概論 II	2	
文化芸術制作演習 I	2	
文化芸術制作演習 II	2	
物理学サプリメント	2	(卒業単位に含めることができない)
生物学サプリメント	2	(卒業単位に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業単位に含めることができない)
TOEFL 対策ゼミ R/L	2	(卒業単位に含めることができない)
TOEFL 対策ゼミ S/W	2	(卒業単位に含めることができない)
IELTS 対策ゼミ R/L	2	(卒業単位に含めることができない)
IELTS 対策ゼミ S/W	2	(卒業単位に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業単位に含めることができない)
中国語力強化ゼミ I	2	(卒業単位に含めることができない)
中国語力強化ゼミ II	2	(卒業単位に含めることができない)

別表第11 教職課程科目(第6条関係)

授業科目	単位数	備考
教職概論(1)	1	
教職概論(2)	1	
教育思想概論(1)	1	
教育思想概論(2)	1	
教育史概論(1)	1	
教育史概論(2)	1	
教育原論(思想・歴史)(1)	1	
教育原論(思想・歴史)(2)	1	
教育・発達心理学概論(1)	1	
教育・発達心理学概論(2)	1	
教育心理	2	
特別支援教育概論(1)	1	
特別支援教育概論(2)	1	
特別支援教育の理論と方法	1	
教育社会学概論(1)	1	
教育社会学概論(2)	1	
教育制度概論	2	
教育原論(社会・制度)(1)	1	
教育原論(社会・制度)(2)	1	
教育課程概論(1)	1	
教育課程概論(2)	1	
教育課程論	2	
中等社会科教育法Ⅰ(地理歴史)	2	
中等社会科教育法Ⅱ(公民)	2	
中等社会科教育法Ⅲ(地理歴史)	2	
中等社会科教育法Ⅳ(公民)	2	
国語科教育法Ⅰ	2	
国語科教育法Ⅱ	2	
国語科教育法Ⅲ	2	
国語科教育法Ⅳ	2	
中国語科教育法Ⅰ	2	
中国語科教育法Ⅱ	2	
中国語科教育法Ⅲ	2	
中国語科教育法Ⅳ	2	
英語科教育法Ⅰ	2	
英語科教育法Ⅱ	2	
英語科教育法Ⅲ	2	
英語科教育法Ⅳ	2	
保健体育科教育法Ⅰ	2	
保健体育科教育法Ⅱ	2	
保健体育科教育法Ⅲ	2	
保健体育科教育法Ⅳ	2	
音楽科教育法Ⅰ	2	
音楽科教育法Ⅱ	2	
音楽科教育法Ⅲ	2	
音楽科教育法Ⅳ	2	
道徳教育の理論と方法	2	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	
特別活動の理論と方法	2	
教育方法学概論(1)	1	
教育方法学概論(2)	1	
教育方法論	1	
ICT活用の理論と方法	1	
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	
学校カウンセリング	2	
事前・事後指導(中高)	1	
事前・事後指導(小中)	1	
教育実習(中高)	1,2又は4	
教育実習(小中)	4	
教職実践演習	2	
初等科教育法(国語)	2	
初等科教育法(社会)	2	
初等科教育法(算数)	2	
初等科教育法(理科)	2	
初等科教育法(生活)	2	
初等科教育法(音楽)	2	
初等科教育法(図画工作)	2	
初等科教育法(家庭)	2	
初等科教育法(体育)	2	
初等科教育法(外国語)	2	
国語科教育論	1	
社会科教育論	1	
算数科教育論	1	
理科教育論	1	
体育実技	1	
外国語科教育論	1	

別表第12 外国人留学生特別科目(第6条関係)

授業科目	単位数	備考
日本語演習ⅠA	2	
日本語演習ⅠB	2	
日本語演習ⅡA	2	
日本語演習ⅡB	2	
日本語演習ⅢA	2	
日本語演習ⅢB	2	
日本語演習ⅣA	2	
日本語演習ⅣB	2	
日本語演習ⅤA	2	
日本語演習ⅤB	2	
日本事情演習ⅠA	2	
日本事情演習ⅠB	2	
日本事情演習ⅡA	2	
日本事情演習ⅡB	2	
日本事情演習ⅢA	2	
日本事情演習ⅢB	2	
日本事情演習ⅣA	2	
日本事情演習ⅣB	2	
日本事情演習ⅤA	2	
日本事情演習ⅤB	2	
総合日本語サマープログラムⅠ	2	
総合日本語サマープログラムⅡ	2	
総合日本語Ⅰ	2	
総合日本語Ⅱ	2	

(趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学理学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、全学共通科目、教職課程科目及び外国人留学生特別科目とする。

- 2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語及びアジア諸語)及びスポーツ健康とする。
- 3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムを構成する科目とする。
- 4 関連科目は、各学科の基礎となる科目又はきわめて関連の深い科目であって選択として指定する。
- 5 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。
- 6 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める教職課程科目を置く。
- 7 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

(他学部の授業科目の履修)

第3条 文教育学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

(単位の計算方法)

第4条 各授業科目の単位数の計算方法は、1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育実習については、別に定める。

2 前項の規定にかかわらず、特別研究又はこれに準ずる授業科目については、別に定める。

(卒業要件)

第5条 卒業するためには、別表第1に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

- 2 各学科において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第3から別表第7までに定めるところとする。
- 3 関連科目の授業科目及び単位数は、別表第8に定めるところとする。
- 4 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第9に定めるところとする。
- 5 教職課程科目の授業科目及び単位数は、別表第10に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考9のとおりとする。
- 6 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第11に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考10のとおりとする。

(履修手続)

第6条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

- 2 学生が前号により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消し手続を行い、担当教員の許可を得なければならない。
- 3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

(単位の授与)

第7条 授業科目を履修した者について、試験等により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

- 2 試験は、学年又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続により追試験を受けることができる。

(成績の評価)

第8条 成績の評価は、原則として試験(論文、報告等を含む。)、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

- 2 成績の評価は、「S」(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、「A」(基本的な目標を十分に達成している)、「B」(基本的な目標を達成している)、「C」(基本的な目標を最低限度達成している)、「D」(基本的な目標を達成していない。再履修が必要である)の5種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。
- 3 前項の成績の評価又は科目の原成績(素点)に基づき、成績の数値平均Grade Point Average(以下「GPA」という。)を算出するものとする。GPAに関し必要な事項は別に定める。

(成績不振の学生に対する学修指導)

第9条 病気その他やむを得ない事情がないにもかかわらず、学修状況が著しく不良の者には、成績不振の学修指導を行うことがある。

- 2 その他学修指導に関し必要な事項は、別に定める。

(細則)

第10条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項については、理学部教授会が定める。

附則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行し、平成18年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行し、改正後の別表第2から別表第6までの規定は、平成19年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

- 附則
この規程は、平成19年10月24日から施行し、平成19年10月1日から適用する。
- 附則
1 この規程は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成21年4月1日から施行し、平成21年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成22年4月1日から施行し、平成22年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成24年4月1日から施行し、平成24年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
この規程は、平成25年10月1日から施行する。
- 附則
1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表第3から第11までの規定は、平成26年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
この規程は、平成26年10月1日から施行する。
- 附則
1 この規程は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
3 前2項の規定にかかわらず、第9条の改正規定は、この改正規程の施行前から引き続き理学部に在学する者から適用する。
- 附則
1 この規程は、平成28年4月1日から施行し、平成28年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成29年4月1日から施行し、平成29年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成30年4月1日から施行し、平成30年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、令和2年4月1日から施行し、令和2年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、令和3年4月1日から施行し、令和3年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、令和4年4月1日から施行し、令和4年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 附則
1 この規程は、令和5年4月1日から施行し、令和5年度入学者から適用する。
2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

別表第1(第5条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位						卒業に必要な履修単位数		
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)				コア科目	専門教育科目	関連科目	他学部科目	全学共通科目	教職課程科目		必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム									学際プログラム
数	学	科																124
物	理	学	科															124
化	学	科																124
生	物	学	科															124
情	報	科	学	科														124

- 備考
- 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
 - 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また外国語の履修方法は別に定める。
 - スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
 - 主プログラムは、所属学科から選択すること。
 - 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
 - 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
 - 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
 - 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
 - 教職課程科目の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
 - 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については16単位までをコア科目として取り扱う。

別表第2 (第5条関係)

【(理)二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数 学 (副)	物 理 学 (副)	化 学 (副)	生 物 学 (副)	情 報 科 学 (副)	応 用 数 理 (学際)	物 理・ 化 学 (学際)	ケミカルバ イオロジー (学際)	生 命 情 報 学 (学際)
数 学 科	○	○	×	×	○	○	×	×	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	×	×	○	○	×	×	○

【(理)三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	哲 学・ 倫 理 学・ 美 術 史 (副)	比 歴 史 学 (副)	教 育 学 (副)	地 理 学 (副)	日 本 語・ 日 本 文 学 (副)	中 国 語 圏 言 語 文 化 (副)	英 語 圏 言 語 文 化 (副)	仏 語 圏 言 語 文 化 (副)	日 本 語 育 (副)	社 会 学 (副)	舞 台 演 劇 学 (副)	音 楽 表 現 (副)	教 育 科 学・ 子 ども 学 (学際)	グ ロー バ ル 文 化 学 (学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(理)三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	数 学 (副)	物 理 学 (副)	化 学 (副)	生 物 学 (副)	情 報 科 学 (副)	応 用 数 理 (学際)	物 理・ 化 学 (学際)	ケミカルバ イオロジー (学際)	生 命 情 報 学 (学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(理)三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	人 間 ・ 環 境 科 学 (副)	生 活 社 会 科 学 (副)	生 活 文 化 学 (副)	心 理 学 (副)	消 費 者 学 (学際)
数 学 科	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○

別表第3 コア科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)	授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
文理融合リベラルアーツ			生活世界の安全保障1	2	(物理学科は履修できない)
リベラルアーツ演習Ⅰ	2		生活世界の安全保障2	2	
リベラルアーツ演習Ⅱ	2		生活世界の安全保障3	2	
系列1 生命と環境			生活世界の安全保障4	2	
(講義)			生活世界の安全保障5	2	
生命と環境1	2		生活世界の安全保障7	2	
生命と環境2	2		生活世界の安全保障8	2	
生命と環境3	2		生活世界の安全保障9	2	
生命と環境4	2		生活世界の安全保障10	2	
生命と環境5	2		(演習・実習)		
生命と環境6	2		生活世界の安全保障23	2	
生命と環境7	2		生活世界の安全保障25	2	
生命と環境8	2		系列4 ことばと世界		
生命と環境10	2		(講義)		
(演習・実習)			ことばと世界1	2	
生命と環境22	2		ことばと世界2	2	
生命と環境23	2		ことばと世界3	2	
生命と環境26	2		ことばと世界5	2	
系列2 色・音・香			ことばと世界6	2	
(講義)			ことばと世界7	2	
色・音・香1	2		ことばと世界8	2	
色・音・香2	2		ことばと世界10	2	
色・音・香3	2		ことばと世界11	2	
色・音・香4	2		ことばと世界12	2	
色・音・香5	2		ことばと世界13	2	
色・音・香6	2		(演習・実習)		
色・音・香7	2		ことばと世界27	2	
色・音・香8	2		系列5 ジェンダー		
色・音・香9	2		(講義)		
色・音・香10	2		ジェンダー1	2	
(演習・実習)			ジェンダー2	2	
色・音・香22	2		ジェンダー3	2	
系列3 生活世界の安全保障			ジェンダー4	2	
(講義)			ジェンダー5	2	
			ジェンダー6	2	
			ジェンダー8	2	

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
ジェンダー9	2	
ジェンダー10	2	
基礎講義		
哲学	2	
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	
法学Ⅱ(法学入門)	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微積分学	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
基礎線形代数	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
統計学	2	
総合コース	1~4	
お茶の水女子大学論	2	
コンピテンシー基礎論	2	
防災・危機管理	1	
自然災害に対する防災・減災	1	
学修ポートフォリオ入門	1	
自然科学課題研究支援プログラム	1	
情報(必修科目)		
情報処理演習(1)	1	
情報処理演習(2)	1	
情報(選択科目)		
メディアリテラシ(1)	1	
メディアリテラシ(2)	1	
文理融合データサイエンスⅠ	2	
文理融合データサイエンスⅡ	2	
文理融合データサイエンスⅢ	2	
文理融合データサイエンスⅣ	2	
情報科学(1)	1	
情報科学(2)	1	
情報処理学(1)	1	
情報処理学(2)	1	
プログラミング演習1	2	
プログラミング演習2	2	
コンピュータ演習1	2	
コンピュータ演習2	2	
情報学演習1	2	
情報学演習2	2	
文化情報工学総論	2	
データサイエンス(基礎)	2	
データサイエンス(中級)	2	
データサイエンス(上級)	2	
外国語(必修)		
	12	<p>●物理学科・化学科：外国語の必修単位数は12単位。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア言語から修得すること。なお、「専門英語」の「物理英語112」(物理学科)は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(112)」(特別クラスを除く)、「Advanced Communication Training IV(112)」(理学部特別クラス)、もしくは「Advanced Communication Training VI(112)」(理学部特別クラス)の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV(112)」もしくは「Advanced Communication Training VI(112)」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(112)・Ⅱ(112)」(特別クラス)に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位数または「自由」に選択して履修する科目・単位として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>●生物学科：外国語の必修単位数は12単位。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について12単位修得すること。なお、「専門英語」の「生物学外語講義」は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(112)」(特別クラスを除く)、「Advanced Communication Training IV(112)」(理学部特別クラス)、もしくは「Advanced Communication Training VI(112)」(理学部特別クラス)の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV(112)」もしくは「Advanced Communication Training VI(112)」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(112)・Ⅱ(112)」(特別クラス)に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位数または「自由」に選択して履修する科目・単位として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>●数学科、情報科学科：外国語の必修単位数は12単位。英語を8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア言語から修得すること。なお、「専門英語」の「数学英語」(数学科)は、コア科目外国語(必修)英語のコア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(112)」(特別クラスを除く)、「Advanced Communication Training IV(112)」(理学部特別クラス)、もしくは「Advanced Communication Training VI(112)」(理学部特別クラス)の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV(112)」もしくは「Advanced Communication Training VI(112)」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(112)・Ⅱ(112)」(特別クラス)に配属されていること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位数または「自由」に選択して履修する科目・単位として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>※および※※:コア科目(外国語)の必修単位数に充てることができる基本科目(ただし、生物学科の学生は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語に限る)。 ※※※:第二外国語として8単位未満履修する場合のみ必修単位数に充てることができる準基本科目。 ※※※※:および※※※※のついていない科目の単位数は、特別措置等による認定がない限り、必修単位数に充てることができない。</p>

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
英語		
* 基礎英語Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)
* 中級英語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)
** 英語コミュニケーションⅢ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅢ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅣ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅣ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅤ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅤ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅥ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅥ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅠ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅠ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅡ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅡ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅠ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅠ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅡ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅡ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅰ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅰ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅱ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅱ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅲ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅲ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅳ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅳ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅴ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅴ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅵ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅵ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
英語コミュニケーションⅠ(1)	1	(Ⅰ・Ⅱ)
英語コミュニケーションⅠ(2)	1	(Ⅰ・Ⅱ)
英語コミュニケーションⅡ(1)	1	(Ⅰ・Ⅱ)
英語コミュニケーションⅡ(2)	1	(Ⅰ・Ⅱ)
上級英語Ⅰ(1)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅰ(2)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅱ(1)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅱ(2)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅲ(1)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅲ(2)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅳ(1)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅳ(2)	1	(Ⅲ・Ⅳ)
ビジネス英語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
ビジネス英語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
ビジネス英語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
ビジネス英語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
時事英語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
時事英語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
時事英語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
時事英語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
ドイツ語		
* 基礎ドイツ語Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語Ⅱ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語Ⅲ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語Ⅳ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語(応用)Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)
* 発展ドイツ語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅲ(1)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅲ(2)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅳ(1)	1	(Ⅱ)
* 発展ドイツ語Ⅳ(2)	1	(Ⅱ)
** 基礎ドイツ語会話Ⅰ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** 基礎ドイツ語会話Ⅰ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** 基礎ドイツ語会話Ⅱ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** 基礎ドイツ語会話Ⅱ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** ドイツ語初歩Ⅰ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** ドイツ語初歩Ⅰ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** ドイツ語初歩Ⅱ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** ドイツ語初歩Ⅱ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
フランス語		
* 基礎フランス語Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語Ⅱ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語Ⅲ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語Ⅳ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語(応用)Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)

V
諸規程等(規則集)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
* 基礎フランス語 (応用) I(2)	1	(I)
* 基礎フランス語 (応用) II(1)	1	(I)
* 基礎フランス語 (応用) II(2)	1	(I)
* 発展フランス語 I(1)	1	(II)
* 発展フランス語 I(2)	1	(II)
* 発展フランス語 II(1)	1	(II)
* 発展フランス語 II(2)	1	(II)
* 発展フランス語 III(1)	1	(II)
* 発展フランス語 III(2)	1	(II)
* 発展フランス語 IV(1)	1	(II)
* 発展フランス語 IV(2)	1	(II)
***基礎フランス語会話 I(1)	1	(I~IV)
***基礎フランス語会話 I(2)	1	(I~IV)
***基礎フランス語会話 II(1)	1	(I~IV)
***基礎フランス語会話 II(2)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 I(1)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 I(2)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 II(1)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 II(2)	1	(I~IV)
中国語		
* 基礎中国語 I	2	(I)
* 基礎中国語 II	2	(I)
* 基礎中国語 III	2	(I)
* 基礎中国語 IV	2	(I)
* 基礎中国語 (応用) I(1)	1	(I)
* 基礎中国語 (応用) I(2)	1	(I)
* 基礎中国語 (応用) II(1)	1	(I)
* 基礎中国語 (応用) II(2)	1	(I)
* 発展中国語 I(1)	1	(II)
* 発展中国語 I(2)	1	(II)
* 発展中国語 II(1)	1	(II)
* 発展中国語 II(2)	1	(II)
* 発展中国語 III(1)	1	(II)
* 発展中国語 III(2)	1	(II)
* 発展中国語 IV(1)	1	(II)
* 発展中国語 IV(2)	1	(II)
***基礎中国語会話 I(1)	1	(II~IV)
***基礎中国語会話 I(2)	1	(II~IV)
***基礎中国語会話 II(1)	1	(II~IV)
***基礎中国語会話 II(2)	1	(II~IV)
***中国語初歩 I(1)	1	(II~IV)
***中国語初歩 I(2)	1	(II~IV)
***中国語初歩 II(1)	1	(II~IV)
***中国語初歩 II(2)	1	(II~IV)
中国語プレゼンテーション I	2	(I~IV)
中国語プレゼンテーション II	2	(I~IV)
ロシア語		
* ロシア語初歩 I(1)	1	(I~IV)
* ロシア語初歩 I(2)	1	(I~IV)
* ロシア語初歩 II(1)	1	(I~IV)
* ロシア語初歩 II(2)	1	(I~IV)
* ロシア語会話 I(1)	1	(I~IV)
* ロシア語会話 I(2)	1	(I~IV)
* ロシア語会話 II(1)	1	(I~IV)
* ロシア語会話 II(2)	1	(I~IV)
朝鮮語		
* 朝鮮語初歩 I(1)	1	(I~IV)
* 朝鮮語初歩 I(2)	1	(I~IV)
* 朝鮮語初歩 II(1)	1	(I~IV)
* 朝鮮語初歩 II(2)	1	(I~IV)
* 朝鮮語会話 I(1)	1	(I~IV)
* 朝鮮語会話 I(2)	1	(I~IV)
* 朝鮮語会話 II(1)	1	(I~IV)
* 朝鮮語会話 II(2)	1	(I~IV)
スペイン語		
* 現代スペイン語 I	2	(I~IV)
* 現代スペイン語 II	2	(I~IV)
* スペイン語会話 I(1)	1	(I~IV)
* スペイン語会話 I(2)	1	(I~IV)
* スペイン語会話 II(1)	1	(I~IV)
* スペイン語会話 II(2)	1	(I~IV)
イタリア語		
* 現代イタリア語 I	2	(I~IV)
* 現代イタリア語 II	2	(I~IV)
アジア諸語		
* 現代アジア諸語 I	2	(I~IV)
* 現代アジア諸語 II	2	(I~IV)
* 現代アジア諸語 III	2	(I~IV)
* 現代アジア諸語 IV	2	(I~IV)
スポーツ健康(必修)		
スポーツ健康実習	2	(I)
スポーツ健康(選択)		
スポーツ科学概論	2	(I~IV)
健康科学概論	2	(I~IV)
生涯スポーツ	0.5~3	(I~IV)

別表第4 専門教育科目(第5条関係)

主プログラム

数学主プログラム				単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
集合論 1	1	必修		
集合論 2	1	必修		
線形代数学 1	2	必修		
線形代数学 2	2	必修		
線形代数学 3	2	必修		
線形代数学 4	2	必修		
線形代数学 5	2	必修		
微分積分学 1	2	必修		
微分積分学 2	2	必修		
微分積分学 3	2	必修		
微分積分学 4	2	必修		
微分積分学 5	2	必修		
位相空間論 1	2	必修		
位相空間論 2	2	必修		
群論 1	2	必修		
群論 2	2	必修		
環論	2	必修		
関数論 1	2	必修		
多様体論 1	2	必修		
積分論 1	2	必修		
数学講究	8	必修		
集合論 3	2	選択	以下の科目から 14 単位選択	
線形代数学 6	2	選択		
微分積分学 6	2	選択		
数学論講	2	選択		
ベクトル解析	2	選択		
初等代数学	2	選択		
確率序論	2	選択		
数理解析序論	2	選択		
数学選択基礎	2	選択		

物理学主プログラム				単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
古典力学(1)	1	必修		
古典力学(2)	1	必修		
解析力学(1)	1	必修		
解析力学(2)	1	必修		
電磁気学 I(1)	1	必修		
電磁気学 I(2)	1	必修		
電磁気学 II(1)	1	必修		
電磁気学 II(2)	1	必修		
物理数学 I(1)	1	必修		
物理数学 I(2)	1	必修		
物理数学 II(1)	1	必修		
物理数学 II(2)	1	必修		
数理物理学(1)	1	必修		
数理物理学(2)	1	必修		
力学系理論(1)	1	必修		
力学系理論(2)	1	必修		
熱力学(1)	1	必修		
熱力学(2)	1	必修		
統計力学(1)	1	必修		
統計力学(2)	1	必修		
量子力学 I(1)	1	必修		
量子力学 I(2)	1	必修		
量子力学 II(1)	1	必修		
量子力学 II(2)	1	必修		
量子力学 III(1)	1	必修		
量子力学 III(2)	1	必修		
力学演習(1)	1	必修		
力学演習(2)	1	必修		
電磁気学演習(1)	1	必修		
電磁気学演習(2)	1	必修		
物理数学演習(1)	1	必修		
物理数学演習(2)	1	必修		
量子力学演習(1)	1	必修		
量子力学演習(2)	1	必修		
統計力学演習(1)	1	必修		
統計力学演習(2)	1	必修		
基礎物理学実験(1)	1	必修		
基礎物理学実験(2)	1	必修		
物理学実験(1)	1	必修		
物理学実験(2)	1	必修		
物理学実験(3)	1	必修		
物理学実験(4)	1	必修		
特別研究	12	必修		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
物理学概論A	2	選択	
物理学概論B	2	選択	
英文講読	2	選択	
情報科学選択基礎	2	選択	

別表第5 専門教育科目(第5条関係)

強化プログラム

数学強化プログラム			
単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
体論	2	選択	以下の科目から20単位以上選択(※印は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」(特別クラスを除く)、「Advanced Communication Training IV(1)(2)」(理学部特別クラス)、もしくは「Advanced Communication Training VI(1)(2)」(理学部特別クラス)の内のどれか一つに充てることができる。ただし、「Advanced Communication Training IV(1)(2)」もしくは「Advanced Communication Training VI(1)(2)」に充てる場合は、1年次に「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」(特別クラス)に配属されていること。)
加群と表現	2	選択	
関数論2	2	選択	
多様体論2	2	選択	
積分論2	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
*数学英語	2	選択	
関数解析	2	選択	
微分幾何学	2	選択	
位相幾何学	2	選択	
ガロア理論	2	選択	
フーリエ解析とラプラス変換	2	選択	
関数論統論	2	選択	
確率論	2	選択	
グラフ理論	2	選択	
組み合わせ論	2	選択	
暗号と符号	2	選択	
計算基礎論	2	選択	
数理統計学	2	選択	
コンピュータシステム序論	2	選択	
数理構造特別講義Ⅰ	2	選択	
数理構造特別講義Ⅱ	2	選択	
数理構造特別講義Ⅲ	2	選択	
数理構造特別講義Ⅳ	2	選択	
数理構造特別講義Ⅴ	2	選択	
数理構造特別講義Ⅵ	1	選択	
数理構造特別講義Ⅶ	1	選択	
数理構造特別講義Ⅷ	1	選択	
数理構造特別講義Ⅸ	1	選択	
数理構造特別講義Ⅹ	1	選択	
数学演習Ⅰ	2	選択	
数学演習Ⅱ	2	選択	
数学演習Ⅲ	2	選択	
数学演習Ⅳ	2	選択	
数学演習Ⅴ	2	選択	
数学演習Ⅵ	1	選択	
数学演習Ⅶ	1	選択	
数学演習Ⅷ	1	選択	
数学演習Ⅸ	1	選択	
数学演習Ⅹ	1	選択	
数理道遠Ⅰ	2	選択	
数理道遠Ⅱ	2	選択	
数理道遠Ⅲ	2	選択	
数理道遠Ⅳ	2	選択	

物理学強化プログラム			
単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
固体電子論(1)	1	選択	以下の科目から20単位選択
固体電子論(2)	1	選択	
相転移物理学	2	選択	
凝縮系物理学(1)	1	選択	
凝縮系物理学(2)	1	選択	
原子核物理学	2	選択	
素粒子物理学(1)	1	選択	
素粒子物理学(2)	1	選択	
物性物理学序論(1)	1	選択	
物性物理学序論(2)	1	選択	
相対論(1)	1	選択	
相対論(2)	1	選択	
宇宙物理学(1)	1	選択	
宇宙物理学(2)	1	選択	
連続体物理学	2	選択	
流体物理学	2	選択	
物理実験学(1)	1	選択	
物理実験学(2)	1	選択	
基礎エレクトロニクス(1)	1	選択	
基礎エレクトロニクス(2)	1	選択	
量子光学(1)	1	選択	
量子光学(2)	1	選択	
ソフトマター物理	2	選択	
場の量子論(1)	1	選択	
場の量子論(2)	1	選択	
計算物理学講義・演習(1)	2	選択	
計算物理学講義・演習(2)	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
物理学基礎研究	2	選択	
物理学特別講義Ⅰ	2	選択	
物理学特別講義Ⅱ	2	選択	
物理学特別講義Ⅲ	2	選択	
物理学特別講義Ⅳ	2	選択	
物理学特別講義Ⅴ	2	選択	
物理学特別講義Ⅵ	2	選択	
物理学特別講義Ⅶ	2	選択	
物理学特別講義Ⅷ	2	選択	
物理学特別講義Ⅸ	2	選択	
物理学特別講義Ⅹ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅠ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅡ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅢ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅣ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅤ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅥ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅦ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅧ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅨ	2	選択	
物理学特別講義ⅩⅩ	2	選択	
放射線基礎講義(1)	1	選択	
放射線基礎講義(2)	1	選択	

化学強化プログラム			
単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
有機化学Ⅲ	2	必修	
分析化学Ⅱ	2	必修	
分子分光法	2	必修	
無機化学Ⅲ	2	選択	以下の科目から14単位以上選択
生体分子機能・反応学	2	選択	
物理化学Ⅳ	2	選択	
有機化学Ⅳ	2	選択	
量子化学	2	選択	
計算化学	2	選択	
反応物理化学	2	選択	
高分子化学	2	選択	
実験値解析法	2	選択	
放射化学	2	選択	
生物物理化学	2	選択	
物理化学特別講義Ⅰ	2	選択	
物理化学特別講義Ⅱ	2	選択	
物理化学特別講義Ⅲ	2	選択	
無機化学特別講義Ⅰ	2	選択	
無機化学特別講義Ⅱ	2	選択	
無機化学特別講義Ⅲ	2	選択	
分析化学特別講義Ⅰ	2	選択	
分析化学特別講義Ⅱ	2	選択	
分析化学特別講義Ⅲ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅰ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅱ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅲ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅰ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅱ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅲ	2	選択	
化学特別講義Ⅰ	1	選択	
化学特別講義Ⅱ	1	選択	
化学特別講義Ⅲ	1	選択	
化学特別講義Ⅳ	1	選択	
化学特別講義Ⅴ	1	選択	
化学特別講義Ⅵ	1	選択	
化学特別講義Ⅶ	1	選択	
化学特別講義Ⅷ	1	選択	

生物学強化プログラム			
単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
細胞生化学	2	選択	以下の科目から20単位選択
分子細胞情報学	2	選択	
生物系統地理学	2	選択	
進化遺伝学	2	選択	
発生遺伝学(1)	1	選択	
発生遺伝学(2)	1	選択	
バイオメカニクス(1)	1	選択	
バイオメカニクス(2)	1	選択	
植物生理学(1)	1	選択	
植物生理学(2)	1	選択	
遺伝子工学(1)	1	選択	
遺伝子工学(2)	1	選択	
植物機能制御学	2	選択	
動物環境応答学(1)	1	選択	
動物環境応答学(2)	1	選択	
分子構造生物学(1)	1	選択	
分子構造生物学(2)	1	選択	
免疫学	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
生命情報プログラミング演習	1	選択	
発生生物学臨海実習	1	選択	
公開臨海実習	2	選択	
生物学特別講義 I	2	選択	
生物学特別講義 II	2	選択	
生物学特別講義 III	2	選択	
生物学特別講義 IV	2	選択	
生物学特別講義 V	2	選択	
生物学特殊講義 I	1	選択	
生物学特殊講義 II	1	選択	
生物学特殊講義 III	1	選択	
生物学特殊講義 IV	1	選択	
生物学特殊講義 V	1	選択	
生物学特殊講義 VI	1	選択	
生物学特殊講義 VII	1	選択	
生物学特殊講義 VIII	1	選択	
生物学特殊講義 IX	1	選択	
生物学特殊講義 X	1	選択	
生物学特殊講義 X I	1	選択	
生物学特殊講義 X II	1	選択	
生物学特殊講義 X III	1	選択	
生物学特殊講義 X IV	1	選択	
生物学特殊講義 X V	1	選択	
生物学特殊講義 X VI	1	選択	
生物学特殊講義 X VII	1	選択	
生物学特殊講義 X VIII	1	選択	
生物学特殊講義 X IX	1	選択	
生物学特殊講義 X X	1	選択	
化学概論 A	2	選択	
化学概論 B	2	選択	
地史・古生物学概論	2	選択	

情報科学強化プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
情報科学集中演習	2	選択	以下の科目から20単位選択
関数論 1	2	選択	
関数論 2	2	選択	
数値計算	2	選択	
数値計算演習	2	選択	
言語理論とオートマトン	2	選択	
計算基礎論	2	選択	
情報解析学	2	選択	
組み合わせ論	2	選択	
暗号と符号	2	選択	
フーリエ解析とラプラス変換	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
数理統計学	2	選択	
情報倫理	2	選択	
情報と職業	2	選択	
計算モデル論	2	選択	
コンバイラ構成論	2	選択	
形式言語論	2	選択	
人工知能論	2	選択	
自然言語論	2	選択	
バイオインフォマティクス	2	選択	
データベース設計論	2	選択	
コンピュータグラフィックス	2	選択	
コンピュータビジョン	2	選択	
コンピュータネットワーク II	2	選択	
ヒューマンインターフェイス	2	選択	
ソフトウェア工学	2	選択	
環境情報論	2	選択	
シミュレーション科学	2	選択	
情報科学特別講義 I	2	選択	
情報科学特別講義 II	2	選択	
情報科学特別講義 III	2	選択	
情報科学特別講義 IV	2	選択	
情報科学特別講義 V	2	選択	
情報科学演習 I	2	選択	
情報科学演習 II	2	選択	
情報科学演習 III	2	選択	
情報科学演習 IV	2	選択	
情報科学演習 V	2	選択	

別表第6 専門教育科目(第5条関係)

副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
初等代数学	2	選択	以下の科目から20単位選択
集合論 1	1	選択	
集合論 2	1	選択	
集合論 3	2	選択	
線形代数学 5	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)

授業科目	単位数	必修・選択	備考
線形代数学 6	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
微分積分学 5	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
微分積分学 6	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
位相空間論 1	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
位相空間論 2	2	選択	
関数論 1	2	選択	
関数論 2	2	選択	
積分論 1	2	選択	
関数解析	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
多様体論 1	2	選択	
位相幾何学	2	選択	
微分幾何学	2	選択	
群論 1	2	選択	
環論	2	選択	
ガロア理論	2	選択	
数理道遠 I	2	選択	
数理道遠 II	2	選択	
数理道遠 III	2	選択	
数理道遠 IV	2	選択	

物理学副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
物理学概論 A	2	選択	以下の科目から20単位選択
物理学概論 B	2	選択	
物理学基礎実験	2	選択	
宇宙・地球科学	2	選択	
古典力学(1)	1	選択	
古典力学(2)	1	選択	
解析力学(1)	1	選択	
解析力学(2)	1	選択	
電磁気学 I(1)	1	選択	
電磁気学 I(2)	1	選択	
電磁気学 II(1)	1	選択	
電磁気学 II(2)	1	選択	
物理数学 I(1)	1	選択	
物理数学 I(2)	1	選択	
物理数学 II(1)	1	選択	
物理数学 II(2)	1	選択	
力学系理論(1)	1	選択	
力学系理論(2)	1	選択	
熱力学(1)	1	選択	
熱力学(2)	1	選択	
量子力学 I(1)	1	選択	
量子力学 I(2)	1	選択	
量子力学 II(1)	1	選択	
量子力学 II(2)	1	選択	
力学演習(1)	1	選択	
力学演習(2)	1	選択	
電磁気学演習(1)	1	選択	
電磁気学演習(2)	1	選択	
物理数学演習(1)	1	選択	
物理数学演習(2)	1	選択	
量子力学演習(1)	1	選択	
量子力学演習(2)	1	選択	

化学副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
基礎化学 A	2	必修	
基礎化学 B(1)	1	必修	
基礎化学 B(2)	1	必修	
化学基礎実験	2	必修	
物理化学 I	2	選択	以下の科目から14単位選択
物理化学 II	2	選択	
物理化学 III	2	選択	
無機化学 I	2	選択	
無機化学 II	2	選択	
有機化学 I	2	選択	
有機化学 II	2	選択	
分析化学 I(1)	1	選択	
分析化学 I(2)	1	選択	
生物化学 I(1)	1	選択	
生物化学 I(2)	1	選択	
生物化学 II	2	選択	
化学英語	2	選択	
化学特別ゼミ I	2	選択	

生物学副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
基礎生物学 A	2	必修	
基礎生物学 B	2	必修	
生物学基礎実験	2	必修	
生化学	2	選択	以下の科目から14単位選択

授業科目	単位数	必修・選択	備考
生物物理学	2	選択	
動物系統学	2	選択	
植物系統学	2	選択	
動物生理学	2	選択	
植物生理学	2	選択	
代謝生物学	2	選択	
基礎遺伝学	2	選択	
分子遺伝学	2	選択	
細胞生物学	2	選択	
発生生物学	2	選択	
進化生物学	2	選択	
生物統計学	2	選択	

情報科学副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
数理基礎論	2	必修	
情報理論	2	必修	
コンピュータシステム序論	2	選択	
確率序論	2	選択	(数学科は本プログラムとしては履修できない)
離散数学	2	選択	(数学科は履修できない)
コンピュータアーキテクチャ I	2	選択	
コンピュータネットワーク I	2	選択	
マルチメディア	2	選択	
グラフ理論	2	選択	
位相空間論	2	選択	(数学科は本プログラムとしては履修できない)
情報倫理	2	選択	
情報と職業	2	選択	
バイオインフォマティクス	2	選択	
組み合わせ論	2	選択	
暗号と符号	2	選択	
ヒューマンインターフェイス	2	選択	
環境情報論	2	選択	

別表第7 専門教育科目(第5条関係)

学際プログラム

応用数理学際プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
以下の(数学)・(物理学)・(情報科学)のグループから2つ以上を選択し、それぞれ6単位以上を修得すること			
(数学)			
関数解析	2	選択	
関数論続論	2	選択	
確率論	2	選択	
フーリエ解析とラプラス変換	2	選択	
ガロア理論	2	選択	
多様体論1	2	選択	
微分幾何学	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
数理統計学	2	選択	
(物理学)			
数理物理学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
数理物理学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
古典力学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
古典力学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
電磁気学 I(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
電磁気学 I(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
電磁気学 II(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
電磁気学 II(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 I(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 I(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 II(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 II(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
解析力学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
解析力学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
熱力学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
熱力学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
統計力学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
統計力学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子光学(1)	1	選択	
量子光学(2)	1	選択	
凝縮系物理学(1)	1	選択	
凝縮系物理学(2)	1	選択	
場の量子論(1)	1	選択	
場の量子論(2)	1	選択	
物性物理学序論(1)	1	選択	
物性物理学序論(2)	1	選択	
素粒子物理学(1)	1	選択	
素粒子物理学(2)	1	選択	
相対論(1)	1	選択	
相対論(2)	1	選択	
流体物理学	2	選択	
宇宙物理学(1)	1	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
宇宙物理学(2)	1	選択	
物理学基礎研究	2	選択	
(情報科学)			
計算基礎論	2	選択	
グラフ理論	2	選択	(情報科学は本プログラムとしては履修できない)
情報理論	2	選択	(情報科学は本プログラムとしては履修できない)
組み合わせ論	2	選択	
コンピュータシステム序論	2	選択	(情報科学は本プログラムとしては履修できない)
暗号と符号	2	選択	
情報解析学	2	選択	

物理・化学学際プログラム 単位数：20

授業科目	単位数	必修・選択	備考
以下の科目から20単位選択			
基礎化学 A	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学 B(1)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学 B(2)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
化学基礎実験	2	選択	(化学科は履修できない)
物理学概論 A	2	選択	(物理学科は履修できない)
物理学概論 B	2	選択	(物理学科は履修できない)
物理学基礎実験	2	選択	(物理学科は履修できない)
物理化学 I	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学 II	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学 III	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学 IV	2	選択	
無機化学 I	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学 I	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
分析化学 I(1)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
分析化学 I(2)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
分析化学 II	2	選択	
計算化学	2	選択	
分子分光法	2	選択	
量子化学	2	選択	
反応物理化学	2	選択	
生物物理化学	2	選択	
放射化学	2	選択	
量子力学 I(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 I(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 II(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学 II(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
熱力学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
熱力学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
統計力学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
統計力学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
物理数学 I(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
物理数学 I(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
物性物理学序論(1)	1	選択	
物性物理学序論(2)	1	選択	
固体電子論(1)	1	選択	
固体電子論(2)	1	選択	
相転移物理学	2	選択	
凝縮系物理学(1)	1	選択	
凝縮系物理学(2)	1	選択	
ソフトマター物理	2	選択	
物理実験学(1)	1	選択	
物理実験学(2)	1	選択	
基礎エレクトロニクス(1)	1	選択	
基礎エレクトロニクス(2)	1	選択	
物理学基礎研究	2	選択	
計算物理学講義・演習(1)	2	選択	
計算物理学講義・演習(2)	2	選択	

ケミカルバイオロジー学際プログラム 単位数：20

授業科目	単位数	必修・選択	備考
以下の科目から12単位以上選択			
有機化学 III	2	選択	
生体分子機能・反応学	2	選択	
有機化学 IV	2	選択	
生物物理化学	2	選択	
細胞生化学	2	選択	
分子細胞情報学	2	選択	
分子構造生物学(1)	1	選択	
分子構造生物学(2)	1	選択	
植物生理学(1)	1	選択	
植物生理学(2)	1	選択	
細胞生物学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
代謝生物学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
公開臨海実習	2	選択	
動物環境応答学(1)	1	選択	
動物環境応答学(2)	1	選択	
植物機能制御学	2	選択	
遺伝子工学(1)	1	選択	
遺伝子工学(2)	1	選択	
分析化学 II	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
計算化学	2	選択	
無機化学Ⅲ	2	選択	
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅰ	2	選択	
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅱ	2	選択	
高分子化学	2	選択	
生物化学特別講義Ⅰ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅱ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅲ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅰ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅱ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅲ	2	選択	
有機化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物化学Ⅰ(1)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物化学Ⅰ(2)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎生物学A	2	選択	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	選択	(生物学科は履修できない)
生物学基礎実験	2	選択	(生物学科は履修できない)
化学基礎実験	2	選択	(化学科は履修できない)
基礎化学A	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B(1)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B(2)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物学特別講義Ⅰ	2	選択	以下の科目から本プログラムとして4単位までを含めることができる
生物学特別講義Ⅱ	2	選択	
生物学特別講義Ⅲ	2	選択	
生物学特別講義Ⅳ	2	選択	
生物学特別講義Ⅴ	2	選択	
生物学特殊講義Ⅰ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅱ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅲ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅳ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅴ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅵ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅶ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅷ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅸ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅹ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅺ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅻ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅼ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅽ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅾ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅿ	1	選択	
生物学特殊講義ⅰ	1	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
環境情報論	2	選択	
物理化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学Ⅲ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学Ⅳ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学Ⅲ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学Ⅳ	2	選択	
高分子化学	2	選択	
実験値解析法	2	選択	
分析化学Ⅰ(1)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
分析化学Ⅰ(2)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
数理統計学	2	選択	
数理物理学(1)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
数理物理学(2)	1	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
微分幾何学	2	選択	
基礎生物学A	2	選択	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	選択	(生物学科は履修できない)
基礎化学A	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B(1)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B(2)	1	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物学特別講義Ⅰ	2	選択	以下の科目から本プログラムとして4単位までを含めることができる
生物学特別講義Ⅱ	2	選択	
生物学特別講義Ⅲ	2	選択	
生物学特別講義Ⅳ	2	選択	
生物学特別講義Ⅴ	2	選択	
生物学特殊講義Ⅰ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅱ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅲ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅳ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅴ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅵ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅶ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅷ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅸ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅹ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅺ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅻ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅼ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅽ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅾ	1	選択	
生物学特殊講義Ⅿ	1	選択	
生物学特殊講義ⅰ	1	選択	

生命情報学学際プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
生命情報学概論(1)	1	必修	
生命情報学概論(2)	1	必修	
計算生物学(1)	1	選択	以下の科目から6単位以上選択
計算生物学(2)	1	選択	
進化遺伝学	2	選択	
分子遺伝学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
バイオインフォマティクス	2	選択	
コンピュータシステム序論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
生体分子機能・反応学	2	選択	
計算化学	2	選択	
生命情報プログラミング演習	1	選択	
生化学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
細胞生物学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
発生遺伝学(1)	1	選択	
発生遺伝学(2)	1	選択	
動物生理学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
遺伝子工学(1)	1	選択	
遺伝子工学(2)	1	選択	
植物生態学	2	選択	
動物生態学	2	選択	
生物統計学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
分子構造生物学(1)	1	選択	
分子構造生物学(2)	1	選択	
データ構造とアルゴリズム	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
情報解析学	2	選択	
数理基礎論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
確率序論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
グラフ理論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
情報理論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
組み合わせ論	2	選択	
暗号と符号	2	選択	
データベース設計論	2	選択	
マルチメディア	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)

別表第8 関連科目(第5条関係)

数学科			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
基礎化学A	2		
基礎化学B(1)	1		
基礎化学B(2)	1		
基礎生物学A	2		
基礎生物学B	2		
大気・海洋科学概論	2		
数理基礎論	2		
コンピュータシステム序論	2		

物理学科			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
初等解析学Ⅰ	2		
初等解析学Ⅱ(1)	1		
初等解析学Ⅱ(2)	1		
初等線形代数学	2		
初等代数学	2		
基礎化学A	2		
基礎化学B(1)	1		
基礎化学B(2)	1		
基礎生物学A	2		
基礎生物学B	2		
大気・海洋科学概論	2		
数理基礎論	2		
確率序論	2		
コンピュータシステム序論	2		

化学科			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
初等解析学Ⅰ	2		
初等解析学Ⅱ(1)	1		
初等解析学Ⅱ(2)	1		
初等線形代数学	2		
初等代数学	2		

授業科目	単位数	備考
基礎化学A	2	
基礎化学B(1)	1	
基礎化学B(2)	1	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
大気・海洋科学概論	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	

生物学科

授業科目	単位数	備考
初等解析学 I	2	
初等解析学 II(1)	1	
初等解析学 II(2)	1	
初等線形代数学	2	
初等代数学	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B(1)	1	
基礎化学B(2)	1	
大気・海洋科学概論	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	

情報科学科

授業科目	単位数	備考
初等代数学	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B(1)	1	
基礎化学B(2)	1	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
大気・海洋科学概論	2	

別表第9 全学共通科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考
NPO入門	2	
未来起点ゼミ I	2	
未来起点ゼミ II	2	
未来起点ゼミ III	2	
未来起点ゼミ IV	2	
パーソナル・ブランディング	2	
女性のキャリアと経済	2	
ファシリテーション	2	
平和と共生演習	2	
国際共生社会論実習	2	
キャリアアプラン	2	
ICTとコミュニケーションスキル(基礎)	2	
ICTとコミュニケーションスキル(応用)	2	
アントレプレナーシップ演習(ディベート編)	2	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション入門編)	2	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(モノ編))	1	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(コト編))	1	
アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1	
アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1	
未来開拓入門	1	
女性のキャリアと法制度	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
ダイバーシティ論	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
キャリアアプランと進路選択	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
インターンシップ I	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
インターンシップ II	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
Ocha-Solution Program(基礎)	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
博物館概論	2	
博物館資料論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館実習	3	
博物館情報・メディア論	2	
日本の伝統芸能	2	
初等解析学 I	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等解析学 II(1)	1	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等解析学 II(2)	1	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等線形代数学	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等代数学	2	
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	

授業科目	単位数	備考
基礎化学B(1)	1	
基礎化学B(2)	1	
基礎生物学A	2	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	(生物学科は履修できない)
大気・海洋科学概論	2	
物理学基礎実験	2	(物理学科は履修できない)
化学基礎実験	2	(化学科は履修できない)
生物学基礎実験	2	(生物学科は履修できない)
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	
生命情報学概論(1)	1	
生命情報学概論(2)	1	
計算生物学(1)	1	
計算生物学(2)	1	
海外交換留学等認定科目	2~12	
Academic Writing	2	
Academic Presentation	2	
Pre Summer Program in English	2	
Summer Program in English I	2	
Summer Program in English II	2	
Summer Program in English III	2	
Summer Program in English IV	2	
Summer Program in English V	2	
Summer Program in English VI	2	
グローバル・インターンシップ I	2	
グローバル・インターンシップ II	2	
グローバル・インターンシップ III	2	
グローバル EDI I	2	
グローバル EDI II	2	
グローバル EDI III	2	
国際交流実習 I	2	
国際交流実習 II	2	
Interdisciplinary Lectures in English I	2	
Interdisciplinary Lectures in English II	2	
Interdisciplinary Lectures in English III	2	
Interdisciplinary Lectures in English IV	2	
Interdisciplinary Lectures in English V	2	
Interdisciplinary Lectures in English VI	2	
舞台芸術実践概論 I	2	
舞台芸術実践概論 II	2	
文化芸術制作演習 I	2	
文化芸術制作演習 II	2	
物理学サブイメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
生物学サブイメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL対策ゼミ R/L	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL対策ゼミ S/W	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
IELTS対策ゼミ R/L	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
IELTS対策ゼミ S/W	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
中国語力強化ゼミ I	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
中国語力強化ゼミ II	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)

別表第10 教職課程科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考
教職概論(1)	1	
教職概論(2)	1	
教育思想概論(1)	1	
教育思想概論(2)	1	
教育史概論(1)	1	
教育史概論(2)	1	
教育原論(思想・歴史)(1)	1	
教育原論(思想・歴史)(2)	1	
教育・発達心理学概論(1)	1	
教育・発達心理学概論(2)	1	
教育心理	2	
特別支援教育概論(1)	1	
特別支援教育概論(2)	1	
特別支援教育の理論と方法	1	
教育社会学概論(1)	1	
教育社会学概論(2)	1	
教育制度概論	2	
教育原論(社会・制度)(1)	1	
教育原論(社会・制度)(2)	1	
教育課程概論(1)	1	
教育課程概論(2)	1	
教育課程論	2	
数学科教育法 I	2	
数学科教育法 II	2	
数学科教育法 III	2	
数学科教育法 IV	2	
理科教育法 I	2	

授業科目	単位数	備考
理科教育法Ⅱ	2	
理科教育法Ⅲ	2	
理科教育法Ⅳ	2	
情報科教育法Ⅰ	2	
情報科教育法Ⅱ	2	
道徳教育の理論と方法	2	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	
特別活動の理論と方法	2	
教育方法学概論(Ⅰ)	1	
教育方法学概論(Ⅱ)	1	
教育方法論	1	
ICT活用の理論と方法	1	
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	
学校カウンセリング	2	
事前・事後指導(中高)	1	
事前・事後指導(小中)	1	
教育実習(中高)	1,2又は4	
教育実習(小中)	4	
教職実践演習	2	
初等科教育法(国語)	2	
初等科教育法(社会)	2	
初等科教育法(算数)	2	
初等科教育法(理科)	2	
初等科教育法(生活)	2	
初等科教育法(音楽)	2	
初等科教育法(図画工作)	2	
初等科教育法(家庭)	2	
初等科教育法(体育)	2	
初等科教育法(外国語)	2	
国語科教育論	1	
社会科教育論	1	
算数科教育論	1	
理科教育論	1	
体育実技	1	
外国語科教育論	1	

別表第11 外国人留学生特別科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考
日本語演習ⅠA	2	
日本語演習ⅠB	2	
日本語演習ⅡA	2	
日本語演習ⅡB	2	
日本語演習ⅢA	2	
日本語演習ⅢB	2	
日本語演習ⅣA	2	
日本語演習ⅣB	2	
日本語演習ⅤA	2	
日本語演習ⅤB	2	
日本事情演習ⅠA	2	
日本事情演習ⅠB	2	
日本事情演習ⅡA	2	
日本事情演習ⅡB	2	
日本事情演習ⅢA	2	
日本事情演習ⅢB	2	
日本事情演習ⅣA	2	
日本事情演習ⅣB	2	
日本事情演習ⅤA	2	
日本事情演習ⅤB	2	
総合日本語サマープログラムⅠ	2	
総合日本語サマープログラムⅡ	2	
総合日本語Ⅰ	2	
総合日本語Ⅱ	2	

(趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学生活科学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、学部共通科目、自由科目、全学共通科目、教職課程科目及び外国人留学生特別科目とする。

- 2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語及びアジア諸語)及びスポーツ健康とする。
- 3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラム及び専修プログラムを構成する科目とする。
- 4 学部共通科目は、各学科の基礎となる科目又はきわめて関連の深い科目であって必修又は選択として指定する。
- 5 自由科目は、生活科学部他学科の科目及び他学部の科目とする。
- 6 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。
- 7 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める教職課程科目を置く。
- 8 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

(他学部の授業科目の履修)

第3条 文教育学部及び理学部の授業科目は、これを履修することができる。

(単位の計算方法)

第4条 各授業科目の単位数の計算方法は、1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - 二 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - 三 実験及び実習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、食物栄養学科が開設する専門科目については、45時間の授業をもって1単位とし、教育実習については、別に定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文については別に定める。

(卒業要件)

第5条 卒業するためには、別表第1に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。ただし、食物栄養学科については、別表第1-2に定めるところにより、138単位以上を修得しなければならない。

- 2 人間・環境科学科、人間生活学科及び心理学科において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第3から別表第7及び別表第9までに定めるところとする。また、食物栄養学科においては、別表第3、別表第8及び別表第9に定めるところとする。
- 3 学部共通科目の授業科目及び単位数は、別表第9に定めるところとする。
- 4 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第10に定めるところとする。
- 5 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第12に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考10とおとりとする。

(教員免許状)

第6条 教職課程科目の授業科目及び単位数は、別表第11に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考9のとおりとする。

(履修手続)

第7条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

- 2 学生が前項により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消し手続きを行い、担当教員の許可を得なければならない。
- 3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

(単位の授与)

第8条 授業科目を履修した者については、試験(論文、報告等を含む。以下同じ。)により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

- 2 試験は、原則として学年又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続きにより追試験を受けることができる。

(成績の評価)

第9条 成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

- 2 成績の評価は、「S」(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、「A」(基本的な目標を十分に達成している)、「B」(基本的な目標を達成している)、「C」(基本的な目標を最低限度達成している)、「D」(基本的な目標を達成していない。再履修が必要である)の5種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。
- 3 前項の成績の評価又は科目の原成績(素点)に基づき、成績の数値平均GradePointAverage(以下「GPA」という。)を算出するものとする。GPAに関し必要な事項は別に定める。

(成績不振の学生に対する学修指導)

第10条 病気その他やむを得ない事情がないにもかかわらず、学修状況が著しく不良の者には、成績不振の学修指導を行うことがある。

- 2 その他学修指導に関しては、別に定める。

(細則)

第11条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項については、生活科学部教授会が定める。

附則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。

- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行し、平成18年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行し、改正後の別表第1から別表第4まで及び別表第10の規定は、平成19年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- この規程は、平成19年10月24日から施行し、平成19年10月1日から適用する。
附則
- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行し、平成21年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行し、平成22年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行し、平成24年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- この規程は、平成25年10月1日から施行する。
附則
- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表第3から第7まで及び第9から第14までの規定は、平成26年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- この規程は、平成26年10月1日から施行する。
附則
- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
- 3 前2項の規定にかかわらず、第10条の改正規定は、この改正規程の施行前から引き続き生活科学部に在学する者から適用する。
附則
- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行し、平成28年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行し、平成29年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行し、平成30年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行し、令和2年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行し、令和3年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行し、令和4年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。
附則
- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行し、令和5年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

別表第1 (第5条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位										自由に選択して履修する科目・単位						卒業に必要な履修単位数		
		コア科目					専門教育科目(必修プログラム)					コア	専門教育科目	学部共通科目	自由科目	全学共通科目	教職課程科目		必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム	専修プログラム									
食物栄養学科		30									105				3					138
人間・環境科学科		34				60		20							10					124
人間生活学科		34				42		20							28					124
心理学科		34				42		20							28					124

備考 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。

2 外国語は、12単位を必修とする。

3 スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別途定める。

4 主プログラムは、所属学科から選択すること。

5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。

6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。

7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。

8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。

9 教職課程科目の単位については、食物栄養学科、人間生活学科及び心理学科は14単位までを、人間環境科学科は10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。

10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。

11 生活科学部の「学部共通科目」は、別表第9のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。

別表第2 (第5条関係)

【(生)二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」				
	人間・環境科学(副)	生活社会科学(副)	生活文化学(副)	心理学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科					
人間・環境科学科		×	×	×	○
人間生活社会科学	○			○	○
生活学科	○	○		×	○
心理学科	○	○	○		○

【(生)三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	教育学・子ども学(学際)	グローバル文化学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活社会科学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
心理学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(生)三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活社会科学	○	○	○	○	○	×	×	×	×
生活学科	○	○	○	○	○	×	×	×	×
心理学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(生)三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	人間・環境科学(副)	生活社会科学(副)	生活文化学(副)	心理学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○
人間・環境科学科		○	○	○	○
人間生活社会科学	○		○	○	○
生活学科	○	○		○	○
心理学科	○	○	○		○

別表第3 コア科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
文理融合リベラルアーツ		
リベラルアーツ演習Ⅰ	2	
リベラルアーツ演習Ⅱ	2	
系列1 生命と環境 (講義)		
生命と環境1	2	
生命と環境2	2	
生命と環境3	2	
生命と環境4	2	
生命と環境5	2	
生命と環境6	2	
生命と環境7	2	
生命と環境8	2	
生命と環境10	2	
(演習・実習)		
生命と環境22	2	
生命と環境23	2	
生命と環境26	2	
系列2 色・音・香 (講義)		
色・音・香1	2	
色・音・香2	2	
色・音・香3	2	
色・音・香4	2	
色・音・香5	2	
色・音・香6	2	
色・音・香7	2	
色・音・香8	2	
色・音・香9	2	
色・音・香10	2	
(演習・実習)		
色・音・香22	2	
系列3 生活世界の安全保障 (講義)		
生活世界の安全保障1	2	
生活世界の安全保障2	2	
生活世界の安全保障3	2	
生活世界の安全保障4	2	
生活世界の安全保障5	2	
生活世界の安全保障7	2	
生活世界の安全保障8	2	
生活世界の安全保障9	2	
生活世界の安全保障10	2	
(演習・実習)		
生活世界の安全保障23	2	
生活世界の安全保障25	2	
系列4 ことばと世界 (講義)		
ことばと世界1	2	
ことばと世界2	2	
ことばと世界3	2	
ことばと世界5	2	
ことばと世界6	2	
ことばと世界7	2	
ことばと世界8	2	
ことばと世界10	2	
ことばと世界11	2	
ことばと世界12	2	
ことばと世界13	2	
(演習・実習)		
ことばと世界27	2	
系列5 ジェンダー (講義)		
ジェンダー1	2	
ジェンダー2	2	
ジェンダー3	2	
ジェンダー4	2	
ジェンダー5	2	
ジェンダー6	2	
ジェンダー8	2	
ジェンダー9	2	
ジェンダー10	2	
基礎講義		
哲学	2	
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	
法学Ⅱ(法学入門)	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微積分学	2	
基礎線形代数	2	

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
統計学	2	
総合コース	1~4	
お茶の水女子大学論	2	
コンピテンシー基礎論	2	
防災・危機管理	1	
自然災害に対する防災・減災	1	
学修ポートフォリオ入門	1	
自然科学課題研究支援プログラム	1	
情報 (必修)		
情報処理演習(1)	1	
情報処理演習(2)	1	
(選択)		
メディアリテラシ(1)	1	
メディアリテラシ(2)	1	
文理融合データサイエンスⅠ	2	
文理融合データサイエンスⅡ	2	
文理融合データサイエンスⅢ	2	
文理融合データサイエンスⅣ	2	
情報科学(1)	1	
情報科学(2)	1	
情報処理学(1)	1	
情報処理学(2)	1	
プログラミング演習1	2	
プログラミング演習2	2	
コンピュータ演習1	2	
コンピュータ演習2	2	
情報学演習1	2	
情報学演習2	2	
文化情報工学総論	2	
データサイエンス(基礎)	2	
データサイエンス(中級)	2	
データサイエンス(上級)	2	
外国語(必修)	12	<p>●外国語の必修単位数は12単位。 英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。</p> <p>*および**：コア科目(外国語)の必修単位数に充てることができる基本科目。 ***：第二外国語として8単位未満履修する場合のみ必修単位数に充てることができる準基本科目。 *、**および***のついていない科目の単位は、特別措置等による認定がない限り、必修単位数に充てることができない。</p>
英語		
* 基礎英語Ⅰ(1)	1	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅰ(2)	1	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅱ(1)	1	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅱ(2)	1	(Ⅰ)
* 中級英語Ⅰ(1)	1	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅰ(2)	1	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅱ(1)	1	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅱ(2)	1	(Ⅱ)
** 英語コミュニケーションⅢ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅢ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅣ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅣ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅤ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅤ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅥ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語コミュニケーションⅥ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅠ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅠ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅡ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** 英語プレゼンテーションⅡ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅠ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅠ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅡ(1)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** グローバル・イングリッシュⅡ(2)	1	(Ⅱ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅰ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅰ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅱ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅱ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅲ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅲ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅳ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅳ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅴ(1)	1	(Ⅰ~Ⅳ)
** Advanced Communication Training Ⅴ(2)	1	(Ⅰ~Ⅳ)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
** Advanced Communication Training VI(1)	1	(I~IV)
** Advanced Communication Training VI(2)	1	(I~IV)
英語コミュニケーション I(1)	1	(I・II)
英語コミュニケーション I(2)	1	(I・II)
英語コミュニケーション II(1)	1	(I・II)
英語コミュニケーション II(2)	1	(I・II)
上級英語 I(1)	1	(III・IV)
上級英語 I(2)	1	(III・IV)
上級英語 II(1)	1	(III・IV)
上級英語 II(2)	1	(III・IV)
上級英語 III(1)	1	(III・IV)
上級英語 III(2)	1	(III・IV)
上級英語 IV(1)	1	(III・IV)
上級英語 IV(2)	1	(III・IV)
ビジネス英語 I(1)	1	(II~IV)
ビジネス英語 I(2)	1	(II~IV)
ビジネス英語 II(1)	1	(II~IV)
ビジネス英語 II(2)	1	(II~IV)
時事英語 I(1)	1	(II~IV)
時事英語 I(2)	1	(II~IV)
時事英語 II(1)	1	(II~IV)
時事英語 II(2)	1	(II~IV)
ドイツ語		
*基礎ドイツ語 I	2	(I)
*基礎ドイツ語 II	2	(I)
*基礎ドイツ語 III	2	(I)
*基礎ドイツ語 IV	2	(I)
*基礎ドイツ語 (応用) I(1)	1	(I)
*基礎ドイツ語 (応用) I(2)	1	(I)
*基礎ドイツ語 (応用) II(1)	1	(I)
*基礎ドイツ語 (応用) II(2)	1	(I)
*発展ドイツ語 I(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 I(2)	1	(II)
*発展ドイツ語 II(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 II(2)	1	(II)
*発展ドイツ語 III(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 III(2)	1	(II)
*発展ドイツ語 IV(1)	1	(II)
*発展ドイツ語 IV(2)	1	(II)
***基礎ドイツ語会話 I(1)	1	(I~IV)
***基礎ドイツ語会話 I(2)	1	(I~IV)
***基礎ドイツ語会話 II(1)	1	(I~IV)
***基礎ドイツ語会話 II(2)	1	(I~IV)
***ドイツ語初歩 I(1)	1	(I~IV)
***ドイツ語初歩 I(2)	1	(I~IV)
***ドイツ語初歩 II(1)	1	(I~IV)
***ドイツ語初歩 II(2)	1	(I~IV)
フランス語		
*基礎フランス語 I	2	(I)
*基礎フランス語 II	2	(I)
*基礎フランス語 III	2	(I)
*基礎フランス語 IV	2	(I)
*基礎フランス語 (応用) I(1)	1	(I)
*基礎フランス語 (応用) I(2)	1	(I)
*基礎フランス語 (応用) II(1)	1	(I)
*基礎フランス語 (応用) II(2)	1	(I)
*発展フランス語 I(1)	1	(II)
*発展フランス語 I(2)	1	(II)
*発展フランス語 II(1)	1	(II)
*発展フランス語 II(2)	1	(II)
*発展フランス語 III(1)	1	(II)
*発展フランス語 III(2)	1	(II)
*発展フランス語 IV(1)	1	(II)
*発展フランス語 IV(2)	1	(II)
***基礎フランス語会話 I(1)	1	(I~IV)
***基礎フランス語会話 I(2)	1	(I~IV)
***基礎フランス語会話 II(1)	1	(I~IV)
***基礎フランス語会話 II(2)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 I(1)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 I(2)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 II(1)	1	(I~IV)
***フランス語初歩 II(2)	1	(I~IV)
中国語		
*基礎中国語 I	2	(I)
*基礎中国語 II	2	(I)
*基礎中国語 III	2	(I)
*基礎中国語 IV	2	(I)
*基礎中国語 (応用) I(1)	1	(I)
*基礎中国語 (応用) I(2)	1	(I)
*基礎中国語 (応用) II(1)	1	(I)
*基礎中国語 (応用) II(2)	1	(I)
*発展中国語 I(1)	1	(II)
*発展中国語 I(2)	1	(II)
*発展中国語 II(1)	1	(II)
*発展中国語 II(2)	1	(II)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
*発展中国語 III(1)	1	(II)
*発展中国語 III(2)	1	(II)
*発展中国語 IV(1)	1	(II)
*発展中国語 IV(2)	1	(II)
***基礎中国語会話 I(1)	1	(II~IV)
***基礎中国語会話 II(1)	1	(II~IV)
***基礎中国語会話 II(2)	1	(II~IV)
***中国語初歩 I(1)	1	(I~IV)
***中国語初歩 I(2)	1	(I~IV)
***中国語初歩 II(1)	1	(I~IV)
***中国語初歩 II(2)	1	(I~IV)
中国語プレゼンテーション I	2	(I~IV)
中国語プレゼンテーション II	2	(I~IV)
ロシア語		
*ロシア語初歩 I(1)	1	(I~IV)
*ロシア語初歩 I(2)	1	(I~IV)
*ロシア語初歩 II(1)	1	(I~IV)
*ロシア語初歩 II(2)	1	(I~IV)
*ロシア語会話 I(1)	1	(I~IV)
*ロシア語会話 I(2)	1	(I~IV)
*ロシア語会話 II(1)	1	(I~IV)
*ロシア語会話 II(2)	1	(I~IV)
朝鮮語		
*朝鮮語初歩 I(1)	1	(I~IV)
*朝鮮語初歩 I(2)	1	(I~IV)
*朝鮮語初歩 II(1)	1	(I~IV)
*朝鮮語初歩 II(2)	1	(I~IV)
*朝鮮語会話 I(1)	1	(I~IV)
*朝鮮語会話 I(2)	1	(I~IV)
*朝鮮語会話 II(1)	1	(I~IV)
*朝鮮語会話 II(2)	1	(I~IV)
スペイン語		
*現代スペイン語 I	2	(I~IV)
*現代スペイン語 II	2	(I~IV)
*スペイン語会話 I(1)	1	(I~IV)
*スペイン語会話 I(2)	1	(I~IV)
*スペイン語会話 II(1)	1	(I~IV)
*スペイン語会話 II(2)	1	(I~IV)
イタリア語		
*現代イタリア語 I	2	(I~IV)
*現代イタリア語 II	2	(I~IV)
アジア諸語		
*現代アジア諸語 I	2	(I~IV)
*現代アジア諸語 II	2	(I~IV)
*現代アジア諸語 III	2	(I~IV)
*現代アジア諸語 IV	2	(I~IV)
スポーツ健康(必修)		
スポーツ健康実習	2	(I)
スポーツ健康(選択)		
スポーツ科学概論	2	(I~IV)
健康科学概論	2	(I~IV)
生涯スポーツ	0.5~3	(I~IV)

別表第4 専門教育科目(第5条関係)

主プログラム

人間・環境科学主プログラム		単位数：60	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
統計学	2	必修	
基礎有機化学	2	必修	
数学物理学演習 I(1)	1	必修	
数学物理学演習 I(2)	1	必修	
環境科学(1)	1	必修	
環境科学(2)	1	必修	
環境材料物性(1)	1	必修	
環境材料物性(2)	1	必修	
情報工学演習(1)	1	必修	
情報工学演習(2)	1	必修	
人間環境科学演習(1)	1	必修	
人間環境科学演習(2)	1	必修	
人間環境科学実験実習 I	2	必修	
人間環境科学実験実習 II	2	必修	
人間環境科学実験実習 III	2	必修	
人間環境科学輪講 I	2	必修	
人間環境科学輪講 II	2	必修	
卒業論文	10	必修	
数学物理学演習 II(1)	1	選択	以下の科目から
数学物理学演習 II(2)	1	選択	26 単位以上選択
デザイン工学演習(1)	1	選択	
デザイン工学演習(2)	1	選択	
設計製造演習(1)	1	選択	
設計製造演習(2)	1	選択	
デザインとテクノロジー(1)	1	選択	
デザインとテクノロジー(2)	1	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
機械と運動(1)	1	選択	
機械と運動(2)	1	選択	
物理化学(1)	1	選択	
物理化学(2)	1	選択	
生物化学(1)	1	選択	
生物化学(2)	1	選択	
環境反応論(1)	1	選択	
環境反応論(2)	1	選択	
計測工学	1	選択	
ヒトと文化(1)	1	選択	
ヒトと文化(2)	1	選択	
人体計測学演習(1)	2	選択	
人体計測学演習(2)	2	選択	
機器分析演習(1)	1	選択	
機器分析演習(2)	1	選択	
応用統計学	2	選択	
資源循環工学	2	選択	
建築一般構造	2	選択	
基礎構造力学	2	選択	
住居学概論	2	選択	
建築環境計画論	2	選択	
西洋建築史	2	選択	
設計製図基礎	2	選択	
生活科学概論	2	選択	
人間・環境科学選択基礎	2	選択	

生活社会科学主プログラム 単位数：42

授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間生活論(1)	1	必修	
人間生活論(2)	1	必修	
生活社会科学概論(1)	1	必修	
生活社会科学概論(2)	1	必修	
生活文化学概論	2	選択	以下の科目から
生活科学概論	2	選択	2単位以上を選択
生活社会科学演習(1)	1	必修	
生活社会科学演習(2)	1	必修	
家族社会学(1)	1	必修	
家族社会学(2)	1	必修	
応用生活統計学(1)	1	必修	
応用生活統計学(2)	1	必修	
社会統計学 I	2	必修	
ジェンダー論	2	必修	
生活関連法	2	必修	
家族法	2	必修	
生活政治学(1)	1	必修	
生活政治学(2)	1	必修	
家政経済学概論	2	必修	
消費者経済学	2	必修	
家族関係論	2	必修	
社会保障論	2	必修	
卒業論文	8	必修	
家庭機械及び家庭電気	2	選択	
調理実習	1	選択	
生活社会科学選択基礎	2	選択	
家族法演習 I	2	選択	以下の科目から
家族法演習 II	2	選択	4単位選択
生活法演習 I	2	選択	
生活法演習 II	2	選択	
生活政治学演習 I	2	選択	
生活政治学演習 II	2	選択	
家族社会学演習 I	2	選択	
家族社会学演習 II	2	選択	
生活福祉学演習 I	2	選択	
生活福祉学演習 II	2	選択	
消費者経済学演習 I	2	選択	
消費者経済学演習 II	2	選択	
生活経済学演習 I	2	選択	
生活経済学演習 II	2	選択	
労働経済学演習 I	2	選択	
労働経済学演習 II	2	選択	

生活文化学主プログラム 単位数：42

授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間生活論(1)	1	必修	
人間生活論(2)	1	必修	
生活文化学概論	2	必修	
生活社会科学概論(1)	1	選択	以下の科目から
生活社会科学概論(2)	1	選択	2単位以上を選択
生活科学概論	2	選択	
生活造形論	2	必修	
民俗学	2	必修	
服飾文化概論	2	必修	
比較生活文化論	2	必修	
児童学概論	2	必修	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
服飾史論(1)	1	選択	以下の科目から
服飾史論(2)	1	選択	10単位以上を選択
服飾史資料論(1)	1	選択	
服飾史資料論(2)	1	選択	
比較生活文化史 I (1)	1	選択	
比較生活文化史 I (2)	1	選択	
比較生活文化史 II (1)	1	選択	
比較生活文化史 II (2)	1	選択	
民俗文化史論(1)	1	選択	
民俗文化史論(2)	1	選択	
歴史民俗文化論(1)	1	選択	
歴史民俗文化論(2)	1	選択	
保育デザイン論(1)	1	選択	
保育デザイン論(2)	1	選択	
発達と文化(1)	1	選択	
発達と文化(2)	1	選択	
服飾史 I (1)	1	選択	
服飾史 I (2)	1	選択	
服飾史 II (1)	1	選択	
服飾史 II (2)	1	選択	
生活文化学論文演習 I	2	必修	
生活文化学論文演習 II	2	必修	
卒業論文	8	必修	
比較文化論基礎演習	2	選択	以下の科目から
民俗文化史基礎演習	2	選択	4単位以上を選択
日本服飾史基礎演習	2	選択	
服飾文化論基礎演習	2	選択	
保育デザイン論基礎演習	2	選択	
家庭看護学	1	選択	
保育実践論	2	選択	
被服学概論	2	選択	
家族関係論	2	選択	
家政経済学概論	2	選択	
被服製作実習	1	選択	
家庭機械及び家庭電気	2	選択	
調理実習	1	選択	
生活文化学選択基礎	2	選択	

心理学主プログラム 単位数：42

授業科目	単位数	必修・選択	備考
こころの科学(心理学概論)	2	必修	
こころの科学：研究と実践(心理学研究法)	2	必修	
認知心理学概論(知覚・認知心理学)	2	必修	
発達心理学概論(発達心理学)	2	必修	
教育心理学概論	2	必修	
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	2	必修	
臨床心理学概論(臨床心理学概論)	2	必修	
心理学基礎演習	2	必修	
心理統計法(心理学統計法)	2	必修	
心理学基礎実験演習(心理学実験)	2	必修	
心理学基礎実践演習(心理演習)	2	必修	
心理学専門英語	2	必修	
卒業論文	8	必修	
心理学選択基礎	2	選択	
心理職の職業倫理(公認心理師の職責)	2	選択	
心理臨床に関する法と制度(関係行政論)	2	選択	
心理学実践演習：質問紙法	2	選択	
心理学実践演習：質的研究法	2	選択	
生活科学概論	2	選択	
心理臨床実習 I (心理実習 I)	2	選択	以下の科目から
心理臨床実習 II (心理実習 II)	2	選択	8単位以上を選択
認知神経科学(神経・生理心理学)	2	選択	
学習と言語の心理学(学習・言語心理学)	2	選択	
臨床医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	2	選択	
応用社会心理学	2	選択	
福祉心理学(福祉心理学)	2	選択	
コミュニティ心理学	2	選択	
司法心理学(司法・犯罪心理学)	2	選択	
産業心理学(産業・組織・心理学)	2	選択	
健康心理学(健康・医療心理学)	2	選択	
心理療法学(心理学的支援法)	2	選択	
障害臨床心理学(障害者・障害児心理学)	2	選択	
心理臨床アセスメント(心理的アセスメント)	2	選択	
医療心理学(精神疾患とその治療)	2	選択	
感情・人格心理学(感情・人格心理学)	2	選択	
発達臨床心理学	2	選択	
家族心理学	2	選択	
学校臨床心理学(教育・学校心理学)	2	選択	
認知心理学演習	2	選択	以下の科目から
認知発達心理学演習	2	選択	2単位以上を選択
社会心理学演習	2	選択	
ジェンダー心理学演習	2	選択	
健康心理学演習	2	選択	
障害臨床心理学演習	2	選択	
心理療法学演習	2	選択	

V
諸規程等(規則集)

授業科目	単位数	必修・選択	備考
人格発達心理学演習	2	選択	
犯罪心理学演習	2	選択	
心理支授学演習	2	選択	

別表第5 専門教育科目(第5条関係)

強化プログラム

人間・環境科学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間工学	1	選択	以下の科目から 20単位以上を選択	
電子工学	2	選択		
システム工学	2	選択		
水環境工学	2	選択		
環境評価学	2	選択		
都市エネルギー工学	2	選択		
医用工学	2	選択		
第四紀学概論	2	選択		
人間環境科学特別実習Ⅰ	2	選択		
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	選択		
環境衛生学(1)	1	選択		
環境衛生学(2)	1	選択		
LIDEE演習	2	選択		
生活工学特別講義	2	選択		
建築環境工学	2	選択		
環境心理学	2	選択		
建築材料学Ⅰ	2	選択		
建築施設計画	2	選択		
都市計画論	2	選択		
建築構造力学	2	選択		
日本建築史	2	選択		
建築設計製図演習Ⅰ	2	選択		
建築設計製図演習Ⅱ	2	選択	以下の科目は強化 プログラムに必要な 20単位には含ま れない。	
建築設計製図演習Ⅲ	2	選択		
建築法規	1	選択		
建築生産	2	選択		
建築構法計画	1	選択		
BIM演習	1	選択		
建築材料学Ⅱ	2	選択		
建築設備学	2	選択		
建築意匠論	2	選択		
測量学	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		

生活社会科学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
社会福祉学	2	必修	以下の科目から 4単位までを含め ることができる	
労働経済学総論	2	必修		
社会統計学Ⅱ(1)	1	必修		
社会統計学Ⅱ(2)	1	必修		
生活社会科学論文演習Ⅰ	2	必修		
生活社会科学論文演習Ⅱ	2	必修		
家族法演習Ⅰ	2	選択		
家族法演習Ⅱ	2	選択		
生活法学演習Ⅰ	2	選択		
生活法学演習Ⅱ	2	選択		
生活政治学演習Ⅰ	2	選択		
生活政治学演習Ⅱ	2	選択		
家族社会学演習Ⅰ	2	選択		
家族社会学演習Ⅱ	2	選択		
生活福祉学演習Ⅰ	2	選択		
生活福祉学演習Ⅱ	2	選択		
消費者経済学演習Ⅰ	2	選択		
消費者経済学演習Ⅱ	2	選択		
生活経済学演習Ⅰ	2	選択		
生活経済学演習Ⅱ	2	選択		
労働経済学演習Ⅰ	2	選択		
労働経済学演習Ⅱ	2	選択		
女性政策論	2	選択		
法女性学	2	選択		
労働法	2	選択		
比較ジェンダー論	2	選択		
政治とジェンダー	2	選択		
消費者教育論	2	選択		
企業経営論	2	選択		
老年学	2	選択		
児童福祉論	2	選択		
人口学	2	選択		
地域社会論	2	選択		
生活調査法	2	選択		
生活社会調査実習	2	選択		
生活経営学	2	選択		
財産と法	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
刑事法	2	選択	
生活法学	2	選択	
イタリア法史	2	選択	
生活と行政	2	選択	
生活経済学	2	選択	
生活と金融	2	選択	
生活と財政	2	選択	
国際経済と生活	2	選択	
国民経済と生活	2	選択	
マーケティング	2	選択	
児童学概論	2	選択	
生活社会科学特論	2	選択	
生活社会科学実習	2	選択	
社会問題論(1)	1	選択	以下の科目から 4単位までを含め ることができる
社会問題論(2)	1	選択	
現代社会論	2	選択	
現代生活論	2	選択	
社会意識論	2	選択	
比較社会論	2	選択	
社会政策論Ⅰ	2	選択	
社会政策論Ⅱ	2	選択	
都市地理学	2	選択	
経済地理学	2	選択	
社会地理学	2	選択	

生活文化学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
比較文化論演習	2	選択	以下の科目から 2単位以上選択	
民俗文化史演習	2	選択		
服飾文化論演習	2	選択		
日本服飾史演習	2	選択		
保育デザイン論演習	2	選択		
服飾史資料論(1)	1	選択		
服飾史資料論(2)	1	選択		
服飾史Ⅱ(1)	1	選択		
服飾史Ⅱ(2)	1	選択		
歴史民俗文化論(1)	1	選択		
歴史民俗文化論(2)	1	選択		
比較生活文化史Ⅱ(1)	1	選択		
比較生活文化史Ⅱ(2)	1	選択		
発達と文化(1)	1	選択		
発達と文化(2)	1	選択		
日本服飾史基礎演習	2	選択		
服飾文化論基礎演習	2	選択		
民俗文化史基礎演習	2	選択		
比較文化論基礎演習	2	選択		
保育デザイン論基礎演習	2	選択		
民俗文化史各論	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		
生活文化論	2	選択		
生活造形史	2	選択		
工芸史	2	選択		
地域文化論	2	選択		
現代文化論	2	選択		
文化情報論	2	選択		
美学・芸術学	2	選択		
児童文化論	2	選択		
西洋服飾論	2	選択		
日本服飾論	2	選択		
服飾文化各論	2	選択		
服飾制作実習	1	選択		
服飾文化実習	1	選択		
生活文化実習	1	選択		
生活文化学専門英語	2	選択		
LIDEE演習	2	選択		
生活芸術論	2	選択		

心理学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
心理臨床実習Ⅰ(心理実習Ⅰ)	2	選択	以下の科目から 20単位以上選択	
心理臨床実習Ⅱ(心理実習Ⅱ)	2	選択		
認知神経科学(神経・生理心理学)	2	選択		
学習と言語の心理学(学習・言語心理学)	2	選択		
臨床医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	2	選択		
認知心理学演習	2	選択		
認知発達心理学演習	2	選択		
応用社会心理学	2	選択		
福祉心理学(福祉心理学)	2	選択		
コミュニティ心理学	2	選択		
司法心理学(司法・犯罪心理学)	2	選択		
産業心理学(産業・組織心理学)	2	選択		
社会心理学演習	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
ジェンダー心理学演習	2	選択	
健康心理学(健康・医療心理学)	2	選択	
心理療法学(心理的支援法)	2	選択	
障害臨床心理学(障害者・障害児心理学)	2	選択	
心理臨床アセスメント(心理的アセスメント)	2	選択	
医療心理学(精神疾患とその治療)	2	選択	
健康心理学演習	2	選択	
障害臨床心理学演習	2	選択	
心理療法学演習	2	選択	
感情・人格心理学(感情・人格心理学)	2	選択	
発達臨床心理学	2	選択	
家族心理学	2	選択	
学校臨床心理学(教育・学校心理学)	2	選択	
人格発達心理学演習	2	選択	
犯罪心理学演習	2	選択	
心理支援学演習	2	選択	
心理臨床に関する法と制度(関係行政論)	2	選択	

別表第6 専門教育科目(第5条関係)

副プログラム

人間・環境科学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
統計学	2	選択	以下の科目から	
環境科学(1)	1	選択	20単位以上選択	
環境科学(2)	1	選択		
環境反応論(1)	1	選択		
環境反応論(2)	1	選択		
ヒトと文化(1)	1	選択		
ヒトと文化(2)	1	選択		
資源循環工学	2	選択		
建築一般構造	2	選択		
基礎構造力学	2	選択		
住居学概論	2	選択		
建築環境計画論	2	選択		
都市エネルギー工学	2	選択		
人間工学	1	選択		
システム工学	2	選択		
環境材料物性(1)	1	選択		
環境材料物性(2)	1	選択		
水環境工学	2	選択		
医用工学	2	選択		
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	選択		
情報工学演習(1)	1	選択		
情報工学演習(2)	1	選択		
建築環境工学	2	選択		
環境心理学	2	選択		
建築材料学Ⅰ	2	選択		
建築材料学Ⅱ	2	選択		
設計製図基礎	2	選択		
建築設計製図演習Ⅰ	2	選択		
建築設計製図演習Ⅱ	2	選択		
建築設計製図演習Ⅲ	2	選択		
西洋建築史	2	選択		
日本建築史	2	選択		
建築法規	1	選択		
建築生産	2	選択		
建築構法計画	1	選択		
BIM演習	1	選択		
建築設備学	2	選択		
建築意匠論	2	選択		
建築施設計画	2	選択		
都市計画論	2	選択		
建築構造力学	2	選択		
測量学	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		

生活社会科学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
生活社会科学概論(1)	1	必修	ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たす必要がある。	
生活社会科学概論(2)	1	必修		
生活社会科学演習(1)	1	必修		
生活社会科学演習(2)	1	必修		
家族法演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から4単位までを含めることができる	
家族法演習Ⅱ	2	選択		
生活法演習Ⅰ	2	選択		
生活法演習Ⅱ	2	選択		
生活政治学演習Ⅰ	2	選択		
生活政治学演習Ⅱ	2	選択		
家族社会学演習Ⅰ	2	選択		
家族社会学演習Ⅱ	2	選択		
生活福祉学演習Ⅰ	2	選択		
生活福祉学演習Ⅱ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
消費者経済学演習Ⅰ	2	選択	
消費者経済学演習Ⅱ	2	選択	
生活経済学演習Ⅰ	2	選択	
生活経済学演習Ⅱ	2	選択	
労働経済学演習Ⅰ	2	選択	
労働経済学演習Ⅱ	2	選択	
ジェンダー論	2	選択	
生活関連法	2	選択	
家族法	2	選択	
生活政治学(1)	1	選択	
生活政治学(2)	1	選択	
家政経済学概論	2	選択	
消費者経済学	2	選択	
女性政策論	2	選択	
労働法	2	選択	
政治とジェンダー	2	選択	
社会福祉学	2	選択	
消費者教育論	2	選択	
労働経済学総論	2	選択	
社会保障論	2	選択	
児童福祉論	2	選択	
地域社会論	2	選択	
生活経営学	2	選択	
財産と法	2	選択	
刑事法	2	選択	
生活法学	2	選択	
イタリヤ法史	2	選択	
生活と行政	2	選択	
生活経済学	2	選択	
生活と金融	2	選択	
生活と財政	2	選択	
国際経済と生活	2	選択	
国民経済と生活	2	選択	
家族関係論	2	選択	
法女性学	2	選択	
労働法	2	選択	
比較ジェンダー論	2	選択	
家族社会学(1)	1	選択	
家族社会学(2)	1	選択	
老年学	2	選択	
生活社会科学特論	2	選択	

生活文化学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
生活造形論	2	選択	以下の科目から	
民俗学	2	選択	4単位以上必修	
服飾文化概論	2	選択		
比較生活文化論	2	選択		
児童学概論	2	選択		
日本服飾史基礎演習	2	選択	以下の科目から	
民俗文化史基礎演習	2	選択	2単位以上必修	
服飾文化論基礎演習	2	選択		
比較文化論基礎演習	2	選択		
保育デザイン論基礎演習	2	選択		
服飾史論(1)	1	選択	以下の科目から	
服飾史論(2)	1	選択	14単位以上選択	
服飾史資料論(1)	1	選択		
服飾史資料論(2)	1	選択		
服飾史Ⅰ(1)	1	選択		
服飾史Ⅰ(2)	1	選択		
服飾史Ⅱ(1)	1	選択		
服飾史Ⅱ(2)	1	選択		
比較生活文化史Ⅰ(1)	1	選択		
比較生活文化史Ⅰ(2)	1	選択		
比較生活文化史Ⅱ(1)	1	選択		
比較生活文化史Ⅱ(2)	1	選択		
民俗文化史論(1)	1	選択		
民俗文化史論(2)	1	選択		
歴史民俗文化論(1)	1	選択		
歴史民俗文化論(2)	1	選択		
保育デザイン論(1)	1	選択		
保育デザイン論(2)	1	選択		
発達と文化(1)	1	選択		
発達と文化(2)	1	選択		
民俗文化史各論	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		
生活文化論	2	選択		
生活造形史	2	選択		
工芸史	2	選択		
地域文化論	2	選択		
現代文化論	2	選択		
文化情報論	2	選択		
美学・芸術学	2	選択		
西洋服飾論	2	選択		
日本服飾論	2	選択		

V
諸規程等(規則集)

授業科目	単位数	必修・選択	備考
服飾文化各論	2	選択	
生活芸術論	2	選択	
児童文化論	2	選択	

心理学副プログラム 単位数：20

授業科目	単位数	必修・選択	備考
こころの科学(心理学概論)	2	選択	以下の科目から
こころの科学：研究と実践(心理学研究法)	2	選択	20単位以上選択

授業科目	単位数	必修・選択	備考
認知心理学概論(知覚・認知心理学)	2	選択	
発達心理学概論(発達心理学)	2	選択	
教育心理学概論	2	選択	
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	2	選択	
臨床心理学概論(臨床心理学概論)	2	選択	
認知神経科学(神経・生理心理学)	2	選択	
学習と言語の心理学(学習・言語心理学)	2	選択	
臨床医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	2	選択	
応用社会心理学	2	選択	
福祉心理学(福祉心理学)	2	選択	
コミュニティ心理学	2	選択	
司法心理学(司法・犯罪心理学)	2	選択	
産業心理学(産業・組織心理学)	2	選択	
健康心理学(健康・医療心理学)	2	選択	
心理療法学(心理学的支援法)	2	選択	
障害臨床心理学(障害者・障害児心理学)	2	選択	
心理臨床アセスメント(心理的アセスメント)	2	選択	
医療心理学(精神疾患とその治療)	2	選択	
感情・人格心理学(感情・人格心理学)	2	選択	
発達臨床心理学	2	選択	
家族心理学	2	選択	
学校臨床心理学(教育・学校心理学)	2	選択	

別表第7 専門教育科目(第5条関係)

学際プログラム

消費者学学際プログラム 単位数：20

授業科目	単位数	必修・選択	備考
消費者科学入門	2	必修	
国民経済と生活	2	必修	
消費者法	2	必修	
消費者教育論	2	選択	以下の科目から
企業経営論	2	選択	14単位以上選択
家政経済学概論	2	選択	
環境衛生学(1)	1	選択	
環境衛生学(2)	1	選択	
建築環境計画論	2	選択	
医療と健康	2	選択	
社会保障論	2	選択	
被服学概論	2	選択	
食物学概論	2	選択	
住居学概論	2	選択	
生活と財政	2	選択	
生活と金融	2	選択	
社会統計学 I	2	選択	
社会統計学 II(1)	1	選択	
社会統計学 II(2)	1	選択	
生活調査法	2	選択	
消費者経済学	2	選択	
生活造形論	2	選択	
現代文化論	2	選択	
児童学概論	2	選択	
応用統計学	2	選択	
建築一般構造	2	選択	
国際栄養学	2	選択	
マーケティング	2	選択	

別表第8 専修プログラム(第5条関係)

食物栄養学科

授業科目	単位数	備考
●必修	97	
解剖生理学 I	2	(I)
生化学	2	(I)
解剖生理学 II	2	(I)
調理科学	2	(I)
基礎調理学実習	2	(I)
基礎有機化学	2	(I)(学部共通科目)
細胞生化学	2	(II)
臨床医学総論	2	(II)
代謝栄養学	2	(II)
社会福祉学	2	(II)
食品化学	2	(II)
栄養教育論 I	2	(II)
生活環境学	2	(II)

授業科目	単位数	備考
食嗜好評価学	2	(II)
応用調理学実習	1	(II)
臨床医学各論 I	2	(II)
臨床医学各論 II	2	(II)
応用栄養学	2	(II)
給食経営管理論	2	(II)
食品製造・保存学	2	(II)
食品微生物学	2	(II)
臨床栄養アセスメント学	2	(II)
栄養カウンセリング論	2	(II)
分析化学実験	2	(II)
解剖生理学実験	1	(II)
食品微生物学実験	1	(III)
分析化学	2	(II)学部共通科目
病態栄養学	2	(III)
食品衛生学	2	(III)
臨床栄養療法学	2	(III)
公衆栄養学	2	(III)
栄養教育論 II	2	(III)
ライフステージ栄養学	2	(III)
公衆衛生学	2	(III)
給食マネジメント論	2	(III)
栄養疫学・統計	2	(III)
ライフスタイル栄養学	2	(III)
食品機能論	2	(III)
食事療法学	2	(III)
栄養学実験	2	(III)
応用栄養学実習	1	(III)
食品製造・保存学実験	1	(III)
栄養カウンセリング論実習	1	(III)
公衆栄養学実習	1	(III)
臨床栄養アセスメント学実習	2	(III)
食品化学実験	2	(III)
調理科学実験	2	(III)
給食経営管理実習	2	(III)
食物栄養管理論総合演習 I	1	(III)
食物栄養管理論総合演習 II	1	(IV)
栄養臨床実習 I	1	(III)
栄養臨床実習 II	3	(IV)
卒業論文	6	(IV)
●選択	4	
食物栄養学入門	1	(I)
食品評価論	2	(I~IV)
学校栄養教育論 I	2	(II~III)
学校栄養教育論 II	2	(II~III)
食物栄養学輪講	4	(IV)
●高大連携科目(選択)		
食物栄養学選択基礎	2	(I)

高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1(第5条関係)「自由に選択して履修する科目・単位」として認定することができる。

別表第9 学部共通科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考
生活科学概論	2	
基礎有機化学	2	(食物栄養学科は必修)
分析化学	2	(食物栄養学科は必修)
ジェンダー論	2	
比較ジェンダー論	2	
人口学	2	
社会保障論	2	
企業経営論	2	
消費者科学入門	2	
生活造形論	2	
民俗学	2	
国際栄養学	2	
食物学概論	2	
医療と健康	2	

別表第10 全学共通科目(第5条関係)

授業科目	単位数	備考
NPO入門	2	
未来起点ゼミ I	2	
未来起点ゼミ II	2	
未来起点ゼミ III	2	
未来起点ゼミ IV	2	
パーソナル・ブランディング	2	
女性のキャリアと経済	2	
ファミリーテーション	2	
平和と共生演習	2	
国際共生社会論実習	2	
キャリアアプラン	2	
ICTとコミュニケーションスキル(基礎)	2	
ICTとコミュニケーションスキル(応用)	2	

授業科目	単位数	備考
アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)	2	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション入門編)	2	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(モノ編))	1	
アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(コト編))	1	
アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1	
アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1	
アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1	
未来開拓入門	1	
女性のキャリアと法制度	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
ダイバーシティ論	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
キャリアアプランと進路選択	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
インターンシップ I	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
インターンシップ II	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
Ocha-Solution Program(基礎)	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
博物館概論	2	
博物館資料論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館実習	3	
博物館情報・メディア論	2	
日本の伝統芸能	2	
初等解析学 I	2	
初等解析学 II(1)	1	
初等解析学 II(2)	1	
初等線形代数学	2	
初等代数学	2	
物理学概論 A	2	
物理学概論 B	2	
基礎化学 A	2	
基礎化学 B(1)	1	
基礎化学 B(2)	1	
基礎生物学 A	2	
基礎生物学 B	2	
大気・海洋科学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	
生命情報学概論(1)	1	
生命情報学概論(2)	1	
計算生物学(1)	1	
計算生物学(2)	1	
海外交換留学等認定科目	2~12	
Academic Writing	2	
Academic Presentation	2	
Pre Summer Program in English	2	
Summer Program in English I	2	
Summer Program in English II	2	
Summer Program in English III	2	
Summer Program in English IV	2	
Summer Program in English V	2	
Summer Program in English VI	2	
グローバル・インターンシップ I	2	
グローバル・インターンシップ II	2	
グローバル・インターンシップ III	2	
グローバル EDI I	2	
グローバル EDI II	2	
グローバル EDI III	2	
国際交流実習 I	2	
国際交流実習 II	2	
Interdisciplinary Lectures in English I	2	
Interdisciplinary Lectures in English II	2	
Interdisciplinary Lectures in English III	2	
Interdisciplinary Lectures in English IV	2	
Interdisciplinary Lectures in English V	2	
Interdisciplinary Lectures in English VI	2	
舞台芸術実践概論 I	2	
舞台芸術実践概論 II	2	
文化芸術制作演習 I	2	
文化芸術制作演習 II	2	
物理学サブリメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
生物学サブリメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL 対策ゼミ R/L	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL 対策ゼミ S/W	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
IELTS 対策ゼミ R/L	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
IELTS 対策ゼミ S/W	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
中国語力強化ゼミ I	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
中国語力強化ゼミ II	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)

別表第 11 教職課程科目(第 6 条関係)

授業科目	単位数	備考
教職概論(1)	1	
教職概論(2)	1	
教育思想概論(1)	1	
教育思想概論(2)	1	
教育史概論(1)	1	
教育史概論(2)	1	
教育原論(思想・歴史)(1)	1	
教育原論(思想・歴史)(2)	1	
教育・発達心理学概論(1)	1	
教育・発達心理学概論(2)	1	
教育心理	2	
特別支援教育概論(1)	1	
特別支援教育概論(2)	1	
特別支援教育の理論と方法	1	
教育社会学概論(1)	1	
教育社会学概論(2)	1	
教育制度概論	2	
教育原論(社会・制度)(1)	1	
教育原論(社会・制度)(2)	1	
教育課程概論(1)	1	
教育課程概論(2)	1	
教育課程論	2	
家庭科教育法 I	2	
家庭科教育法 II	2	
家庭科教育法 III	2	
家庭科教育法 IV	2	
道德教育の理論と方法	2	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	
特別活動の理論と方法	2	
教育方法学概論(1)	1	
教育方法学概論(2)	1	
教育方法論	1	
ICT 活用の理論と方法	1	
生徒指導と進路指導の理論と方法	2	
学校カウンセリング	2	
事前・事後指導(中高)	1	
事前・事後指導(小中)	1	
教育実習(中高)	1,2又は4	
教育実習(小中)	4	
栄養教育実習	2	
教職実践演習	2	
教職実践演習(栄養教諭)	2	
初等科教育法(国語)	2	
初等科教育法(社会)	2	
初等科教育法(算数)	2	
初等科教育法(理科)	2	
初等科教育法(生活)	2	
初等科教育法(音楽)	2	
初等科教育法(図画工作)	2	
初等科教育法(家庭)	2	
初等科教育法(体育)	2	
初等科教育法(外国語)	2	

別表第 12 外国人留学生特別科目(第 5 条関係)

授業科目	単位数	備考
日本語演習 I A	2	
日本語演習 I B	2	
日本語演習 II A	2	
日本語演習 II B	2	
日本語演習 III A	2	
日本語演習 III B	2	
日本語演習 IV A	2	
日本語演習 IV B	2	
日本語演習 V A	2	
日本語演習 V B	2	
日本事情演習 I A	2	
日本事情演習 I B	2	
日本事情演習 II A	2	
日本事情演習 II B	2	
日本事情演習 III A	2	
日本事情演習 III B	2	
日本事情演習 IV A	2	
日本事情演習 IV B	2	
日本事情演習 V A	2	
日本事情演習 V B	2	
総合日本語サマープログラム I	2	
総合日本語サマープログラム II	2	
総合日本語 I	2	
総合日本語 II	2	

(趣旨)

第1条 この規則は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条第1項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)において授与する学位に関し必要な事項を定める。

(学位の名称)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学位に付記すべき専攻分野の名称については、次の表のとおりとする。

学部又は研究科		学位	専攻分野の名称
文教育学部		学士	人文科学
理学部			理学
生活科学部	食物栄養学科		生活科学
	人間・環境科学科		生活科学
	人間生活学科	生活科学	
	心理学科	心理学	
大学院人間文化創成科学研究科	博士前期課程	修士	比較社会文化学専攻
			人間発達科学専攻
			ジェンダー社会科学専攻
			ライフサイエンス専攻
			理学専攻
			生活工学共同専攻
	博士後期課程	博士	比較社会文化学専攻
			人間発達科学専攻
			ジェンダー学際研究専攻
			ライフサイエンス専攻
			理学専攻
			生活工学共同専攻

第3条 学位を授与された者は、その学位の名称を用いるときは、本学(この条において「お茶の水女子大学」とする。)の名称を付記するものとする。

(学位授与の要件)

第4条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

第5条 修士の学位は、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

第6条 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を経ない者が学位論文を提出して、その審査及び試験に合格し、かつ、専攻学術に関し本学大学院の博士後期課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有することを確認(以下「学力の確認」という。)された場合には、授与することができる。

3 本学大学院の博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得しただけで退学した者が、再入学しないで博士の学位の授与を申請するときも、前項の規定による。

(学位記の授与及び様式)

第7条 学長は、学位を授与すべき者に学位記を授与する。また、前2条に基づく学位を授与できない者にはその旨を通知する。

2 学位記は、学士の学位にあっては、別記様式第1号、修士の学位にあっては別記様式第2号の1から第2号の3まで並びに博士の学位にあっては別記様式第3号の1から第3号の3まで及び別記様式第4号に定めるとおりとする。

(学位論文の提出)

第8条 修士及び博士の学位論文は、学長に提出するものとする。

2 提出する学位論文は、1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

3 審査のため必要があるときは、関係資料を提出させることができる。

第9条 第6条第2項及び第3項に規定する者が博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書に学位論文、論文要旨、論文目録、履歴書及び所定の学位論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第6条第3項に規定する者が退学後1年以内に学位論文を提出する場合には、学位論文審査手数料を納付することを要しない。

3 提出された学位論文及び既納の学位論文審査手数料は、返還しない。

(審査の付託)

第10条 学長は、学位論文を受理したときは、教授会にその審査を付託するものとする。

(審査委員会)

第11条 教授会は、前条に規定する審査を付託されたときは、修士論文の審査については2人以上、博士論文の審査については5人以上の審査委員で組織する審査委員会を設けるものとする。

2 修士論文の審査については、審査委員は当該専攻の教員及び関連する科目の担当教員のうちから選出する。ただし、教授会が必要と認めるときは、客員教授若しくは客員准教授(以下「客員教授等」という。)又は学内の教員を加えることができる。

博士論文の審査については、審査委員会は博士後期課程の教員のうちから選出する。ただし、教授会が必要と認めるときは、博士後期課程の客員教授等、学内の教員又は外部審査委員を加えることができる。

3 前項の規定にかかわらず、大学院人間文化創成科学研究科生活工学共同専攻(以下「生活工学共同専攻」という。)の修士論文の審査については、審査委

員は本学生活工学共同専攻又は奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科生活工学共同専攻の教員及び関連する科目の担当教員のうちから選出する。ただし、教授会が必要と認めるときは、本学客員教授等又は学内の教員を加えることができる。

4 第2項の規定にかかわらず、生活工学共同専攻の博士論文の審査については、審査委員は本学博士後期課程又は奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科博士後期課程の教員のうちから選出する。ただし、教授会が必要と認めるときは、本学博士後期課程の客員教授等、学内の教員又は外部審査委員を加えることができる。

5 審査委員会は、修士論文の審査については、学位論文の審査及び試験に関する事項を行うものとする。博士論文の審査については、学位論文の審査、試験及び学力の確認に関する事項を行うものとする。

6 審査委員会の運営に関する事項は、教授会において定める。

(学位論文の審査の協力)

第12条 前条の学位の授与に係る学位論文の審査に当たっては、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

(学位論文の審査及び試験等)

第13条 試験は、学位論文を中心として、これに関連のある授業科目について口答又は筆答により行うものとする。

(学力の確認)

第14条 博士論文の審査における学力の確認は、試問の方法により行うものとする。

2 前項に規定する試問は、口答又は筆答とし、外国語については1種類以上を課する。

3 審査委員会は、前項の規定にかかわらず、学位の授与を申請する者の経歴及び提出論文以外の業績を審査して、学力の確認のための試問の一部又は全部を行う必要がないと認めるときは、教授会の承認を得て、その経歴及び業績の審査をもって学力の確認のための試問の一部又は全部に代えることができる。

(学力確認等の特例)

第15条 第6条第3項に規定する者が、退学後3年以内に学位論文を提出した場合は、学力の確認を行わないことができる。

2 学位論文の審査の結果、その内容が不良であるときは、試験及び学力の確認を行わないことができる。

(審査期間)

第16条 審査委員会は、次に掲げる期間中に、博士論文の審査、試験及び学力の確認を終了しなければならない。

(1) 本学大学院の博士後期課程修了予定の者にあつては、学年度末までとする。

(2) 第6条第2項及び第3項に規定する者にあつては、学位論文を受理した日から1年以内とする。

(審査委員会の報告)

第17条 修士論文の審査については、審査委員会は、審査を終了したときは直ちに、学位論文の審査の結果を試験の結果とともに大学院人間文化創成科学研究科長(以下「研究科長」という。)に報告しなければならない。博士論文の審査については、審査委員会は、学位論文の審査、試験及び学力の確認を終了したときは直ちに、学位論文の内容の要旨、審査の要旨及び試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添えて、研究科長に文書で報告しなければならない。ただし、第6条第2項及び第3項に規定する者の場合は、学力の確認の結果の要旨も併せて添付するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第15条各項の規定に該当する場合は、当該要旨の添付を要しない。

(教授会の審議)

第18条 教授会は、前条第1項の報告に基づいて審議し、学位を授与すべきか否かを議決する。

2 前項の議決をするには、構成員総数の3分の2以上の出席を必要とする。ただし、長期出張中及び休職中のため出席することができない構成員は構成員の総数に算入しないものとする。

3 学位の授与を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(研究科長の報告)

第19条 教授会が前条の議決をしたときは、研究科長は、その旨を学長に報告しなければならない。

(学位授与の取消し)

第20条 学位を授与された者が不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、教授会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

2 教授会が前項の議決をする場合には、第18条第2項及び第3項の規定を準用する。

(学位論文の要旨等の公表)

第21条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を国立大学法人お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション(英文名称「TeaPot: Ochanomizu University Web Library—Institutional Repository」。以下「コレクション」という。)の利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第22条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、教授会の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、研究科は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定により学位論文を公表する場合には、お茶の水女子大学審査学位論文であることを明記しなければならない。

4 博士の学位を授与された者が行う第1項及び第2項の規定による公表は、本学の協力を得て、コレクションの利用により行うものとする。

(学位授与の報告)

第23条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、文部科学大臣に所定の報告をし、学位簿に登録する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年11月16日)

この規則は、平成17年11月16日から施行する。

附 則(平成19年2月21日)

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大学院人間文化研究科に在学する学生の学位については、改正後の第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成25年4月17日)
この規則は、平成25年4月17日から施行する。
附 則(平成26年3月26日)
この規則は、平成26年4月1日から施行する。
附 則(平成28年3月25日)
この規則は、平成28年4月1日から施行する。
附 則(平成30年3月30日)
この規則は、平成30年4月1日から施行する。
附 則(平成31年3月27日)
この規則は、平成31年4月1日から施行する。
附 則(令和2年9月16日)
この規則は、令和2年9月16日から施行する。

別記様式第1号(第7条関係)
学士の卒業証書・学位記

卒業証書・学位記	
氏名	年 月 日生
本学〇〇学部〇〇〇〇学科所定の 課程を修めたことを認める	
年 月 日	
学部印	お茶の水女子大学〇〇学部長 氏名 印
大学印	右の認定により本学を卒業したので 学士(〇〇〇〇)の学位を授与する お茶の水女子大学長 氏名 印
第 号	

別記様式第2号の1(第7条関係)
論文の審査による修士の学位記

学位記	氏名	氏名
	年 月 日生	年 月 日生
	本学大学院人間文化創成科学研究科 ○○○専攻の博士前期課程において 所定の単位を修得し学位論文の 審査及び最終試験に合格したので 修士(○○○)の学位を授与する	
第号	年 月 日	
	お茶の水女子大学	
	印	

別記様式第2号の2(第7条関係)
研究成果の審査による修士の学位記

学位記	氏名	氏名
	年 月 日生	年 月 日生
	本学大学院人間文化創成科学研究科 ○○○専攻の博士前期課程におい て所定の単位を修得し特定の課題に ついての研究の成果の審査及び 最終試験に合格したので 修士(○○○)の学位を授与する	
第号	年 月 日	
	お茶の水女子大学	
	印	

別記様式第2号の3(第7条関係)

博士前期課程生活工学共同専攻修了による修士の学位記

学位記	氏名	お茶の水女子大学大学院人間文化創成 科学研究科及び奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科生活工学 共同専攻の博士前期課程において 所定の単位を修得し学位論文の 審査及び最終試験に合格したので 修士(○○○)の学位を授与する	年 月 日	第 号
				お茶の水女子大学 奈良女子大学 印 印

別記様式第3号の1(第7条関係)

課程修了による博士の学位記

学位記	氏名	本学大学院人間文化創成科学研究科 ○○○専攻の博士後期課程を 修了したので博士(○○○)の 学位を授与する 論文題目	年 月 日	博甲第 号
				お茶の水女子大学 印

別記様式第3号の2(第7条関係)

博士後期課程生活工学共同専攻修了による博士の学位記

学位記	氏名	お茶の水女子大学大学院人間文化創成 科学研究科及び奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科生活工学 共同専攻の博士後期課程を修了したので 博士(○○○)の学位を授与する
	年月日生	
	年 月 日	
博士第 号	お茶の水女子大学 奈良女子大学	印 印

別記様式第3号の3(第7条関係)

課程修了による博士の学位記(博士課程教育リーディングプログラム)

学位記	氏名	本学大学院人間文化創成科学研究科 ○○○専攻の博士後期課程及び グローバル理工学副専攻プログラムの 課程を修了したので博士(○○○)の 学位を授与する
	年月日生	
	年 月 日	
博士第 号	お茶の水女子大学	印

学位記

氏名

年 月 日生

本学に学位論文を提出しその
審査及び試験に合格しかつ所定の
学力を有するものと認定したので
博士(○○○)の学位を授与する
論文題目

年 月 日

お茶の水女子大学 印

博乙第 号

お茶の水女子大学学則第11条の規定に基づき、本学が単位を認定する学生の他大学等において修得した単位又は行った学修等の取扱いは、次のとおりとする。

I 単位認定の対象とする他大学等における修得単位等の取扱いについて

- (1) 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該他大学等において履修した授業科目について修得した単位を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- (2) 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。
- (3) 前記(1)及び(2)の定めにより、履修したものとみなし、又は授与することができる単位については、合わせて60単位を限度として認めることができる。前記(2)の単位認定の対象となる「文部科学大臣が定める学修」は、次のとおりとする。
 - ・大学の専攻科における学修
 - ・高等専門学校の課程における学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ・専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ・教育職員免許法(昭和24年法律第147号)第6条別表第3備考第6号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学等が行う講習又は公開講座における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ・社会教育法(昭和24年法律第207号)第9条の5の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ・図書館法(昭和25年法律第118号)第6条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ・学校図書館法(昭和28年法律第185号)第5条第3項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 国内における、本学との大学単位互換が可能な大学については、P.55を参照してください。国外の大学(本学の交流協定校)で修得した単位については「海外交換留学等認定科目」(全学共通科目)として、所定の手続きにより単位認定の対象になります。

II 単位の認定方法

※当該の単位認定につきましては、あらかじめ所定の承認を必要としますので、学務課(学生センター)で手続きをしてください。

- (1) 前記Iにより認定を受けようとする者は、単位等の修得後、速やかに別紙様式1【P.278参照】による「他大学等において修得した単位等に係る単位認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願い出るものとする。
- (2) 当該学部長は、当該学科長及び関係教員と協議のうえ、当該教授会の議を経て、単位の認定を行うものとする。
- (3) 当該学部長は認定した科目及び単位について、別紙様式2【P.278参照】による認定書を交付するものとする。
- (4) 前記により単位の認定を行った場合は、本学における履修内容の有益化を図るよう、各学部において適切な指導を行うものとする。

III その他

外国の大学等における授業科目の履修等の取扱いについては、前記Iの(1)及び(3)の定めによるもののほか、別に定めるところによるものとする。

(適用)

この取扱いは、平成11年4月1日から実施する。

IV 修業年限の通算の措置(学則第8条第3項関係)

本学の科目等履修生として一定の単位を修得した場合、前記Iの(1)により認められた単位の全部又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、学則第14条第1項に規定する修業年限について、当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができる。

(適用)

この取扱いは、平成16年4月1日から実施する。

お茶の水女子大学学則第12条の規定に基づき、本学に入学する前の他大学等において修得した単位等に対する単位認定については、次のとおりとする。

I 単位認定の対象とする他大学等における既修得単位、並びに学修

- (1) 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学若しくは短期大学(以下「大学等」という。)又は、外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。(以下「既修得単位」という。))を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- (2) 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った、短期大学又は高等専門学校等の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- (3) 前記2の定めにより、修得したものとみなし、又は与えることができる単位については、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについて、学則第11条第3項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を限度として認めることができる。

前記(2)の単位認定の対象となる「文部科学大臣が定める学修」は、次のとおりとする。

- ・大学の専攻科における学修
- ・高等専門学校の課程における学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・教育職員免許法(昭和24年法律第147号)第6条別表第3備考第6号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学等が行う講習又は公開講座における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・社会教育法(昭和24年法律第207号)第9条の5の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・図書館法(昭和25年法律第118号)第6条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・学校図書館法(昭和28年法律第185号)第5条第3項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・『実用英語技能検定』(文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催)の合格(1級又は準1級)に係る学修
- ・『TOEIC』(財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催)において680点以上の学修
- ・『TOEFL』(Education Testing Service(ETS)主催)において530(PBT)/200(CBT)/72(iBT)点以上の学修
- ・『IELTS』において6以上の学修
- ・『GTEC』において1190点以上の学修
- ・『中国語検定』(日本中国語検定協会主催)の合格(4級以上)に係る学修
- ・『中国語コミュニケーション能力検定』(中国語コミュニケーション協会主催)において250点以上の学修
- ・『漢語水平考試』(中国国家HSK委員会主催)の合格(2級以上)に係る学修
- ・『実用フランス語技能検定試験』(財団法人フランス語教育振興協会主催)の合格(4級以上)に係る学修
- ・『DELTA』(国際教育研究センターCIEP主催)の合格(A1以上)に係る学修
- ・『ドイツ語技能検定試験』(財団法人ドイツ語学文学振興会主催)の合格(3級以上)に係る学修
- ・『Goethe-Zertifikat』(Goethe Institut主催)の合格(A1以上)に係る学修
- ・『ÖSD』(ÖSD主催)の合格(A1以上)に係る学修
- ・『TestDaF』(TestDaF Institut主催)の合格(TDN3以上)に係る学修

II 単位の認定方法

- 既修得単位の認定は、次により行うものとする。
 - (1) 既修得単位の認定を受けようとする者は、別紙様式1【P.278参照】による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願い出るものとする。
 - (2) 当該学部長は、教育上有益と認めるときは、当該学科長及び願出のあった授業科目の関係教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、既修得単位の認定を行うものとする。
- 『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』680点以上のスコアを持つ者、『TOEFL』530(PBT)/200(CBT)/72(iBT)点以上のスコアを持つ者、『IELTS』6以上のスコアを持つ者、『GTEC』1190点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『DELTA』A1以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者、『Goethe-Zertifikat』A1以上の合格者、『ÖSD』A1以上の合格者、『TestDaF』TDN3以上の合格者の単位認定は、次により行う。
 - (1) 単位の認定を受けようとする者は、別紙様式1【P.278参照】による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願い出るものとする。
 - (2) 当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行うものとする。
- 申請期限——入学した年度の前学期授業開始日の前日(学務課に申請の申し出をし、申請手続の指示を受けること。)-

III 単位の認定書の交付等

- (1) 当該学部長は認定した科目及び単位について、別紙様式2【P.278参照】による認定書を交付するものとする。
- (2) 前記により単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行わせるなど履修内容の有益化を図るよう、各学部において適切な指導を行うものとする。

別 表

授業科目区分	認定できる単位数
コ ア 科 目	※60単位を限度とする。
専 門 教 育 ・ 専 攻 科 目	
そ の 他 の 授 業 科 目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とする。

各認定単位は以下のとおりとする。(なお、残りの必修単位の充足方法等については、「授業科目区分、履修方法(コア科目)」を参照。)

Ⅳ 修業年限の通算の措置(学則第8条第3項関係)

本学の科目等履修生として一定の単位を修得した場合、前記Ⅰの(1)により認められた単位の全部又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、学則第8条第1項に規定する修業年限について、当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができる。

(適用)

この取扱いは、平成16年4月1日から実施する。

(適用)

この取扱いは、平成31年4月1日から実施する。

(適用)

この取扱いは、令和2年4月1日から実施する。

(趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第59号。以下「保護法」という。)、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年法律第27号。以下「番号法」という。))及び独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針(平成16年9月14日総務省行政管理局長通知総管情第85号)に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)の保有する個人情報の適切な管理に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規則における用語の定義は以下のとおりとする。

- (1) 「個人情報」とは、保護法第2条第2項に規定する個人情報をいう。
- (2) 「個人識別符号」とは、保護法第2条第3項に規定するものをいう。
- (3) 「要配慮個人情報」とは、保護法第2条第4項に規定する個人情報をいう。
- (4) 「保有個人情報」とは、保護法第2条第5項に規定する保有個人情報であって、本学が保有するものをいう。
- (5) 「個人情報ファイル」とは、保護法第2条第6項に規定する個人情報ファイルをいう。
- (6) 「本人」とは、個人情報によって識別される特定の個人をいう。
- (7) 「非識別加工情報」とは、保護法第2条第8項に規定する情報をいう。
- (8) 「独立行政法人等非識別加工情報」とは、保護法第2条第9項に規定する非識別加工情報をいう。
- (9) 「独立行政法人等非識別加工情報ファイル」とは、保護法第2条第10項に規定する情報の集合物をいう。
- (10) 「削除情報」とは、保護法第44条の2第3項に規定する記述等及び個人識別符号をいう。
- (11) 「個人番号」とは、番号法第2条第5項に規定する個人番号をいう。
- (12) 「特定個人情報」とは、番号法第2条第8項に規定する個人番号をその内容に含む個人情報をいう。
- (13) 「特定個人情報ファイル」とは、番号法第2条第9項に規定する個人番号をその内容に含む個人情報ファイルをいう。
- (14) 「部局」とは、学長戦略機構、監査室、各学部、大学院人間文化創成科学研究科、附属図書館、保健管理センター、基幹研究院、グローバル女性リーダー育成研究機構、ヒューマンライフイノベーション開発研究機構、理系女性教育開発共同機構、各学内共同教育研究施設、附属学校部、学校教育研究部、各附属学校、保育所、こども園及び事務組織をいう。

(総括保護管理者)

第3条 本学に、総括保護管理者を置き、総務を担当する副学長をもって充てる。

2 総括保護管理者は、本学における保有個人情報及び個人番号(以下「保有個人情報等」という。)の管理に関する事務を総括するものとする。

(保護担当者)

第4条 保有個人情報を取り扱う部局に、保護管理者を置き、当該部局の長(学長戦略機構及び監査室にあつては、総務を担当する副学長)をもって充てる。

2 保護管理者は、各部局における保有個人情報の適切な管理を確保するものとする。保有個人情報を情報システムで取り扱う場合、保護管理者は、当該情報システムの管理者と連携して、取り扱うものとする。

(保護担当者)

第5条 保有個人情報を取り扱う部局に、保護担当者を置き、当該部局の保護管理者が指定する部局の職員をもって充てる。

2 保護担当者は、各部局の保護管理者を補佐し、保有個人情報の管理に関する事務を行うものとする。

(事務取扱責任者)

第6条 個人番号及び特定個人情報(以下「特定個人情報等」という。)を取り扱う監査室及び事務組織の各課(以下「室及び課」という。)に、事務取扱責任者を置き、室及び課の長をもって充てる。

2 事務取扱責任者は、本学における特定個人情報等を適切に管理するものとする。

(事務取扱担当者)

第7条 事務取扱責任者は、当該室及び課の職員の中から事務取扱担当者を置き、その役割及び取り扱う特定個人情報等の範囲を指定するものとする。

2 事務取扱担当者は、事務取扱責任者を補佐し、特定個人情報等を取り扱う事務を実施する区域(以下「取扱区域」という。)における保有個人情報等の管理に関する事務を行うものとする。

(監査責任者)

第8条 本学に、監査責任者を置き、学長が指名する監事をもって充てる。

2 監査責任者は、保有個人情報等の管理の状況について監査するものとする。

(委員会)

第9条 総括保護管理者は、保有個人情報の管理に係る重要事項の決定、連絡・調整等を行うため必要があると認めるときは、関係職員を構成員とする委員会を設け、定期に又は随時に開催する。

(教育研修)

第10条 総括保護管理者は、保有個人情報等の取扱いに従事する職員(派遣労働者を含む。以下「職員」という。)に対し、保有個人情報等の取扱いについて理解を深め、個人情報及び特定個人情報等の保護に関する意識の高揚を図るための啓発その他必要な教育研修を行うものとする。

2 保護管理者は、保有個人情報等の適切な管理のために、当該部局の職員に対して、総括保護管理者の実施する教育研修への参加の機会を付与する等の必要な措置を講ずるものとする。

3 総括保護管理者は、保護管理者及び保護担当者に対し、部局の現場における保有個人情報の適切な管理のための教育研修を実施するものとする。

4 総括保護管理者は、保有個人情報を取り扱う情報システムの管理に関する事務に従事する職員に対し、保有個人情報の適切な管理のために、情報システムの管理、運用及びセキュリティ対策に関して必要な教育研修を行う。

(職員の責務)

第11条 職員は、保護法及び番号法の趣旨に則り、関連する法令及び規程等の定め並びに総括保護管理者、保護管理者及び保護担当者の指示に従い、保有個人情報等を取り扱わなければならない。

(個人情報の保有の制限等)

第12条 保護管理者及び事務取扱責任者(以下「保護管理者等」という。)は、個人情報及び特定個人情報等(以下「個人情報等」という。)を保有するに当たっ

ては、法令の定める業務を遂行するため必要な場合に限り、かつ、その利用の目的を特定しなければならない。

- 2 役員及び職員は、前項の規定により特定された利用の目的(以下「利用目的」という。)の達成に必要な範囲を超えて、個人情報等を保有してはならない。
- 3 保護管理者等は、利用目的を変更する場合は、変更前の利用目的と相当の関連性を有すると合理的に認められる範囲を超えて行ってはならない。

(利用目的の明示)

第13条 役員及び職員は、保護管理者等の指示に従い、本人から直接書面(電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作成される記録を含む。)に記録された当該本人の個人情報等を取得するときは、次に掲げる場合を除き、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。

- (1) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要があるとき。
- (2) 利用目的を本人に明示することにより、本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがあるとき。
- (3) 利用目的を本人に明示することにより、国の機関、独立行政法人等(保護法第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。)、地方公共団体又は地方独立行政法人(地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。)が行う事務又は事業の適正な遂行に支障をきたすおそれがあるとき。
- (4) 取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められるとき。

(正確性の確保)

第14条 役員及び職員は、利用目的の達成に必要な範囲内で、保有個人情報(独立行政法人等非識別加工情報(独立行政法人等非識別加工情報ファイル)を構成するものに限る。)及び削除情報に該当するものを除く。以下、次条及び第41条において同じ。)が過去又は現在の事実と合致するよう努めなければならない。

(利用及び提供の制限)

第15条 役員及び職員は、法令に基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために保有個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、役員及び職員は次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、利用目的以外の目的のために保有個人情報を自ら利用し、又は提供することができる。ただし、保有個人情報を利用目的以外の目的のために自ら利用し、又は提供することによって、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがあると認められるときは、この限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- (2) 本学が法令の定める業務の遂行に必要な限度で保有個人情報を内部で利用する場合であって、当該保有個人情報を利用することについて相当な理由のあるとき。
- (3) 行政機関(行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第58号)第2条第1項に規定する行政機関をいう。以下同じ。)、他の独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人に保有個人情報を提供する場合において、保有個人情報の提供を受ける者が、法令の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る個人情報を利用し、かつ、当該個人情報を利用することについて相当な理由のあるとき。
- (4) 前3号に掲げる場合のほか、専ら統計の作成又は学術研究の目的のために保有個人情報を提供するとき、本人以外の者に提供することが明らかに本人の利益になるとき、その他保有個人情報を提供することについて特別の理由のあるとき。

- 3 前項の規定は、保有個人情報の利用又は提供を制限する他の法令の規定の適用を妨げるものではない。

- 4 本学は、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、保有個人情報の利用目的以外の目的のための本学の内部における利用を特定の役員及び職員に限るものとする。

(特定個人情報の利用の制限)

第16条 特定個人情報の利用については、前条(第2項第2号から第4号までの規定を除く。)の規定を適用する。この場合において、次の表の左欄に掲げる本規則の規定中同表の中欄に掲げる字句は、同表の右欄に掲げる字句とする。

読み替えられる本規則の規定	読み替えられる字句	読み替える字句
第15条第1項	法令に基づく場合を除き	行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年法律第27号)第9条第4項の規定に基づく場合を除き
	自ら利用し、又は提供してはならない	自ら利用してはならない
第15条第2項	自ら利用し、又は提供する	自ら利用する
第15条第2項第1号	本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき	人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意があり、又は本人の同意を得ることが困難であるとき

(保有個人情報等の提供)

第17条 保護管理者は、保護法第9条第2項第3号及び第4号の規定に基づき行政機関及び独立行政法人等以外の者に保有個人情報を提供する場合には、原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わすものとする。

- 2 保護管理者は、保護法第9条第2項第3号及び第4号の規定に基づき行政機関及び独立行政法人等以外の者に保有個人情報を提供する場合には、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときは、提供前又は随時に実地の調査等を行い、措置状況を確認してその結果を記録するとともに、改善要求等の措置を講ずるものとする。

- 3 保護管理者は、保護法第9条第2項第3号の規定に基づき行政機関又は独立行政法人等に保有個人情報を提供する場合において、必要があると認めるときは、前2項に規定する措置を講ずるものとする。

- 4 事務取扱責任者は、番号法第19条各号に明記された場合を除き、特定個人情報等を提供してはならない。

(個人番号を取り扱う事務の範囲)

第18条 本学が個人番号を取り扱う事務の範囲は以下のとおりとする。

- (1) 所得税法(昭和40年法律第33号)その他所得税に関する法律により行う事務
- (2) 地方税法(昭和25年法律第226号)その他地方税に関する法律により行う事務
- (3) 雇用保険法(昭和49年法律第116号)により行う事務
- (4) 労働者災害補償保険法(昭和22年法律第50号)により行う事務
- (5) 国家公務員共済組合法(昭和33年法律第128号)により行う事務
- (6) 健康保険法(大正11年法律第70号)により行う事務
- (7) 厚生年金保険法(昭和29年法律第115号)により行う事務
- (8) 国民年金保険法(昭和34年法律第141号)により行う事務
- (9) 学校保健安全法(昭和33年法律第56号)により行う事務
- (10) その他番号法及び関係法令により行う事務

(個人番号の収集・保管の制限)

- 第19条 本学は、前条に掲げる事務を行うために必要な場合を除き、個人番号を含む個人情報を収集又は保管してはならない。
- 2 本学は、事務を行うために個人番号の提供又は本人確認(以下「個人番号の提供等」という。)を求めた者がこれに応じない場合には、番号法の趣旨及び意義について説明し個人番号の提供等に応じるよう求めるものとする。
- 3 前項の求めにも関わらず個人番号の提供等に応じない場合には、その経緯等を記録するものとする。

(個人情報ファイル簿)

- 第20条 保護管理者等は、個人情報ファイル(保護法第11条第2項各号に掲げるもの及び同条第3項の規定により個人情報ファイル簿に掲載しないものを除く。以下同じ。)及び特定個人情報ファイル(以下「個人情報ファイル等」という。)を保有するに至ったときは、直ちに、保護法第11条第1項各号及び保護法第44条の3各号並びに保護法第44条の11の各号の事項を記載した別紙様式により個人情報ファイル簿を作成し、総括保護管理者に提出しなければならない。
- 2 総括保護管理者は、前項の届出を受けたときは、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律施行令第4条第5項に基づき、速やかに個人情報ファイル簿を国立大学法人お茶の水女子大学情報公開室において一般の閲覧に供するとともに、インターネットの利用その他の情報通信の技術を利用する方法により公表しなければならない。
- 3 保護管理者等は、個人情報ファイル簿に記載すべき事項に変更があったときは、直ちに、当該個人情報ファイル簿を修正し、総括保護管理者に提出しなければならない。
- 4 保護管理者等は、個人情報ファイル簿に掲載した個人情報ファイルの保有をやめたとき、又はその個人情報ファイルが保護法第11条第2項第7号に該当するに至ったときは、遅滞なく、当該個人情報ファイルについての記載を削除するように総括保護管理者に申し出なければならない。

(特定個人情報ファイルの作成の制限)

- 第21条 本学は、個人番号利用事務等を処理するために必要な場合を除き、特定個人情報ファイルを作成してはならない。

(アクセス制限)

- 第22条 保護管理者等は、保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、当該保有個人情報にアクセスする権限を有する職員の範囲と権限の内容を、当該者が業務を行う上で必要最小限の範囲に限るものとする。
- 2 アクセスする権限を有しない職員は、保有個人情報等にアクセスしてはならない。
- 3 職員は、アクセスする権限を有する場合であっても、業務上の目的以外の目的で保有個人情報等にアクセスしてはならない。

(複製等の制限)

- 第23条 保護管理者等は、次に掲げる行為については、当該保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、当該行為を行うことができる場合を限定するものとする。職員は、保護管理者等の指示に従い行うものとする。

- (1) 保有個人情報等の複製
- (2) 保有個人情報等の送信
- (3) 保有個人情報等が記録されている媒体の外部への送付又は持出し
- (4) その他保有個人情報等の適切な管理に支障を及ぼすおそれのある行為

(誤りの訂正等)

- 第24条 職員は、保有個人情報等の内容に誤り等を発見した場合には、保護管理者等の指示に従い、訂正等を行うものとする。

(媒体の管理等)

- 第25条 職員は、保有個人情報等が記録されている媒体を保護管理者等の指示する場所に保管するとともに、必要があると認めるときは、耐火金庫への保管、施錠等を行うものとする。

(廃棄等)

- 第26条 職員は、保有個人情報等又は保有個人情報等が記録されている媒体(端末及びサーバに内蔵されているものを含む。)が不要となった場合には、保護管理者等の指示に従い、当該保有個人情報等の復元又は判読が不可能な方法により当該情報の消去又は当該媒体の廃棄を行うものとする。

(保有個人情報等の取扱状況の記録)

- 第27条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、台帳等を整備して、当該保有個人情報の利用及び保管等の取扱いの状況について記録するものとする。

- 2 事務取扱責任者は、特定個人情報ファイルの取扱状況を確認する手段を整備して、当該特定個人情報等の利用及び保管等の取扱状況について記録するものとする。

(独立行政法人等非識別加工情報等の作成及び提供等)

- 第28条 本学は、保護法の規定に従い、独立行政法人等非識別加工情報(独立行政法人等非識別加工情報ファイルを構成するものに限る。)を作成し、及び提供することができる。

- 2 職員は、法令に基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために独立行政法人等非識別加工情報及び削除情報(保有個人情報に該当するものに限る。)を自ら利用し、又は提供してはならない。

- 3 独立行政法人等非識別加工情報の作成及び提供等に関し、必要な事項は、別に定める。

(取扱区域)

- 第29条 事務取扱責任者は取扱区域を明確にし、物理的な安全管理措置を講ずるものとする。

(アクセス制御)

- 第30条 保護管理者等は、保有個人情報等(情報システムで取り扱うものに限る。以下次条から第43条(第37条を除く。)までにおいて同じ。)の秘匿性等その内容に応じて、パスワード等(パスワード、ICカード、生体情報等をいう。以下同じ。)を使用して権限を識別する機能(以下「認証機能」という。)を設定する等のアクセス制御のために必要な措置を講ずるものとする。

- 2 保護管理者等は、前項の措置を講ずる場合には、パスワード等の管理に関する定めを整備(その定期又は随時に見直しを含む。)するとともに、パスワード等の読取防止等を行うために必要な措置を講ずるものとする。

(アクセス状況の監視)

- 第31条 保護管理者等は、保有個人情報等の秘匿性等その内容及びその量に応じて、当該保有個人情報等へのアクセス状況を記録し、その記録(以下「アクセス記録」という。)を5年間保存し、アクセス記録を定期に又は随時に分析するために必要な措置を講ずるものとする。

- 2 保護管理者等は、保有個人情報等を含むか又は含むおそれがある一定量以上の情報が情報システムからダウンロードされた場合に警告表示がなされる機能の設定、当該設定の定期的確認等の必要な措置を講ずるものとする。

- 3 保護管理者等は、アクセス記録の改ざん、窃取又は不正な消去の防止のために必要な措置を講ずるものとする。

(管理者権限の設定)

第32条 保護管理者等は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、情報システムの管理者権限の特権を不正に窃取された際の被害の最小化及び内部からの不正操作等の防止のため、当該特権を最小限とする等の必要な措置を講ずる。

(外部からの不正アクセスの防止)

第33条 保護管理者等は、保有個人情報等を取り扱う情報システムへの外部からの不正アクセスを防止するため、ファイアウォールの設定による経路制御等の必要な措置を講ずるものとする。

(不正プログラムによる漏えい等の防止)

第34条 保護管理者等は、不正プログラムによる保有個人情報等の漏えい、滅失又はき損の防止のため、ソフトウェアに関する公開された脆弱性の解消、把握された不正プログラムの感染防止等に必要な措置(導入したソフトウェアを常に最新の状態に保つことを含む。)を講ずるものとする。

(情報システムにおける保有個人情報の処理)

第35条 職員は、保有個人情報等について、一時的に加工等の処理を行うため複製等を行う場合には、その対象を必要最小限に限り、処理終了後は不要となった情報を速やかに消去するものとする。保護管理者等は、当該保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、随時、消去等の実施状況を重点的に確認するものとする。

(暗号化)

第36条 保護管理者等は、保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、その暗号化のために必要な措置を講ずるものとする。職員は、これを踏まえその処理する保有個人情報等について、当該保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、適切に暗号化を行うものとする。

(入力情報の照合等)

第37条 職員は、情報システムで取り扱う保有個人情報等の重要度に応じて、入力原票と入力内容との照合、処理前後の当該保有個人情報等の内容の確認、既存の保有個人情報等との照合等を行うものとする。

(バックアップ)

第38条 保護管理者は、保有個人情報の重要度に応じて、バックアップを作成し、分散保管するために必要な措置を講ずるものとする。

(情報システム設計書等の管理)

第39条 保護管理者は、保有個人情報に係る情報システムの設計書、構成図等の文書について外部に知られることがないよう、その保管、複製、廃棄等について必要な措置を講ずるものとする。

(記録機能を有する機器・媒体の接続制限)

第40条 保護管理者等は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、当該保有個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止のため、スマートフォン、USBメモリ等の記録機能を有する機器・媒体の情報システム端末等への接続の制限(当該機器の更新への対応を含む。)等の必要な措置を講ずる。

(端末の限定)

第41条 保護管理者等は、保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、その処理を行う端末を限定するために必要な措置を講ずるものとする。

(端末の盗難防止等)

第42条 保護管理者等は、端末の盗難又は紛失の防止のため、端末の固定、執務室の施錠等の必要な措置を講ずるものとする。

2 職員は、保護管理者等が必要であると認めるときは、端末を外部へ持ち出し、又は外部から持ち込んで서는ならない。

(第三者の閲覧防止)

第43条 職員は、端末の使用に当たっては、保有個人情報等が第三者に閲覧されることがないよう、使用状況に応じて情報システムからログオフを行うことを徹底する等の必要な措置を講ずるものとする。

(入退室の管理)

第44条 保護管理者は、保有個人情報を取り扱う基幹的なサーバ等の機器を設置する室等(以下「情報サーバ室等」という。)に入室する権限を有する者を指定するとともに、用件の確認、入退室の記録、部外者についての識別化、部外者が入室する場合の職員の立会い又は監視設備による監視、外部電磁的記録媒体等の持込み、利用及び持ち出しの制限又は検査等の措置を講ずるものとする。また、保有個人情報を記録する媒体を保管するための施設を設けている場合においても、必要があると認めるときは、同様の措置を講ずるものとする。

2 保護管理者は、必要があると認めるときは、情報サーバ室等の出入口の特定化による入退室の管理の容易化、所在表示の制限等の措置を講ずるものとする。

3 保護管理者は、情報サーバ室等及び保管施設の入退室の管理について、必要があると認めるときは、入室に係る認証機能を設定し、及びパスワード等の管理に関する定めを整備(その定期又は随時の見直しを含む。)、パスワード等の読取防止等を行うために必要な措置を講ずるものとする。

(情報サーバ室等の管理)

第45条 保護管理者は、外部からの不正な侵入に備え、情報サーバ室等に施錠装置、警報装置、監視設備の設置等の措置を講ずるものとする。

2 保護管理者は、災害等に備え、情報サーバ室等に、耐震、防火、防煙、防水等の必要な措置を講ずるとともに、サーバ等の機器の予備電源の確保、配線の損傷防止等の措置を講ずるものとする。

(業務の委託等)

第46条 保有個人情報等の取扱いに係る業務を外部に委託する場合には、個人情報等の適切な管理を行う能力を有しない者を選定することがないよう、必要な措置を講ずるものとする。また、契約書に、次に掲げる事項を明記するとともに、委託先における責任者及び業務従事者の管理及び実施体制、個人情報等の管理の状況についての検査に関する事項等の必要な事項について書面で確認するものとする。

(1) 個人情報等に関する秘密保持、目的外利用の禁止等の義務

(2) 再委託(再委託先が委託先の子会社(会社法(平成17年法律第86号)第2条第1項第3号に規定する子会社をいう。)である場合も含む。本号及び第4項において同じ。)の制限又は事前承認等再委託に係る条件に関する事項

(3) 個人情報等の複製等の制限に関する事項

(4) 個人情報等の漏えい等の事案の発生時における対応に関する事項

(5) 委託終了時における個人情報等の消去及び媒体の返却に関する事項

(6) 違反した場合における契約解除、損害賠償責任その他必要な事項

2 個人番号利用事務等の全部又は一部を委託する場合には、委託先について、番号法に基づき本学が果たすべき安全管理措置と同等の措置が講じられるか否かについて、あらかじめ確認するものとする。

3 保有個人情報等の取扱いに係る業務を外部に委託する場合には、委託する業務に係る保有個人情報の秘匿性等その内容やその量等に応じて、委託先における管理体制及び実施体制や個人情報の管理の状況について、少なくとも1回以上、原則として実地検査により確認するものとする。

4 委託先において、保有個人情報等の取扱いに係る業務が再委託される場合には、委託先に第1項の措置を講じさせるとともに、再委託される業務に

係る保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、委託先を通じて又は委託元自らが前項の措置を実施するものとする。保有個人情報の取扱いに係る業務について再委託先が再々委託を行う場合以降も同様とする。

5 保有個人情報等の取扱いに係る業務を派遣労働者によって行わせる場合には、労働者派遣契約書に秘密保持義務等個人情報の取扱いに関する事項を明記するものとする。

6 保有個人情報を提供又は業務委託する場合には、漏えい等による被害発生リスクを低減する観点から、提供先の利用目的、委託する業務の内容、保有個人情報の秘匿性等その内容などを考慮し、必要に応じ、氏名等を番号に置き換える等の匿名化措置を講ずるものとする。

(事案の報告及び再発防止措置)

第47条 情報漏えい等の安全確保の上で問題となる事案(以下単に「事案」という。)の発生又は兆候を把握した場合及び事務取扱担当者が本規則に違反している事実を知り又は兆候を把握した場合に、その事案等を認識した職員は、直ちに当該保有個人情報等を管理する保護管理者等に報告するものとする。

2 保護管理者等は、被害の拡大防止又は復旧等のために必要な措置を速やかに講ずるものとする。ただし、外部からの不正アクセスや不正プログラムの感染が疑われる当該端末等のLANケーブルを抜くなど、被害拡大防止のため直ちに行い得る措置については、直ちに行うこととする。

3 保護管理者等は、事案の発生した経緯、被害状況等を調査し、総括保護管理者に報告するものとする。ただし、特に重大と認める事案が発生した場合には、直ちに総括保護管理者に当該事案の内容等について報告するものとする。

4 総括保護管理者は、前項の規定に基づく報告を受けた場合には、事案の内容等に応じて、当該事案の内容、経緯、被害状況等を学長に速やかに報告するものとする。

5 総括保護管理者は、事案の内容等に応じて、事案の内容、経緯、被害状況等について、文部科学省に対し、速やかに情報提供を行うものとする。

6 保護管理者等は、事案の発生した原因を分析し、再発防止のために必要な措置を講ずるものとする。

(公表等)

第48条 総括保護管理者は、事案の内容、影響等に応じて、事実関係及び再発防止策の公表、当該事案に係る保有個人情報等の本人への対応等の措置を講ずるものとする。公表を行う事案については、当該事案の内容、経緯、被害状況等について、速やかに関係する行政機関に情報提供を行う。

(監査)

第49条 監査責任者は、保有個人情報等の管理の状況について、定期に又は随時に監査を行い、その結果を総括保護管理者に報告するものとする。

(点検)

第50条 保護管理者等は、部局又は室及び課における保有個人情報等の記録媒体、処理経路、保管方法等について、定期に及び必要に応じ随時に点検を行い、必要があると認めるときは、その結果を総括保護管理者に報告するものとする。

(評価及び見直し)

第51条 総括保護管理者又は保護管理者等は、監査又は点検の結果等を踏まえ、実効性等の観点から保有個人情報等の適切な管理のための措置について評価し、必要があると認めるときは、その見直し等の措置を講ずるものとする。

(行政機関との連携)

第52条 本学は、文部科学省と緊密に連携して、その保有する個人情報を適切に管理するものとする。

(雑則)

第53条 この規則に定めるもののほか、個人情報等の管理に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月27日)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月21日)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年5月18日)

この規則は、平成23年5月18日から施行する。

附 則(平成26年7月29日)

この規則は、平成26年8月1日から施行する。

附 則(平成27年3月25日)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成27年11月18日)

この規則は、平成27年11月18日から施行する。

附 則(平成28年3月25日)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月31日)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月30日)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年2月20日)

この規則は、平成31年2月20日から施行する。

別紙様式(第20条関係)

(省略)

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人お茶の水女子大学学則(以下「学則」という。)第31条第1項第1号に規定する除籍及び第32条に規定する復籍の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(除籍の要件)

第2条 授業料を2期連続して滞納し、督促してもなお当該2期分を納入しない者は、2期目の末日をもって除籍する。

2 前項の期とは、学則第19条に定める前学期及び後学期であって、授業料納付義務のある学期をいう。

(除籍の手続)

第3条 除籍の手続は、次に掲げるとおりとする。

- 一 財務課は、授業料未納者に督促状を送付する。
- 二 財務課は、学務課に授業料未納者を通知する。
- 三 学科長(又はコース主任、講座主任)、指導教員、学年担当教員は、学務課とともに、2期連続して滞納した授業料未納者に、文書をもって修学意思の確認と授業料未納による除籍について説明を行い、また、当該授業料未納者の保護者等に同様の措置を行う。
- 四 除籍は、教授会の議を経て、学長が行う。
- 五 学長名で、除籍通知書を学生に、その写しを当該授業料未納者の保護者等に送付する。

(復籍の取扱い)

第4条 学長は、第2条の規定により除籍となった者が、除籍の日の翌日から起算して3年以内に、当該除籍の事由となった未納の授業料に相当する額を納付し、復籍を願い出た場合は、教授会の審査の上許可することができる。

- 2 前項の規定による復籍の時期は、許可を得た日以降における最初の前学期又は後学期の始めとする。
- 3 前2項の規定より復籍を許可した学生の復籍後の在学期間は、除籍前の在学期間に通算する。
- 4 除籍となった事由が消滅し、復籍を願い出た者が除籍から退学に準ずる扱いへの変更を希望した場合は、学長の許可の下、原則として退学者と同様の扱いとする。

(復籍の制限)

第5条 第2条の規定により除籍した者が、復籍後に同条により再び除籍となった場合は、復籍を認めない。前条第4項により退学に準ずる扱いに変更となった者も同様とする。

附則

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。ただし、この規程の施行前に除籍した者については、適用しない。
- 2 この規程の施行日の前日に本学に在学し、この規程の施行後引き続き本学に在学する者については、第2条及び第3条中「2期」とあるのは、この規程の施行日前における授業料未納の期を算入しないものとする。
- 3 前項の規定により、この規程の施行日前における授業料未納の期を算入されなかった者が、第2条の規定により除籍された後に第4条第1項の規定により復籍を願い出るときは、当該除籍の事由となった未納の授業料に相当する額に加えて、前項の規定により算入されなかった期に係る未納の授業料に相当する額を含めた額を納付しなければならない。

附則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成26年8月1日から施行する。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和元年11月20日から施行する。

附則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行し、令和5年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者については、第3条第1号中「授業料未納者に」とあるのは「授業料未納者及び当該授業料未納者の保証人に」と、同第3号及び同条第5号中「保護者等」とあるのは「保証人」と読み替えて適用する。

平成23年4月13日
制 定

(趣旨)

第1条 お茶の水女子大学に在籍する学生の旧姓及び通称名(以下「通称名等」という。)使用の取扱い及び手続等については、この要項の定めるところによる。

(通称名等を使用できる場合)

第2条 通称名等を使用できる場合は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 婚姻等により戸籍上の姓を変更した学生が旧姓を使用する場合
- (2) 戸籍又はパスポート等上男性であっても性自認が女性であるトランスジェンダー学生が通称名を使用する場合
- (3) 外国籍である学生が住民票に記載されている通称名を使用する場合
- (4) その他学長が必要と認めた場合

(通称名等使用ができる文書等)

第3条 通称名等使用ができる文書等は、第4条に定める以外の文書等とする。

2 博士学位論文の申請、審査及び授与に関する書類並びに博士学位論文及び博士学位記における旧姓の併記については、別に定める。

(通称名等使用ができない文書等)

第4条 通称名等使用ができない文書等は、次のとおりとする。

- (1) 教育職員免許状申請書類
- (2) 管理栄養士国家試験出願書類及び栄養士免許申請書類
- (3) 前2号に定めるもののほか、国等の機関の所管する制度等により、通称名等の使用が認められていないもの
- (4) その他通称名等使用を行うことが困難であると学長が判断するもの

(通称名等使用の申出)

第5条 通称名等使用を希望する学生は、通称名等使用申出書(別紙様式1)に確認書類を添えて、学務課に提出しなければならない。

(通称名等使用の中止)

第6条 通称名等を使用している学生が、使用を中止する場合、通称名等使用中止届(別紙様式2)を学務課に提出しなければならない。

(記録)

第7条 通称名等使用の申出又は通称名等使用の中止についての届出を受理した場合は、その旨を学籍簿に記録する。

(卒業、修了又は退学後の取扱い)

第8条 卒業、修了又は退学時に通称名等使用をしていた学生に係る文書等(第4条に定めるものを除く。)の申請及び交付については、当該学生が卒業、修了又は退学した後においても、通称名等で行うものとする。

(通称名等使用に伴う証明等)

第9条 通称名等使用の学生から、文書等(学位記を含む。)の戸籍上の氏名と通称名等の同一性について説明依頼があった場合は、「本学では、通称名等使用を認めている。」旨が記載された文書(別紙様式3)を交付するが、それ以上の証明を求められた場合は、当該学生が自助努力で証明することとする。

(その他)

第10条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は学長が別に定める。

附 則

この要項は、平成23年4月13日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別紙様式 1

(別紙様式 1)

通称名等使用申出書

年 月 日

お茶の水女子大学長 殿

学籍番号
学部 (又は大学院)
学科 (又は専攻)
学年
氏名 印

下記のとおり通称名等を使用したいので、確認書類を添えて下記のとおり申し上げます。

記

1. 使用する通称名等 (フリガナ)

2. 使用理由 (該当の番号に○を記入)

(1) 旧姓を使用 (確認書類: 戸籍抄本又は旧姓の併記された住民票の写し)

(2) トランスジェンダー学生が通称名等を使用 (確認書類: 通称名の記載がある郵便物やカードの写し等)

(3) 外国籍である学生が住民票に記載されている通称名を使用 (確認書類: 住民票の写し)

(4) その他 (確認書類: 通称名等の使用を希望する理由書等)

(以下は学務課記載)

◆学籍事務担当係処理欄

1) 使用開始年月日: 年 月 日 確認 印

2) 学籍簿記録処理年月日: 年 月 日 記録 印

3) その他

別紙様式 2

(別紙様式 2)

通称名等使用中止届

年 月 日

お茶の水女子大学長 殿

学籍番号
学部名 (又は大学院)
学科名 (又は専攻名)
学年
氏名
(通称名等) 印

下記のとおり通称名等の使用を中止しますので届け出ます。

記

1. 中止する通称名等

2. 使用する戸籍又はパスポート等上の氏名

3. 中止年月日 年 月 日

4. 中止理由:

(以下は学務課記載)

◆学籍事務担当係処理欄

1) 使用中止年月日: 年 月 日 確認 印

2) 学籍簿記録処理年月日: 年 月 日 記録 印

3) その他

別紙様式 3

(別紙様式 3)

お茶の水女子大学学生の氏名表記について

本学では、学生からの申出により、学生の氏名表記について戸籍又はパスポート等上の氏名でなく通称名等を使用することを認めており、下記学生の氏名表記については、学位記を含め各種文書等 (ただし、国等の機関の所管する制度等により、通称名等の使用が認められていないもの等を除く。) で通称名等を使用しています。

記

通称名等

戸籍又はパスポート等上の氏名

年 月 日
お茶の水女子大学長
○ ○ ○ ○

※この書類は、通称名等使用の学生から提出を求められた場合に作成し、交付することとする。

VI 附 録

1	校歌・学生歌	289
2	大学主要建物・施設・ 教室・研究室案内図	291

校歌

東儀季熙 原曲

み が か ず ば た ま も か が み も -
 な に か せ ん ま な び の み ち も
 か く こ そ あ り - け - - れ

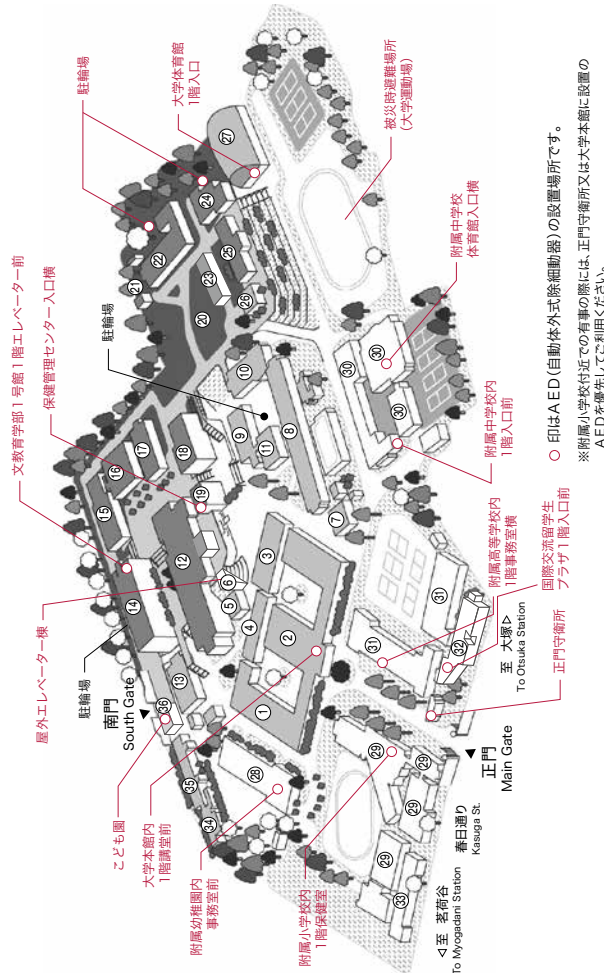
(註) 斉唱の場合は、二長調あるいは八長調で歌う

みがかずば 玉もかがみも
 なにかせん
 学びの道も
 かくこそありけれ



大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

キャンパスマップ



- (大塚1団地) 構内建物一覧
- ① 大本館 Main Building
 - ② 文教育学部2号館 大学講堂(德音堂) Auditorium
 - ③ 総合研究棟 Integrated Research Building
 - ④ 生活科学部本館2 Faculty of Human Life & Environmental Science, Main Building 2
 - ⑤ お茶ノアカデミック・プロダクション研究棟 Ochadai Academic Production Research Building
 - ⑥ 屋外エレベーター棟 Outdoor Elevator
 - ⑦ ラジオアイソトープ実験センター Radioisotope Research Center
 - ⑧ 理学部1号館 Faculty of Science, Building 1
 - ⑨ 理学部2号館 Faculty of Science, Building 2
 - ⑩ 理学部3号館 Faculty of Science, Building 3
 - ⑪ 情報基礎センター IT Center
 - (→事務手続は⑫附属図書館事務室内へ)
 - ⑫ 附属図書館 University Library
 - ⑬ 学生センター Student Service Building
 - ⑭ 文教育学部1号館 Faculty of Letters & Education, Building 1
 - ⑮ 共通講義棟1号館 Inter-Faculty Building 1
 - ⑯ 共通講義棟2号館 Inter-Faculty Building 2
 - ⑰ 共通講義棟3号館 Inter-Faculty Building 3
 - ⑱ 大学食堂(NSSOL Kitchen) Cafeteria
 - ⑲ 保健管理センター Health Care Center
 - ⑳ 弓道場 Japanese Archery Range
 - ㉑ 文教育学部2号館 Faculty of Letters & Education, Building 2
 - ㉒ Student Commons
 - ㉓ 課外活動団体談話室 Student Meeting Center
 - ㉔ 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 Graduate School of Humanities & Sciences Building
 - ㉕ 茶室(芳香庵) Tea-ceremony Building
 - ㉖ 大学体育館 University Gymnasium
 - ㉗ 附属幼稚園 Kindergarten
 - ㉘ 附属小学校 Elementary School
 - ㉙ 附属中学校 Junior High School
 - ㉚ 附属高等学校 High School
 - ㉛ 国際交流留学生プラザ Hisao & Hiroko TAKI PLAZA
 - ㉜ 学生会館 University Hall
 - ㉝ いずみナーサリイ Izumi Nursery
 - ㉞ 大塚宿舎 Ohtsuka Lodging
 - ㉟ こども園 Center for Early Childhood Education and Care

- 以下建物番号表記なし
- 正門 Main Gate
 - 南門 South Gate
 - 大学運動場 Athletic Field
 - 大学テニスコート Tennis Court
 - 駐輪場 Bicycle Parking Lot
 - 駐車場 Parking Lot
 - 守衛所 Guardhouse

※20番については、課外活動共用施設廃止後、同敷地に建設予定の新学生寮の番号となるため、構内案内版においては「学生寮建設予定地 (Construction Site for Student Dormitory)」と表記する。

各門の開閉時刻は、原則として次のとおりです。

曜日	開門時刻		閉門時刻		備考
	大門	通用門	大門	通用門	
平日	6時	6時	18時	23時	但し、平日の18時～21時は、部分的に閉門する。
土曜日	閉門	6時	閉門	23時	
日曜・休日	閉門	6時	閉門	23時	
平日	7時	閉門	21時	閉門	但し、平日の18時～21時は、部分的に閉門する。
土曜日	閉門	閉門	閉門	閉門	
日曜・休日	閉門	閉門	閉門	閉門	

大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

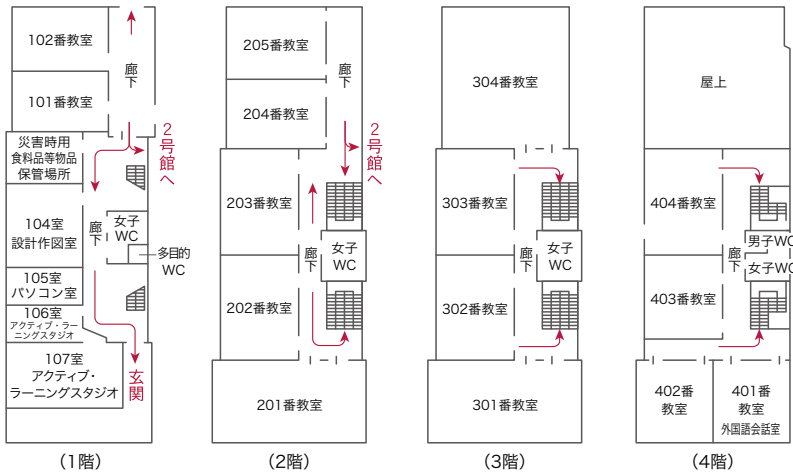
共通講義棟1号館

共通講義棟2号館

共通講義棟3号館

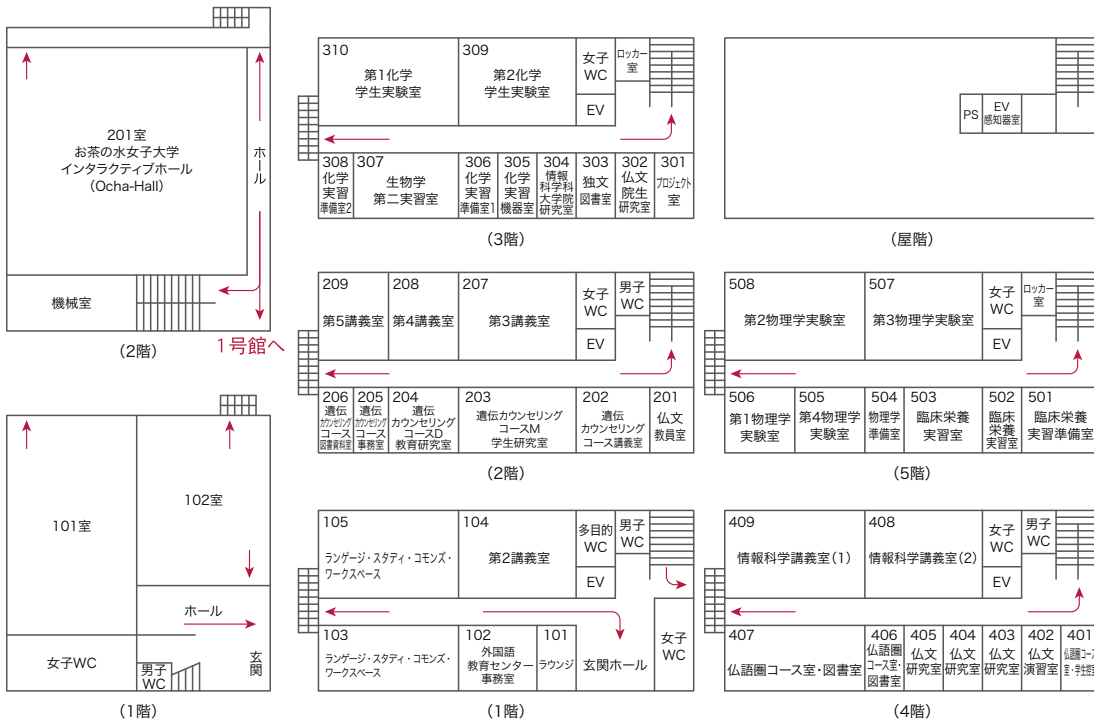
⑮ 共通講義棟1号館

→ 避難経路



⑯ 共通講義棟2号館

⑰ 共通講義棟3号館

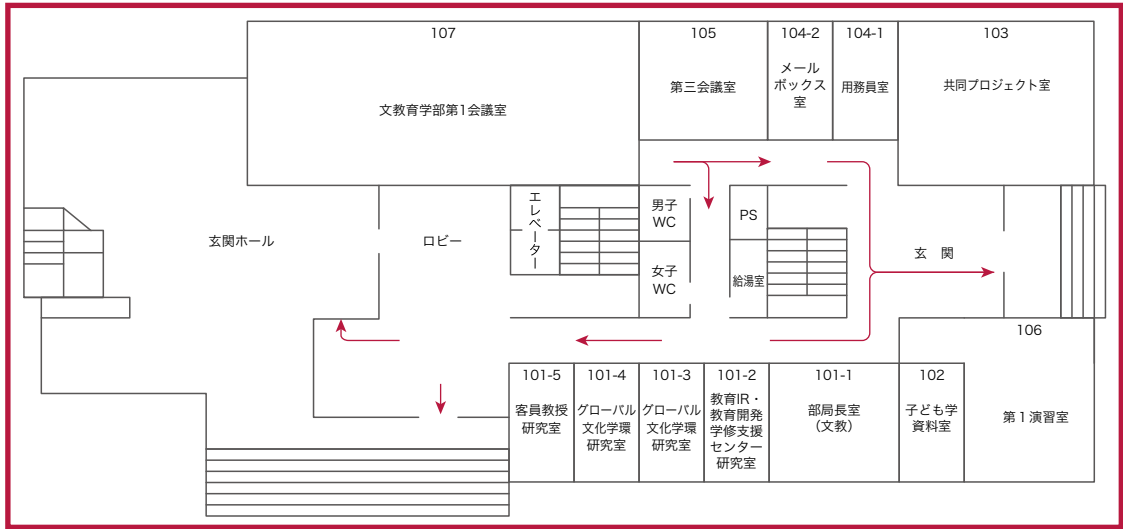


文教育学部1号館

⑭ 文教育学部1号館

→ 避難経路

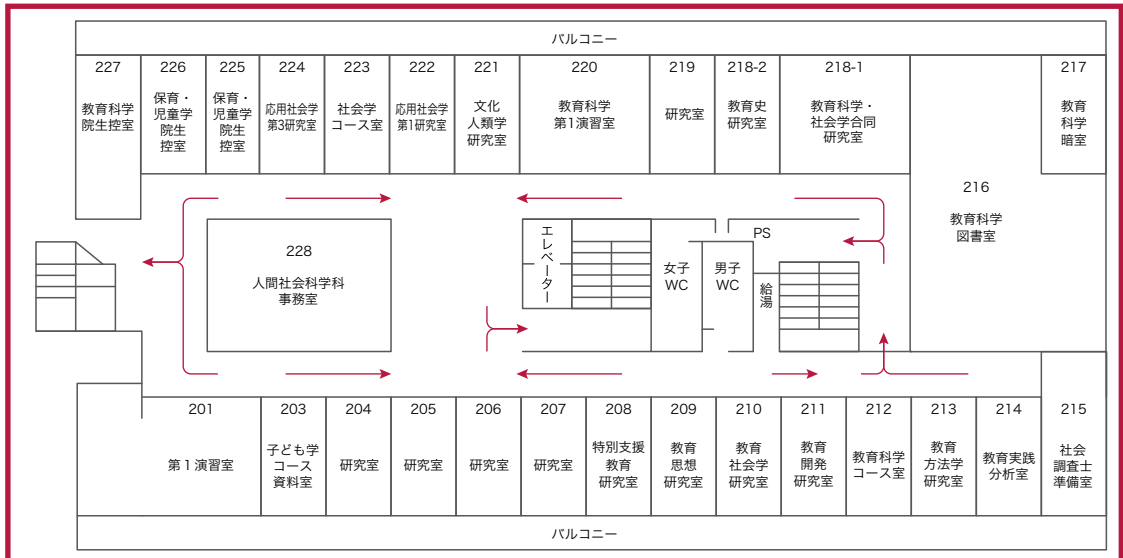
2023年度は改修工事のため利用不可



(1階)

⑭ 文教育学部1号館：人間社会学科

2023年度は改修工事のため利用不可



(2階)

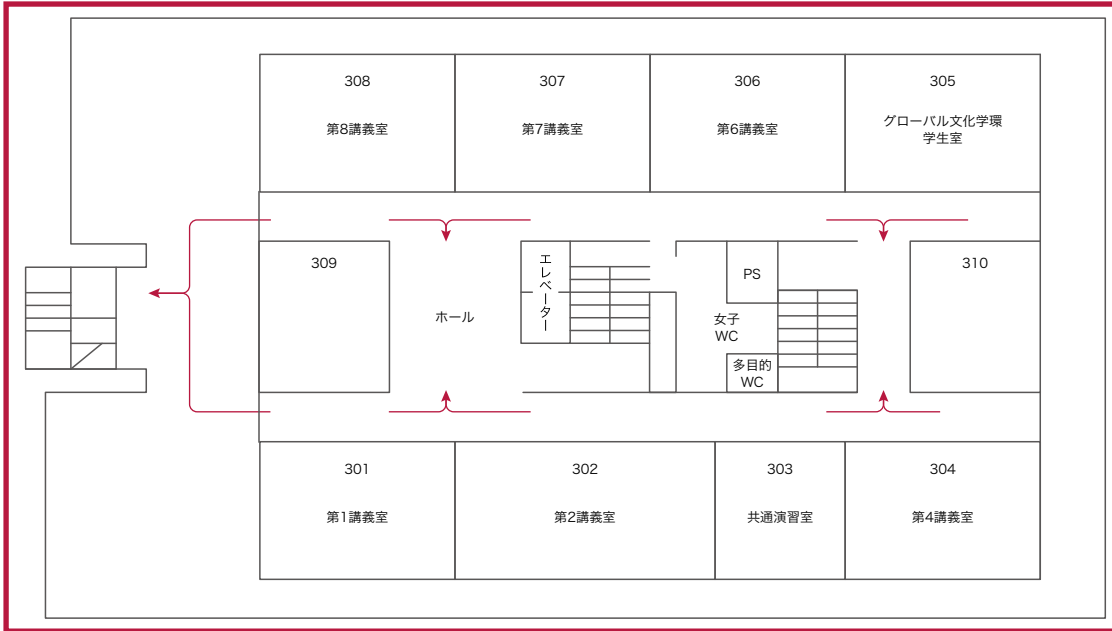
大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

文教育学部1号館

⑭ 文教育学部1号館：講義室等

→ 避難経路

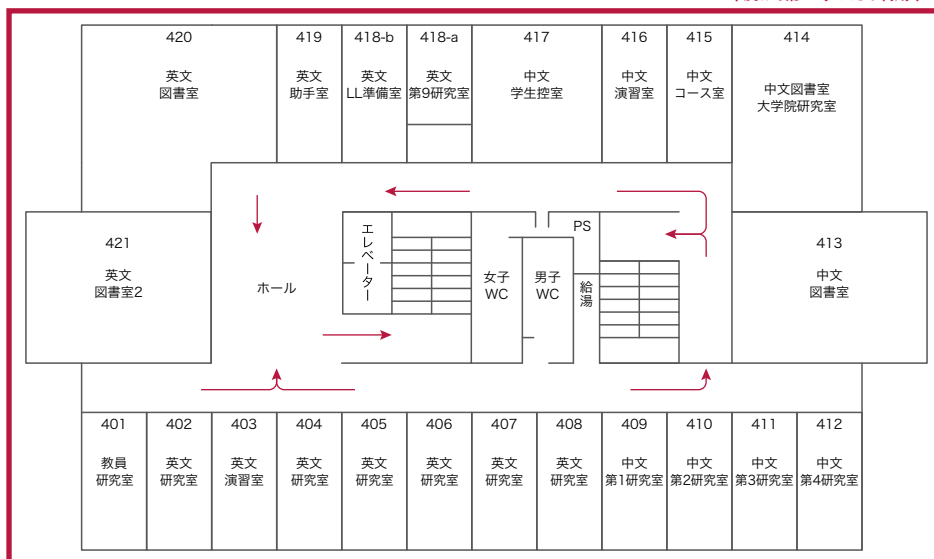
2023年度は改修工事のため利用不可



(3階)

⑭ 文教育学部1号館：言語文化学科

2023年度は改修工事のため利用不可

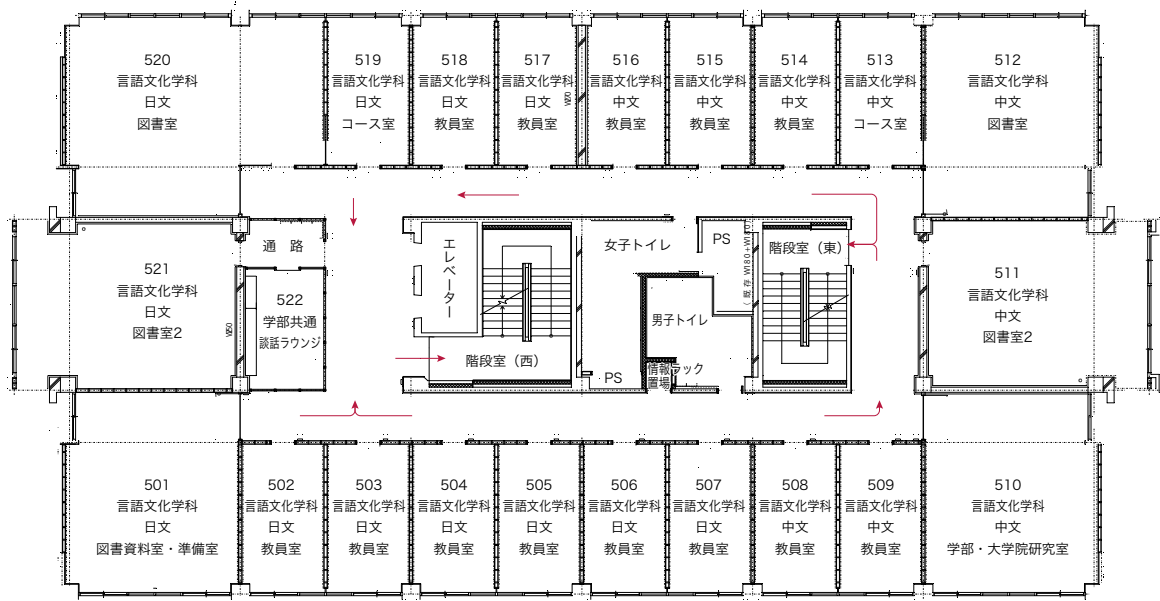


(4階)

⑭ 文教育学部1号館：言語文化学科

→ 避難経路

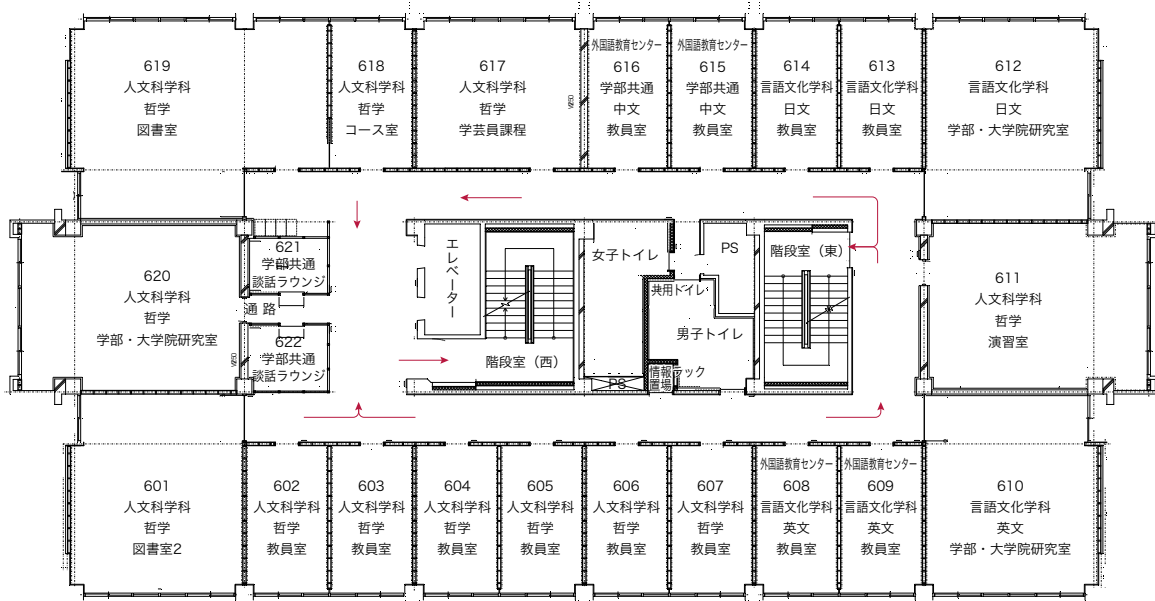
仮移転期間中のため一部表記と異なる部屋があります。



(5階)

⑭ 文教育学部1号館：人文科学科、言語文化学科

仮移転期間中のため一部表記と異なる部屋があります。



(6階)

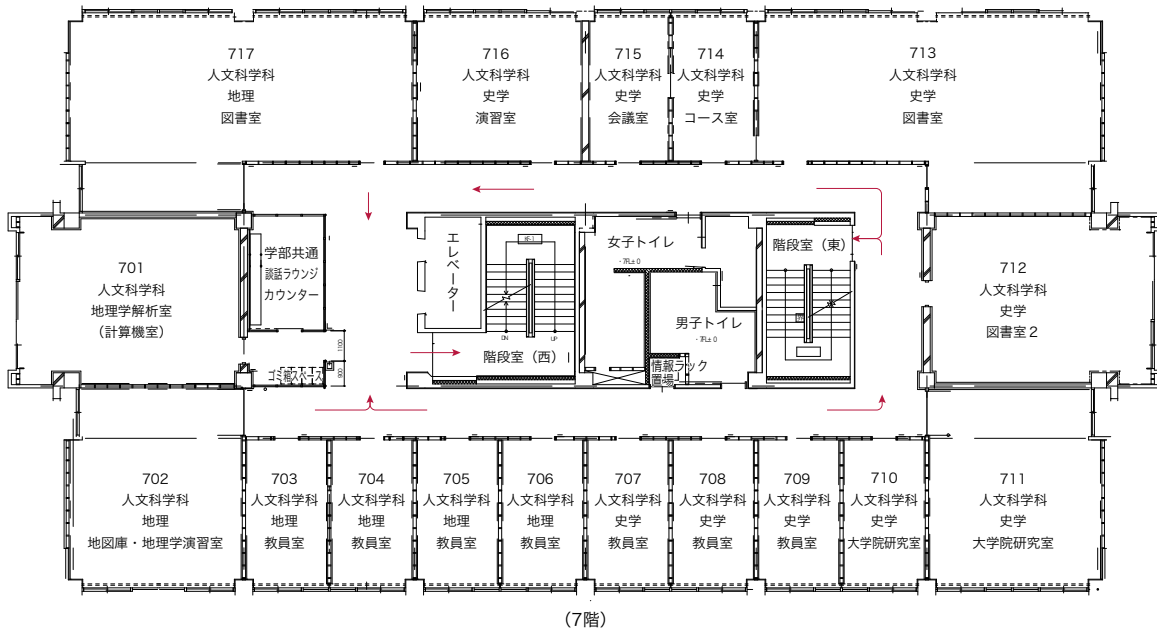
大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

文教育学部1号館

⑭ 文教育学部1号館：人文科学科

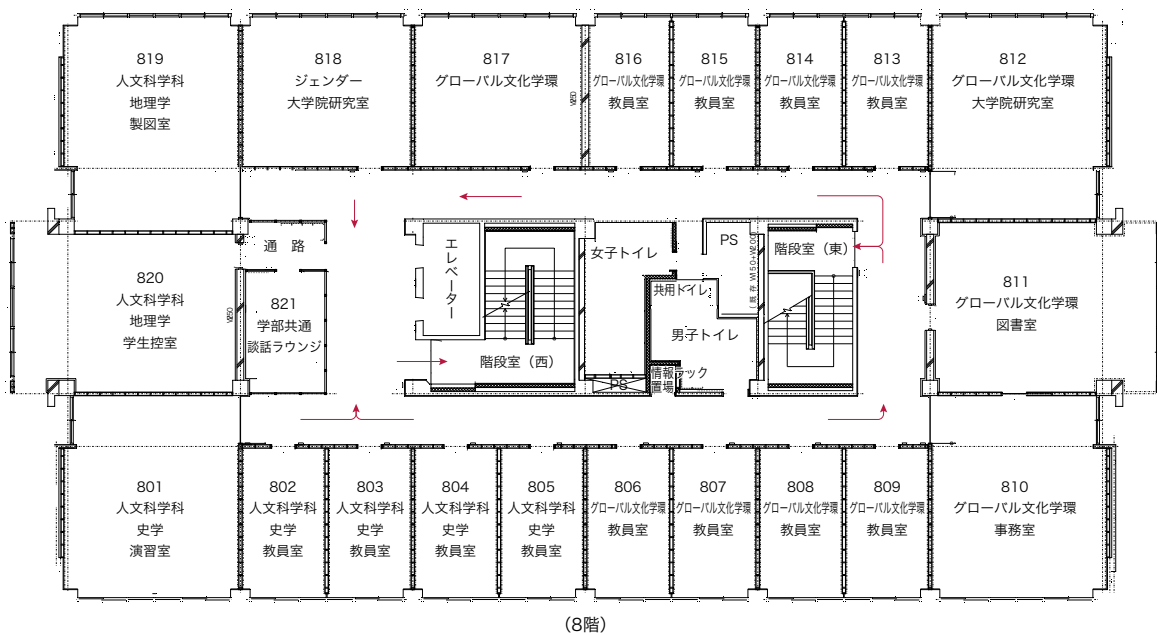
→ 避難経路

仮移転期間中のため一部表記と異なる部屋があります。



⑭ 文教育学部1号館：人文科学科、言語文化学科、人間社会学科

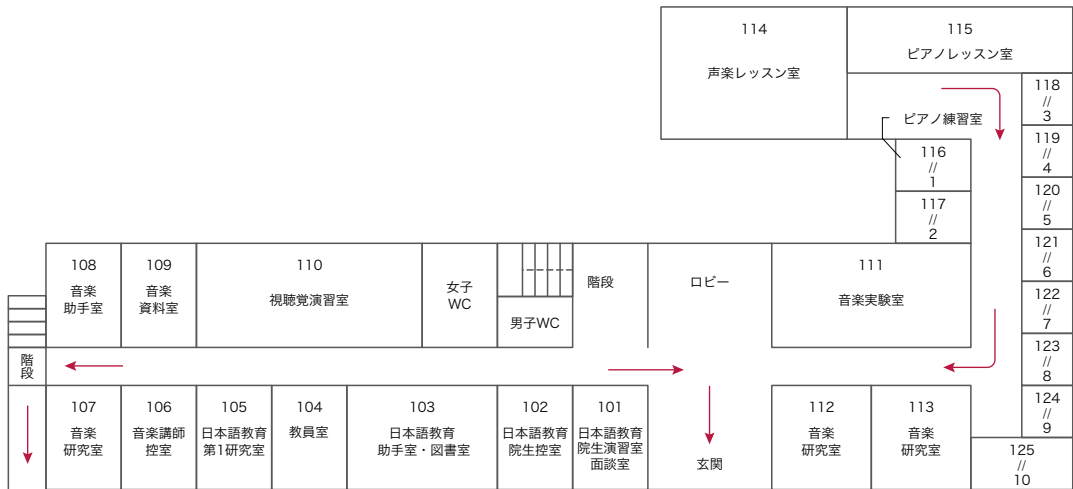
仮移転期間中のため一部表記と異なる部屋があります。



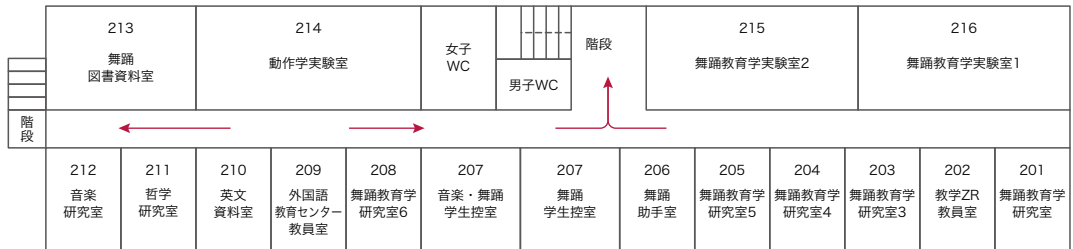
文教育学部2号館

② 文教育学部2号館／1階：言語文化学科、芸術・表現行動学科

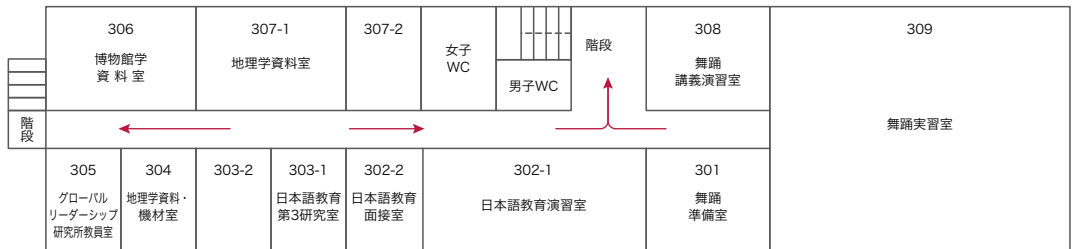
→ 避難経路



② 文教育学部2号館／2階：言語文化学科、芸術・表現行動学科



② 文教育学部2号館／3階：人文科学学科、言語文化学科、人間社会科学学科、芸術・表現行動学科



大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

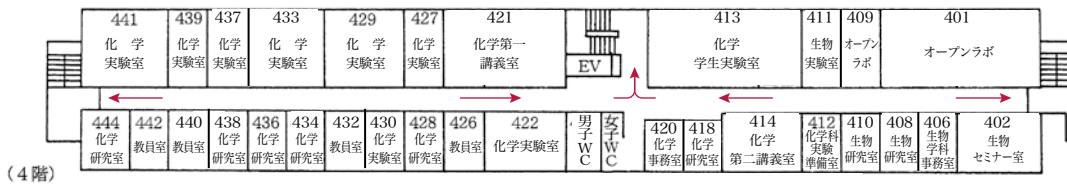
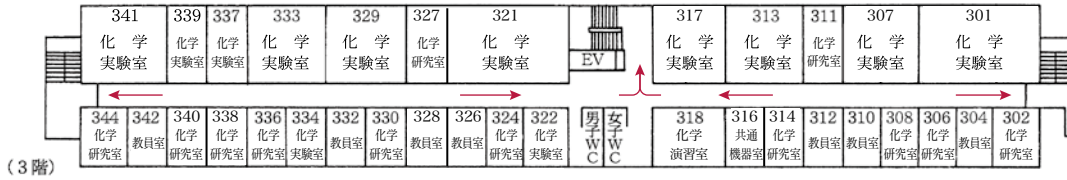
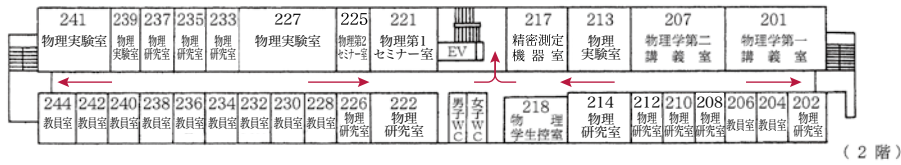
理学部1号館

⑧ 理学部1号館

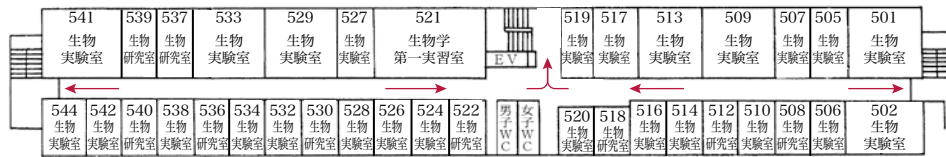
→ 避難経路



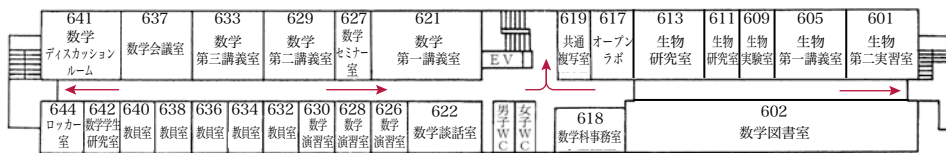
動物飼育施設



→ 避難経路



(5 階)



(6 階)

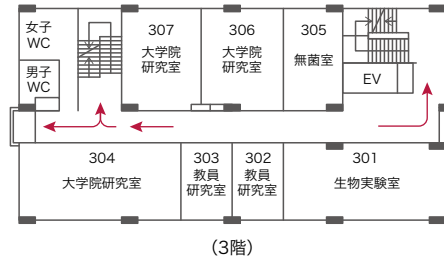
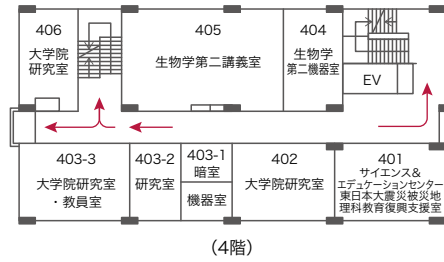
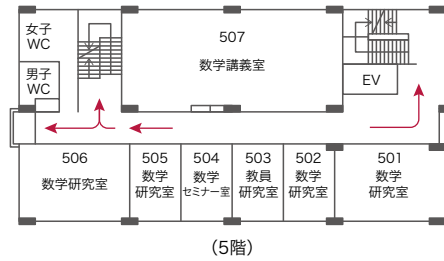
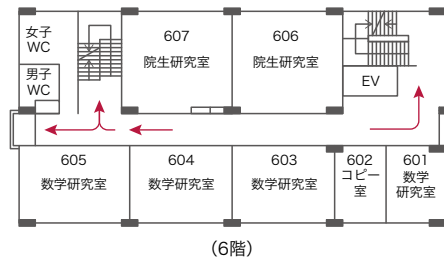
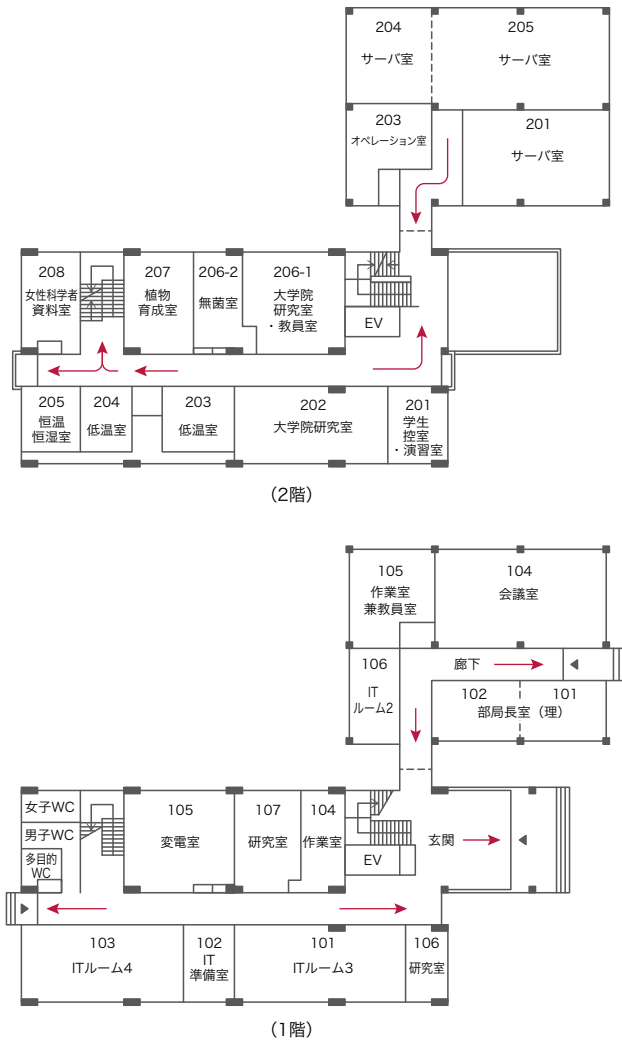
大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

情報基盤センター

理学部2号館

⑪ 情報基盤センター ⑨ 理学部2号館

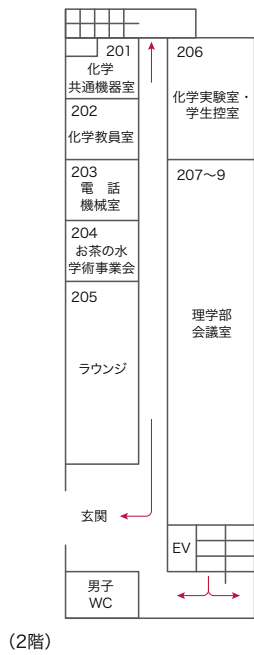
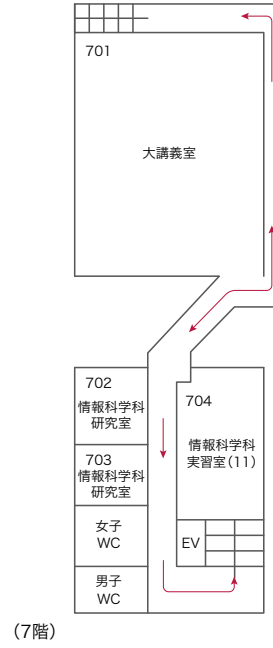
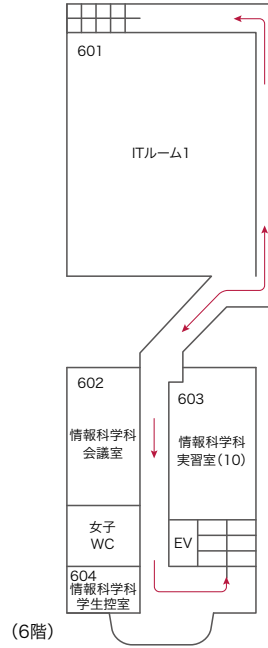
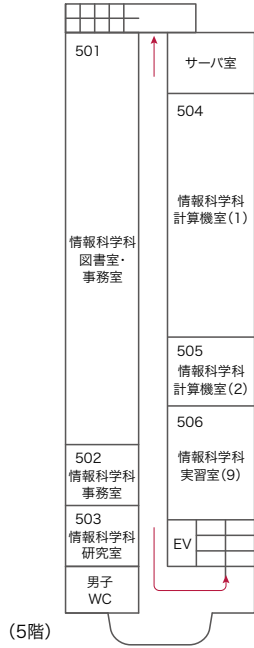
→ 避難経路



理学部3号館

⑩ 理学部3号館

→ 避難経路



大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

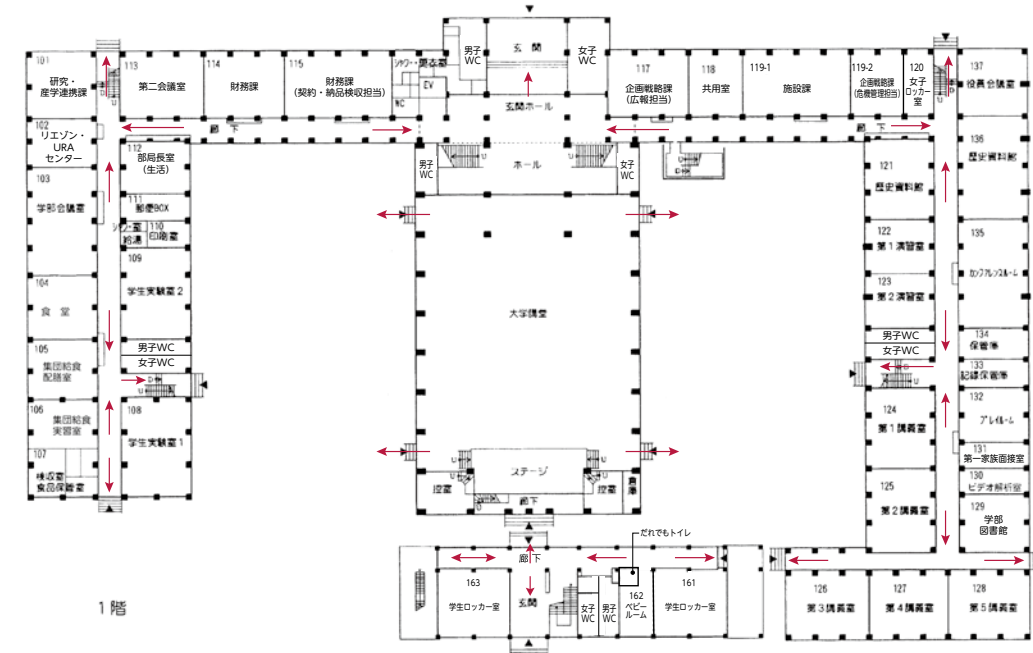
大学本館

生活科学部本館2

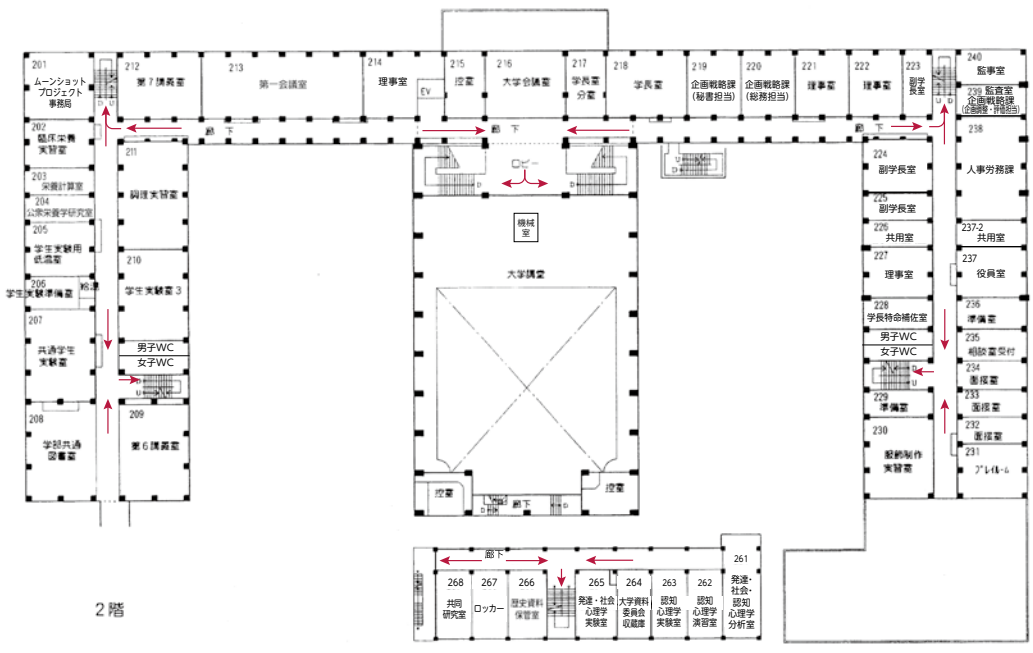
講堂

① 大学本館 ④ 生活科学部本館2 ② 講堂

→ 避難経路



1階



2階

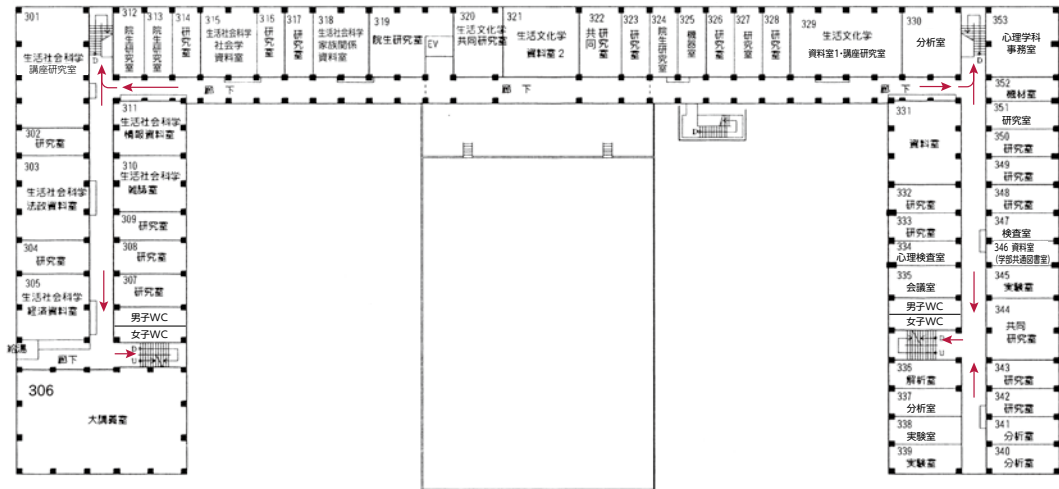
大学本館

生活科学部本館2

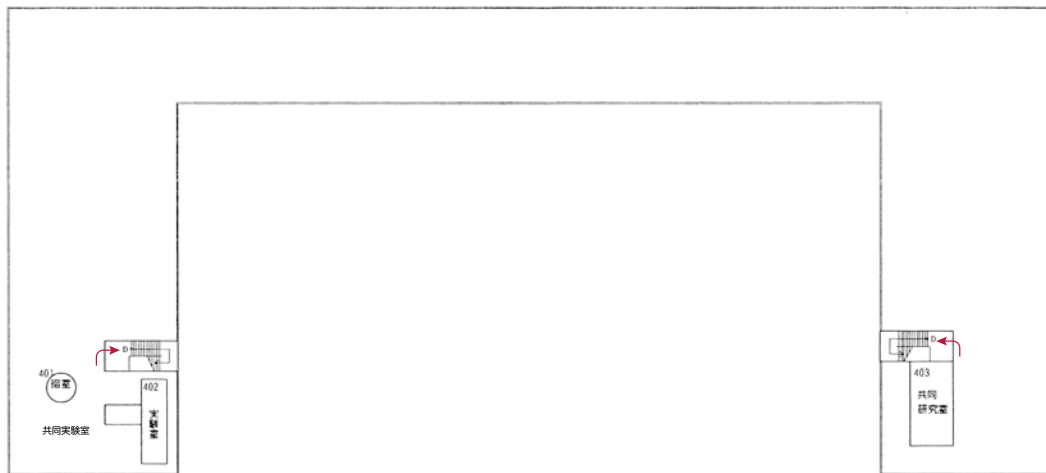
講堂

① 大学本館 ④ 生活科学部本館2 ② 講堂

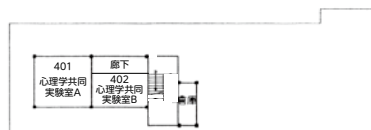
→ 避難経路



3階



4階



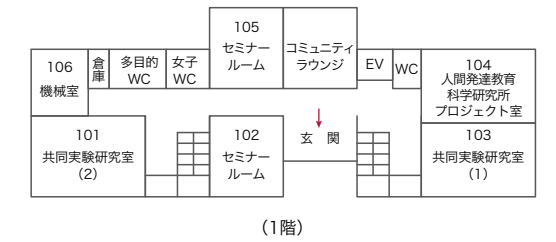
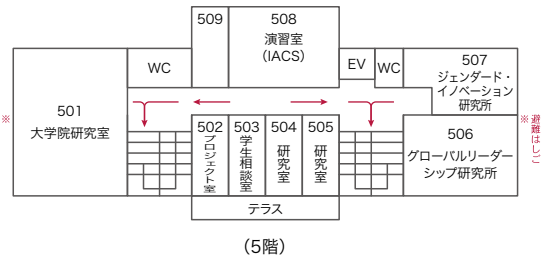
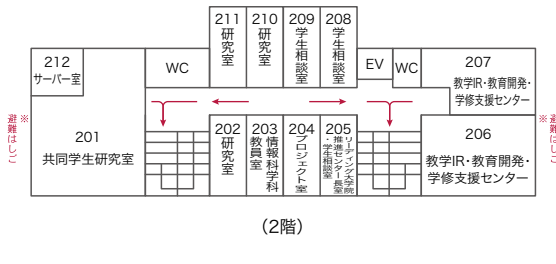
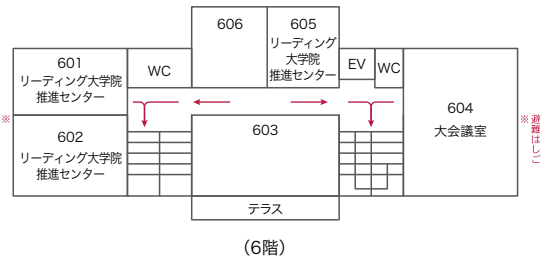
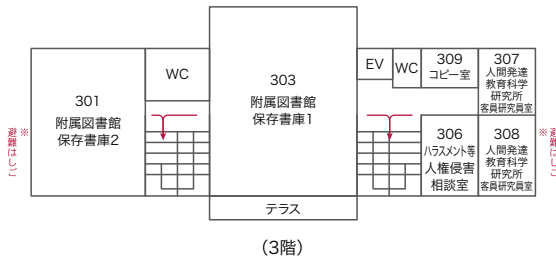
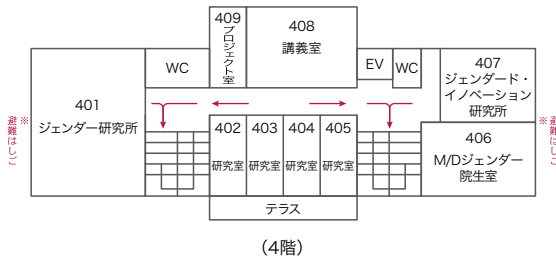
VI

附
録

人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟

㉔ 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟

→ 避難経路



大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

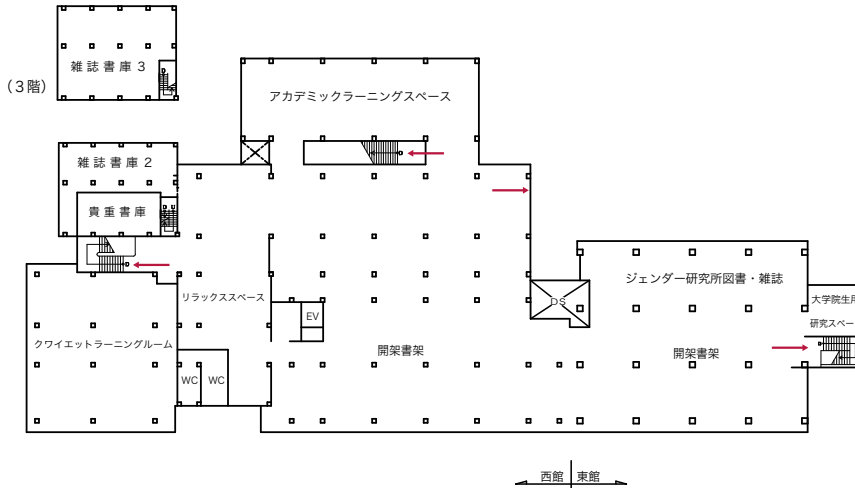
附属図書館

保健管理センター

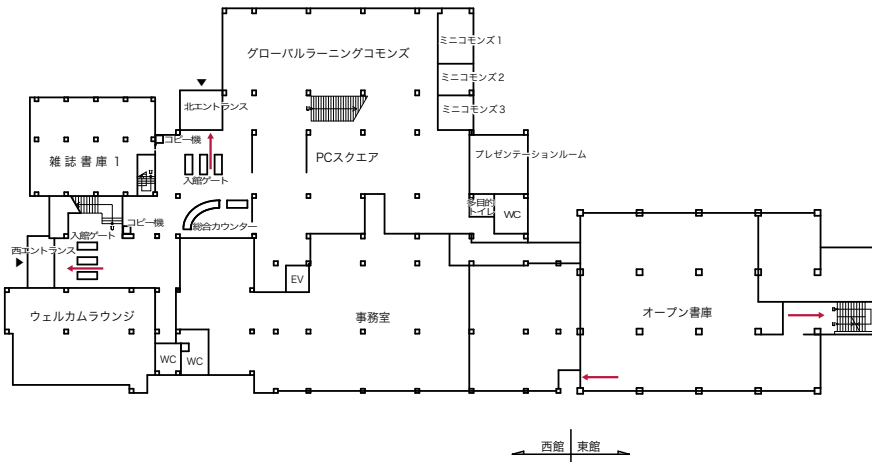
食堂・売店

⑫ 附属図書館

→ 避難経路



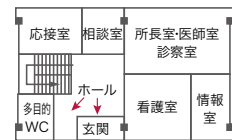
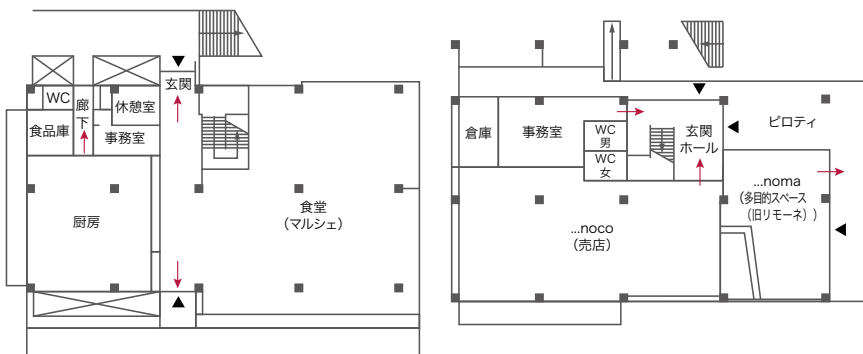
(2階)



(1階)

⑬ 大学食堂・売店 (NSSOL Kitchen)

⑭ 保健管理センター



(1階)

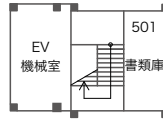


(地階)

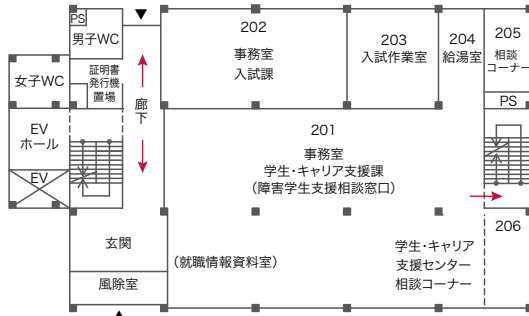
学生センター棟

⑬ 学生センター棟

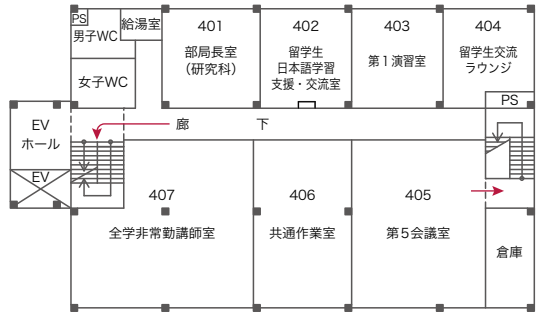
→ 避難経路



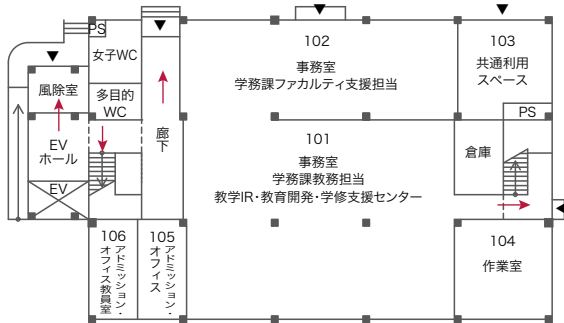
(屋階)



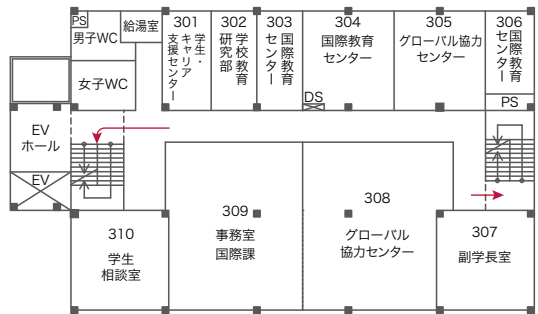
(2階)



(4階)



(1階)



(3階)

大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

Student Commons

課外活動共用施設

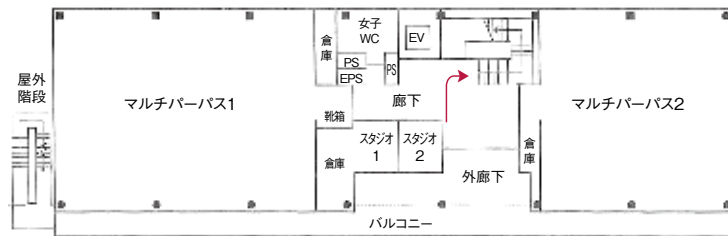
課外活動団体談話室

⑳ Student Commons

→ 避難経路

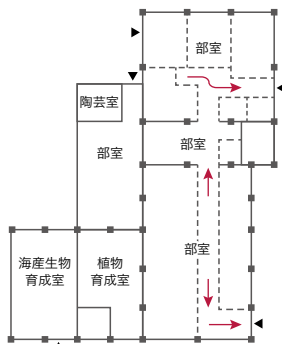


(1階)



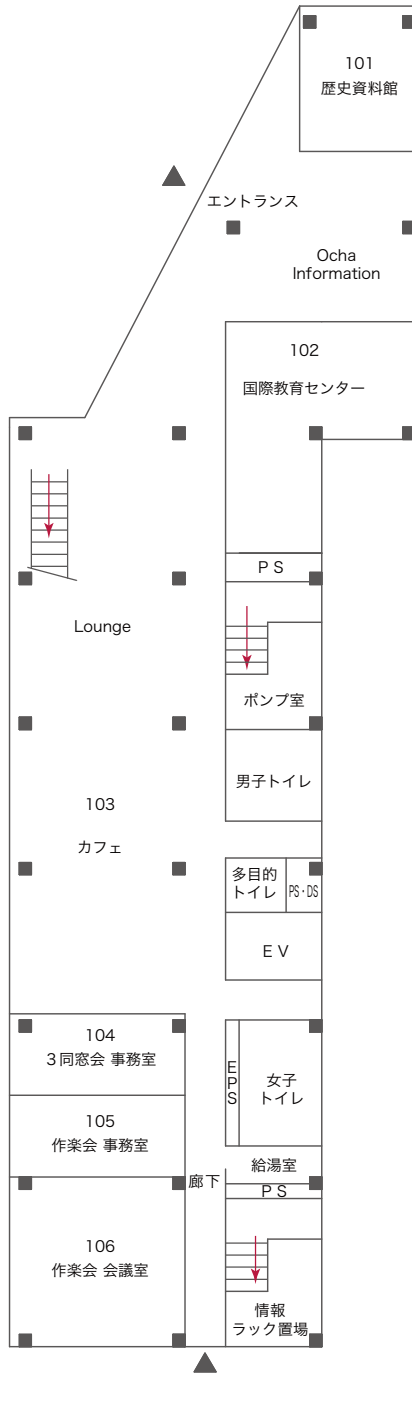
(2階)

㉑ 課外活動団体談話室

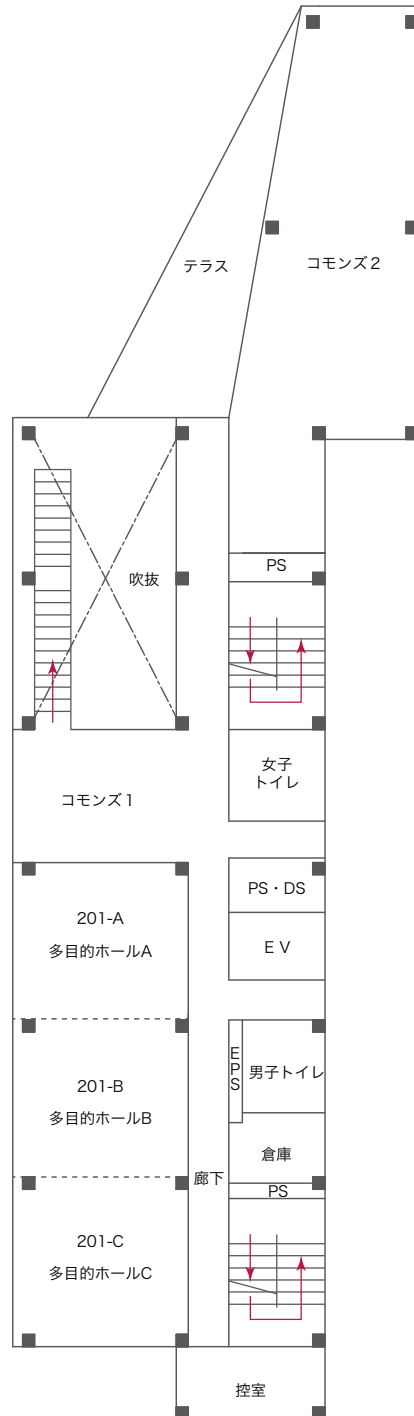


国際交流留学生プラザ

⑫ 国際交流留学生プラザ



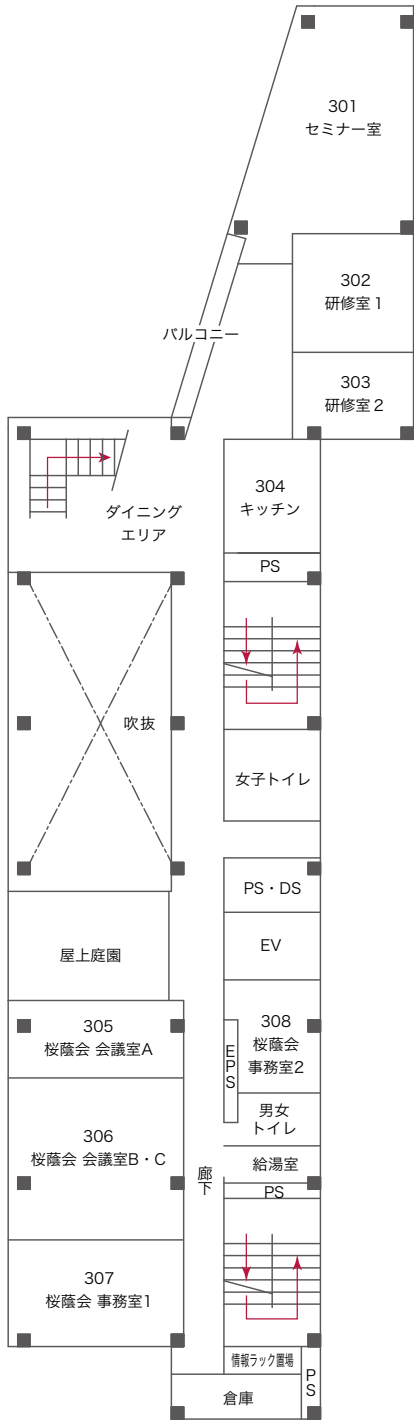
(1階)



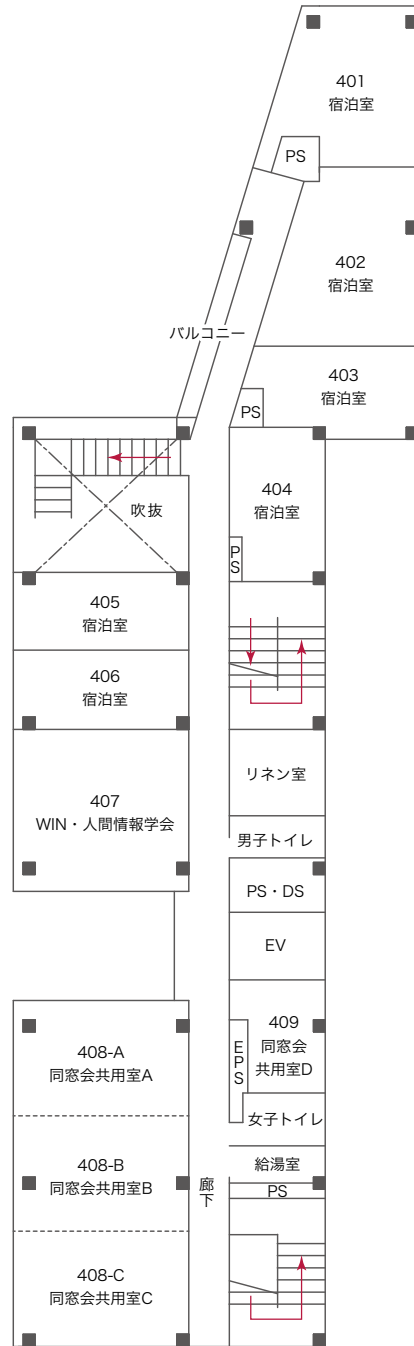
(2階)

大学主要建物・施設・教室・研究室案内図

国際交流留学生プラザ



(3階)



(4階)

履修ガイドには、あなたが大学で学ぼううえで必要となる基本的な情報がつまっています。

お茶大のミッションやビジョンを示す大学憲章、お茶大の学びの目標であるディプロマ・ポリシー、目標達成に向けてどのようなやりかたでなにを身につけるのかを示したカリキュラム・ポリシーは、お茶大の教育の特色をあらわしています。履修概要以下では、授業の区分やとりかた（履修登録）、単位ってなに、試験や評価の方法、自分でどう計画をたてどう確認していくのか（学修状況チェックシステム）といったことから、学びのための学生サポートや取得できる資格、さまざまな学びを円滑に実現するためのルールや手続きなどがまとめてあります。

入学時のガイダンスで具体的にお話ししますが、その後も必要に応じて、ぜひこの履修ガイドを手にとってみてください。あなたが卒業されるまでは、この履修ガイドがあなたのための道案内です。それと同時に、新しい情報については、学生ポータルや、大学ホームページのシラバス・授業時間割を、あわせてぜひ活用してください。シラバスをみれば、お茶大で、いま、なにが学べるのかが具体的にわかります。気になるキーワードで検索する、先生名で検索する、過去の年度もみってみるなど、あなたの使い次第で可能性は無限に広がるはずです。

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する。」

この大学標語が示しているように、あなたが、お茶大で、あなた独自の学びをとおして夢の実現へと向かっていかれることを、私たち教職員は全力で応援いたします。

令和5年4月1日

お茶の水女子大学 理事・副学長（教育担当）
新井 由紀夫

2023年(令和5年)

お茶の水女子大学

Ochanomizu University

履修ガイド

学籍番号

氏 名

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

Tel.03-5978-5141 学務課（教務担当）

Tel.03-5978-5147 学生・キャリア支援課（学生支援担当）

履修ガイド



Ochanomizu University